ROMAN ALBUM EXTRA 58

Fairy Princess Minky Momo

魔法のプリンセス ミンキーモモ



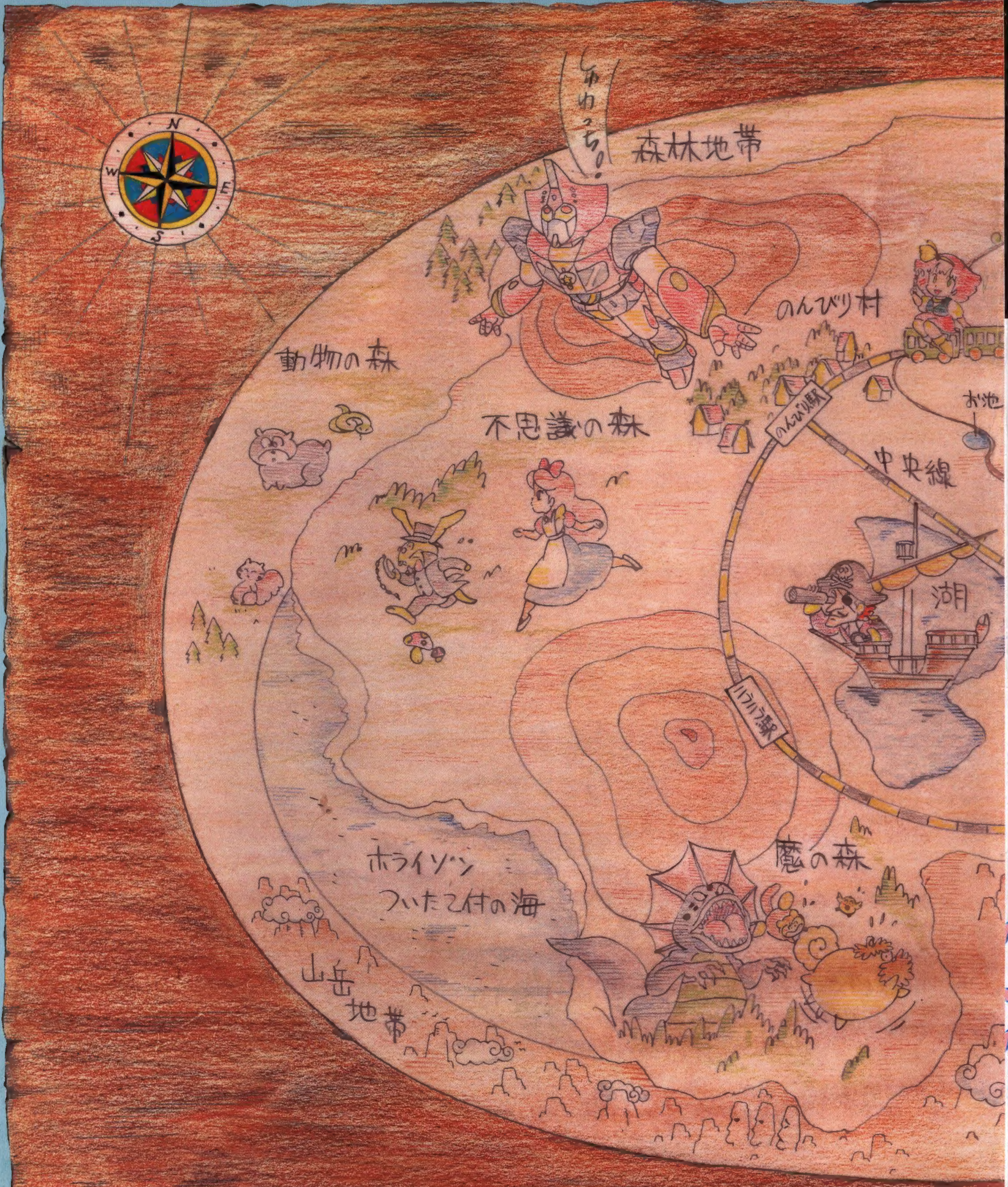
890yen

ロマンアルバム・エクストラ58
魔法のプリンセス ミンキーモモ♥ MinkyMomo
徳間書店

Minky Momo



カバー表イラスト原画／渡辺　浩



ロマンアルバム・エクストラ 58

魔法のプリンセス ミンキーモモ

Minky Momo

徳間書店

Minky Momo

1話〜48話 OPENING



1



2



3



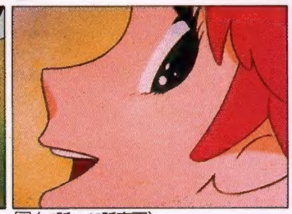
4



5



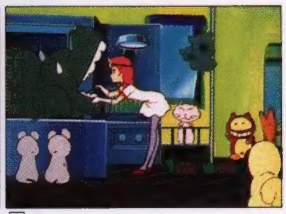
6 (12話〜48話変更)



7 (12話〜48話変更)



8 (12話〜48話変更)



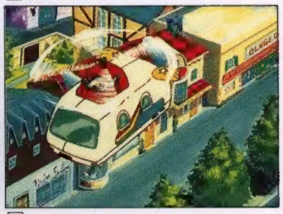
9



10



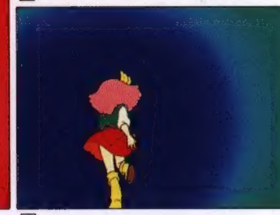
11



12



13



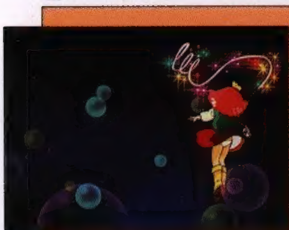
14



15



①



②



③



④

※第1シリーズのオープニングは、途中で一部(6〜8)が変更されました。

変更分12話〜48話

49話〜63話 OPENING



1



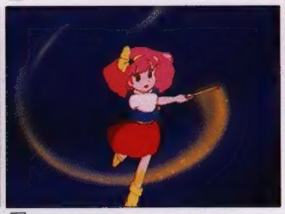
2



3



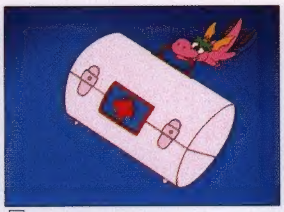
4



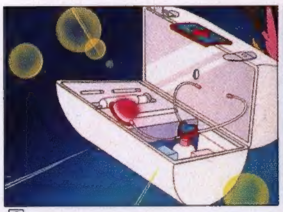
5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15

Minky Momo *First Series*

Episode Catalog









昔、フェナリナーサは誰でもいくことができる夢の国でした。

ところが、フェナリナーサが千年の長い眠りにつくと、人々は次第に夢や希望をなくしてしまい、フェナリナーサもだんだんと、地球を離れていったのです。

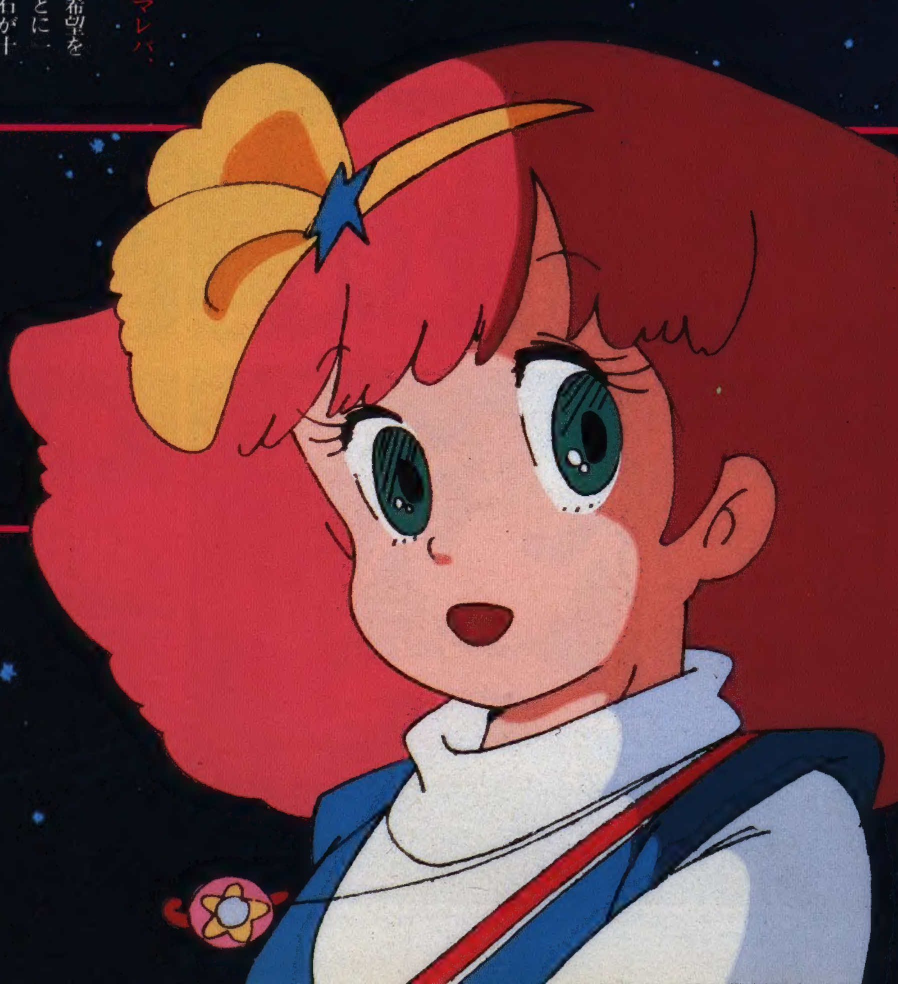
しかし、それを残念に思った王様は、フェナリナーサを、なんとか地球にもどしたいと思いました。

広間ニアル王冠ニ十二個ノ宝石ガハマレバ、ふぇなりなーさハ地球ニモドリマス。

王家の血を引くものが、誰かに夢と希望を持たせることができたら、その四回ごとに一個ずつ宝石がはまり、そして、その宝石が十二個はまれば、フェナリナーサはもとの場所にもどることができるのです。

こうして、フェナリナーサの王女（プリンセス）・ミンキーモモの大冒険が始まりました……。







Episode:1



1 まずは光の川に乗って、華麗にデビュー!!

♡かいせつ

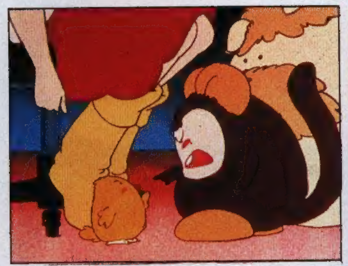
「ミンキーモモ」は、「ゴーショーグン」、「バルディオス」の葦プロが初めて製作する魔女っ子アニメとして、放映前からファンの注目を集めていた。しかも原案・構成が「ゴーショーグン」の首藤剛志氏とあって、期待度もアップ。しかし、第一話では基本設定がいっさい語られなかったため、ファンは、小山茉美さんの声にニヤリとしつつ（レミーちゃん♡）、つづきを待たなければならなかったのである。

♡ストーリー

どこかの国のどこかの町に、子どものいない夫婦の経営するペットショップがありました。ある夜のこと、一人の女の子が三匹のおともとともにペットショップにやってきました。彼女の名はミンキーモモ。

夢の国フェナリナーサのプリンセスです。彼女はおとなになって、色々な職業のプロの能力を持てたのです。

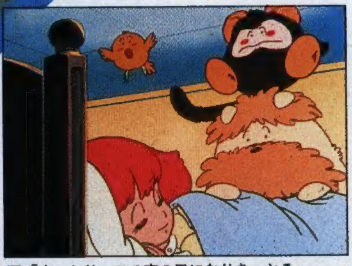
彼女の最初の仕事はある牧場の乗っ取りを防ぐことでした……。


3「レディーには道をあけるものよ！」

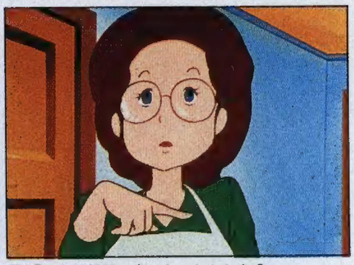

2 魔女っ子のパターンで登場！

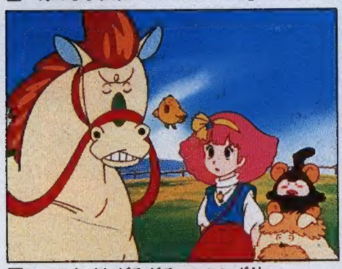

7「お仕事しっかりね」「まかしときちゃいなさい！」


5 まずは、グッスリ、おネムだね♡


4「すっかり、この家の子になりきっとる」


8「あんな子、家にいたっけかな？」

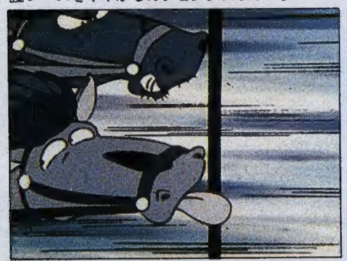

6「あんな部屋、家にあったかしら？」


12 レースをイヤがるガチョンシンボリー。


11 看護婦さんに変身して、馬の病気を治します。


10「よーし、おとなになっちゃう！」


9 牧場乗っ取りを企むワルダーさん。


16 舌の差で勝利！




13 第1回目から、これだもの…（本当はうれしかったりして…）


14 今度はジョッキーに変身。君は緑園の天使!?



15 ワルダー一味の妨害もなんのその！　男を見せますガチョンシンボリー!!
17 祝福のキスを受けるガチョン。（あ、このやろォ～！）

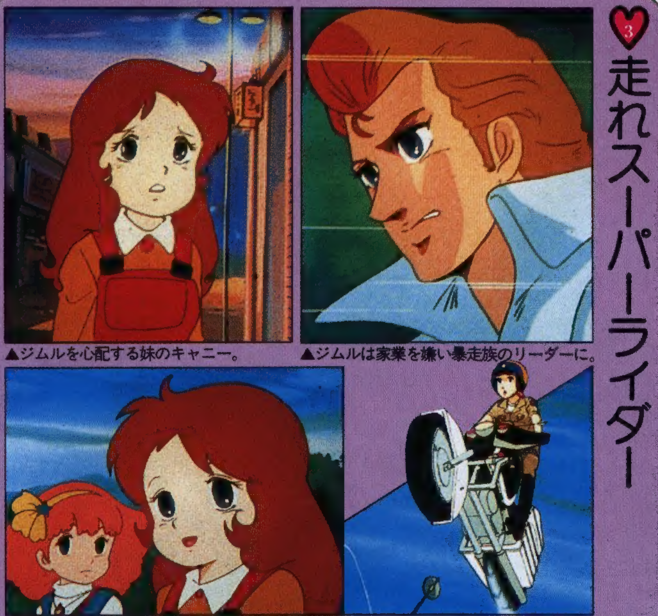
Episode Catalog 2～7

♥2 メガネでチャームアップ



▲ウィンク・ショットで君をノックアウト。
▲人間になりたい犬のメリージェーン。
▲今度はモモがモデルよ♡
▲モモの魔法でメガネギャルに変身！

♥3 走れスーパーライダー



▲ジムルを心配する妹のキャニー。
▲ジムルは家業を嫌い暴走族のリーダーに。
▲白バイライダーに変身！ CHIPSかな？

♥4 青い鳥をみた少年



▲ながめてみても解答用紙はうまらない♬
▲あすはガッコで楽しいテスト♬
▶結局2回しか登場しなかったモモの担任の先生。
▲フェナリナーサを信じていたケン。

♥5 ワルガキ王子大混戦



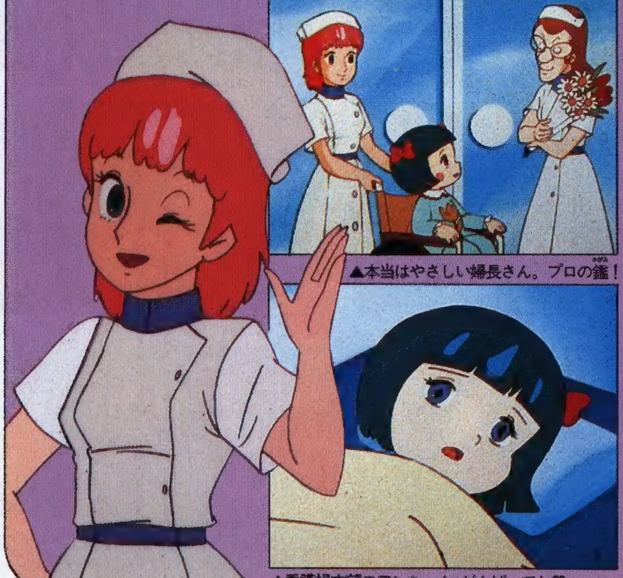
▲しかし、いい性格しとるな～。
▲ユスラレル国の悪ガキ王子タムタム。
▲さすがのモモもマケソー！
▲オー！ モーレツ!!（ふ、ふるい!!!）

♥6 テニスコートに赤いバラ



▲テニス界のプリンス、ジミー登場！
▲ジミーの昔の友だちティムとラン。
▲モモ、エースをねらえ！ なんてね。

♥7 ナイチンゲールはお好き



▼白衣の天使に変身して、アンの病気を看護。モモにおまかせ！
▲本当はやさしい婦長さん。プロの鑑！
▲看護婦志望のアンちゃん、がんばってね♡



♡かいせつ

出ました！　といってしまおう。第一シリーズ前半で一番の快作といっても過言ではないでしょう。ドタバタに徹した土屋氏の脚本も決まっていたし、それを支えた演出の西村氏、作監の上條氏もお見事でした。多数出演のゲストキャラもおもしろく（まともな人間が一人もいない！）、作画の遊びも飛び出し、この後のスタイルのひとつを確立した回といえましょう。

♡ストーリー

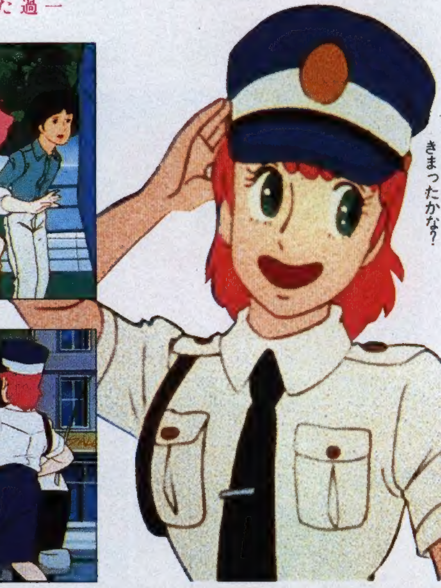
ある日、モモのもとに舞い込んだ一通の手紙…。それは、ぬ、ぬわぁんと！　ラブレターだったのです!! さっそく、モモは待ち合わせ場所の公園へ。しかし途中で、道路を渡れずに困っている兄弟を助けようと、婦人警官に変身したのが不運の始まり。モモを先輩と間違える新米婦警のマリー、モモにつかまりたがる自動車ドロボウ、怪盗ルビンに銀行強盗、ギャング団まで加わる大騒動!! はたして、初デートなるやいなや!?


1「ついにくるべきものがきたんだわ！」


2 ルンルン気分で初デート。


3 身だしなみにも気をつけて♡


4 道路を渡れずにいる幼い兄妹に出会い…。


5 婦人警官にへんし～ん。ウフッ、きまったかな？



6 ところがそこにミニパトが……。


7「先輩！　どこいくんですか？」


8 人違いされ、マリーの案内役にされてしまったモモ。


9 初めましてのネコパンツ。


10 なんと、今度は自動車ドロボウに遭遇！　でもこんな婦警さんなら、ホントにつかまってみたい♡

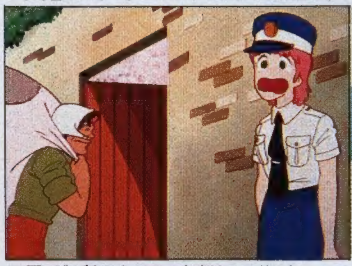

11「ボクつかまりたいの」「私…忙しいのよね」


12「ワァーン！　おまわりさァーん」


13 そのころ公園では2つのギャング団が。


14「きょうは正真正銘の勝負だ！」

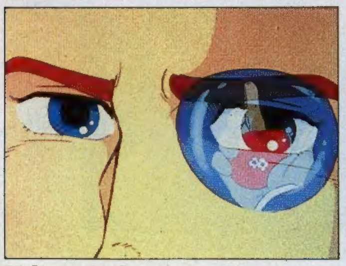

15 ナワ張り争いの決着をつけようとしていた！（シビアだなァ）


16 再び逃げ出したモモ。今度はコソドロと…。


17「うちに帰れば10を頭に12人の子どもが…」


18「これをあげるから、とった物は……」


19 ところがなんと、コソドロは怪盗ルビンであったのだ!!


20「なんと心の優しい娘であったことか…」

Minky Momo
Pick up Story


㉓強盗事件発生！　ニコニコ顔のマリーとドロちゃん、メゲてるモモ。


㉒止めようと飛び出すモモですが…。


㉑「あんたにつかまるのイヤ！」


㉗「あなたには人は撃てないわ」


㉖「私はいま、機嫌がワルイの!!」


㉕「く…くるな、本当に撃っちゃうぞ……」


㉔銀行の窓ガラスを破って突入！


㉛ラブレターは実はイタズラだった。モモの怒りが爆発!!


㉚「返せよ、俺のラブレター！」

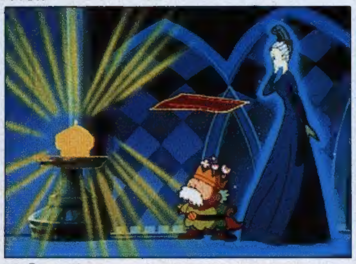

㉙「助太刀いた〜す！」大乱戦のなかへ。


㉘競争で決着をつけようとするギャング。


㉜

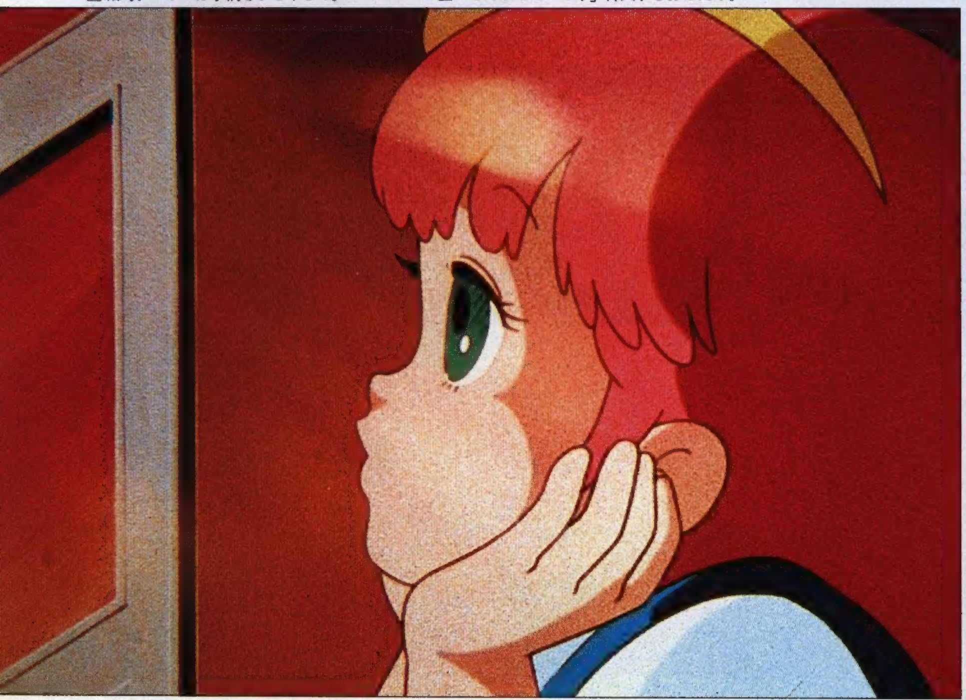

㉝一瞬、ケンカも忘れて静まりかえる一同。


㊲結局、マリーは手柄をひとりじめ。


㊱「とんがったーっ！」仰天するおふたり。


㉞「そんなイタズラするもんじゃないわ。女の子はいつでも胸をときめかせてそんな手紙を待ってるもんなのよ……」モモのことばにシンとなる一同。


㉟「美しい……」ルピンの表情もさえます。


㊴「いつか…、きっと私にも本当のラブレターがくるわ……」ジッと夕陽を見つめるモモ。きょうはチョッピリさびしそう……。でもいつかきっと、ネ！


㊳

Episode Catalog 9～14

♥9 森の音楽祭



▲対抗するガナール女史。声量で勝負！

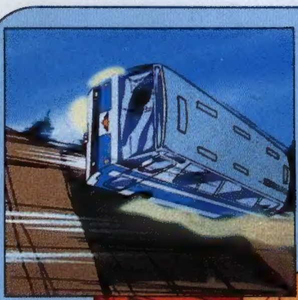


▲森の吟遊詩人⁉ マック・カレント。



▲今回は歌手に変身。マックの作曲した「ラブ・イズ・ウィンドー」で見事、優勝！

♥10 ハイウエイ大追跡



▲見よ！ このドライブテクニック!! 追っているのが花嫁でないのが残念！



▲誘拐されたセーラばあさん…のはず！?

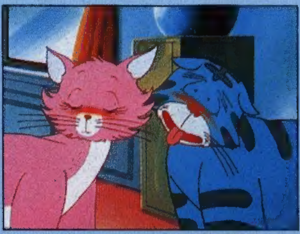


▲バスのドライバーに変身して誘拐犯を追跡よ！

♥11 恋の美容師よ子猫ちゃん



▲ハリーはローズマリーを救い出そうと大奮戦！ 101匹ニャンちゃん大行進？



▲ハリーとローズマリーは幼なじみ。



▶ハリーたちを助けようとしているモモ。しかし、このかっこうじゃあ……。

♥12 怪盗ルピン大反撃



▲夜の闇に跳梁するふたつの影…勝敗はどちらに！?



▲父親の道楽に悩むルピン二世のペペ。



▲ついに雌雄を決するときはきた！ ナポレオンの辞書をめぐり、対決するレッドキャットとルピン！

♥13 魔術師と11人の少年



▲ぼく、ラムだっちゃ！（ほんの冗談です）

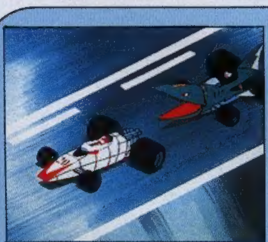


▲サッカーコーチに変身して、ラムたちの少年チームにコーチ。健康的な脚線美がたまりません。



▲マジシャンに変身してラムを救出。今回はやたら色っぽかっただばさ。

♥14 ゴールはいただき激走レーサー



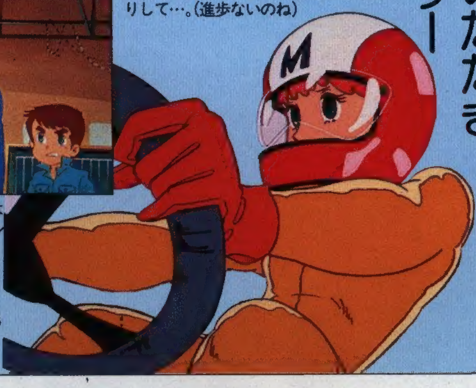
▲ブラック魔王並みのレース妨害ですね。



▲お久しぶりのワルダーさん。でも、やってることはあまり変わらなかったりして…。(進歩ないのね)



▲サムとチビの兄弟は優勝をめざすが、ワルダーの妨害に…。



▶サムに代わってグランプリ出場。はたして!?

Minky Momo Pick up Story

Episode:15

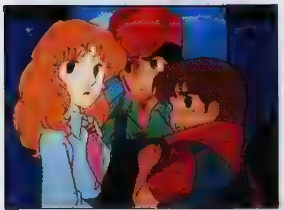
暴走列車が止まらない

♡かいせつ

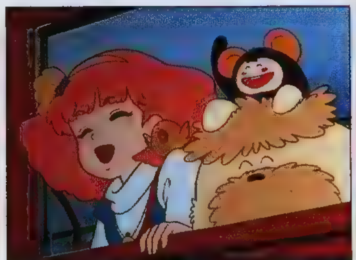
15話の作画監督は上條修氏。加えて、のちに26話から作監もつとめるようになった渡辺浩氏が原画に加わり、モモのあでやかでチャーミングなパーティドレス姿や、暴走する機関車などなど、作画の見どころがたくさんあった回でした。

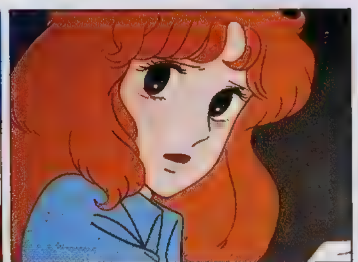
♡ストーリー

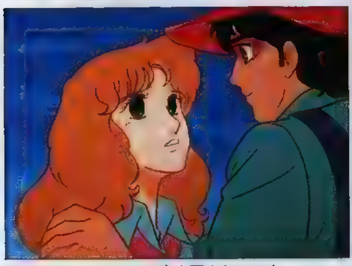
パパの代理で、霧の山ホテルのパーティに出席するモモは、途中、ジャックとチロルの兄弟が経営する、霧の山鉄道に乗る。兄のジャックはリリーという娘と恋仲なのだが、彼女の父親は彼を嫌い、鉄道を乗っ取ろうとしていた。モモとリリーは、父親の手先が機関車に時限爆弾をしかけたのを目撃し、つかまってしまった。ジャックたちはそれを知らずに出発してしまう！モモは機関士に変身してあとを追うが!?


①霧の山鉄道のジャックとチロル、そしてリリー。

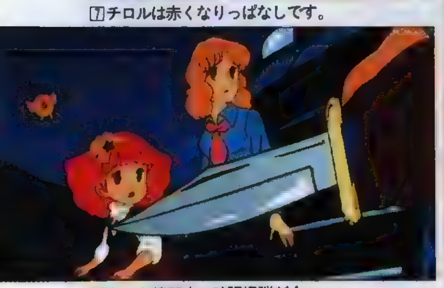

④チロルは霧の山鉄道の車掌で副社長。

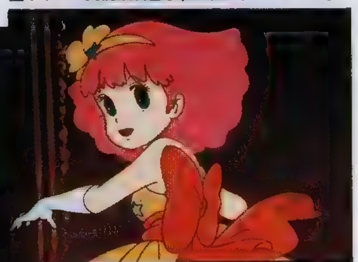
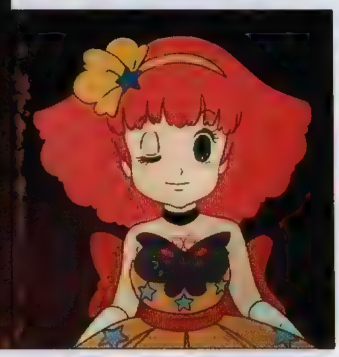

③高原の風を受けてイイ気持ち。


②リリーの父親は鉄道を乗っ取ろうとしていた。


⑤ジャックとリリーは恋人同士なのです。

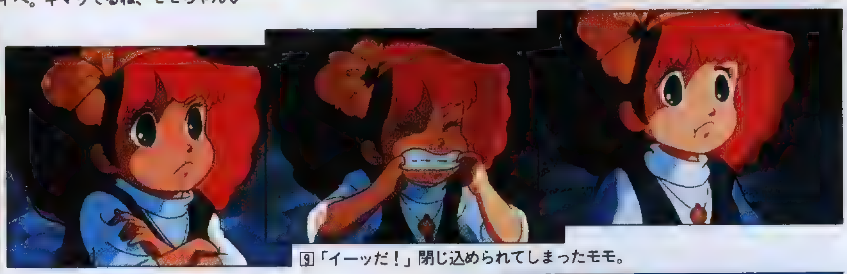

⑦チロルは赤くなりっぱなしです。


⑧なんと機関車に時限爆弾が！




⑥モモはパパの代理でパーティへ。キマッてるね、モモちゃん♡


⑪モモも機関士に変身してがんばります。

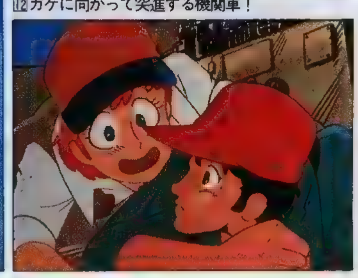

⑩汽車を止めようと必死のジャック。


⑨「イーッだ！」閉じ込められてしまったモモ。


⑮チロルたちの顔も晴ればれと。


⑭ついに二人は無事ゴールイン！　ハッピーエンドなのよ。

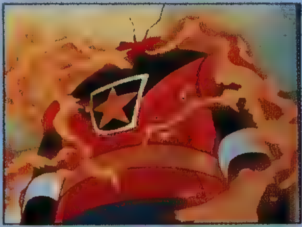

⑫ガケに向かって突進する機関車！


⑬………………。


⑯モモのウェディングドレスはいつかな？

Episode:16～20

17 おばけ屋敷でラブアタ


▲B級ホラーじゃなかったんですか？

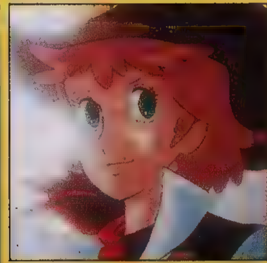

▲ホラー博士は自分の手で花嫁を作ろうとしていた。現代に甦るフランケンシュタイン！


▲ホラー博士のモンスターたち。彼らもフェナリナーサでは、ドラちゃん、ミイ坊、フラッペになるのね！


▶で、結局はごらんのとおり。お疲れさま！

16 荒野のミンキーモモ


▲夕陽を背に、さすらいのガンマン・モモ！


▲今回はモモのゴー・ウェストよ♡


▲西部の荒野に咲く花一輪、ララ嬢。

20 密林の王者


▲ボーイじゃないよ、ゲストのクレタ君。

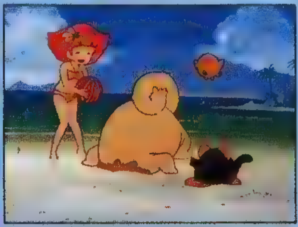

▲なんとターザンに変身

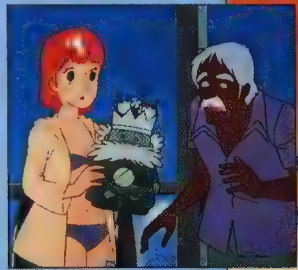

▲かくてジャングルに平和が…。(パターンだなァ)


◀三匹もそろって「ア〜ア〜ッ！」

18 南の島の秘宝


▲南海の孤島とくれば、これっきゃない！ 宝探しの始まりです。

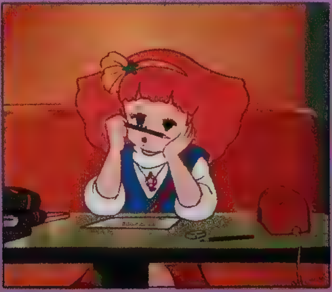

▲ババリ島に久しぶりの家族旅行。

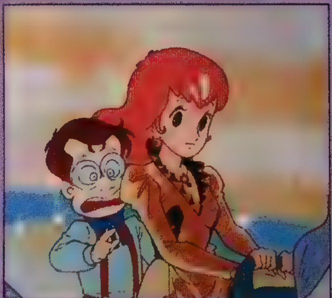

▲なんと宝物は王様のヘソクリ。このあと、はたしてフェナリナーサでは…!?


▲おじいさんの宝探しを助けるチムル。美少女です♡

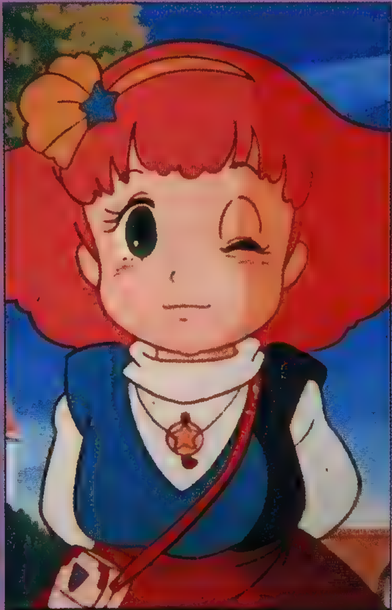
19 機械じかけのフェナリナーサ

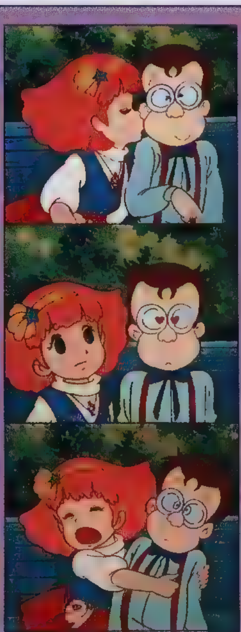

▲スゴグラマーのプログラマーに変身!!


▲"シリアスにお勉強中"のはずだけど？


▲今度は変身モモにほれちゃったルーカス君。


▲プログラミングを盗まれて大騒動！


▲この回一番のイイお顔。


▲さしもの天才少年も…。

Episode Catalog 21~25

♥21 00（ゼロゼロ）モモ危機いっぱい 前編



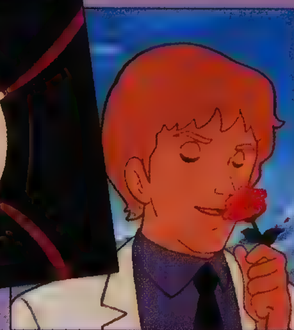
▲オリエント急行でパリへ向かう二人にスルメッチの手が！



▲マタ・ハリも顔負けの美人スパイに変身！

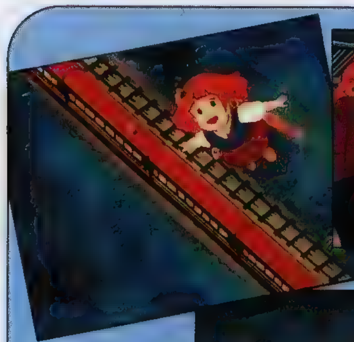


▲…つづく、なのです。



▲め一杯キザに登場、ジェイムズ・ギブミー。

♥22 00（ゼロゼロ）モモは勝利の暗号 後編

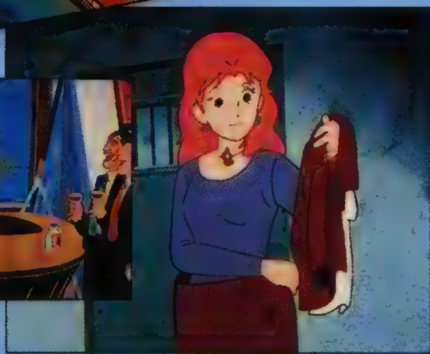




▲小道具はスパイの生活必需品。

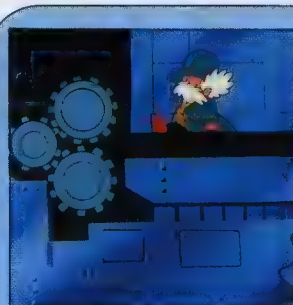


▲国際犯罪組織スルメッチのNo.1です。

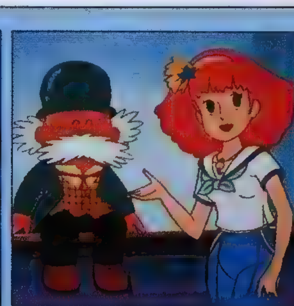


▲動きやすいレオタードに着がえて、脱出を敢行！

♥23 ころがりこんだ王様



▲チャップリンの格好したからって…。



▲ドッシーのため王様は地上に。



▲おかげでモモはあと始末に大忙し。

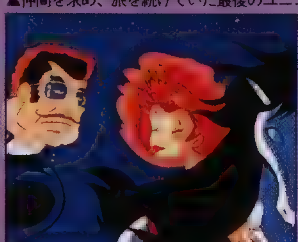


▲王様の魔法で町中は大混乱。

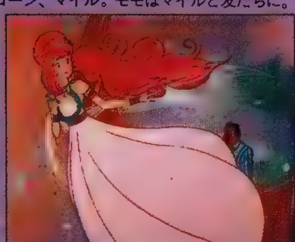
♥24 さすらいのユニコーン



▲仲間を求め、旅を続けていた最後のユニコーン、マイル。モモはマイルと友だちに。



▲ペリリッチ氏は執ようにマイルを追う。

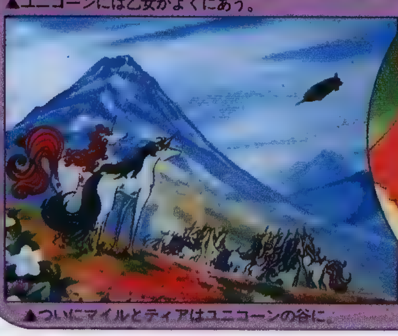


▲妖精の女王に変身してペリリッチを説得。

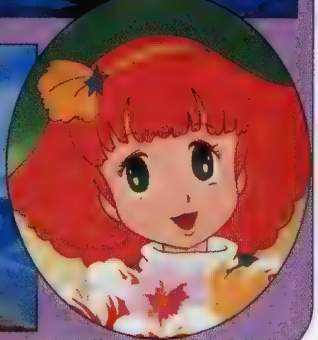




▲ユニコーンには乙女がよくにあう。



▲ついにマイルとティアはユニコーンの谷に。



▲モモ特製のお花のサラダです。

♥25 がんばれミラクルズ



▲名門ドコカーズとの対戦やいかに？



▲父親の夢を受け継いだサキは、野球大好き少女。



▲おお、大リーグボール！ …違ったかな？



▲「父ちゃん俺はやるぜ！」



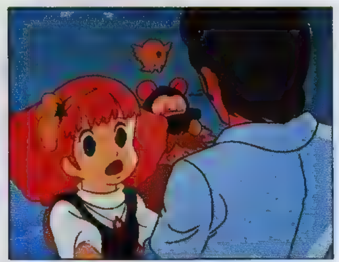
♡かいせつ

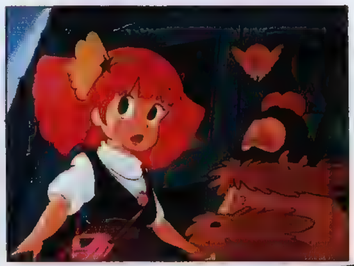
北国の寒村を支配する謎の伯爵。その伯爵を影から操る、正体も定かでない妖怪。そして、人身御供にされようとする美少女……。シリーズ中、一番の異色編といえる作品でしょう。

また、この回はスタジオ・ライブが全面的に参加し、渡辺浩氏が初作監をつとめた回でもあります。

♡ストーリー

出張先から帰ってこないパパを心配したモモは、あとを追いグリーンランド山脈のヒル村へ。しかし見つけたパパはようすがおかしい。モモはパパの入っていった城の伯爵に、会わせてくれるように頼むが、伯爵は知らんぷり。実は村のおとなたちは、皆伯爵の連れてきた、ウラヌスという妖怪に呪縛されていたのだ。モモは花嫁に変身し、エリカの代わりに城へ乗り込むが!?


1 モモはパパを見つけたものの……。


2 伯爵はモモが城へ入るのをこばんだ。


3「な、なんちゅう女の子じゃ」「ねぇ、パパに会わせてよ!」「しつこい!」

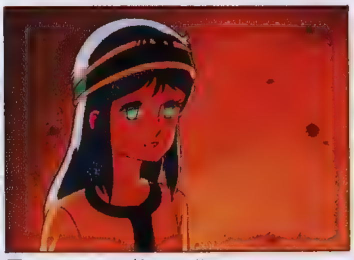


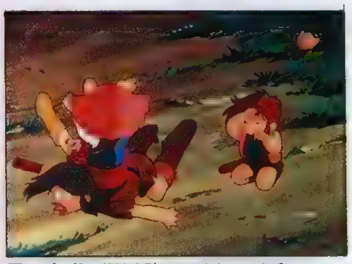


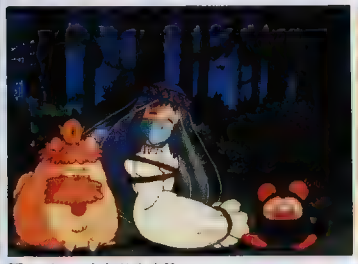

4 はね橋からほうり出されるモモ♡ 月面宙返り、とまではいかなかったね。

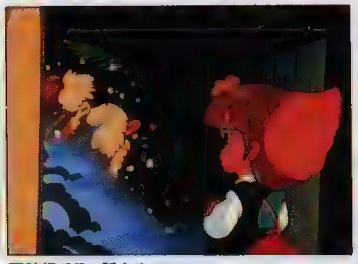

8 悪魔の妹ならぬ妖怪の花嫁!?


7 ウラヌスのお告げを伝える伯爵。


6 シドとトミーの姉エリカ♡

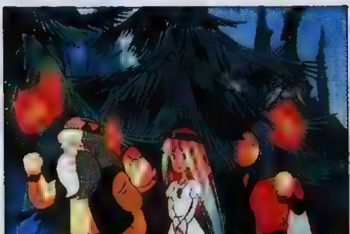

5 ムギュ!! 着地失敗。8.5ぐらいかな?


11 …で、こうなります♡


10 強行手段に訴えるモモ。


9 エリカはウラヌスの花嫁になろうとするが…。




13 モモはエリカの代わりに伯爵の城へ。

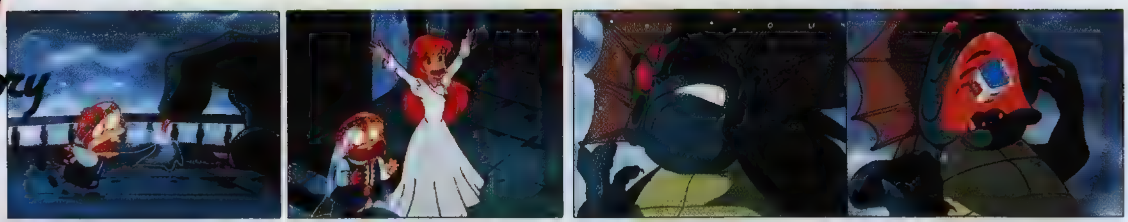

12「いまからお嫁にまいります。なーんちゃって」


15 ……アップで迫らないでください。

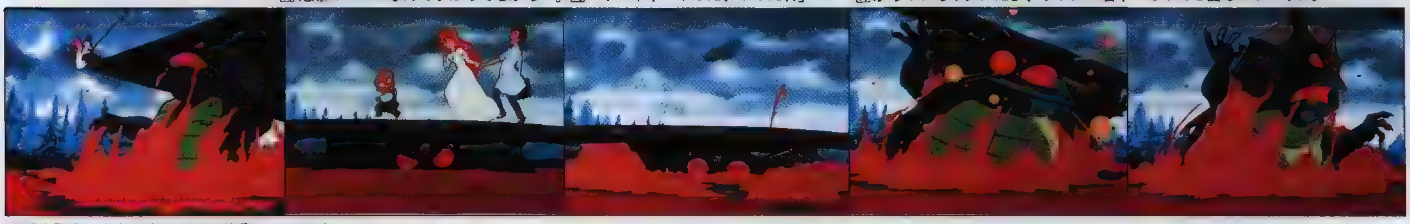
16 ついにウラヌス出現!! どうする? モモ!


14 ウラヌスは実は虫歯だった!





19 花嫁のベールなんてかぶってるから…。 18「ヤーイ！ やった、やった!!」 17 がっついちゃダメだよ、ウラヌス君！ ちゃんと歯もみがこうね。



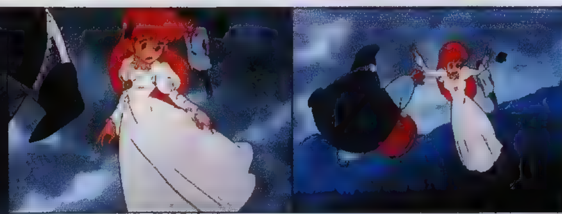
20 城を脱出しようとするモモと伯爵。ところが……。



23 今回はやたらにとびますね。



22 これが2回目ネコパンツ♡



21 空中にほうり上げられて…。



25 パパをかばって戦うモモ。



24 やっぱり、モモは翔んでる女？



26 美女と怪獣の対決やいかに？



27 必殺のミンキーステッキがウラヌスに飛ぶ！



28



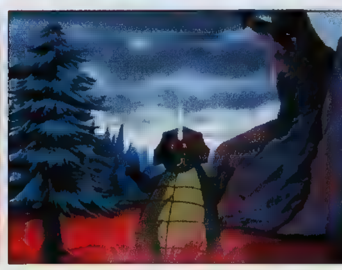
29 ステッキの一撃は額の宝石をコナゴナに！

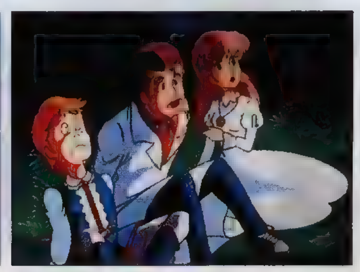


30 断末魔のウラヌス。







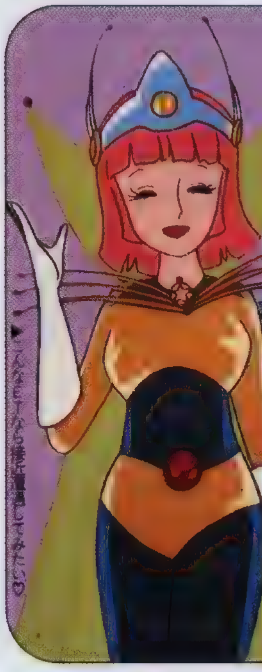


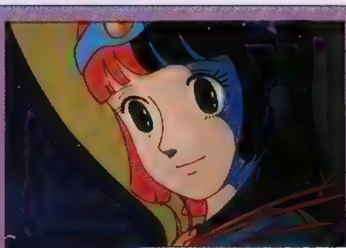
33 エリカが本当の花嫁になる日も近い。 32 しぼんでゆくウラヌス。空気太りだったのね。 31 呪縛が解け、伯爵ももとの姿に。

34 モモはパパとおうちに帰り、無事ハッピーエンドウマメ。

♡ ＵＦＯがやって来た

◀美しい異星人に変身。





▶こんなＥＴなら接近遭遇してみたい♡



▲なんと本物のＵＦＯが出現！



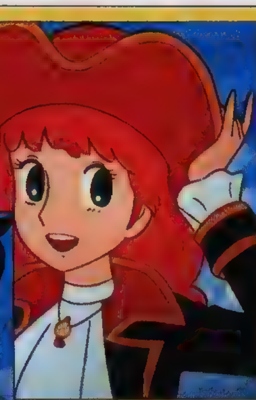
▲トニーはＵＦＯの存在を信じていたが……。

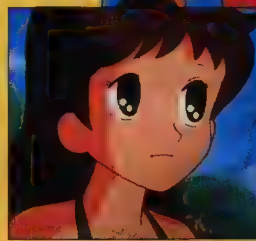


▲ＵＦＯと間違われた空中宣伝カー一君。

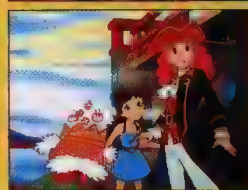
♡27 魔のトライアングル

▶海賊退治の船長さんに変身して、ポンミュータ・魔の三角海域へ。





◀魔のトライアングルで行方不明になった父親を待ち続けるチャコ。



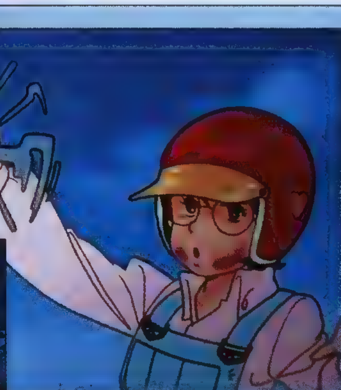
▲船はなぜかフェナリナーサへ。

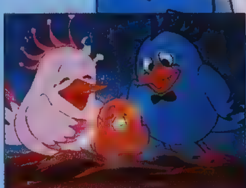


▲なんで現代に海賊がいるのォ～？

♡28 激走タマゴレース

▶みよ！　このスパナさばきを!!　ママがメカに強いことを証明した日でした。





◀メロン鳥の赤ちゃん、無事誕生！



▲ゲスト出演のルピンとギブミー。



▲赤ちゃんが無事生まれてよかったね。



▲タマゴをみごとダイビングキャッチ！



▲さすがのモモもママにくわれっぱなし



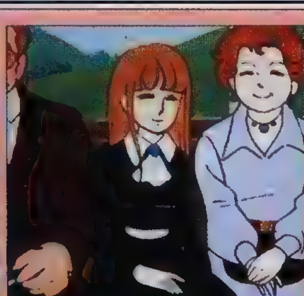
▲世界でただひとつのメロン鳥のタマゴ。

マイナー ①美少女名鑑

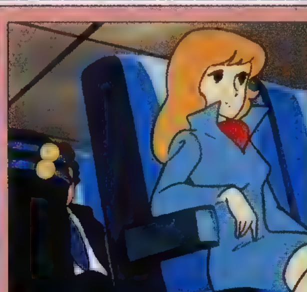
モモを見ていると、群衆シーンや通行人などの間に、すごくかわいいキャラをよく見つける。重要ではないのだけれど、無視するには惜しい。で、こんなものを作ってしまった♡



▲（第15話）もう既に美女ですが…。



▲（第15話）鉄道の乗客。



▲（第５話）飛行機の乗客のひとり。



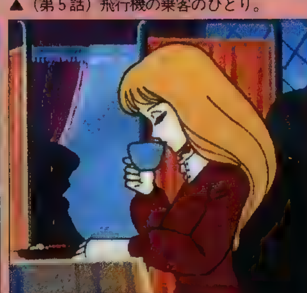
▲（第３話）ちょっとおとなっぽく。



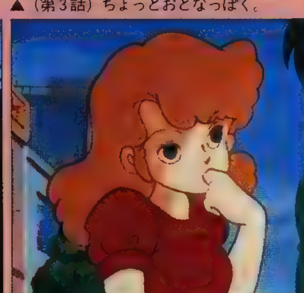
▲（第15話）パーティ会場のお客。



▲（第15話）同じく鉄道の乗客。



▲（第５話）紅茶を飲むしぐさが……。



▲（第３話）わきに男がいたんだけど…。

Minky Momo Pick up Story

Episode:30

ふるさと行きの宇宙船(うちゅうせん)

♡かいせつ

なぜ、童話の主人公は悲惨な運命をたどらねばならないのか？　人魚姫にしても、鉛の兵隊にしても、なぜ、ハッピーエンドを迎えられないのか？　ボーマン船長ならずとも、誰でも一度は抱いた想いではないでしょうか？　たとえいまは忘れているにしても…。

これは童話を忘れることができなかったおとなのための童話なのです。

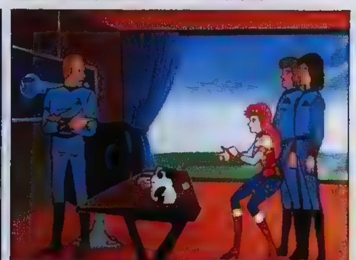
♡ストーリー

ついに、どこかの国初のスペース・ショッテルが打ち上げられることになった。船長のボーマンは、実は童話を愛する心やさしい男なのだが、科学者としてのたて前上、他人にはバカにしてみせていた。ところが、ショッテルのなかに、打ち上げを見物にきていたモモと三匹がまぎれこんでしまい、ショッテルは遭難。モモはやむなく、ショッテルをフェナリナーサへ向けたが!?


1 人類の夢、科学の勝利、スペース・ショッテルでございます。


2 美人女性宇宙飛行士リプリー少佐♡

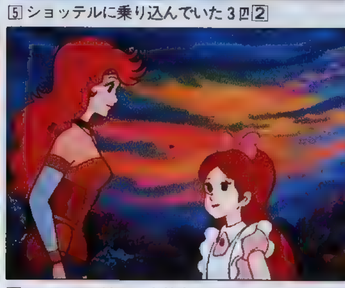

3 鼻の下をのばしてると……。


4 童話を愛しているボーマン船長。

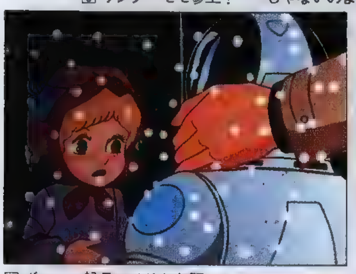

5 ショッテルに乗り込んでいた3匹2


6 ワンダーモモ参上！　…じゃないのよね、これが。ときめき時代の宇宙飛行士!?

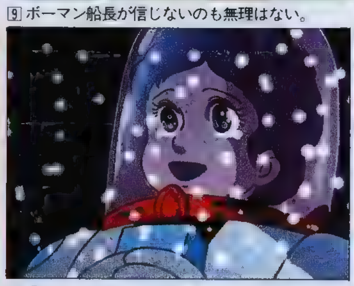

7「犬さん、猿さん、トリさ～ん」

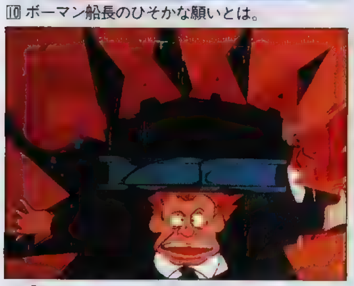

8 ショッテルはフェナリナーサへ。

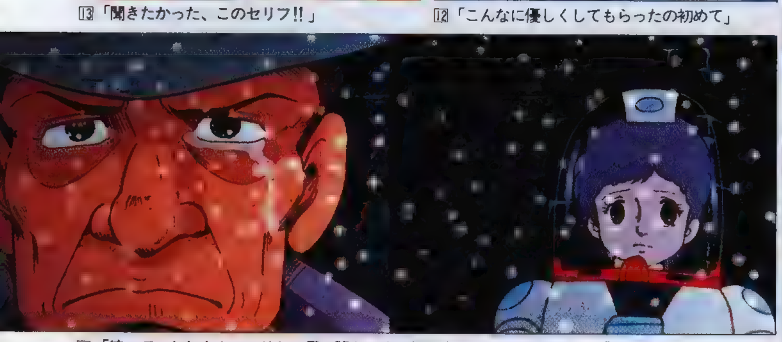

9 ボーマン船長が信じないのも無理はない。


10 ボーマン船長のひそかな願いとは。


11「寒いんだろ…、さ、これを着なさい」


12「こんなに優しくしてもらったの初めて」

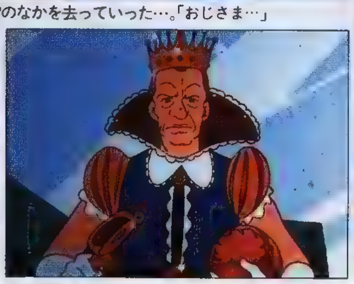

13「聞きたかった、このセリフ!!」


14「待って、おじさん…」そして男は降りしきる雪のなかを去っていった…。「おじさま…」


15 汽笛を演出するモチャー君。(芸がこまかい！)


16「タフでなくちゃあ生きちゃあいけねえ、しかし優しくなくちゃあ人間じゃねえだばさ」




17 幸福の王子にならないようにね、ボーマンさん！

18「いつかはきっと信じてくれるね」
「ええ、…いつかきっと……」

よみがえった伝説



▲ついに出ました巨大ロボ！　ゴッドスルメッチ登場!!

▶合身ゴ……！ゴーショーグンのBGMにのせて送るロボット……

▲フェード・イン！　いけミンキナーサよ！　スルメッチをやっつけろ！

アンドロイドの恋



▲アツアツの二人にモモもマケソー。

▲二人の逃避行はライアンの故郷へと…。

▲二人はいつしか恋人同士に…。しかし研究所の追手が!!

▲ナナはライアンによって作られたアンドロイドだったが……。

大きすぎた訪問者



▲今回は愛の怪獣ドラマです⁉

▲サマンサは海岸に打ち上げられた。

▶母をたずねて三千里⁉　ジミー君です。

▶今回はウルトラマンに変身すべきでしたね。

夢見るダイヤモンド



▲彼はアルベール殿下だった。

▲モモは宝石店でひとりの青年と出会った。

▲12歳の姿でひそかに別れを…。

▲夢のような一夜はまたたくまに…。

地底の国のプリンセス



▲モモのライバル・レイちゃん♡

▲パパを捜し地底へきたモモだが、見つけたパパはなんとレイちゃんのパパに!?

▶なんと今回は突貫工事の現場監督さん！

▶レイちゃんはさびしかったのです。それを知ったモモは……。

Minky Momo Pick up Story

Episode:36



♡かいせつ

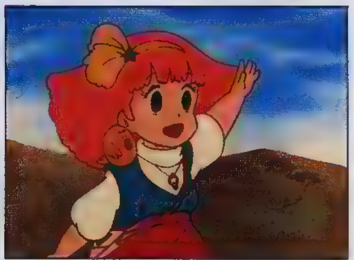
珠玉作というふだんは使い古された感のある言葉が、これほど良く似合う作品も珍しいだろう。脚本の金春さんは、他にも「さすらいのユニコーン」「夢の戦士」「お花畑を走る汽車」「時は愛のゆりかご」などの傑作ファンタジーをものにし、作品世界の幅を拡げたが、この回は、スタジオ・ライブの作画力とあいまって、ベストに数えられる作品のひとつとなっている。

♡ストーリー

ある日、ひょんな事から幽霊屋敷に踏み込むハメになったモモたちは、屋敷の持ち主であったおじいさんの幽霊と出会い、友だちになりました。おじいさんは昔、ミイちゃんという女の子と、小鳥の国を作る約束をしながら、果たさずに死んでしまい、ミイちゃんに一言謝ろうと、地上に残っているのでした。モモは何とかミイちゃんを捜し出そうとするのですが……。



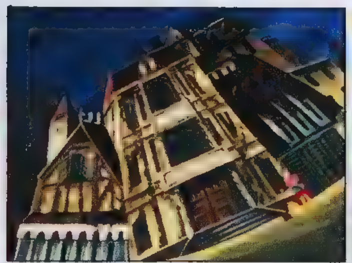
1 模型飛行機で遊んでいる3匹。



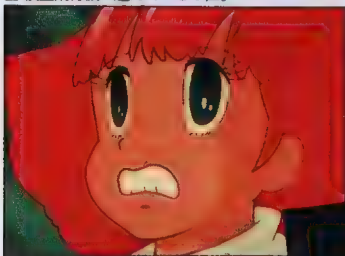
2 モモはスターター役、「ゲッツセット！」



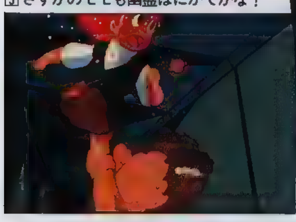
3 「いけーっ！　正義のモチャーII世号！」



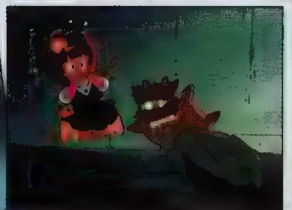
4 ところが飛行機は　幽霊屋敷のなかへ。

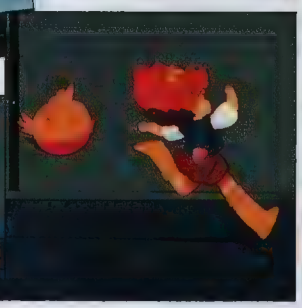


5 さすがのモモも幽霊はにがてかな？







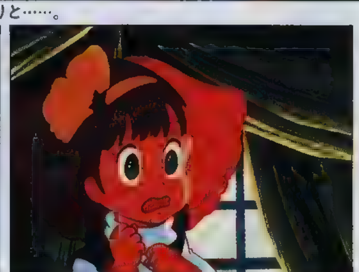




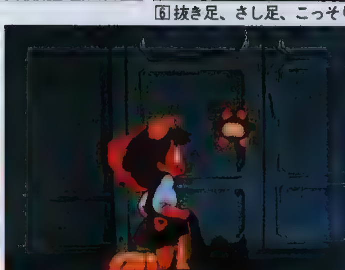
6 抜き足、さし足、こっそりと……。



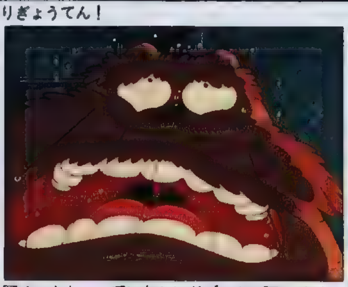
7 きゃぴ!!　カーテンをかぶったモチャーにびっくりぎょうてん！



8 「モチャー……なの？」



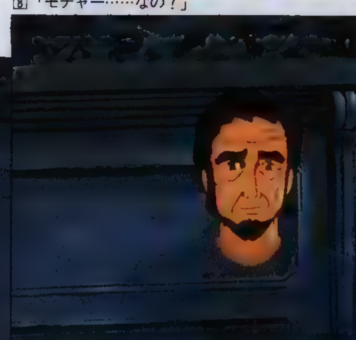
9 "幽霊の正体見たり枯尾花" ですね。



10 ホッとし　ていたシンドブックの肩に手が…。



11 「な～んだ、幽霊かな、なんて思っちゃった！」



12 「わしゃ、幽霊じゃよ」



13 きゃぴ!!(そりゃ、驚くわな)



14 でも、すぐに仲よしになってしまいます。



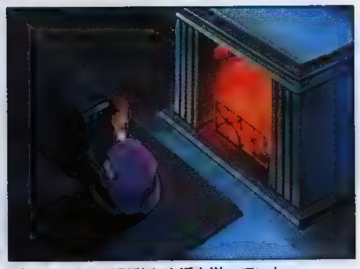
15 「まぁーっ、新しいお友だち？　よかったわねェ」



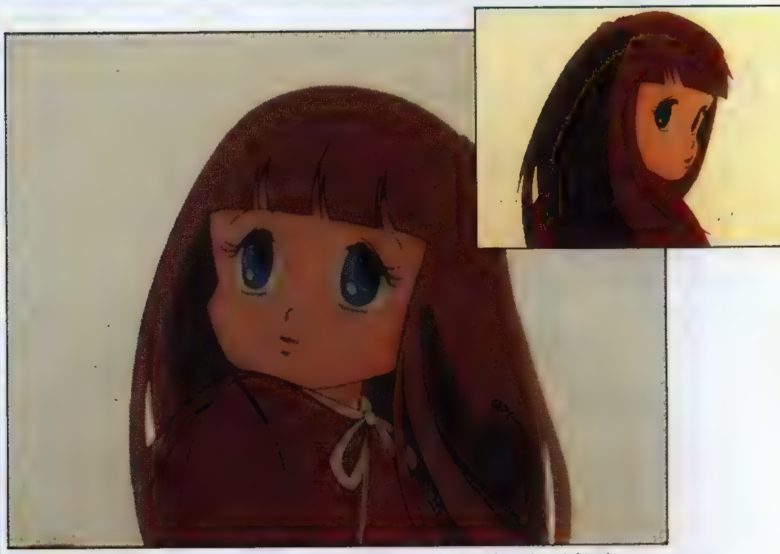
16 とりこわしを知ったおじいさんは"約束"のことを話し始める…。



⑲おじいさんの心に小さな灯がともって…。



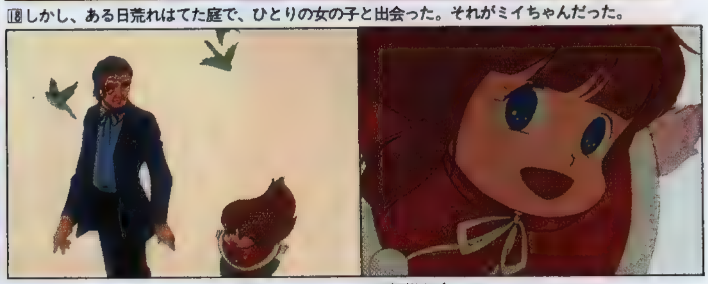
⑰おじいさんは孤独な生活を送っていた。



⑱しかし、ある日荒れはてた庭で、ひとりの女の子と出会った。それがミイちゃんだった。



⑳「あたし、おっきくなったら、小鳥さんたちがいっぱい遊びにくる小鳥の国をつくるの」



㉑「それじゃ、おじいちゃんが王様で、ミイちゃんはお姫様ね！」

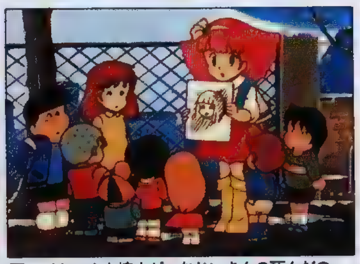
㉓絵描きさんに変身して、ミイちゃんの似顔絵を……。

㉒「ウフフッ、決まった！」





㉕いまでは、ミイちゃんも成長して…。



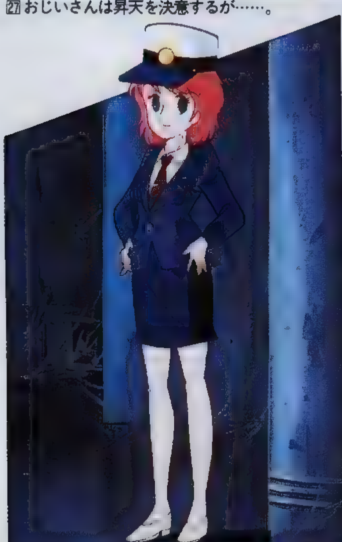
㉔ミイちゃんを捜すが、おじいさんの死んだのは何十年も前…。



㉗おじいさんは昇天を決意するが……。



㉖ついに屋敷のとり壊しが始まった……。



㉙婦人警官に変身！

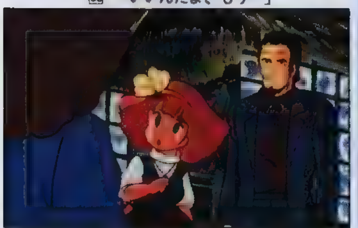


㉘「あきらめちゃ、ダメ！」モモはとり壊しを止めさせるべく、飛び出していく……。





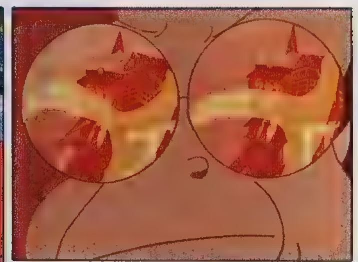
33「…いいんだよ、もう…」



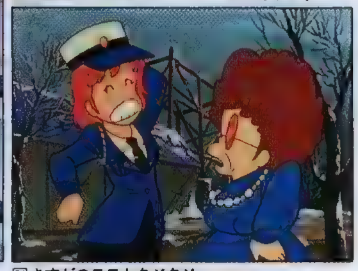
34「あなたは…おじいちゃん!!」



32「おばあさん！　お願い、このおうちとり壊すの少し待って！　お願い!!」



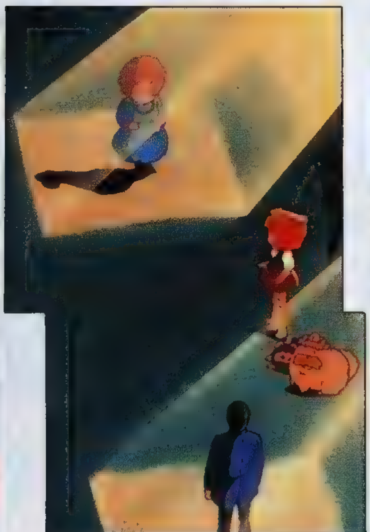
30突如として出現したハクリキおばあさん！



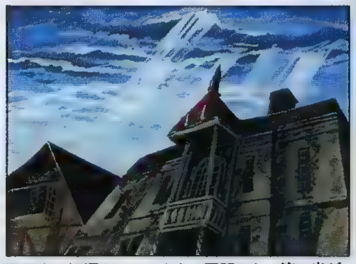
31さすがのモモもタジタジ。



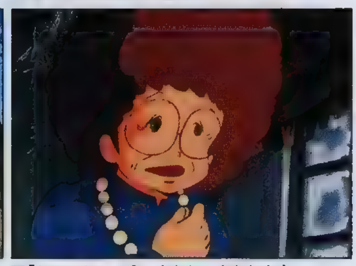
40いま、多くの歳月をへて再会した二人。



39



36再会を祝福するかのように雲間から一筋の光が。



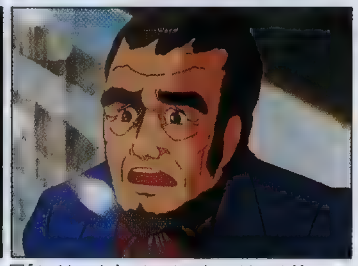
35「わからない…？　あたし、あたしよ！」



41「悲しいけど、いつか子どもの頃のことなんて忘れかけて…」



38驚くモモ。



37「ミイちゃん！　ちっちゃなミイちゃん!!」



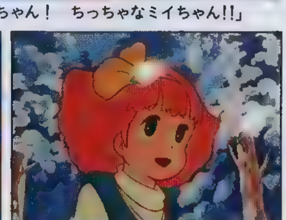
48おじいさんも、空の上から、おばあさんと小鳥の国を見守るだろう――。



44「おじいちゃん！　今度は空の上で待っていてくださいね」



43おじいさんは天国への階段を昇る。



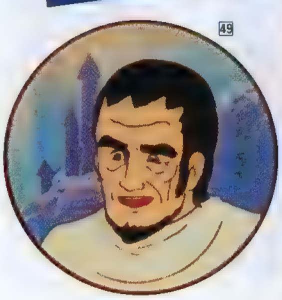
42「ここが全部、小鳥たちの国に…」



46おじいさんに別れを告げる。



45「ああ、なるべくゆっくりおいで」



49



47どんなに長い年月も、本当の友情を引き裂くことはできない。

Episode Catalog 37～40

愛の空中ブランコ



▲ジュディの迷いもふっきれました。
▲ドキッ。浮気現場発見！
▲パパからのプレゼント、子ライオンをだきしめ…。
◀ジュディのママです♡
▲ジュディを元気づけようと、パパは四苦八苦。
▲「人はね、涙の数だけ幸せになれるものなのよ」
▲ママも若づくりで対抗。

40 夢の戦士



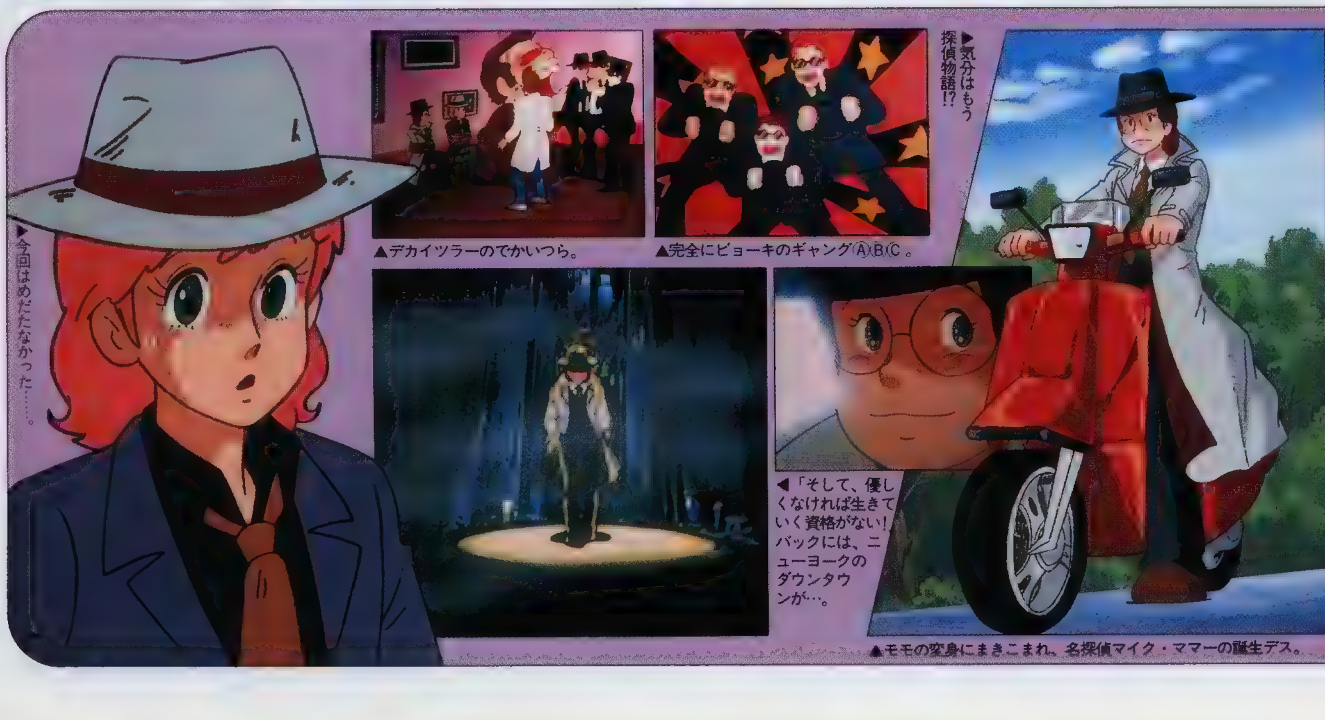
▲ママの騎士（ナイト）ピーターータン。
▲ネコのミミアもママの心の中で生きてます。
▲モモの夢の中で遊ぶデイジーとロビン。
▲デイジー姫はママの理想像？

38 雪のめぐり逢い



▲人間だったころのサラ。
▲雪の精になったサラの姿はアロンには…。
▲ひとり、帰らぬサラを待つアロン。

突撃ミンキーママ



▶今回はめだたなかった……。
▲デカイツラーのでかいつら。
▲完全にビョーキのギャングⒶⒷⒸ。
▶気分はもう探偵物語!?
◀「そして、優しくなければ生きていく資格がない！」バックには、ニューヨークのダウンタウンが…。
▲モモの変身にまきこまれ、名探偵マイク・ママーの誕生デス。



Episode:41



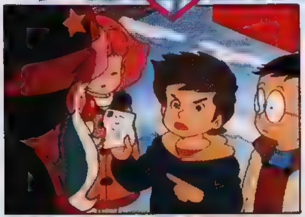
♡かいせつ

もし、サンタクロースが本当に存在したら？　この話は、大野実プロデューサーの、そんな話を作りたいという気持ちがもととなってできた話です。登場人物すべてが善人というこのエピソードは、シリーズ中、最もハートウォーミングな話といっていいでしょう。

なお〝サンタの手紙〟は実話で、欧米の郵便局員は毎年十二月には、返事書きに忙殺されるそうです。

♡ストーリー

サンタクロースは、十万年前から子どもたちにプレゼントを送っているフェナリナーサの戸別訪問サービス員である。そのサンタが近頃姿をみせないため、プレゼントをもらったことのない子まででる始末。子どもたちの手紙を携え、モモは一路、北極の氷山へ。「みんな、おじいさんを信じてるの」モモのはげましと手紙の山に元気づいたサンタは、ふたたび仕事を開始した。



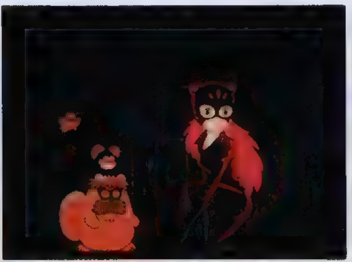
1 プレゼントをもらったことがないポール。



2 あたしだってプレゼント欲しいもん♡



3 サンタの代わりに返事を書く郵便局員たち。

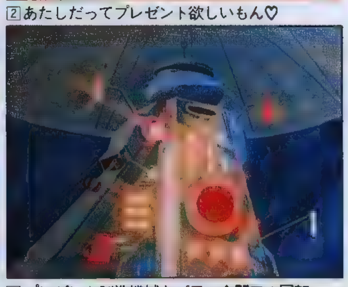


4 本物のサンタに届けるため、手紙を盗む。

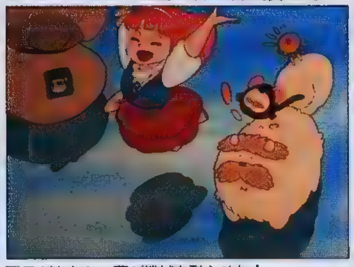


5「みんなわしへの手紙かね？」喜ぶサンタ。

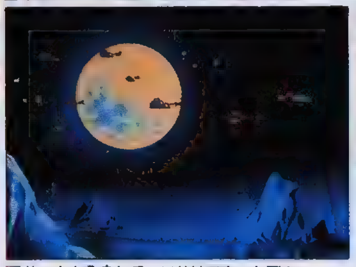




6 プレゼント製造機械もパワー全開フル回転。



7 子どもたちの夢が機械を甦らせた！



8 サンタも分身して、ソリは四方へと飛ぶ。



9「さあ、あたしたちも手伝いましょう！」



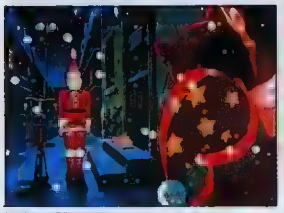
10 オットーの家で、なんとサンタ姿のルピンと出会う。「子どもとの約束は守らねばならぬからな」



11



12 屋根から落ちてきたパパサンタ。



13 例の郵便局員までサンタ姿で……。



14「ホヨ〜〜？」



15 その上を本物のサンタがソリで飛んでいく。



16「なにをしとるのかね、仲間たちよ」



17「本当にいたんですね、サンタクロースは…」本物のサンタを見上げる５人。



18「サンタクロースは何人いてもいいもの…」

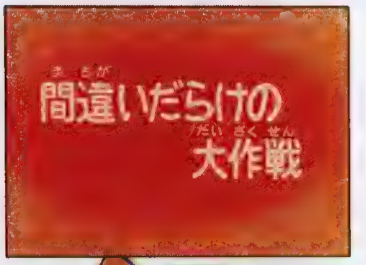


19 サンタの復活と皆の心を喜ぶモモ。



20 サンタさん、これからもがんばって♡

Episode:42



♡かいせつ

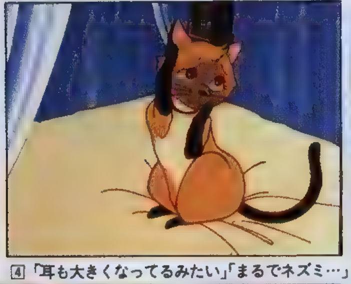
十二月いっぱいで放映打ち切りの予定が伝わったとき、首藤氏はこの回のラストで爆弾が爆発し、地球が滅亡して終わるという案を考えたこともあったそう。(第42話は、東京地方では五十七年十二月三十日に放映された) 結局、大野プロデューサーの尽力で一月分の放映が決定したのだが、大野氏は番組と同時に、地球の滅亡も救ったということになる、のかな？

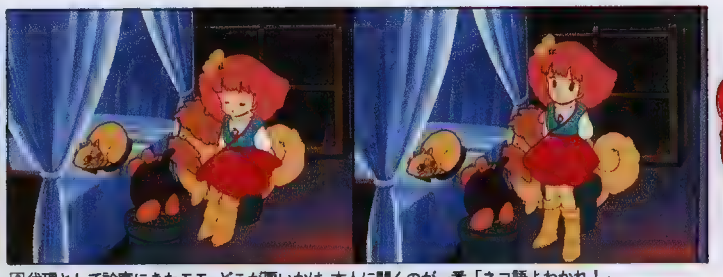
♡ストーリー

オスカー将軍の愛猫が重病にかかった。モラレスクワへ出張中のパパに代わり、モモが診察にいくが、とても手におえない。意識を失った猫を見て、悲しみに号泣する将軍。家に連絡するつもりで、緊急指令用の電話で「ネコが死んだ」といってしまったからさあたいへん。秘密指令が発動し、戦略爆撃機がモラレスクワへ発進してしまう。しかもその爆撃機にはモモたちが!?


1「あら、あっちの連邦って敵なんですの？」


2


4「耳も大きくなってるみたい」「まるでネズミ…」

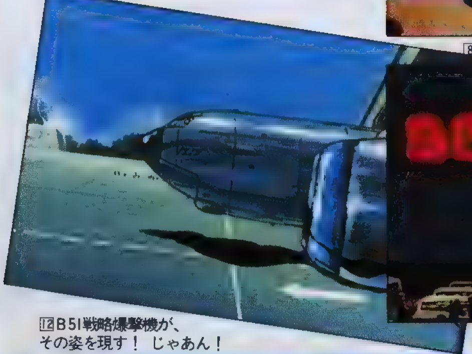

3代理として診察にきたモモ。どこが悪いかは、本人に聞くのが一番。「ネコ語よわかれ！」

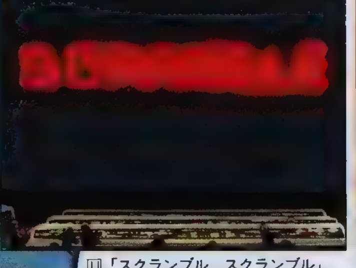

7「……ジェーン……」


6愛猫の死を悲しむオスカー将軍。


8「ちがう、ちがう」涙で目が見えてない。


5「そりゃ、モラレスクワマウセーゼだよ」「……そのままにしておくと……え一呼吸が止まっちゃう」


12B51戦略爆撃機が、その姿を現す！ じゃあん！

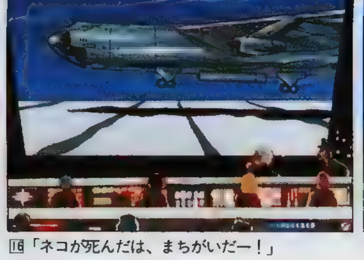

11「スクランブル　スクランブル」


10モラレスクワ攻撃指令の暗号文と同じ…。


9「ネコが死んだ」緊急電話ですよ、それ。


13いま、発進せんとする爆撃機。世界を滅ぼす毒蛾となるか!?


17「うちにかける電話とまちがえたんだ」ガクッ。


16「ネコが死んだは、まちがいだー！」


15「ワッ、みんなモラレスクワへいくのか」


14人工呼吸でジェーンは一命をとりとめる。



21





18 出ました！〝キングコング〟ボトム大佐。

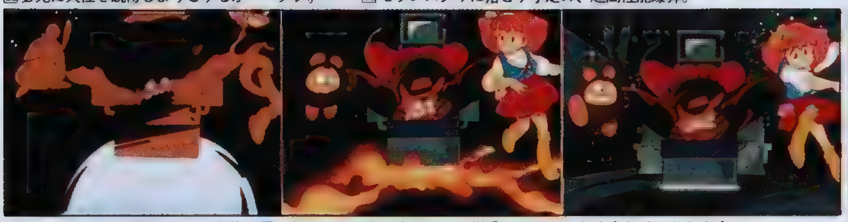


22 必死に大佐を説得しようとするが……ダメ。

19 モラレスクワに落とす予定の、超高性能爆弾。



20 作戦中の命令はコンピューターが過断。



25 しかし、大佐は信じない。モモたちをスパイと勘違いして、つかまえたそのとたん！



24 「作戦は中止！　ただちに帰還せよ」



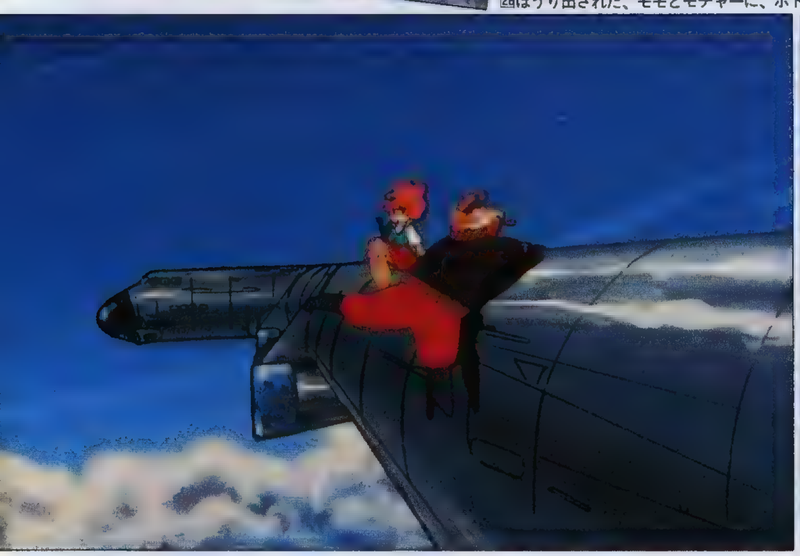
23 戦車で30億ドルのコンピューターを…。



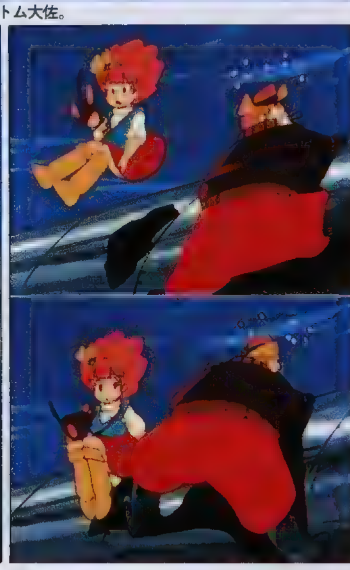
27



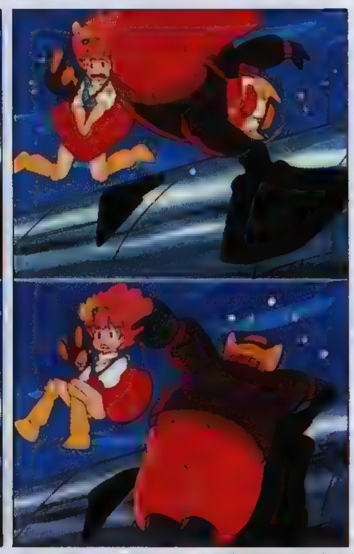
26 ほうり出された、モモとモチャーに、ボトム大佐。



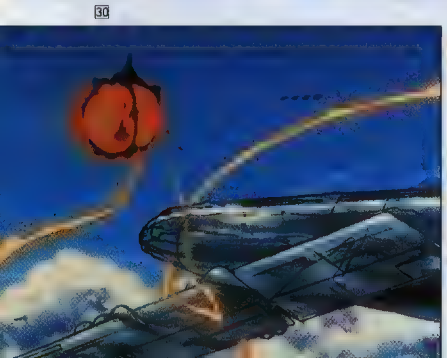
30

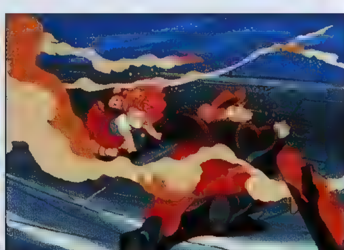


29



28 いつでも女の子はつつしみを忘れちゃいけません。





33

34 無意味に破壊されてゆく戦闘機。

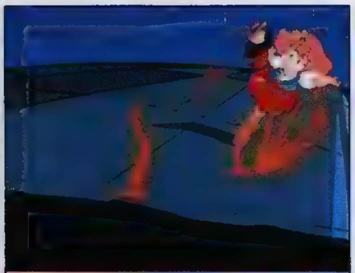


32 超高性能のＥＣＭ発信。



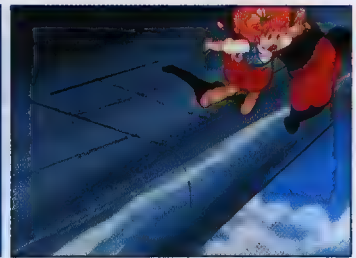
31 あっちの連邦の戦闘機が爆撃機に対して攻撃を。







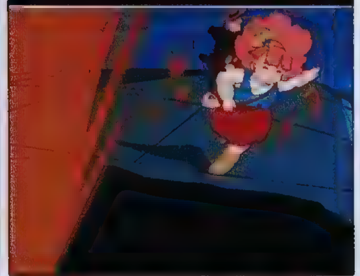
36攻撃してくる、あっちの連邦戦闘機！



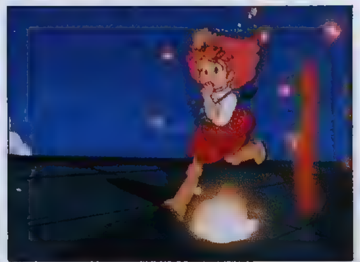
35



38



37



40



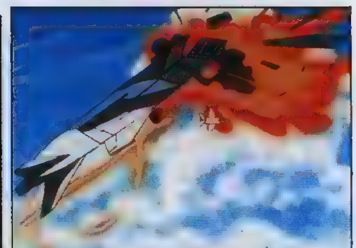
39



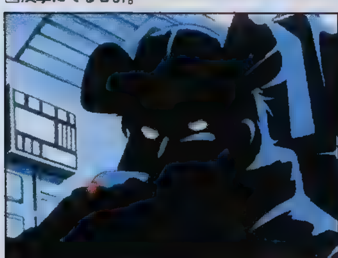
42反撃にでるB51。



41翼にあいた穴のなかへズドーン。おしりいたそ…。



43戦闘機隊も次々とやられていく……。



45敵機を全滅させ、ルンルン気分のボトム大佐。



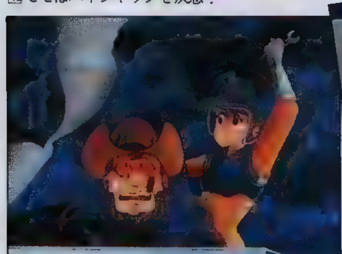
44モモの瞳に涙が浮かんで……。





46モモはハイジャックを決意！

47雷雲の中を、一路モラレスクワへ!!

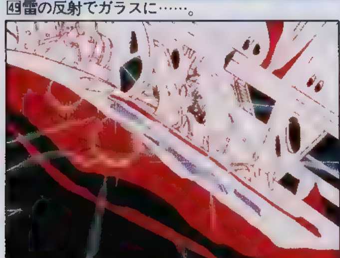


49雷の反射でガラスに……。

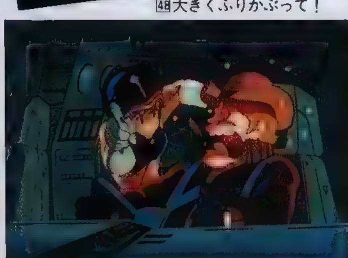


48大きくふりかぶって！





51



50ナント、爆弾のタイムスイッチを押してしまう。

Minky Momo

Pickup Story



52「私は爆弾技師です」戸惑い気味のボトム大佐。

53「し〜びれちゃった〜」「静かに！」「ハイ」

54ボトム大佐が修理に成功したため、ハッチが開いてしまった！

55二人は爆弾に乗ったまま…。

56がんばれモモ！　世界の運命は君の手に!!

57 "ハイヨー！シルバー!!"

58

59

60もう一度パイロットに変身してパラシュートで。

61激突!!

62花をまきちらし地面につきささる。

63

64

65ボトム大佐、愛しいミサイルに激突。ずるっ……。

66「爆弾…キライ！」

69かくて間一髪、世界は救われたのでした。

70

71ボトム大佐はきょうのことはなにもおぼえていませんでした。

72

68モモの笑顔も、きょうは一段と…。

Episode:43



♡かいせつ

このエピソードは首藤氏が十八歳のときに書いたシナリオ「18歳の童話」がもとになっている。

―まんが家志望の受験生と孤独な不良少女が東京の片隅で出会い、同じ夢を見て、別れてゆく――というもので、脚本の土屋氏も、首藤氏の才能に改めて驚いたとか。

また、この回は十二歳のモモが十八歳でもあるための感情の葛藤を描き、46話へ続く伏線となった。

♡ストーリー

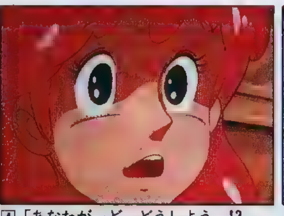
ある日モモの落としたペンダントを、ジョニーという青年が拾った。「女王のペンダントを拾った者が女王と結婚するのが決まり」あわてるモモ。

だが、アニメを作るという自分の夢を熱く語るジョニーに、やがてモモもひかれていく。「もしかしたら…あなたフエナリナーサの人じゃない？」

「僕はただの人間だよ」現実の世界と夢の世界のあいだで、モモの心は揺れるのだった。



①困っている人のため、きょうもモモは大忙し。



②ペンダントのクサリが切れて……。

③それを拾うジョニー。

④「あなたが…ど…どうしよう…!?」



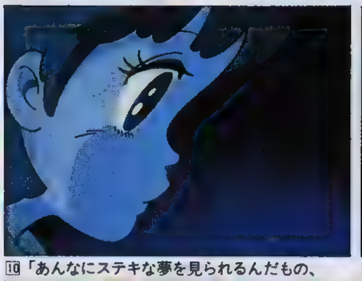


⑤自分の絵をモモにみせるジョニー。

⑥「目をとじて耳をすますと…、

⑦音楽がきこえてくるんだ」

⑧一緒に踊る二人。



⑨でも二人は、夢の世界と現実の世界の人間。

⑩「あんなにステキな夢を見られるんだもの、

⑪フエナリナーサの人じゃなくても……」

⑫





⑬ジョニーの部屋で、よりそいながら海をながめる二人。

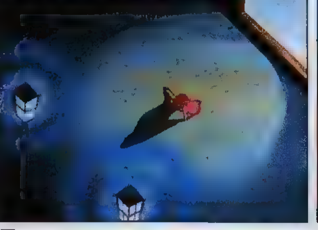
⑭「明日も2時に公園で待ってるよ」

⑮ウェディングドレスに、ふと目を止める。



⑯どんなにジョニーを愛してみても、モモは12歳の少女。18歳のモモは虚像でしかない……。






⑰ジョニーにひかれる自分を知り、複雑な気持ちで走るモモ。

⑱と、つまづいて倒れる。

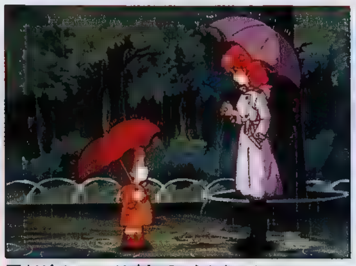
⑲

⑳

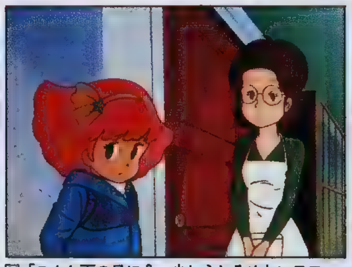
Minky Momo Pick up Story



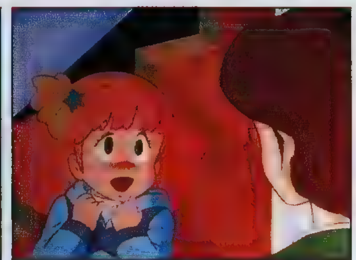
24



㉓だがジョニーは病気でこられないと……。



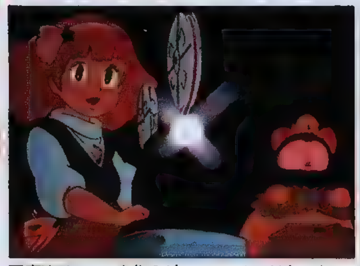
㉒「こんな雨の日に？」少しうしろめたいモモ。



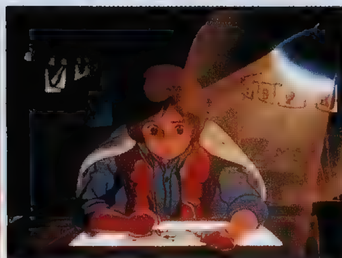
㉑外出をママに見つかり、つくり笑い。



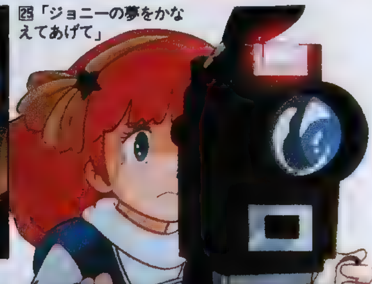
㉘「魔法じゃ、ジョニーの夢の世界には入れないんじゃよ…」



㉗魔法でアニメを作るが、フィルムにはなにも…。



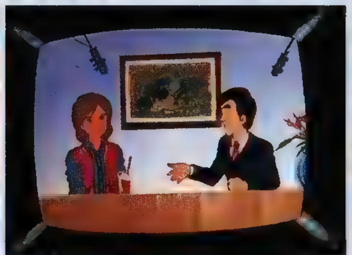
㉖「僕自身の手で完成させなければ」



㉕「ジョニーの夢をかなえてあげて」



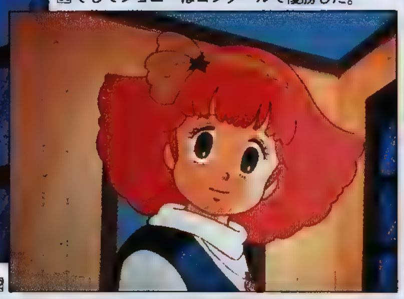
㉝「同じ名前の女の子がいるのねえ、モモ!?」「え!?…ええ……」モモにはそう答えるしか…。



㉚そしてジョニーはコンクールで優勝した。



㉙ジョニーはついにフィルムを完成させる。



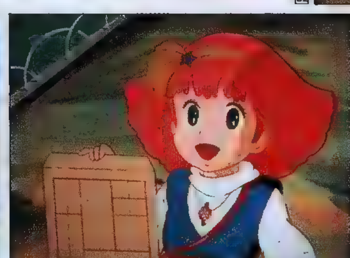
32



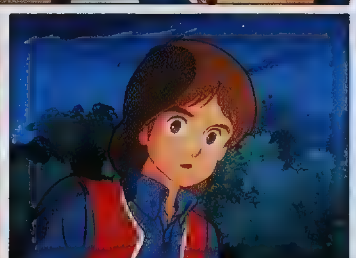
㉛「モモという女の子に……」「モモって？」



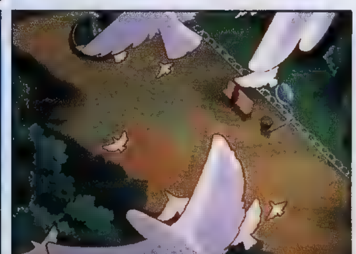
㊲「どうもありがとう」「いいえ」駆け出すモモ。



㊱「ハイ」落ちたカット袋を拾い、渡すモモ。



㉟タメ息まじりで立ち上がるが、



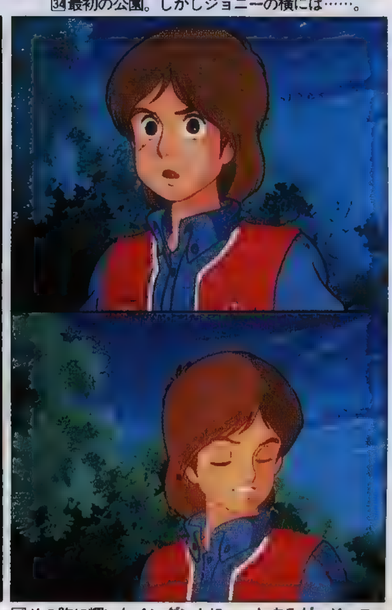
㉞最初の公園。しかしジョニーの横には……。





㊴なにかをふっきるように、モモは公園を駆け抜けていった。

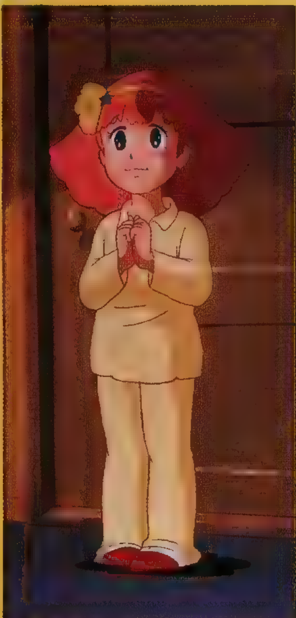
40



㊳その胸に輝いたペンダントにハッとするが、ジョニーにとって、モモは18歳の女の子——。

Episode Catalog 44～45

♥44 天使が降りてきた

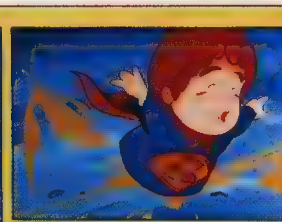

▲パパとママに本当の赤ちゃんが……。

▼はたしてゴッドさんはベビーが誰か知っていたのでしょうか？

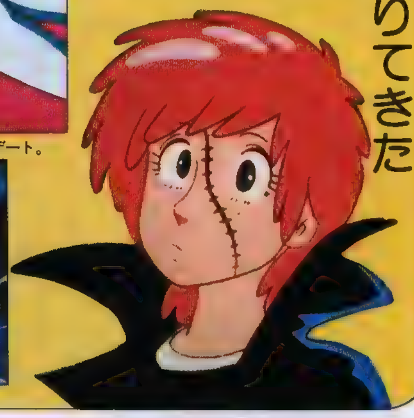


▲パパとママには神様からステキな贈り物。


▲天使の羽根が生えたママはパパと空中デート。


▲天使がママとぶつかり大ハプニング！


▲シンドブックに神様がのりうつった！

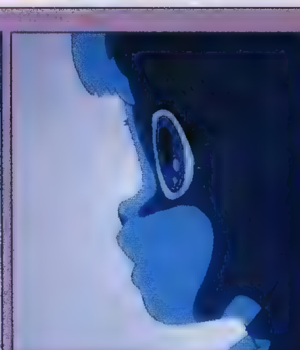


♥45 魔法の消えた日




▲モモがおとなになるには、あと千年…。

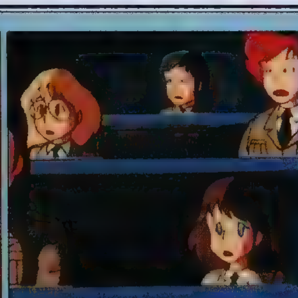

▲ペンダントをこわされたモモはすさまじい超能力を発揮する。それはモモの怒りなのか。


▲「ペンダントがっ！」

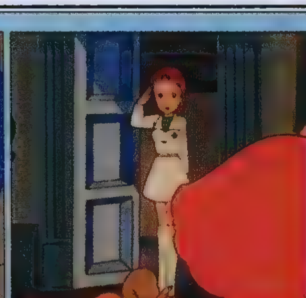

▲ピーターは夢を信じられる老紳士だった。

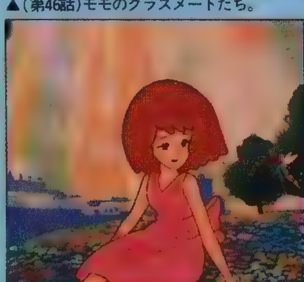
マイナー ② 美少女名鑑

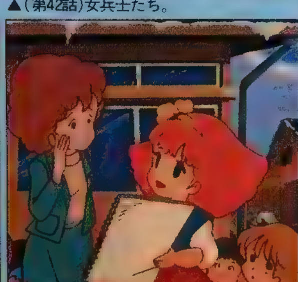

▲（第46話）モモのクラスメートたち。


▲（第42話）女兵士たち。

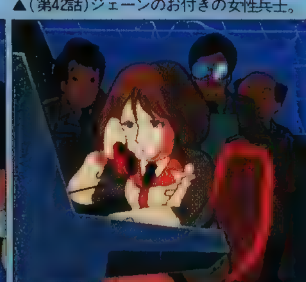

▲（第42話）女兵士。


▲（第42話）ジェーンのお付きの女性兵士。


▲（第46話）妖精とたわむれる女の子。


▲（第36話）幼稚園の先生と園児。

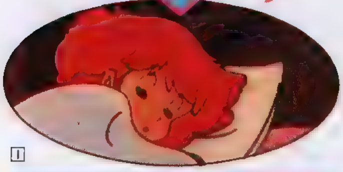

▲（第42話）女兵士。


▲（第42話）暗号「ネコが死んだ」を受けた通信兵。

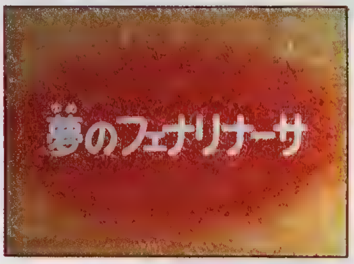
第一シリーズ後半分から写真を選んでいたら、なぜか、ほとんどが42話のものになってしまいました。しかし、なんとうらやましい職場であることか。働きがいがありそう……。

Minky Momo Film Story

Episode:46



1



♡かいせつ

一時的に打ち切りが決定したため、それまでの構想を変え、実質的な最終回であるこのエピソードが作られた。いまさら解説する必要もない傑作である。ここで打ち切り以前の構想を紹介しておく。

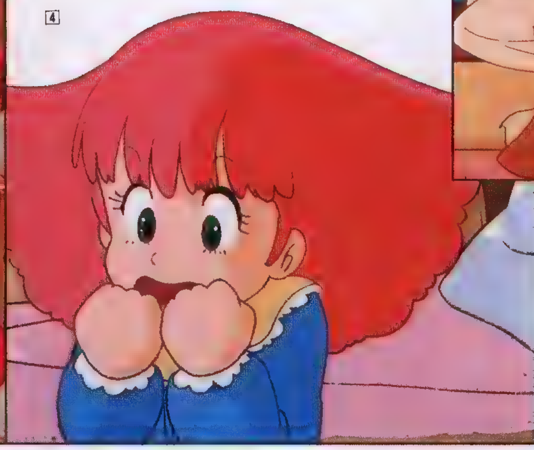
最後の一クールで、夢を喰い尽くす黒雲が敵として現れ、モモを追いつめる。最終回、黒雲と戦ったモモは相討ちとなり、再び千年の眠りにつく。その夢のなかでモモはフェナリナーサが降りてくるのを見る——というものであった。延長が決定したため、この構想を生かして第二シリーズが作られた。

♡ストーリー

その日は、朝から、抜けるような上天気でした。モモはグッスリと朝寝ぼう——。しかし……。

「起きなさい、朝ですよ！」

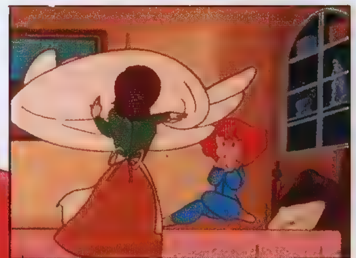
いつものように起こされたいつもと同じ、朝の風景——。でも、その日はちょっとだけ違いました。モモはいま、普通の女の子だったのです——。



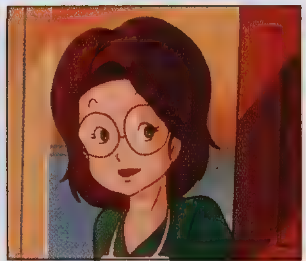


4

5「ハハッ…、グッモーニン、ママ」



3「きゃぴ!!」



2「モモ、さあ起きて！　朝ですよ」



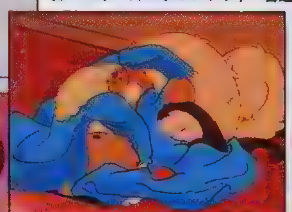
6どんな一日になるかしら？　普通の女の子にはそんなことわかりません…。



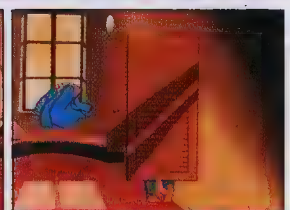
10ヘアバンドをつけて——。



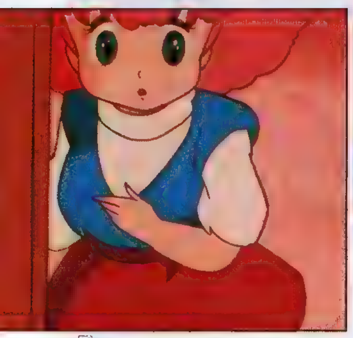
9スカートをはいて——。



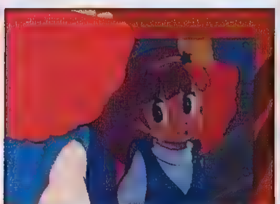
8



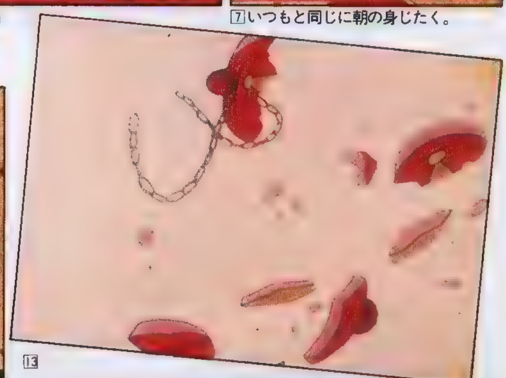
7いつもと同じに朝の身じたく。



12



11身だしなみには気をつけて。



13

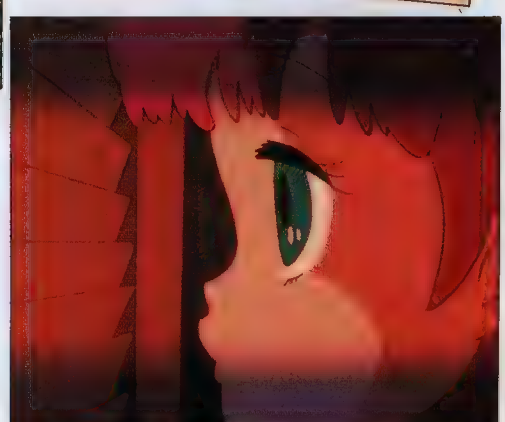


15そして、いつものように朝食を……。きょうはワッフルとカフェ・オ・レ。

「そりゃ、おとなに変身できるペンダントはこわれ、おうちの外には、グルメポッポもうありません。でも、普通の女の子には、それが普通でしょ。モモはきょう、普通の女の子ナノダ、ウン！」



16「さ、私は学校にいかなくちゃ」「気をつけてね」



14「まっ、いいか……」

学校へいって、よそ見をして、怒られる——。立たされて、みんなと遊んで、い眠りをする——。王様たちの心配をよそに、屈託なく普通の女の子としてふるまうモモ。

「きっと、だいじょうぶだば。モモはいま、魔法以上のパワーを持っているだば」

「ええ…でも、あの子はそれを喜んでいるのでしょうか？ あの子は普通の女の子のようにとび回ってるほうが、似合ってる気がしてなりませんわ」



⑰「カンコーン 9時です。1時間目の始まりでーす」



⑱ボンヤリと空を見ているモモ。「モモちゃん!!」



⑲よそみを見つかり「いえ、いい天気だなーって」



⑳しかし、先生は甘くはない。



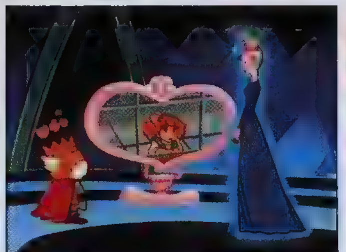
㉑「よそ見してた位で立たすことないと思うけどな」



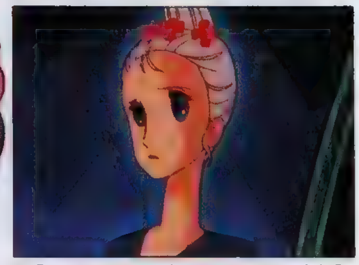
㉒



㉓廊下の窓から空をながめるモモ。



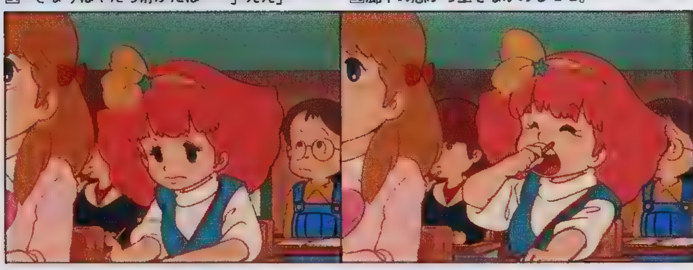
㉔「きょうはやたら静かだば……」「ええ」



㉕「…あの子はそれを喜んでいるのでしょうか？」



㉖昼休み、ドッジボールに熱中しているモモ。



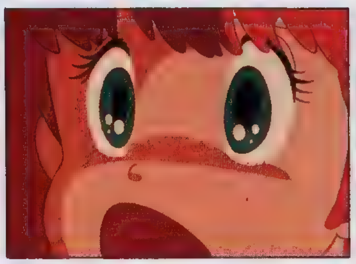
㉗お昼も過ぎるとつい、まぶたが……。



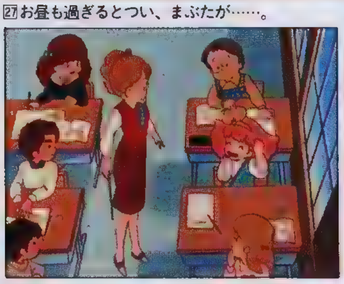
㉘そしてモモは夢をみました——。



㉙変身しようとしたとたん、ステッキが……。



㉚「キャーッ！」



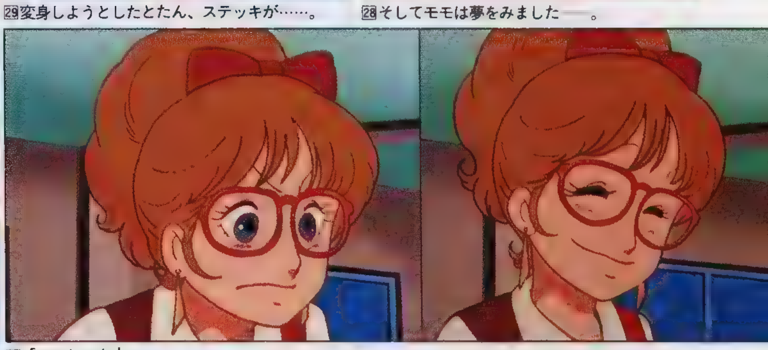
㉛夢からさめると、そこは昼下がりの教室。

学校からの帰り道、モモは公園に寄りました。噴水のフチに腰をおろして休むモモ——。そのときでした。

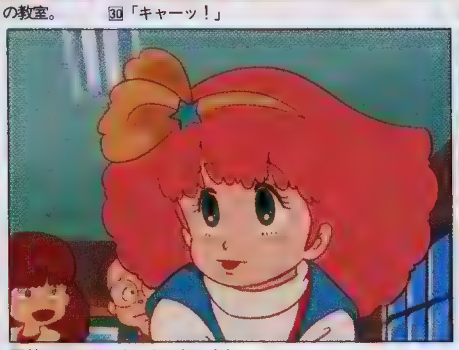
「すいませーん、ボール取ってくださーい！」

グラウンドから飛び出したボールを追って、モモは公園の前の道路へ——。

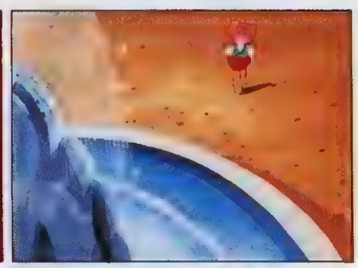
そして——。



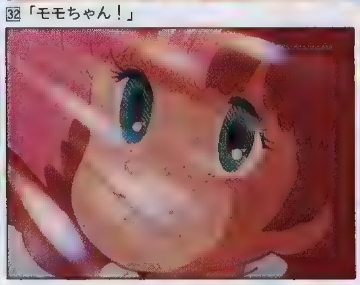
㉜「モモちゃん！」



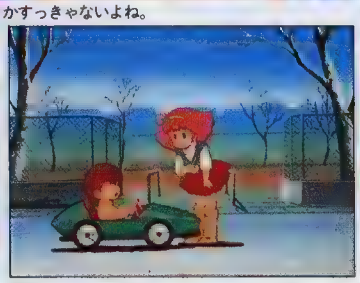
㉝笑ってごまかすっきゃないよね。



㉞学校から家への帰り道、公園に寄ったモモは…。



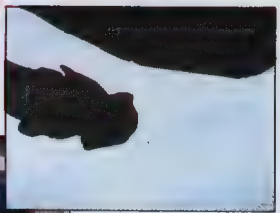
㉟モモはボールを取りに公園の前の道路へ。



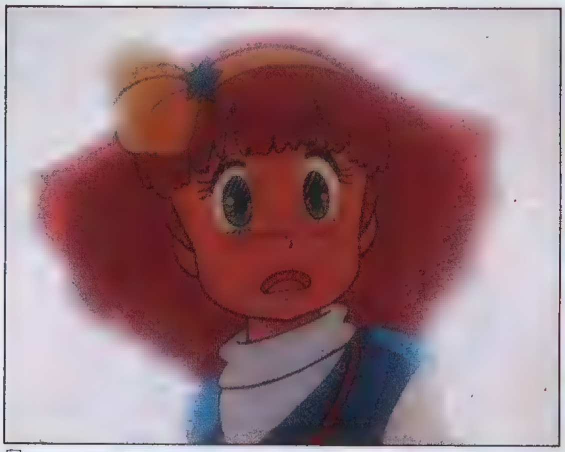
㊱「お姉ちゃん、危いよ！ ひいちゃうから」
「ボク、いい車じゃない。免許持ってんの？」



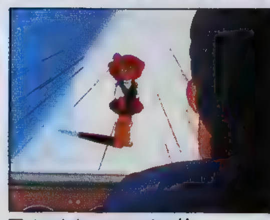
㊲——と、そのとき、1台のトラックが!!


41

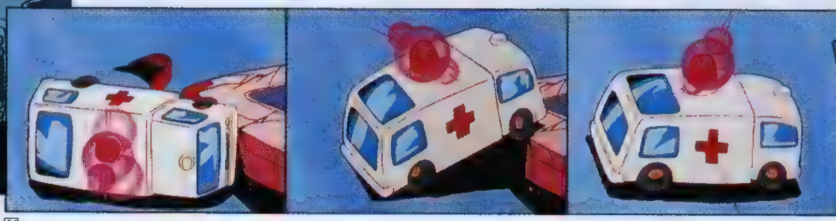

42 転覆するトラック。

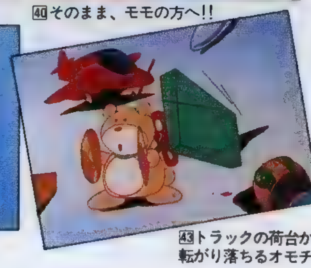

39


38 子どもをよけようとしたトラックは、


40 そのまま、モモの方へ!!


45


44


43 トラックの荷台から転がり落ちるオモチャ。


49

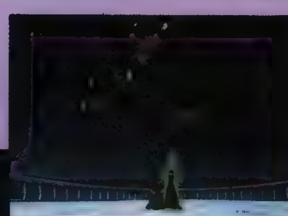

47

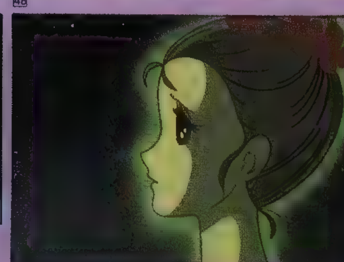

46

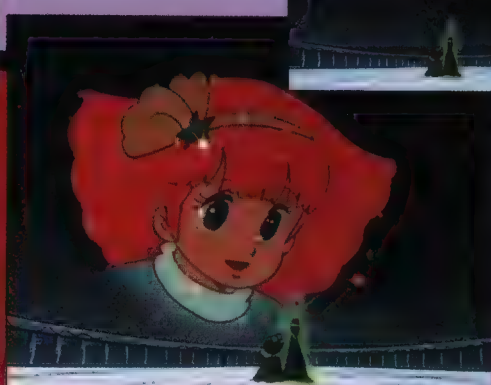

50


48


54 「モモ!?」




51 「……どうして……こんなことに……」


53 「…パパ……、ママ……」光は収束してモモの姿に！

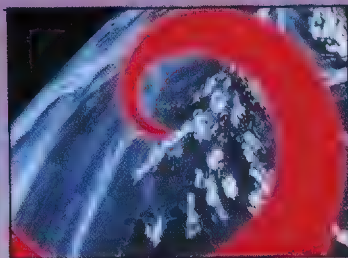

52


55 「悲しまないで…、パパ、ママ……」

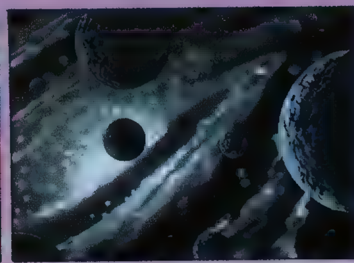
「パパ、ママ、私、なんのために地球へいってたのかしら？」「あなたがいいことをして、地球の人たちに夢や希望を与えることができたら、フェナリナーサは地球にもどることができるのです」
「むりだわ、そんなこと。だって夢や希望は、自分が持つものでしょ。人からもらうものでも、人にあげるものでもないわ」



58光の矢はペットショップへと。



57「もしもどれるなら、私は私の夢を見たいわ」



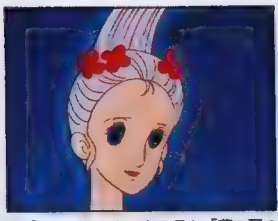
56「モモ、フェナリナーサにもどっておいで…」



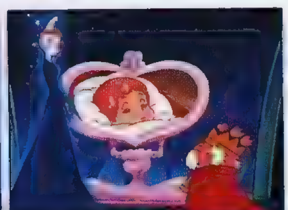
60「パパ…、私たちに子どもが…」
「えーっ、やったね、ママ!!」



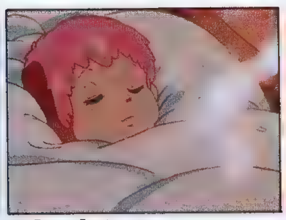
59「夢の国の私の夢じゃなくて、本当の私の本当の夢……」モモは再び地球へ！



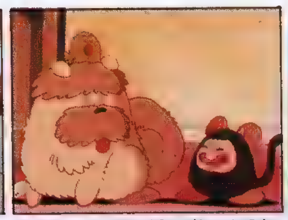
65「モモがおとなになる日か」「夢の国の私たちには、ほんのつかの間ですわ」



64ついに本当の人間の子に…。



63「モモ」「ええ、モモ」

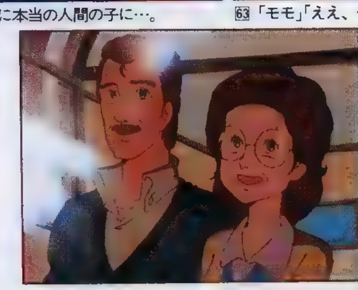


62「ひとつしか思い浮かばないんです」



61「まだ決まらないんですか？ …名前」

人間になったモモが、夢と希望を失わずに大きくなって、自分の夢をかなえることができたら…。そのときは、王冠に最後のハッピーティアがはまって、フェナリナーサは地球へもどるだろう。
そして、ありとあらゆる夢の生き物たちが地上へ降りてくる日。モモは再び、魔法の国のパパとママに会えるだろう――。



68



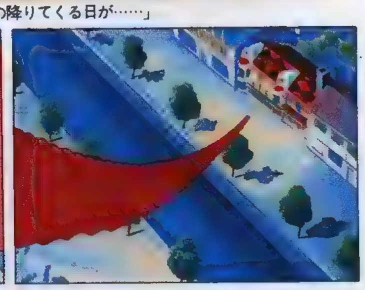
66「見える…、私には見えるわ…フェナリナーサの降りてくる日が……」



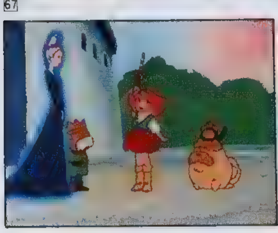
67



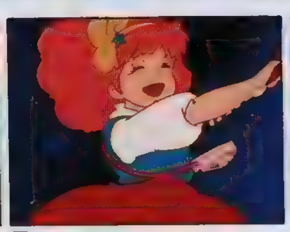
70



69



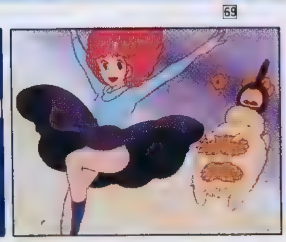
75



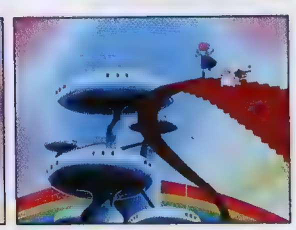
74



73



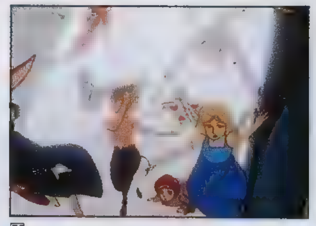
72

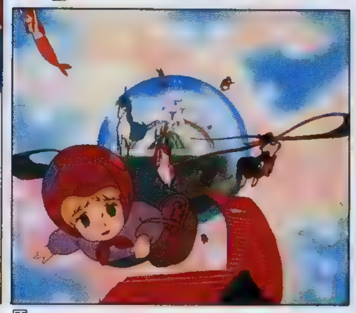


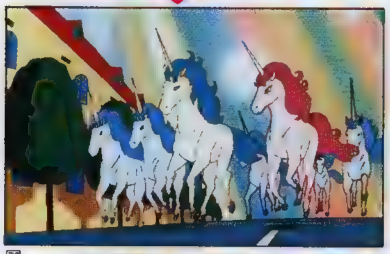
71

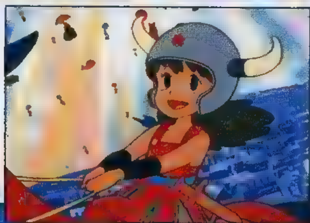
Minky Momo Film Story


77


76

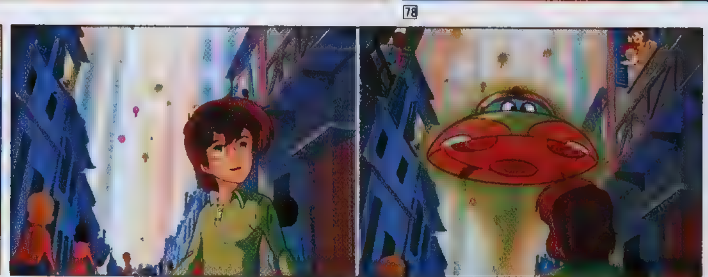

78

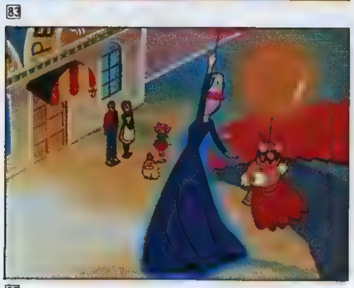

79

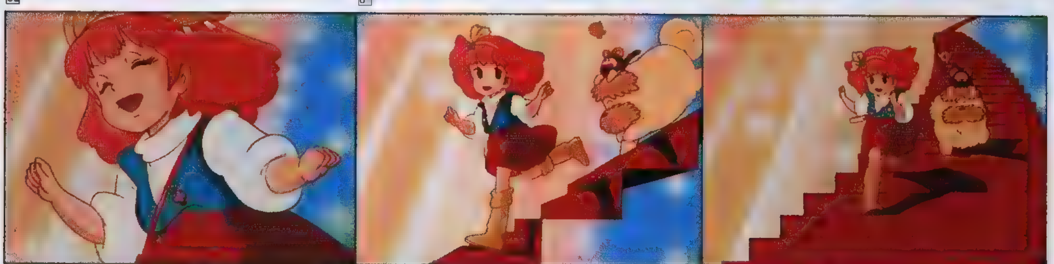

80

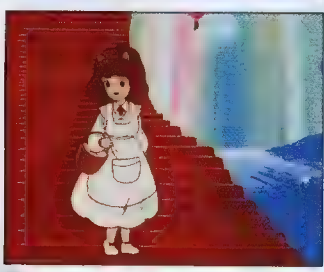

83


82


81


85

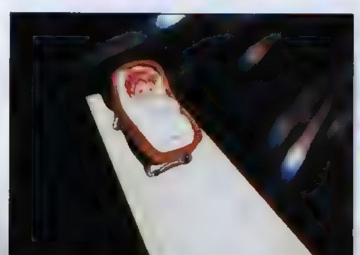

84

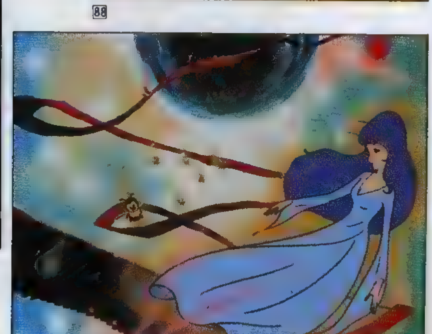

89


87


86

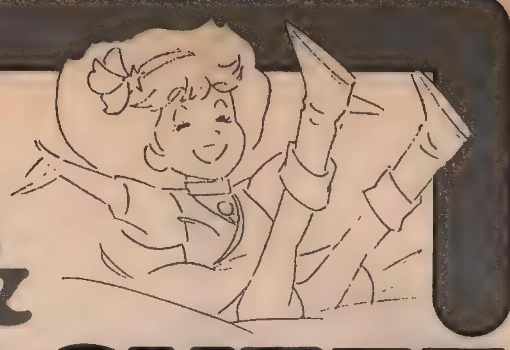

88


91

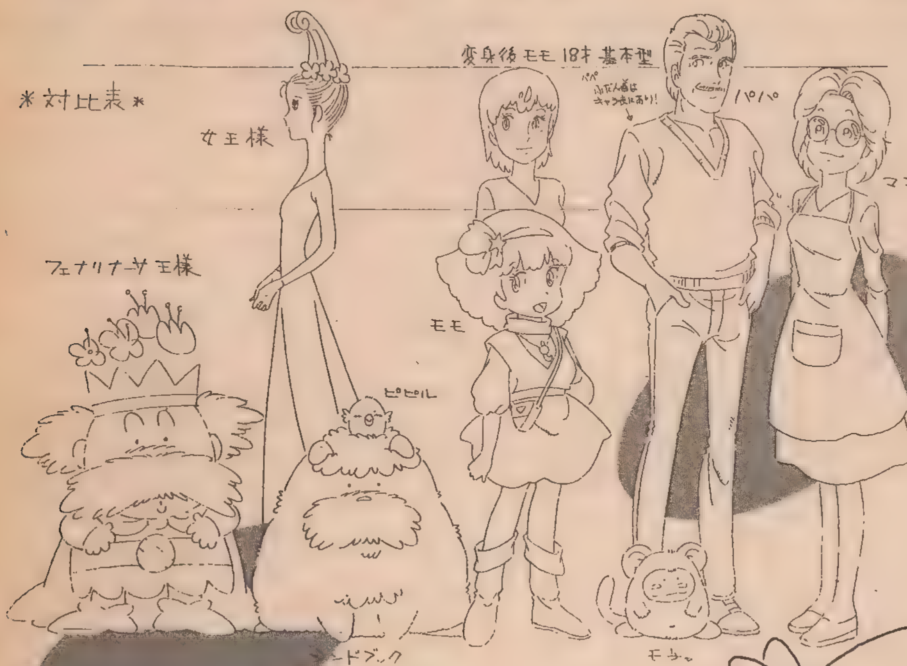

90



ラブ・ラブ・ミンキーモモ　お願いきいて
ラブ・ラブ・ミンキーモモ　お願いきいて
魔法のプリンセス　ときめく予感
なにかが待ってる　きょうのむこうに
時よまわれ　夢のお話
どんなわたし　出会えるかしら
おとなになったら　なんになる
おとなになったら　なんになる
ドリーミング　夢がきっとかなうわ
ラブ・ラブ・ミンキーモモ　お願いきいて
NOT THE END
TO BE CONTINUED



STORY & CHARACTER SHEET



〈番組予告より〉

ねえ、ねえ、みんな、おとなになったらなんになる？　あたし夢がいっぱい、はちきれそう。そんな未来の夢が魔法でひとつひとつかなっちゃうなんて、なんだかとってもファンシー気分。３月18日木曜、午後５時55分から、『魔法のプリンセス　ミンキーモモ』あざやかにデビュー。ピピルマ・ピピルマ・セイ・ユー・ミンキーモモ。

ナレーション／12歳のモモ

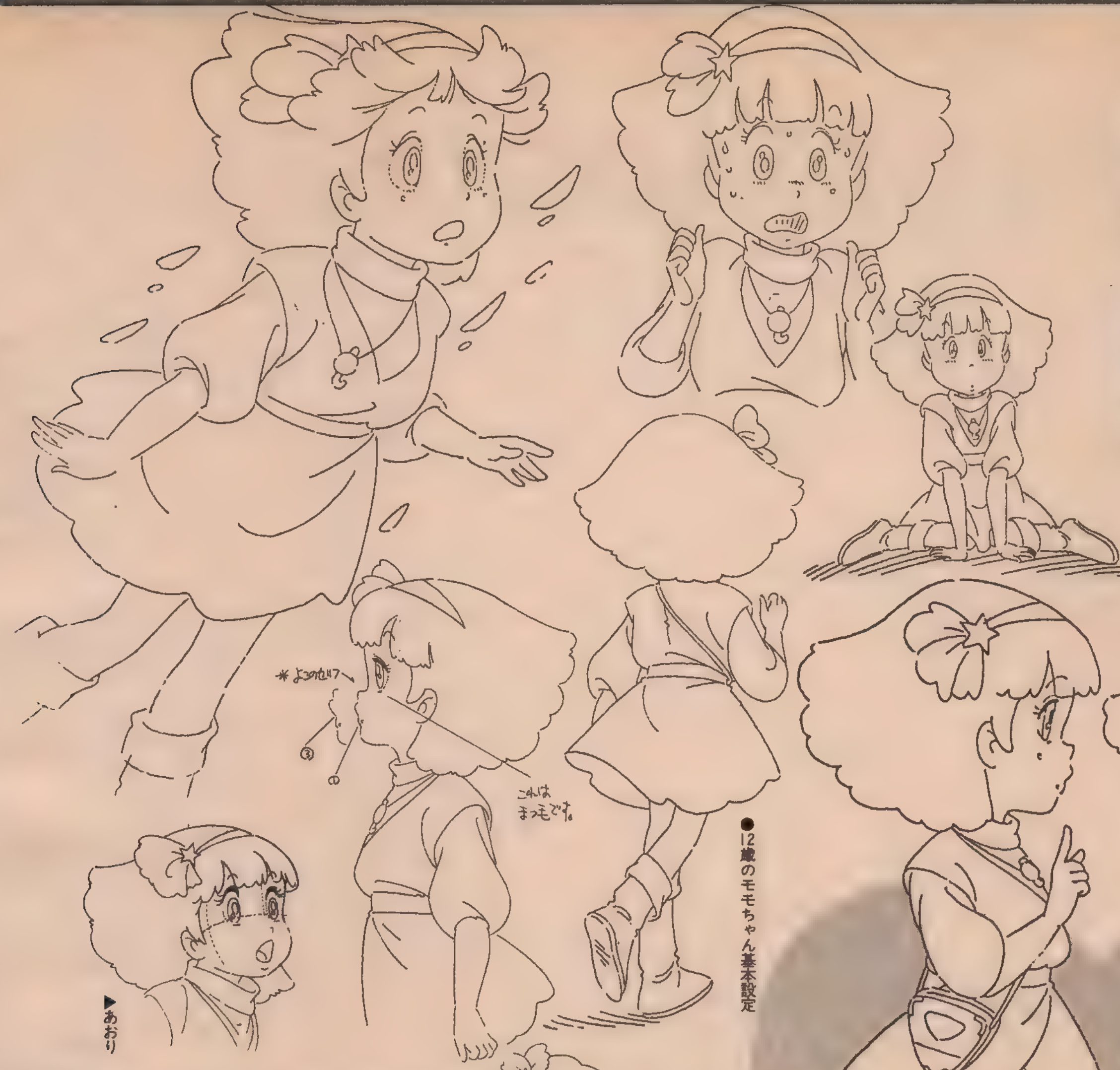




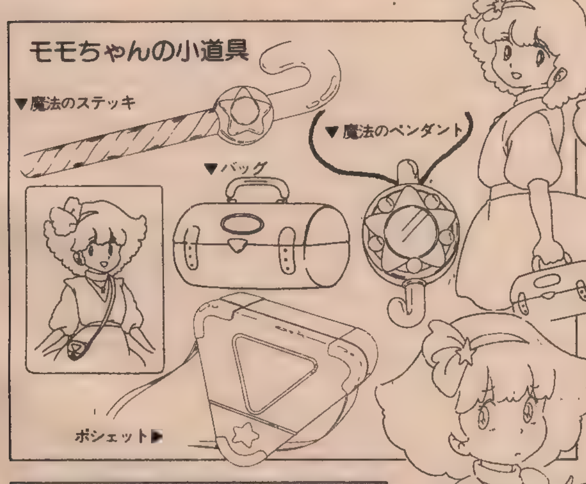
Sheet

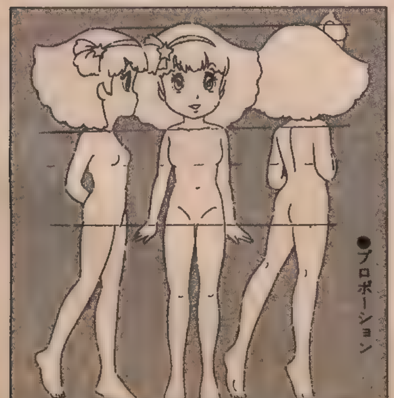
ミンキーモモ

どこにでもいるような、好奇心の強い女の子。
「なぜ？ なぜ？ ねえ、教えて……」
ところが、魔法で18歳の女性になり、様々な職業のプロフェッショナル・ギャルになると、何だって知っちゃってるスーパーギャルになります。
ただし、恋についてはまだ経験不足……ホンワカした恋のトラブルも生まれます。
（企画設定書より）

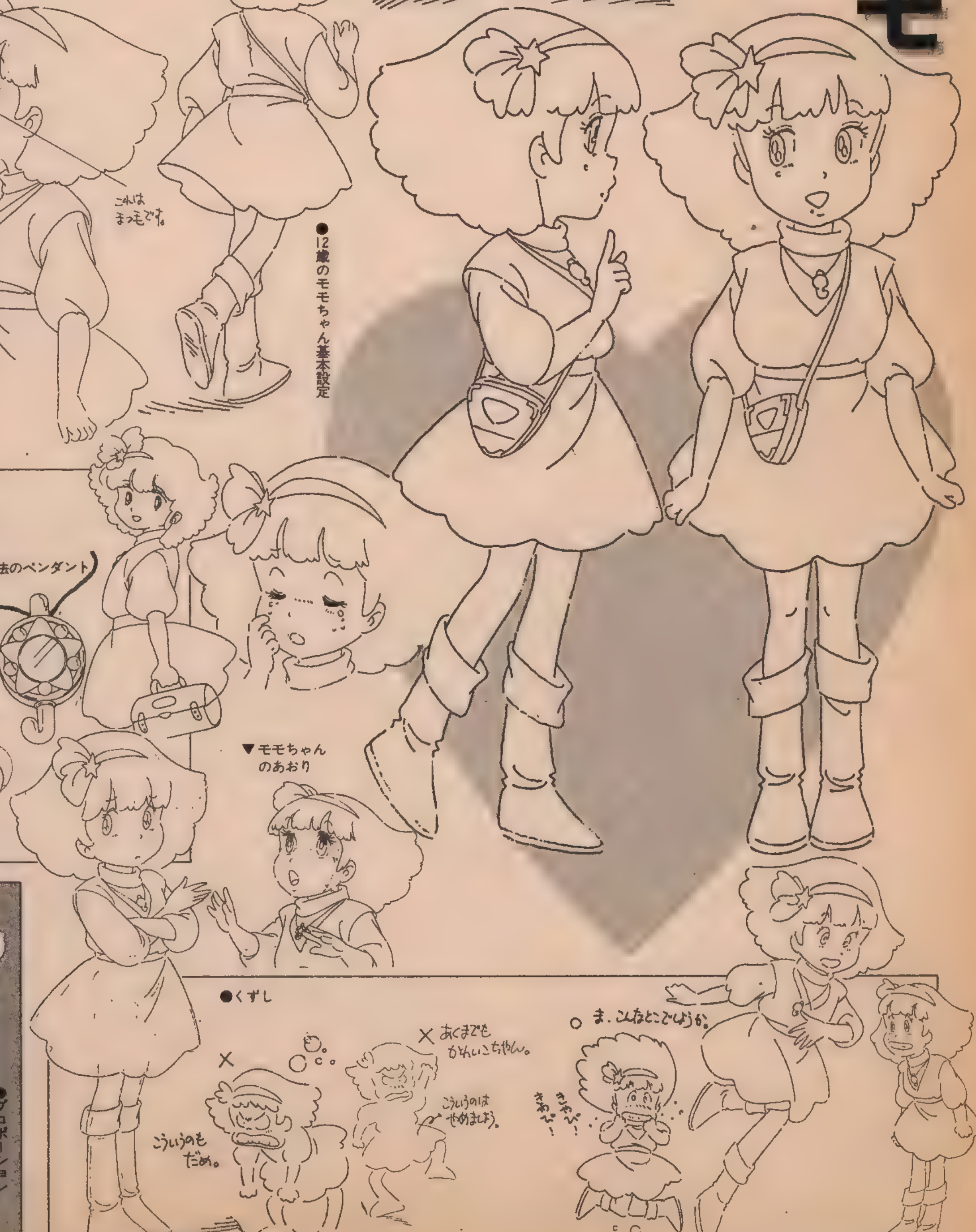


●12歳のモモちゃん基本設定



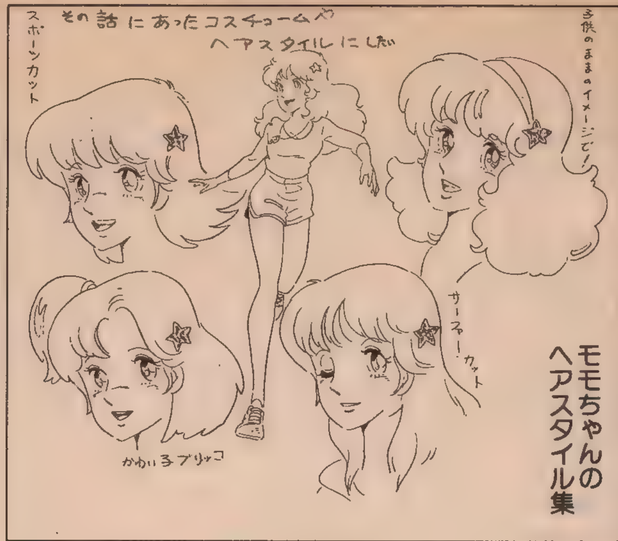


●プロポーション

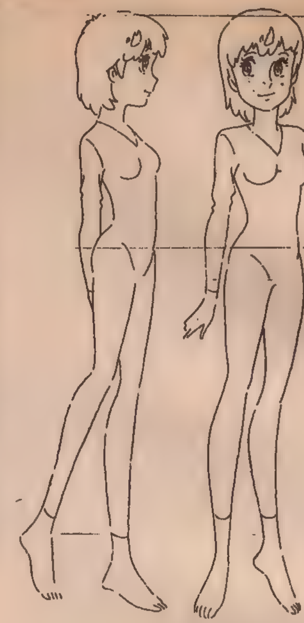


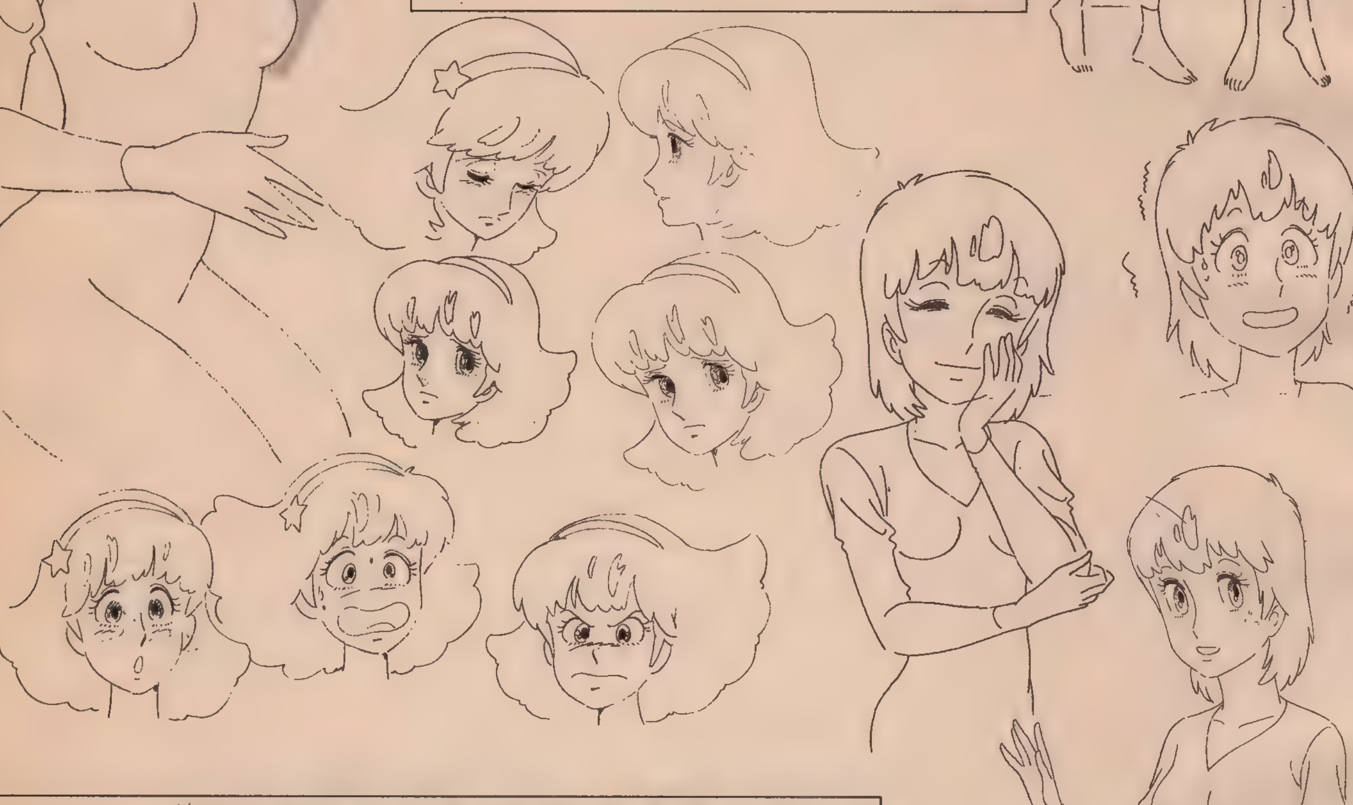
Character





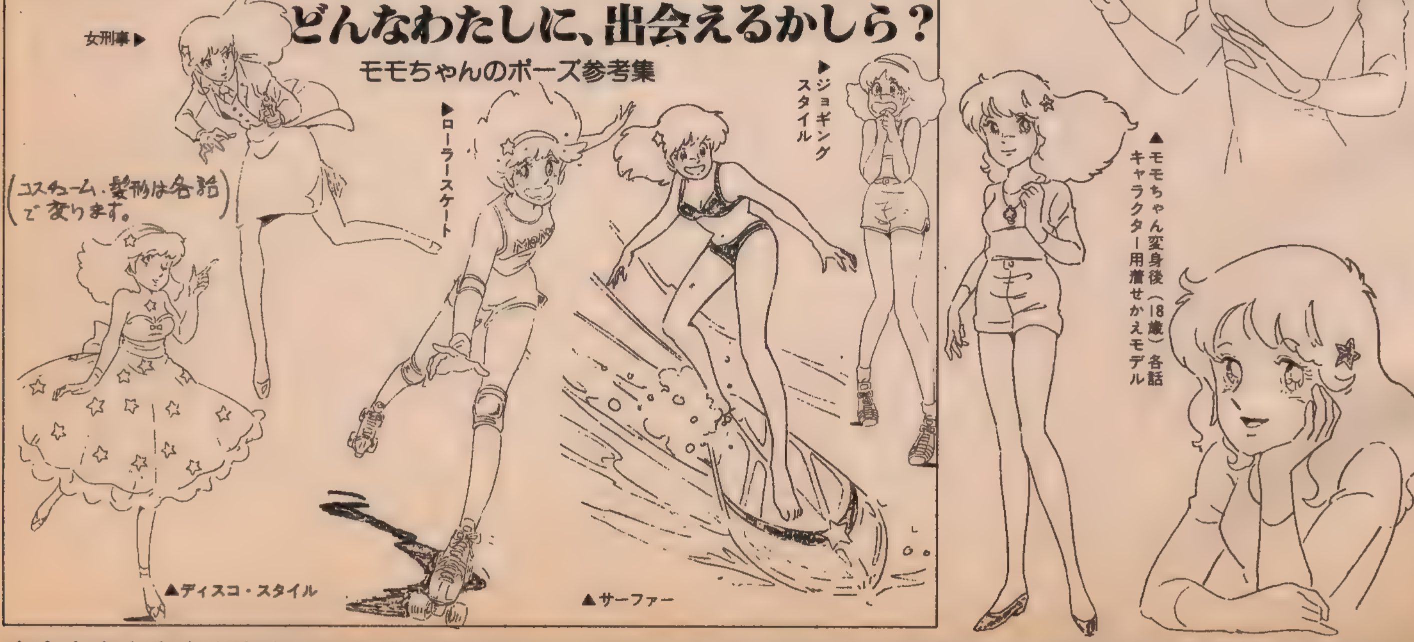
モモちゃんのヘアスタイル集





どんなわたしに、出会えるかしら？

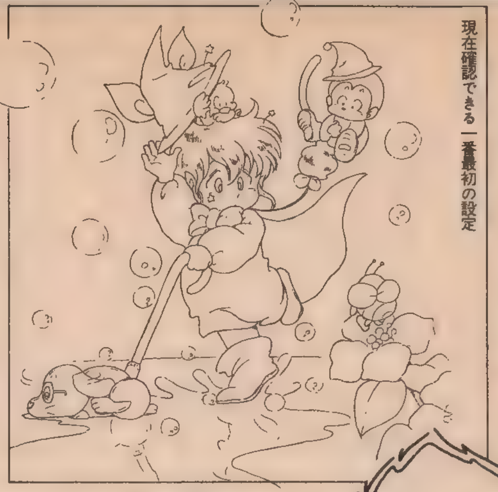
モモちゃんのポーズ参考集



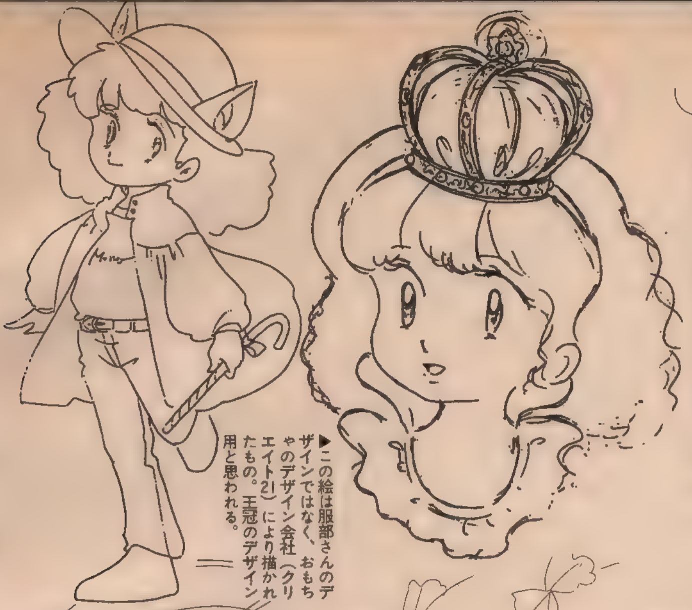
▲モモちゃん変身後（18歳）各話キャラクター用着せかえモデル

初期設定集

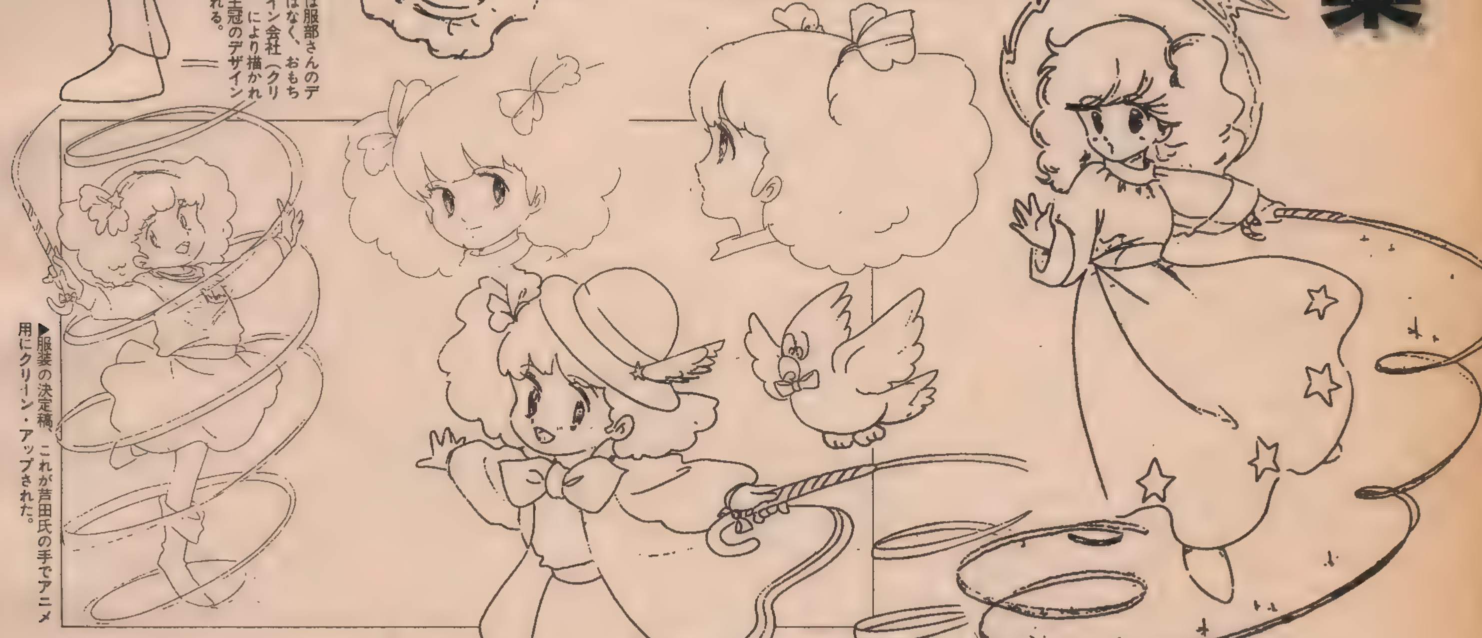
MOMO（クローズ王国の王の娘）10歳
いつも何かにあこがれて、最後にはいつもズッコケていますが、愛と勇気を持ったちょっぴりおセンチな女の子。（初期企画書より）



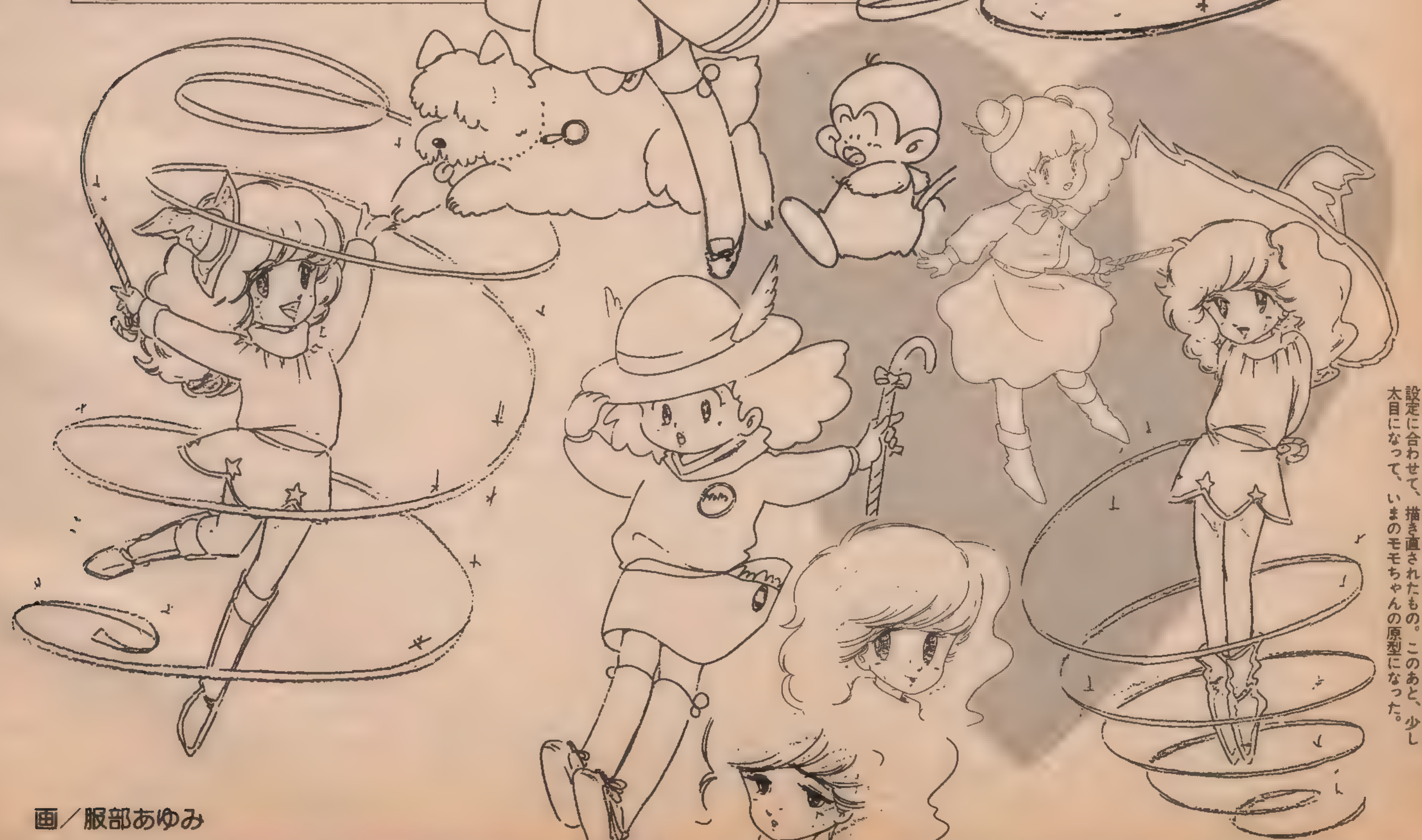
現在確認できる一番最初の設定



▶この絵は服部さんのデザインではなく、おもちゃのデザイン会社（クリエイト21）により描かれたもの。王冠のデザイン用と思われる。

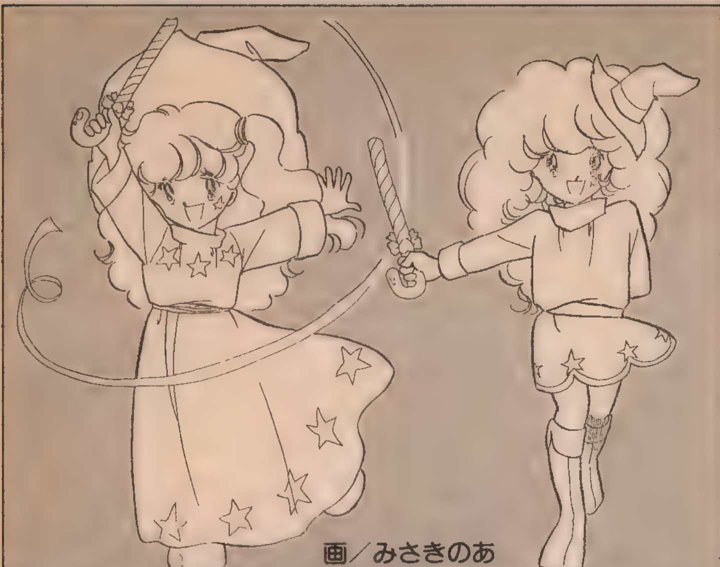


▶服装の決定稿、これが吉田氏の手でアニメ用にクリーン・アップされた。



◀ちょっとほそめのモモちゃんは、みさきのあさんの設定に合わせて、描き直されたもの。このあと、少し太目になって、いまのモモちゃんの原型になった。

画／服部あゆみ



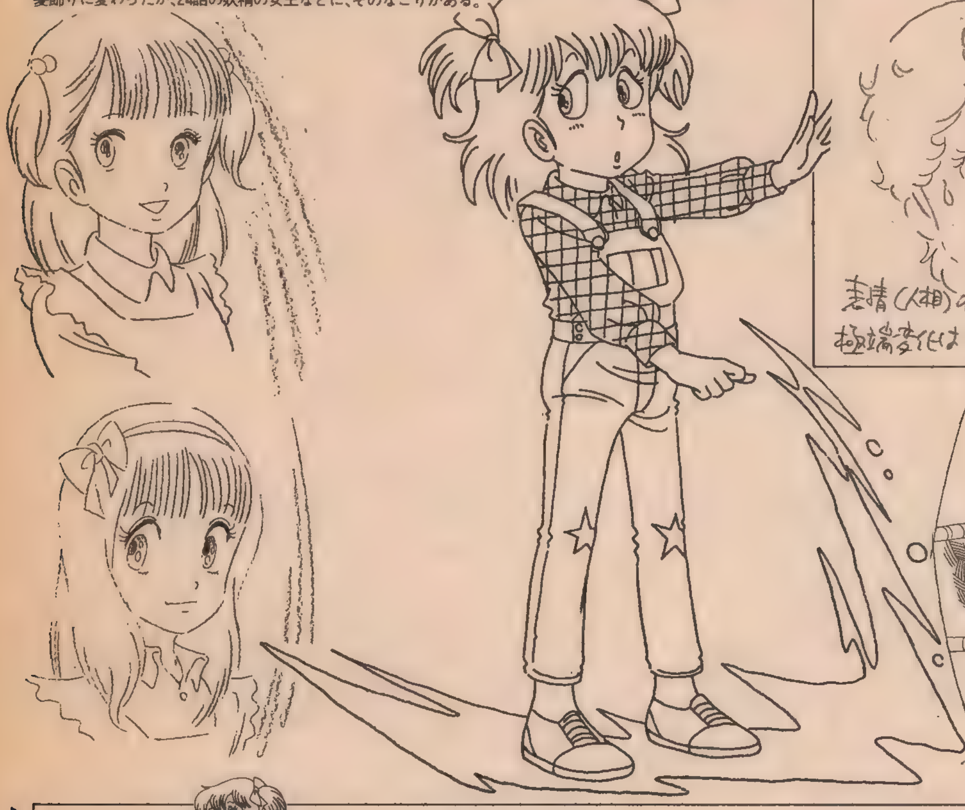
画／みさきのあ

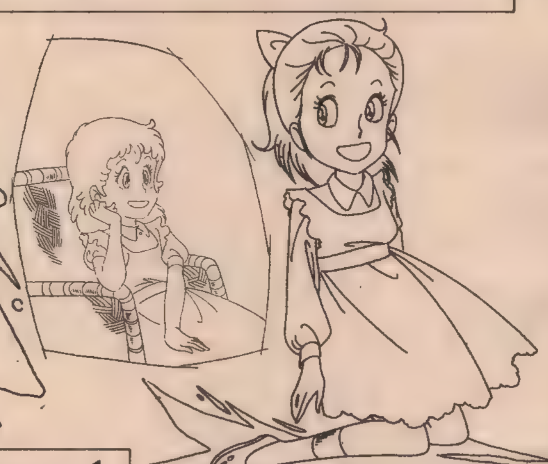
●初期設定のひとつとして、モモの頬に星形のアザがあった。のちに髪飾りに変わったが、24話の妖精の女王などに、そのなごりがある。

画／芦田豊雄









変身後の設定

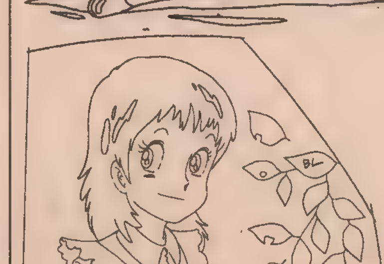


▶人気アイドル歌手

▼看護婦さん

◀テニスプレイヤー

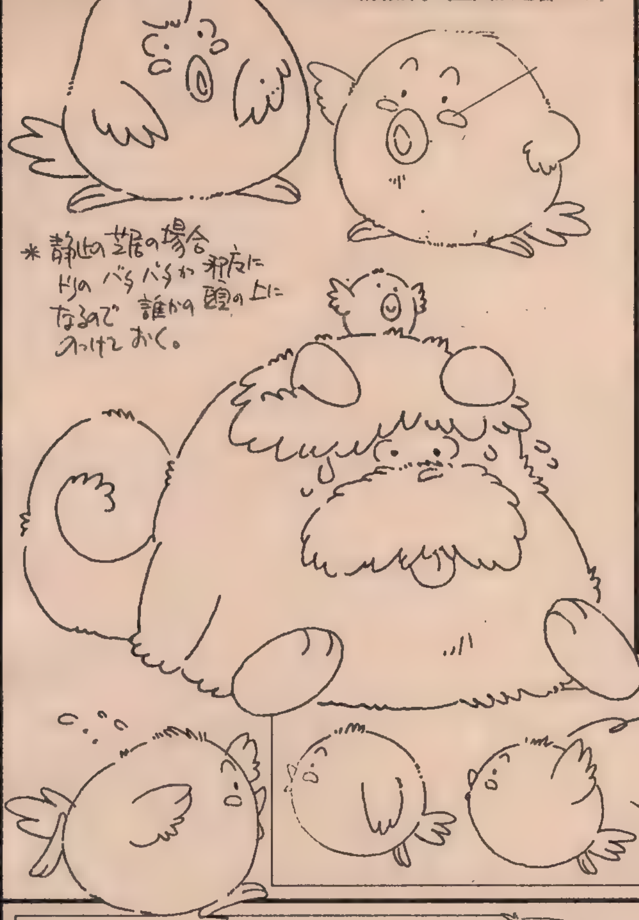
▶髪の両側にリボンを結んでいるのは、決定稿になる直前の設定です。



Sheet

ピピル

メスの鳥。
おしゃれでいつも恋を夢みる小鳥。つい鳥であることを忘れ、いつも一目惚れしては失恋する。
モモの情報係。（企画設定書より）

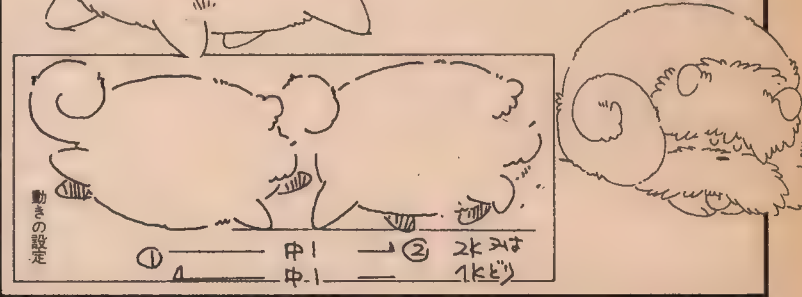




シンドブック

おっとりしたのんびり屋。そのくせ、ニヒルに割り切った考え方をします。博識で、世の中のことを知りつくしていると、自分では思い込んでいます。
「世の中、そんなもんよ」が口ぐせ。
ちょっぴり斜に構えたところもあり、「フテ犬」とあだ名をつけてもいいかもしれません。
（企画設定書より）

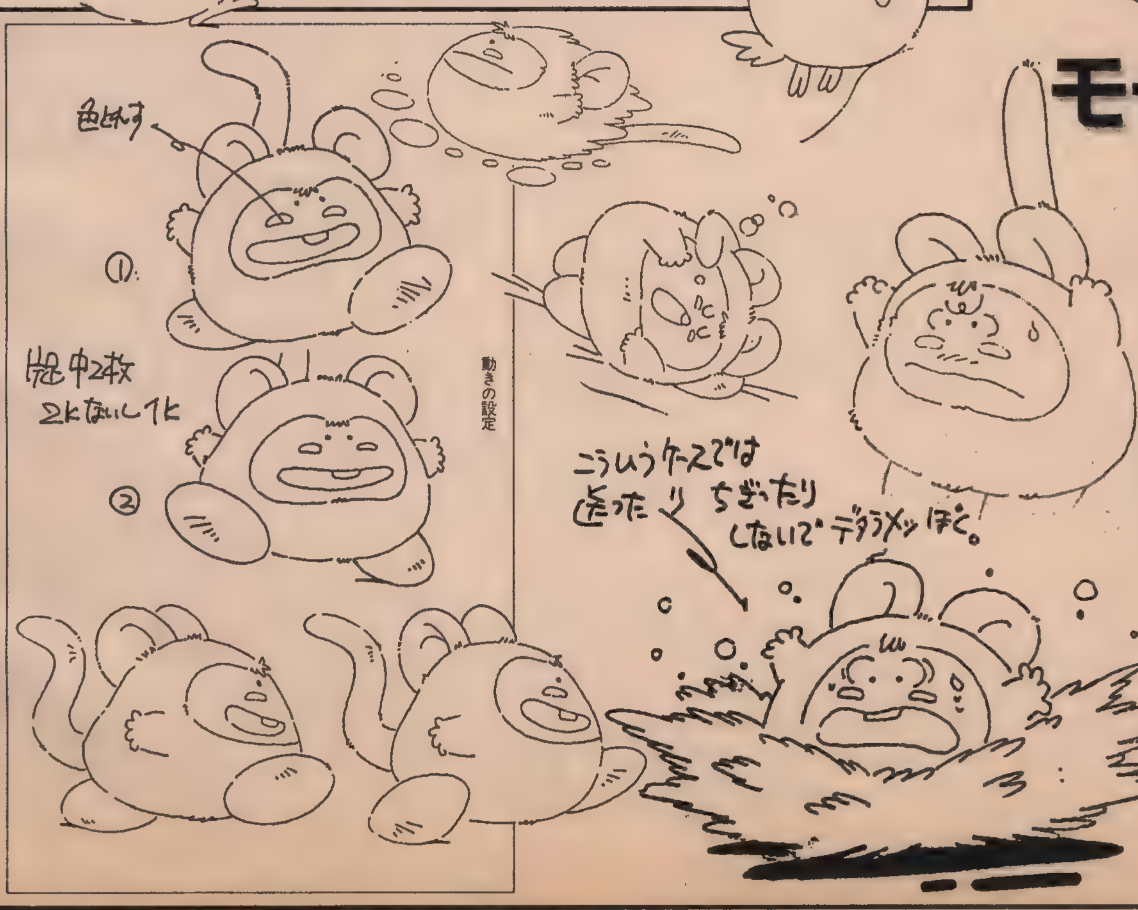






モチャー

正義漢で熱血漢。SFアニメなら当然ヒーローになるはずが、どう間違えたか子ザルの姿……。
モモ姫を、ヒーローのつもりで守ろうとするが、意気込みはいつも最初だけ……失敗をくり返す。
シンドブックとは、いつも口げんかが絶えない。
（企画設定書より）



画／芦田豊雄

初期設定

画／服部あゆみ

ピピル(オーム)

MOMOの腰に下げた卵の中に、いつもいます。おしゃべりで、人には聞こえない言葉を、MOMOに通訳する力を持っています。

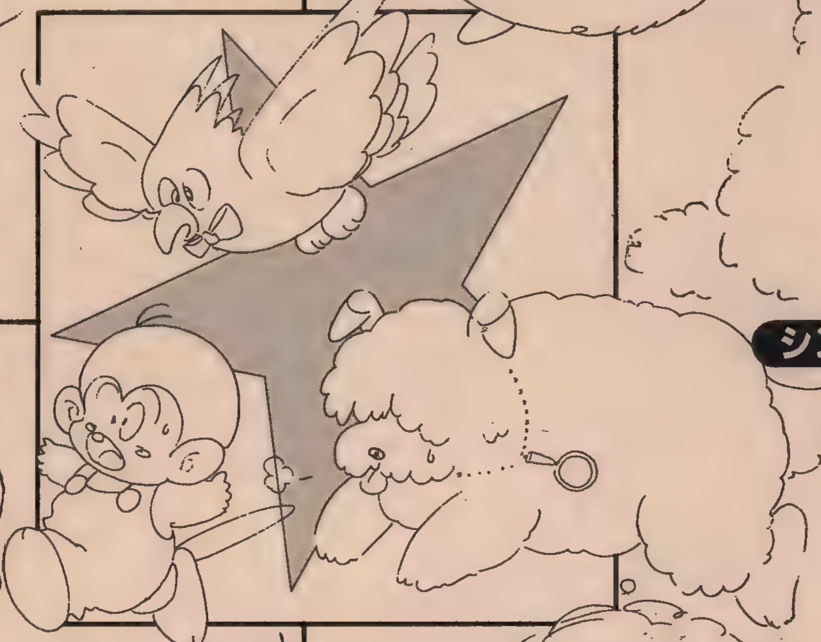
何かあると卵の中からのぞき、卵を引っぱって伸ばすとバトンになり、MOMOがバトンをふると中から鳥がとび出してきます。

（初期企画書より）









シンドブック(犬)

MOMOの執事役。

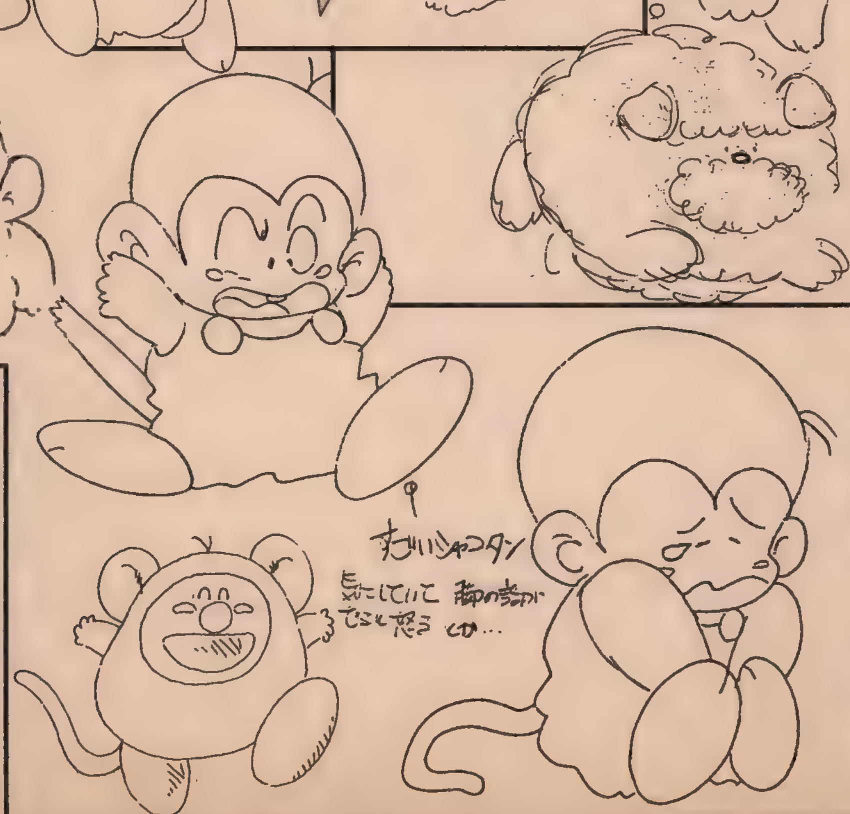
呪文を調べるための辞書を持っていて、どたん場でMOMOに指示してくれます。

疲れるからといって、いつもはワンワンステッキに変身していますが、いち早くみんなに危険を知らせる重要な存在。

けれどいざ戦うとなると、病身を装って後ろでセキをしている老犬です。

（初期企画書より）





チャー(サル)

何にもできないふつうの猿ですが、何か役に立ちたくて、ひとり先まわりして悪戦苦闘します。いつも女の子にくっついていて、いざとなるとめちゃめちゃにあばれて、けっこう役に立ちます。

無口ではにかみ屋。

（初期企画書より）

ワンダフル少年

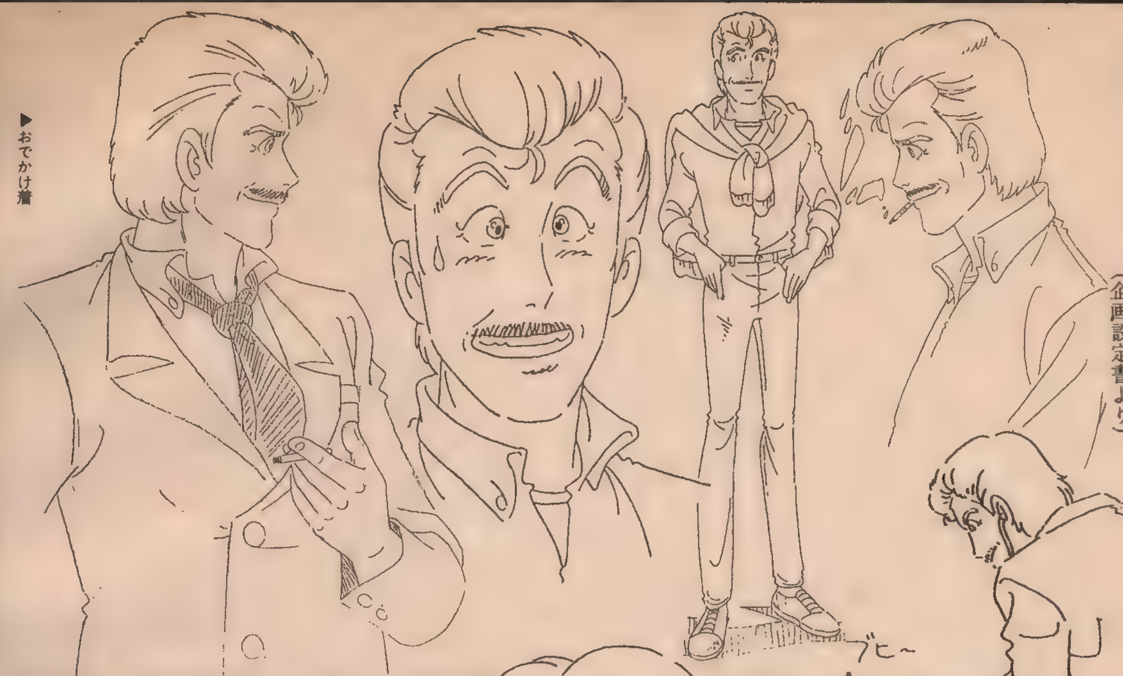
危機一髪のとき、ひとりと3匹が合体するとワンダフル少年に変身します。

呪文をとなえ、バトンをふって、ピピルが一番上にのると合体完了。けれどいつもどこかにボロを残してしまう。4人の心を持った美少年。

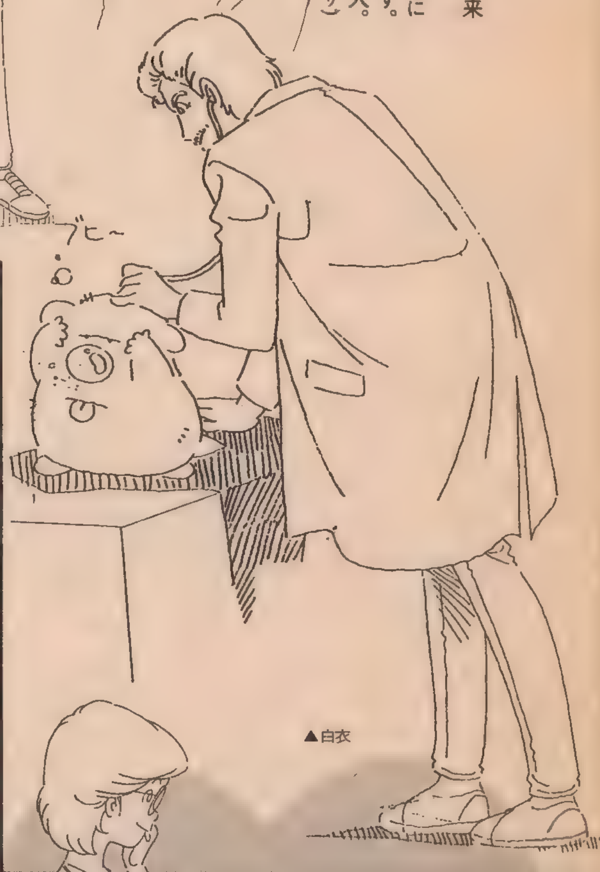
（初期企画書より）

パパ

世界的に著名な獣医さん。モモがやって来た日から、自然とパパになる。
世界中をとびまわっています。モモも月に一度位は、パパを追って飛び出していきます。
二枚目タイプだが、心のひろいソフトな人。
（企画設定書より）



▶おでかけ着

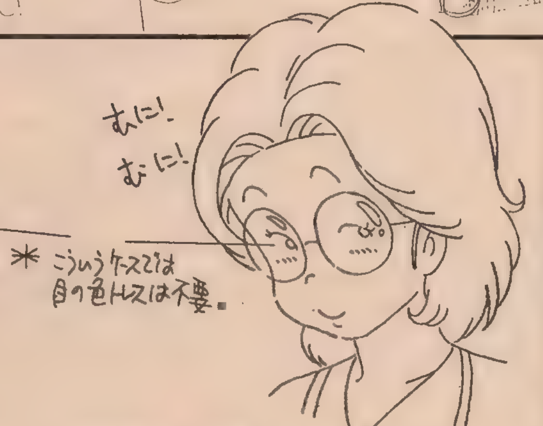


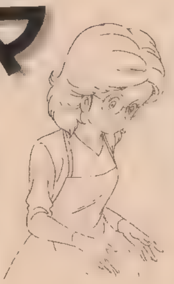
▲白衣

ママ

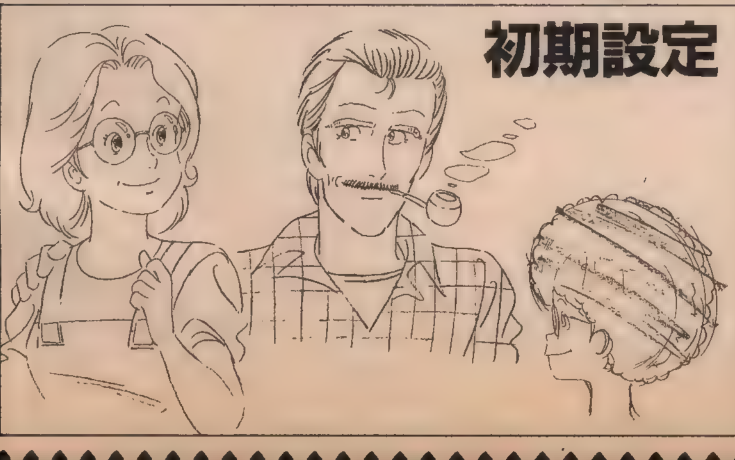
同じく、モモがやって来た日から、現実世界のママになる。留守がちのパパに代って、ペットショップをきりもりしています。
美人だけど、とてものんびり屋さん。例えば、ペットショップのエサが盗まれても「盗んでまで欲しいものなら、タダでさしあげましょう」と考えるタイプ。この大人物ぶりには、さすがのモモもやきもきします。
（企画設定書より）

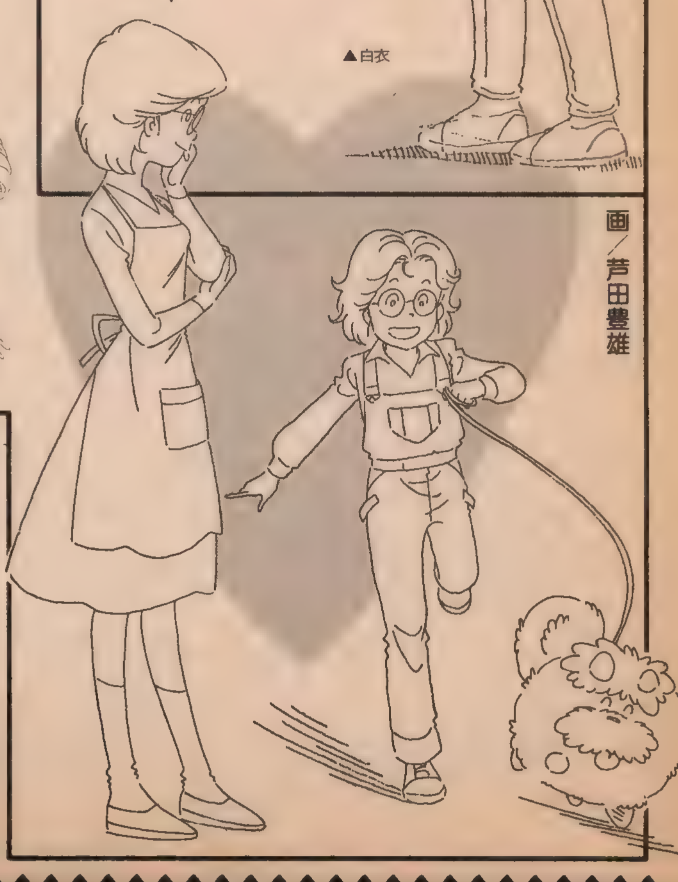






初期設定

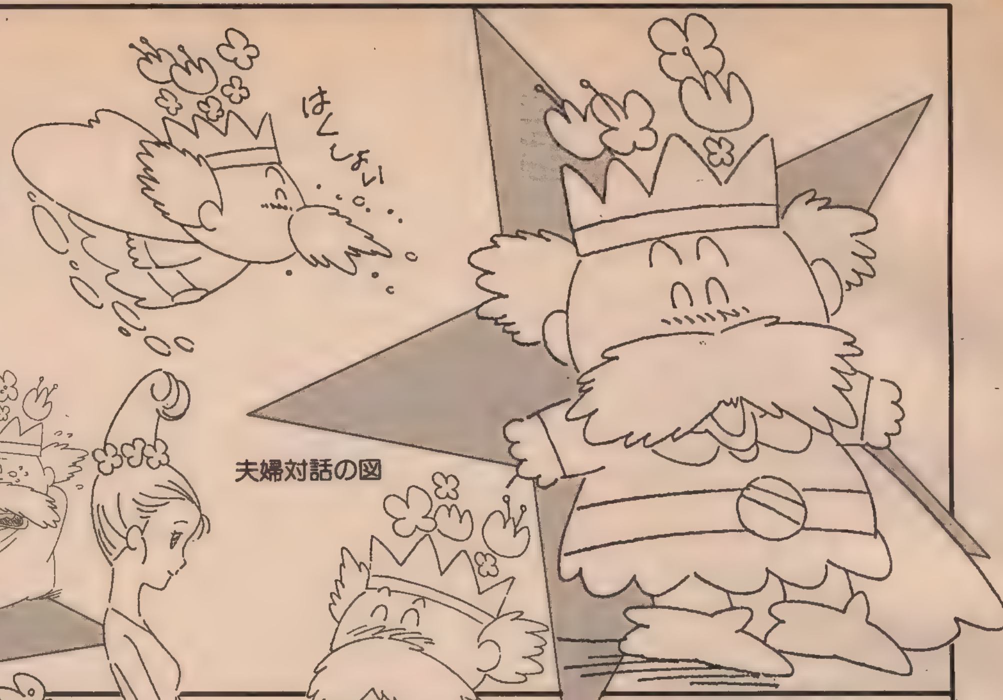




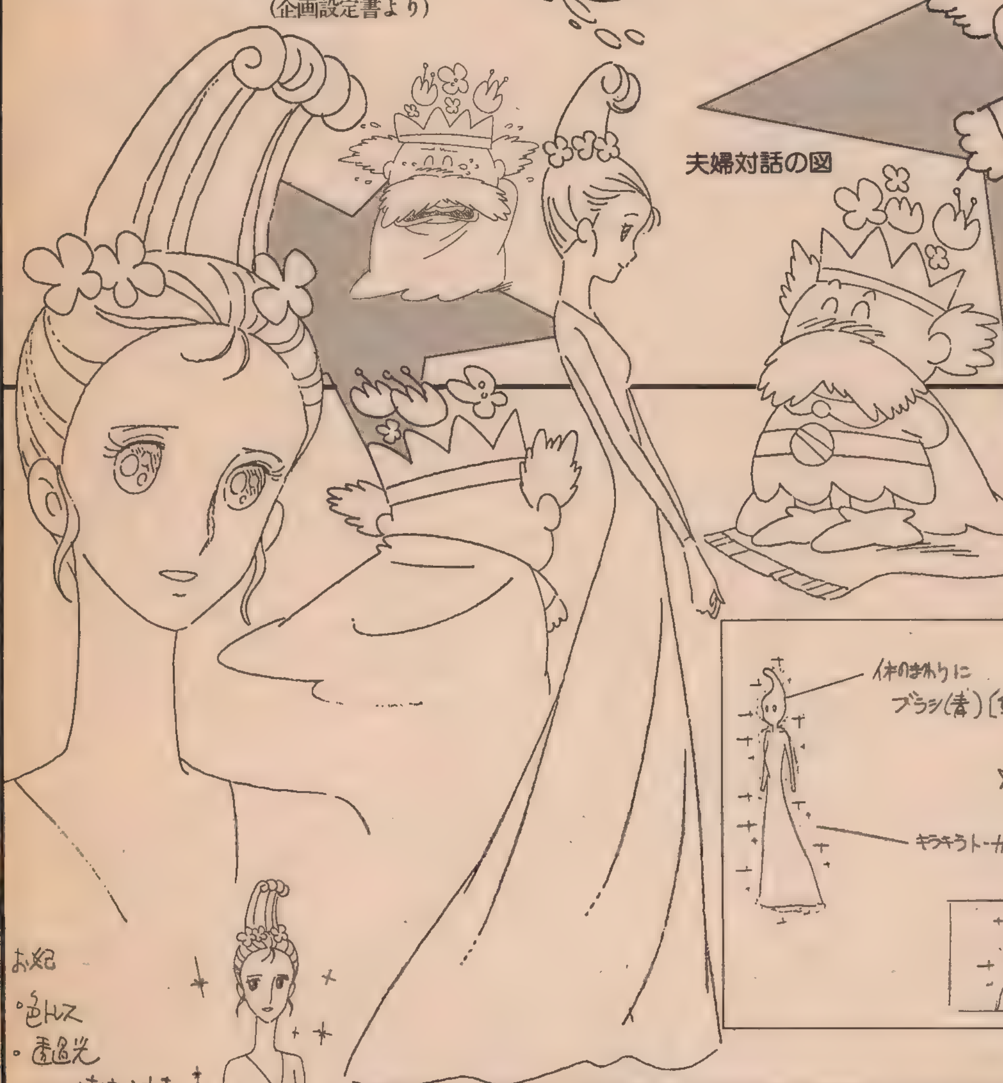
画／芦田豊雄

王様

人間たちと夢の世界を近づけようとしている、フェナリナーサの王様。だが、自分の娘を現実の世界へ派遣したというのに、危機感などまるでない、のんびり屋さん。
「なるようになるだばないだばさ」
と、ケロリ……今日も常夏の王国で昼寝。
（企画設定書より）

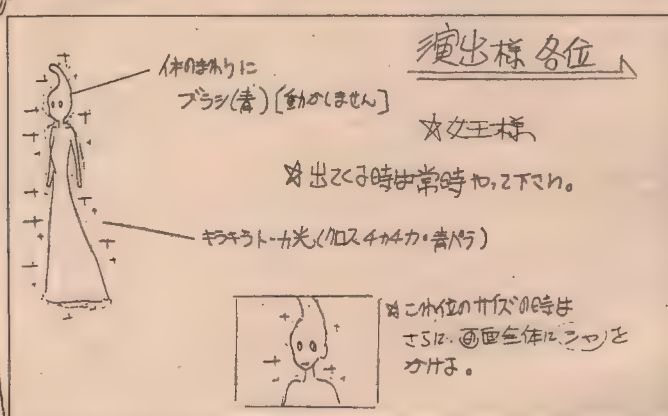


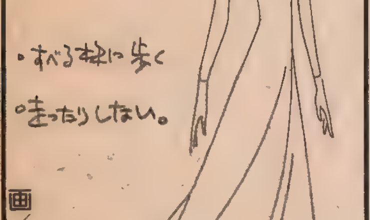
夫婦対話の図



王妃様

王様とは全く不釣合の絶世の美女。モモの冒険に気をもむ、心のやさしい母親。（企画設定書より）

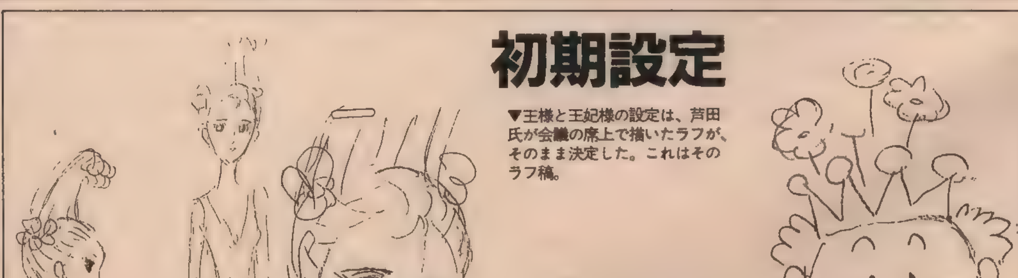




画／芦田豊雄

初期設定

▼王様と王妃様の設定は、芦田氏が会議の席上で描いたラフが、そのまま決定した。これはそのラフ稿。



Character

❶ ラブラブ・ミンキーモモ



ガチョンシンボリー
おにいさんが優秀すぎて、つっぱっちゃった彼だけど、モモのおかげで一躍ヒーローの座に!!

昔々、といっても一週間ほど前の、星がキラめく夜のこと。どこかの国のどこかの町に空から一筋の虹の橋がかかり、小さな女の子が滑り降りてきた。

『ミンキーモモ、デビュー♡』

そう、夢の国の王女モモの冒険の始まりである。

モモが降りたところは、とっても仲はいいけれど子どものいない、ペットショップを営む夫婦の家。ここにモモはおともの三匹――やたらプライドの高い小鳥のピピル、やたらそそっかしい猿のモチャー、やたら怠け者の犬のシンドブックとともに住みつくことに成功。パパとママの子として、生活を始める。

そんなある日、モモはアラスカへ出張中のパパに代わり、牧場の競争馬ヒーローシンボリーの病気を治すことになる。ところが牧場主は少女のモモを見て、まだ子どもじゃないかと、てんでとりあわない。「よーし、それならおとなになっちゃえ!」モモが胸のペンダントからステッキを抜くと、モモの体は不思議な光に包まれ、一瞬のちには看護婦姿の十八歳のモモが立っていた。そう、モモのペンダントには不思議な力が隠されており、その力でモモはいろいろな職業のプロ中のプロに変身することができるのだった。

ヒーローの治療には成功したものの、牧場を賭けたレース、ファイアー賞の日までにはとても回復しそうにない。これらはすべて、牧場を乗っ取ろうとするワルダーのわるだくみだった。そこでモモは女性ジョッキーに変身、ヒーローの弟ヒネクレ者のガチョンシンボリーとともにレースに出場。モモ以外はすべてワルダーの手先というムチャクチャなレースで見事に優勝! 牧場は守られた。

〔次回予告より(以下同様)〕

ハーイ♡ ミンキーモモです。あたしのデビューきまってたァ? でも、おとなになってとってもファンシーな気分。おとなになったらなんになる? Teach me please みんなの夢も聞かせてね。さてと、次回は、な、な〜んと人間になりたい子犬ちゃんの登場です。そしてあたしは、トップモデルに挑戦しちゃいます。

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「メガネでチャームアップ」。どうぞお楽しみに。

NR/2話〜45話まで18歳のモモ

❷ メガネでチャームアップ



メリージェーン
「犬としての幸せ」をみつけてしまったメリージェーン。人間世界も楽ではなかった…かな?

ある日ママの経営するペットショップに連れてこられた子犬**メリージェーン**は、目のまわりにパンダのような黒いブチがある、かわいい犬だった。

モモはメリージェーンを猟犬にしようと公園に連れ出して訓練するが、彼女はなかなか走ろうとせず、スネてばかり。そこでモモはペンダントの力を借り、メリージェーンにその理由をたずねた。「ねえ、どうしてそんなに走るのがいやなの?」「ボクは犬になりたくないからさ。ボクは人間に生まれたかったんだ。そうすればこの目のまわりのブチだって、きっとメガネをかけるだけですんだんだ」

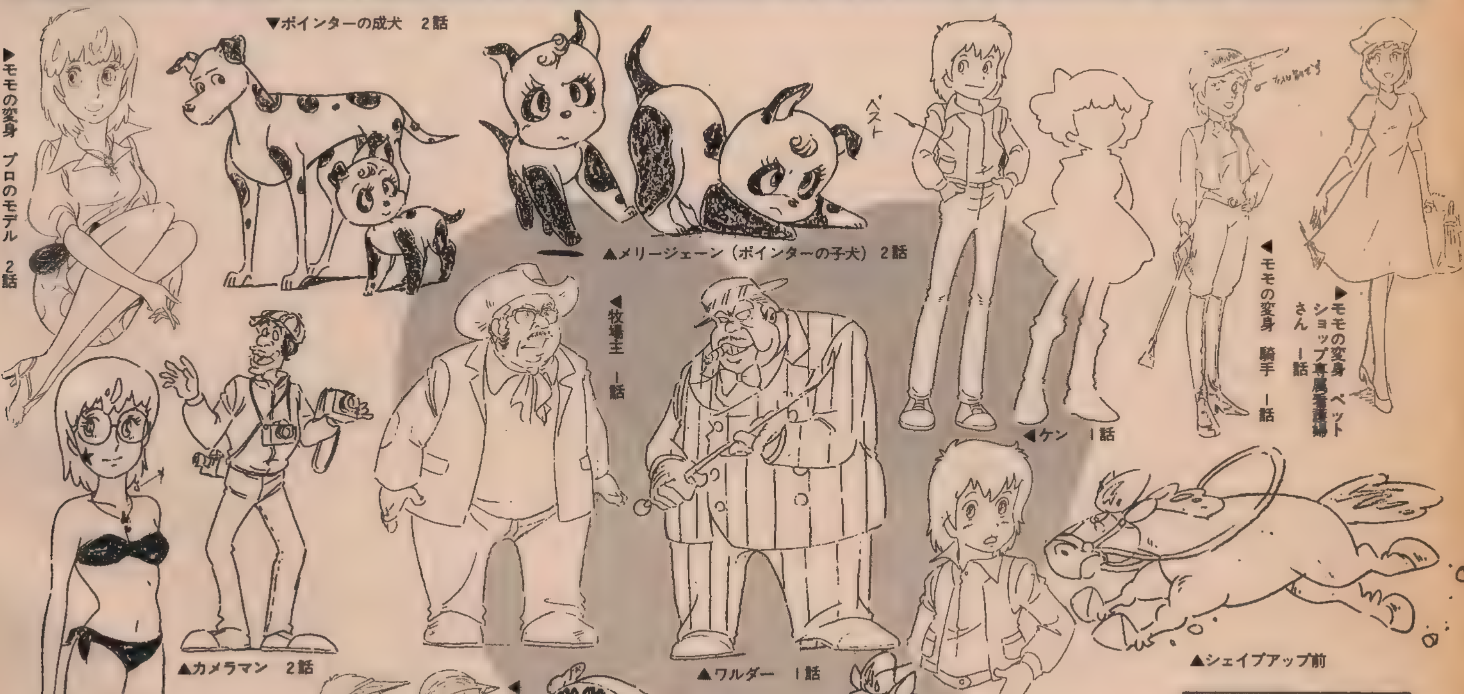
翌日、カメラマンがモデルを捜しに公園へきていることを知ったモモは、ほんのいたずら心でメリージェーンを3分だけ人間の女の子に変身させた。これがとってもステキなメガネギャル! さっそくスカウトされてモデルになるメリージェーン。だが、数枚の写真を撮られたのち、再び犬の姿にもどった彼女は、やがて、アフリカへともらわれていってしまう。

ところがなんとメリージェーンは例の写真がもとで、夏の化粧品キャンペーンガールに選ばれてしまった。謎のモデルを捜し出すため、どこかの町は上へ下への大騒ぎ! アフリカへ彼女のようすを見にいったモモは、元気そうな姿にホッとしたものの、このままってはおけない。モモはメガネギャルに変身し、キャンペーンガールに名乗り出た。

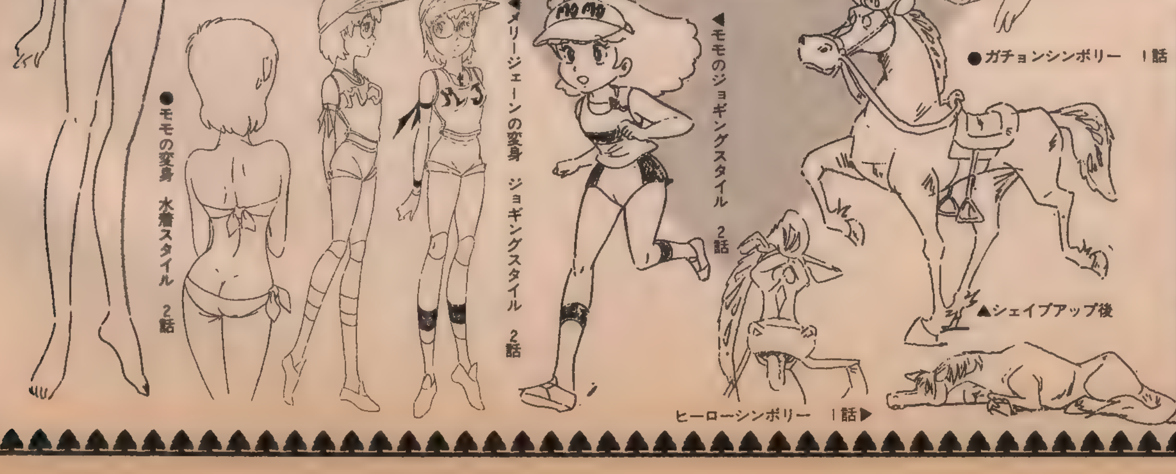
たちまち町は、モモのポスター、モモのCFであふれかえり、キャンペーンは大成功! メガネをいやがっていた女の子たちも、モモのおかげで夢と希望を抱くようになった。ちよっとこじつけかな!?

ハロー・フレンズ♡ ミンキーモモです。メガネでチャームアップ、できたかな? さて、お次は、ぬわ〜んと、さっそう白バイライダーに大変身。暴走族を相手にスピードに命をかけてフルスロットル。お〜い、なめんなよオ。あ、いけな〜い。あたし、おとなになっても女の子。ことばには気をつけなきゃね。では、気をとり直して。

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「走れスーパーライダー」。ヤッホ〜、飛ばしちゃお!



▶モモの変身 プロのモデル 2話
▼ポインターの成犬 2話
▲メリージェーン(ポインターの子犬) 2話
◀ケン 1話
◀モモの変身 騎手 1話
▶モモの変身 ペットショップ専属看護婦さん 1話
◀牧場主 1話
▲カメラマン 2話
▲ワルダー 1話
▲シェイプアップ前



●モモの変身 水着スタイル 2話
◀メリージェーンの変身 ジョギングスタイル 2話
◀モモのジョギングスタイル 2話
●ガチョンシンボリー 1話
▲シェイプアップ後
ヒーローシンボリー 1話▶



顔は好きなんですけどね、あの目のでかいキャラって描きづらいんですよ。目のハイライトがど一のこ一のってね。せめて口もとでもかわいくしよう、って……少女物ってたいへんでした。(兵頭敬氏談)

③ 走れスーパーライダー

キャニー
できの悪い兄をもったできた妹は、こんなにも苦労するという見本。兄想いのケナゲな少女である。

ポカポカと暖かな昼下がり、モモたちは公園でのんびりとアクビをしていた。そのおだやかさを打ち破るようにとどろく爆音。最近町中をわがもの顔で走りまわっている暴走族〝赤いスカンク〟だ。乗り入れ禁止の公園の中を走って、女の子をからかう若者たち。彼らの親も町の人々も、そんな彼らを不良としか見ていなかった。

だけど、モモは知っている。リーダーのジムルはケガをしたウサギを助けてあげるような、本当は優しい男の子。そして、彼の妹キャニーはなんとか昔の優しい兄さんにもどってくれないかと、ジムルを見守っていた。

そんなある日、喫茶店でお金を盗んだとマスターから誤解された若者たちは、気晴らしに町へくり出し大暴れ。彼らの親たちを呼び出したものの逆に「もっとビシビシやってください！」とけしかけられた町の警察署長はきょうこそはといきごみ、自慢のパトカー、白バイ総出動で、彼らを待ち伏せとり囲んだ。「署長さんよォ！　ひとつ、オレたちとカケをしねエか！」ジムルが町を一周する間にパトカーにつかまったら〝赤いスカンク〟を解散させるという。こうして、ジムルと白バイ隊員との必死の

鬼ゴッコ

が始まった。

キャニーの願いを知っていたモモは白バイ隊員に変身、追突した白バイを飛びこえて、ジムルを追いかけた。白熱のレースの末、そのまきぞえとなって事故をおこしたドライバーを二人で協力して救出した。

モモに手を差しだしたジムル。「あんた女のくせになかなかのもんだぜ」「あなたも暴走族のわりには優しいのね♡」「約束だ、暴走族はきょう限りオサラバさ！」こうしてジムルは、キャニーのもとへ帰っていくのだった。

ハ〜イ♡　ミンキーモモのエンジンはきょうも快調。これからも大車輪で飛ばしちゃう。とはいっても、なぜあたしが地球にやってきたのか、まだお話していませんでしたね。いま、明かされる魔法の国、フェナリナーサの謎…な〜んちゃって。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「青い鳥をみた少年」。君は幸せの青い鳥をみたか？　えっ、年中町を走ってる？　イヤ〜ン、あたしのいっているのは自動車の名前じゃないの！　じゃあね。

④ 青い鳥をみた少年

ケン
根暗。自閉症。こういう子がクラスの中でいじめられっ子になり、暗い性格にみがきをかける。

学校で〝変わり者〟のレッテルをはられ、ひとりぼっちの同級生ケンのことがなんとなく気になるモモ。一生懸命話しかけるが、ちっとも相手にされない。ある日、彼の飼っているペットの

青い鳥

が病気にかかり、モモが治してあげた。青い鳥というのは実はインコなのだが、それを承知で自分にとっては青い鳥だというケン。「そう、ならきっとそうなのね」とモモ。自分を理解してくれたモモに、ケンはやっと心を開いた。

ケンの家に招かれたモモはびっくり仰天！なぜなら、そこにはフェナリナーサの地図が貼ってあったのだ。彼はフェナリナーサの存在を、いまでも信じているのだった。

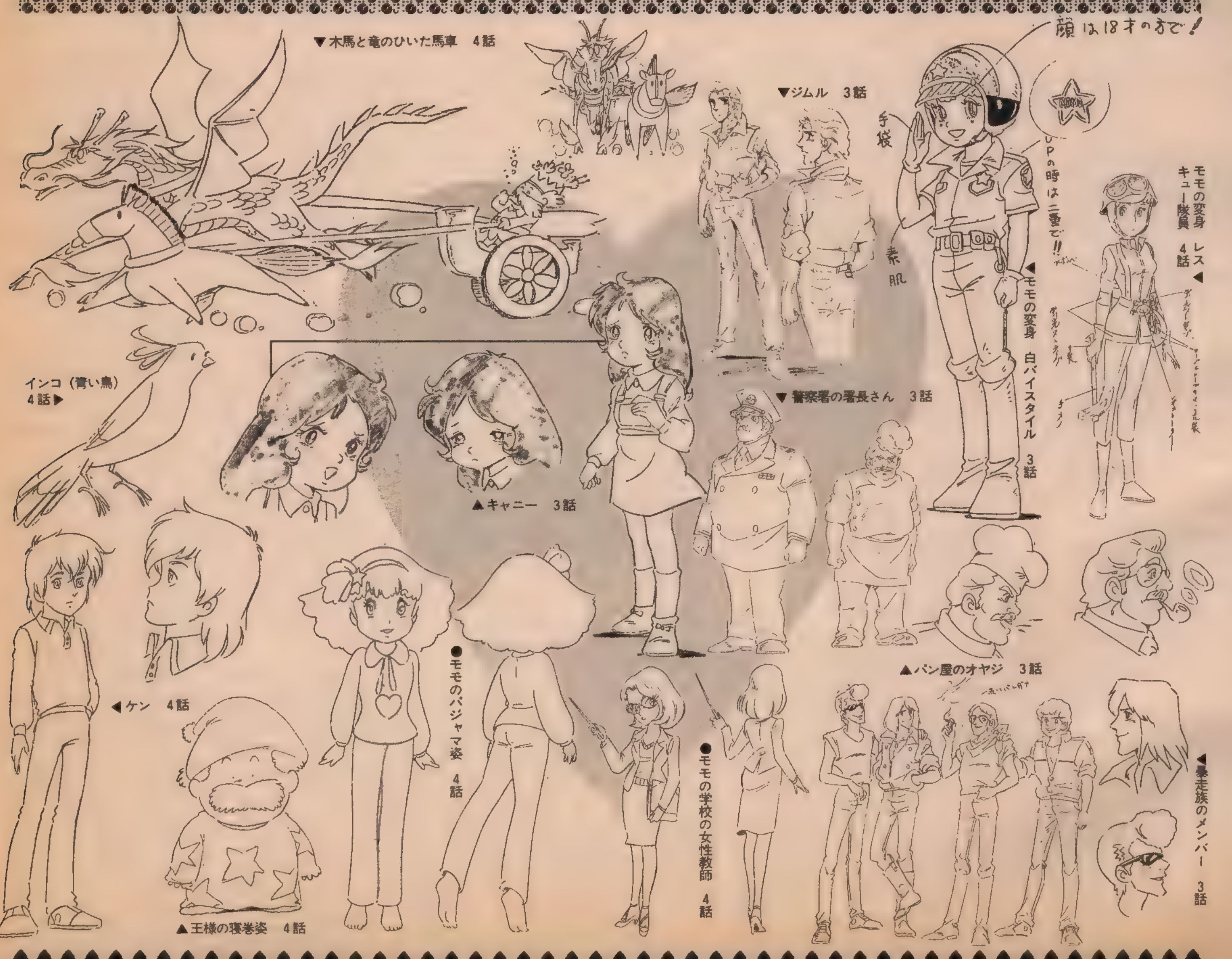
そう、昔々フェナリナーサは地上の誰もが自由に行ける夢の国だった。ところが、夢の国の住人たちが千年の眠りについていたあいだに、人々が夢や希望というものを信じなくなったため、フェナリナーサは地球から遠去かってしまったのだ。もとの位置にもどすには、王家の者が人々に夢と希望を持たせなければならない。それに成功すると四回にひとつずつ宝石が王冠にはまり、それが十二個になったとき、フェナリナーサは地上にもどれる。モモはその使命を帯びて地球に降りたのだ。

一週間後のある日、ケンのマンションが火事になってしまった。青い鳥を救うために、ケンはひとり炎に包まれるマンションへ……。モモはすぐさま消防レスキュー隊員に変身して救出に向かった。あわや、というときにケンは、モモの魔法とケンの夢を信じる心がとけ合って動きだした人形たちに救われ、初めてフェナリナーサの王冠に宝石がはまった。

事件のあと、ケンは夕日を見つめていった。「ボクにだけは見えるんだ」「フェナリナーサが？……たぶん見えるわ、私にも……」

ハ〜イ♡　ミンキーモモです。きょう、王冠にはめ込まれたダイヤモンドは4月の誕生石。意味は『清純無垢』あたしのことよ〜。なんちゃって。でも残る宝石はまだ11個も。モモの冒険はどんどんエスカレートします。次回は、いやだァ、スカートめくりとタッチが趣味の王子様が登場。こまった流行よね。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「ワルガキ王子大混戦」。あたし、ガードはかたく…できっかなァ？



▼木馬と竜のひいた馬車　4話

▼ジムル　3話

モモの変身　レスキュー隊員　4話◀

◀モモの変身　白バイスタイル　3話

インコ（青い鳥）4話▶

▲キャニー　3話

▼警察署の署長さん　3話

▲パン屋のオヤジ　3話

◀ケン　4話

●モモのパジャマ姿　4話

●モモの学校の女性教師　4話

◀暴走族のメンバー　3話

▲王様の寝巻姿　4話

Character

5 ワルガキ王子大混戦



タムタム王子
アメのみで育てられた。こういう子は、一度愛のムチでひっぱたくと、たいてい感激する。

レストランのテレビに盛大なパレードが映っている。ユスラレル国のタムタム王子が、珍獣ミツコブラクダを手土産にどこかの国を訪れたのだ。「王子様ってどんな人かな」モモたちがテレビを観ていると、変な少年が現れて、勝手にモモたちのテーブルにいすわってしまう。少年が無一文と知り、食い逃げの共犯にされるのはごめんと逃げ出したモモたちだったが、途中で偶然タムタム王子の暗殺計画を知ってしまう。「タムタム王子がたいへんだわ！」だが、モモが急いで動物園の式典会場に知らせにいくと、なんと王子は行方不明。そこへ、先刻の少年が現れる。「おお！タムタム王子！」「エーッ!?　このワルガキが王子様!?」驚くモモたち。

贈呈式の直後、王子の狙撃に失敗して逮捕された殺し屋から帰りの飛行機が危いと聞いたモモは、スチュワーデスに変身、飛行機に乗り込む。機内に殺し屋は現れず、モモはひと安心。だが、中継地点のマドリッドで王子はまたまた脱走。フラメンコ見物中、踊り子に化けた殺し屋に命を狙われる。間一髪王子を助けたモモたちは、逃げる殺し屋を追って逆にはさみ撃ちにあうが、シンドブックの機転で殺し屋を倒すのだった。

一方、相も変わらずふまじめな王子は、ふざけてモモのバストにタッチしてビンタを食らう。

「こんなにみんなを心配させといて、なんですか！」

初めて真剣に怒るモモ。

「ボク…たたかれたのは、死んだママにお尻をぶたれてから初めてだ……」

王子はモモの飾り気のないまごころに、感動するのだった。

> ハ～イ♡　ミンキーモモです。きょうのドタバタ、いかがでした？　でも、ミンキーモモの世界は広いんです。今度はねェ、なんと熱血青春ドラマに挑戦。血と涙と汗のほとばしるテニスコートに、青春の赤いバラが咲く。ウッソォ～！　でもマジにやるのだ。
> 次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「テニスコートに赤いバラ」。青春はまさにこれじゃ～！　な～んちゃって…。

6 テニスコートに赤いバラ



ジミー
有名になってテングになるが、その鼻を折られておちぶれ、ふたたびはい上がった、起伏の激しい人。

ジョギング中のモモたちは、美しいバラ園でティム少年と出会う。ティムたちは貧しい家の子どもだったが、同じ境遇に生まれ育ち、いまはテニスの東部地区チャンピオンとなったジミーを深く慕っていた。全国大会出場のため帰郷するジミーのために、ティムたちは昔ジミーと作ったコートを整備し、ジミーの好きなバラを育てて歓迎準備をするのだった。

だがジミーは、自分の素姓が世間にばれるのを恐れ、会いにきたティムたちを追い返してしまう。ガッカリするティムたち。

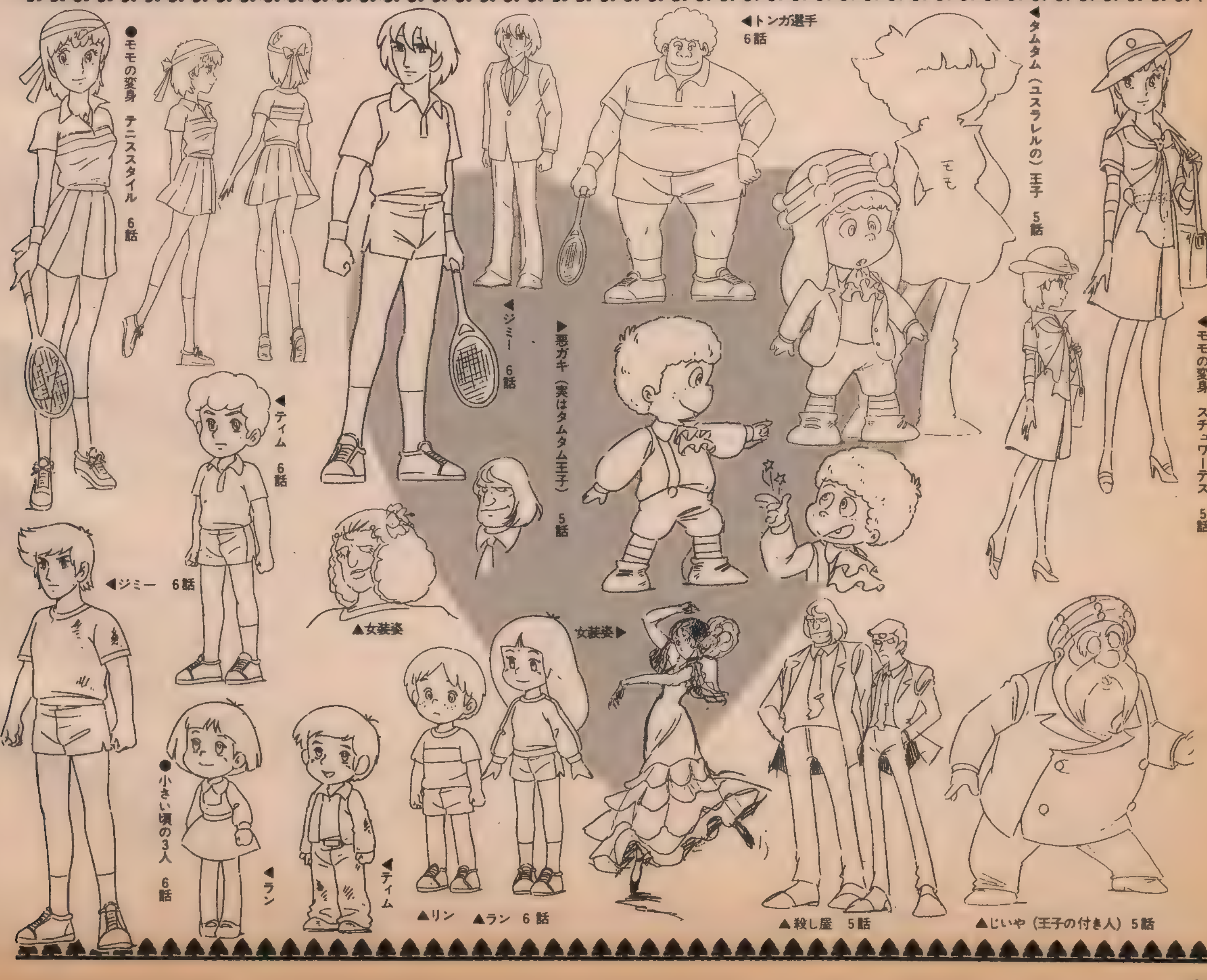
「あたし、もしかしたらこうなるかもしれないって思ってたの。ジミーはもうあたしたちとは別の世界の人なのよ。世界の一流プレイヤーと肩をならべてるんですもの。昔のことを忘れたいとしてもあたりまえだわ」ランという少女も、あきらめがちにそういうのだった。

「みんなの気持ちをメチャメチャにしてそれがチャンピオンなの？　そんな……そんなことって絶対に許してはいけないんだわ！」テニスプレイヤーに変身したモモは、練習中のジミーに宙返りサーブで挑戦、ファンや記者の面前で散々に打ち負かした。また、ライバルのトンガ選手が、ジミーの過去を暴く。

失意のジミーはいつしか懐かしいコートへ向かっていた。ジミーを許し、暖かく歓迎する子どもたち。改心したジミーはモモの特訓を受け、試合当日宙返りサーブでトンガ選手を打ち破る。

「そうさ、みんながオレを優勝させてくれたんだ。」笑顔のもどったジミーと子どもたちを、バラの花が優しく包んでいた。

> ハ～イ♡　ミンキーモモのサーブ、きまってた？　さて、いよいよあこがれの職業ナンバーワン、看護婦さんの登場です。白衣の天使、ナイチンゲール。おほめのことばはサンキューだけど、本当はねェ、とってもたいへんなお仕事なんです。体の病気を治すだけでなく、心の病気を治さねば。
> 次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「ナイチンゲールはお好き」。わしゃマジに挑戦するのじゃ！…ムリかなア？



Story Digest &

7 ナイチンゲールはお好き

アン
モモのおかげで、ふたたび看護婦にあこがれ始めた少女。将来優しい看護婦さんになることだろう。

モモたちが公園にいると、突然目の前で小さな女の子が**発作**をおこして倒れてしまう。「ど、どうしちゃったの!?」救急車について病院へいったモモは、アンというその女の子が勝手に病院を脱け出したことを知った。怒る看護婦たちをにらみ返すアン。

「でもへんねえ、あのアンが看護婦さんと仲が悪いなんて…」モモから話を聞いたママは、首をかしげる。アンは以前、看護婦になって働きたいとペットショップを訪ねたことがあったのだ。「その後なにかがあったんだな」とシンドブック。アンのかたくなな心は、婦長を始め、看護婦たちの厳しすぎるやりかたが原因と考えたモモは、アンに、**優しい看護婦**もいることを教えようと、看護婦に変身した。モモの優しさに、しだいにうちとけてゆくアン。「あたしここの看護婦さんみたいになるんなら、死んだほうがマシだと思ったの」とモモに話す。

だがアンが再び激しい発作をおこすと**悪役婦長**が一転して真剣な表情を見せる。手伝うというモモの申し出を断わり、モモにカルテを差し出す婦長。初めてアンの病気を知ったモモは、外出を禁じ、動物や花束を遠ざけた婦長の厳しさが、アンを守るためのものであったことを理解するのだった。モモは改めて手術に協力、アンの手術は無事成功する。

「アン、看護婦はね、ときには患者にものすごく厳しくすることも必要なのよ」「そして優しさもね」モモと婦長のことばに、全快したアンは瞳を輝かせてこう答えるのだった。「あたし看護婦になります！　きっとなります！」

ハ〜イ♡　ミンキーモモです。とうとう、とうとうきちゃったんです。あたしだって女の子、ピッカピカのラブレターもらっちゃったんですよォ。でもね、デートの場所にいくために、なぜかなぜか婦人警官になっちゃうんですよね。もう町のなかには悪い人がいっぱい。御用、御用、御用！　片っぱしからつかまえて…あ〜しんど。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「婦人警官ってつらいのネ」。あなたのハートに、手錠バチン！

8 婦人警官ってつらいのネ

マリー
彼女のカン違いからこの名作が始まる。最後までドジしかやらないが、いい目をみたのは彼女だけ。

ある日、モモに届いた一通のラブレター。「ついにくるべきものが、きたんだわ♡」まだ見ぬ相手に想いをはせ、手ばなしで喜ぶモモ。けれども差出人が不明のため、三匹はとても心配顔。

ルンルン気分で待ち合わせ場所へと急ぐモモは、途中で横断歩道を渡れずに困っている兄弟と出会う。婦人警官に変身して助けてあげるモモ。ところが、これを見た新米婦警のマリーに先輩と間違われ、モモはむりやりミニパトカーに押し込まれてしまう。

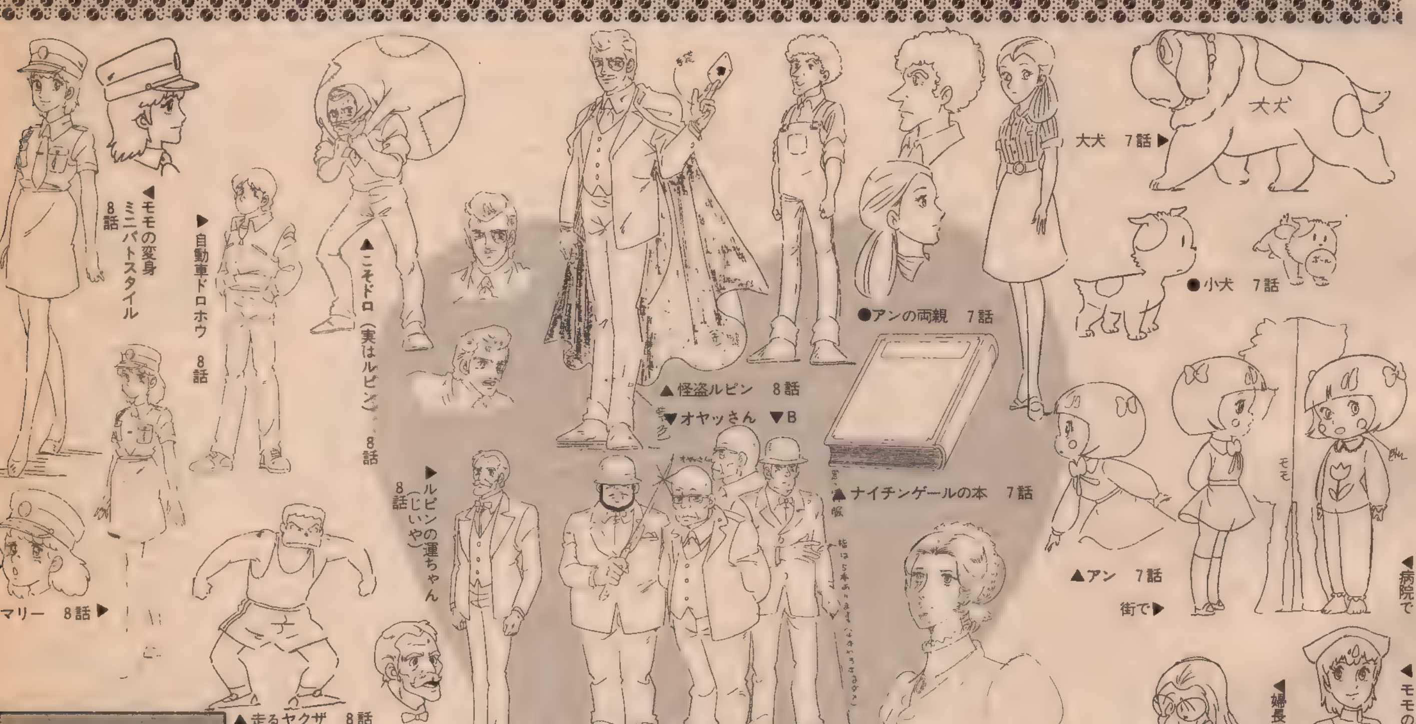
なんとか逃げ出そうとあせるモモだったが、変身をとこうと駐車場にいけば、車ドロボーに見つかって、「うわっ、きれいなおまわりさん♡　つかまえて！」とせまられ、それをマリーにまかせてなんとか逃げだせば、今度はコソドロに……。泣きつくコソドロを見逃がしてあげるが、実はこのコソドロ、怪盗ルピンだったのである。

休むまもなく、今度は銀行強盗と対決。約束の時間が気になるモモは、スピーディーに事件を解決、やっとの思いで逃げ出し、公園にたどりつく。ところが、公園ではギャングたちが、なわばりを賭けて運動会のまっ最中。モモを案じてようすを見にきた三匹がもとで大混戦となる。モモはふたたび変身。モモの優しさにひと目ボレしたルピンも、「助太刀いたす！」そこにマリーたちも加わり大騒動!!

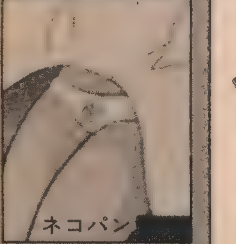
そんななかで、モモの目の前に、たくさんのラブレターがふってくる。文面をみると、モモのと同じ。それを落とした不良いわく、「こんなつまんない手紙につられるマヌケもいるのさ」それを聞いたモモの**怒りの平手打ち**がさく裂！　おかげで乱闘はおさまったが、モモの心にはちょっぴり傷が残るのだった。

ハ〜イ♡　ミンキーモモです。きょう、王冠にはまった宝石はエメラルド。意味は『幸せな奥様』。モモがそんな奥様になれるのはいつの日かなァ？　さてさてたいへん、次回は歌っちゃうのです。それもグランプリに優勝するような名曲を。

魔法のプリンセス　ミンキーモモ「森の音楽祭」。ア〜ア〜ア〜ア〜ア〜、あ、えらいこっちゃ、どうしよう。でもあたし、主題歌だって歌ってんだもんね。ハ〜、でも不安。



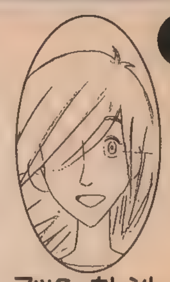




8話でネコパンツ描いたのは僕じゃないんです。あのカットは僕だけど時間がなくて大島さんという女性に手伝ってもらったら…。まあ、ちょっとしたイタズラでしょうが、あれから時々㊤（丹澤学氏談）

Character

9 森の音楽祭



マック・カレント
世捨て人をきどり、森の中で動物を友とし、10年くらい昔に流行した服を着て暮らしていた。

ペットショップの小鳥から、近くの森で小鳥たちに歌を教えている青年がいると聞いたモモは、さっそく会いにでかけた。青年の名はマック。彼はシンガーソングライターとして、今年のドリーム音楽祭に出場しようとがんばっていた。

ある日、マックは自分の作曲した歌を見てもらおうと、作曲家のグラムを訪れ楽譜を渡す。だが、グラムと組んでグランプリを狙う歌手、ガナールにその曲を盗まれてしまい、テレビでグラムの作品として発表されてしまった。

どうすることもできず、落ちこんでしまうマック。そんな彼のまわりに、森の動物たちが集まってきた。「みんな待っているのよ。マックが作った**新しい歌**をいっしょに歌ってくれる、みんなおうって、ね♡」動物たちにはげまされたマックは、ふたたび新曲作りに打ち込む。

一方、ちっとも良い曲を作れぬグラムにイラついたガナールは、夜中にこっそり森を訪れ、またまたマックの新曲を横取りしてしまう。モモはガッカリするマックのために歌手に変身。ガナールを出し抜いて音楽祭でその曲を歌うのだった。

かくして、栄光あるグランプリ受賞者を示すスポットライトは、モモを照らしだした。モモは舞台にマックを呼び、彼こそ本当の作曲者であるとみんなのまえで発表、グラムもそれを認める。「私が悪かった。」彼女の歌を聞いているうちに、目が覚めた。…心の底から**「おめでとう」**こうしてマックは、見事にグランプリに輝き、モモは彼といっしょにもう一度受賞曲を歌った。その美しい歌声は、いつまでも会場に響き渡るのだった。

ハ～イ♡ ミンキーモモです。あたしの新曲いかがでした。レコード出しちゃおうかな…な～んちゃって、ちょっとノリすぎか？ さてさて、次回は、大暴走。誘拐された美女を追って…といってもね、ちょっとお年をめした美女だけど。ともかく大アクション、カーチェイス!!

魔法のプリンセス　ミンキーモモ「ハイウエイ大追跡」。道なき道をやっちゃうもん。あたし飛ばすの大好きじゃ！

10 ハイウエイ大追跡



セーラばあさん
人間"生きがい"を持てば、どんなに年をとっても青春ドまんなかなのさ!!　さあ、あの夕日に……。

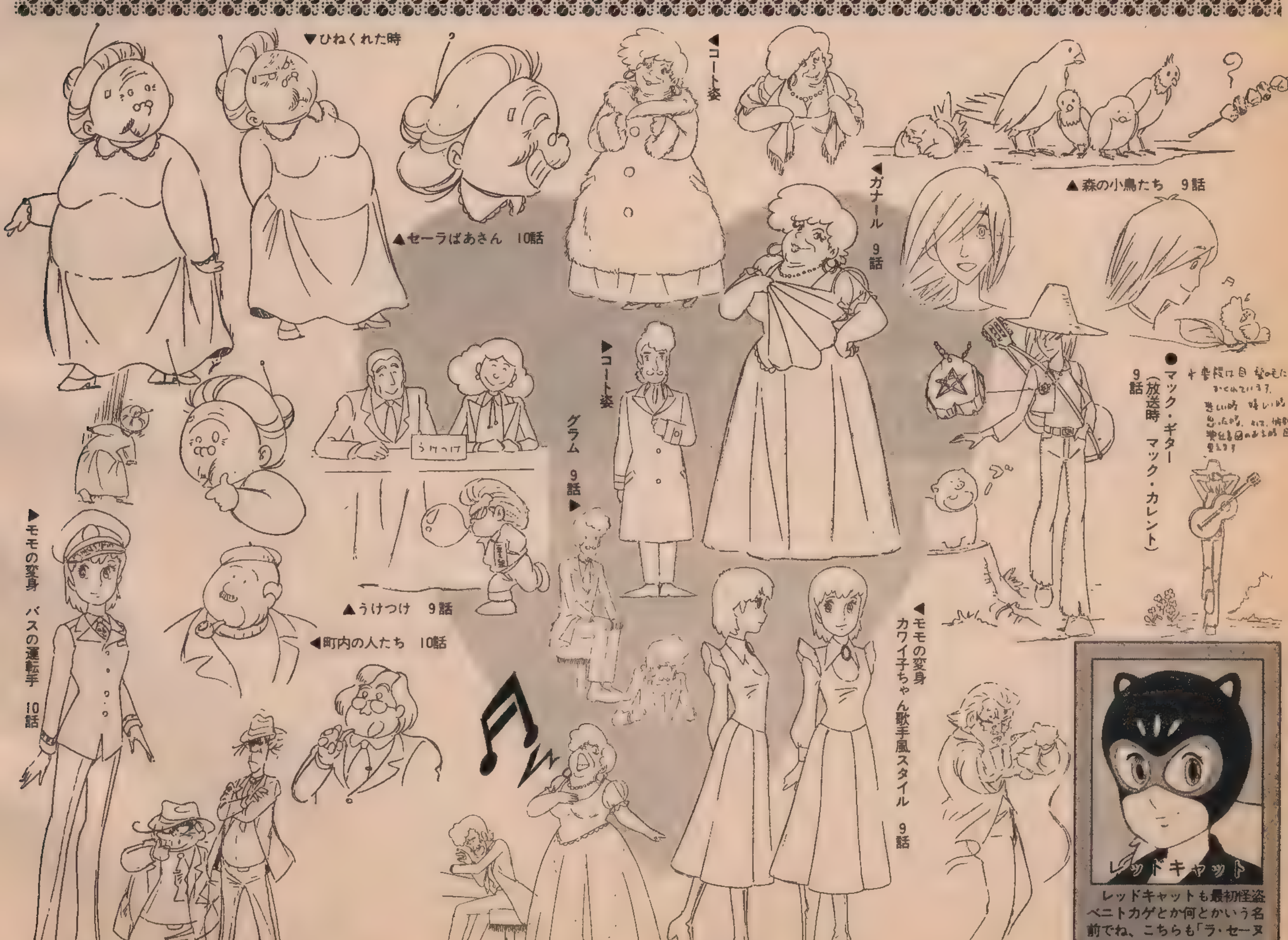
お金持ちのセーラおばあちゃんは、ケチでイヤミばかりいうので、町中の嫌われもの。ある日、おばあちゃんは町内のバス旅行に誘われるが、それさえもお金がかかるからと断わる始末。ところが、当日になってパパとママがいけなくなってしまい、代わりにおばあちゃんを連れていくことになった。もちろんタダで…。

楽しい旅行のあいだも、いつものようにイヤミをいうおばあちゃん。ところが、途中みんなが湖で遊んでいるときに、怪しげな二人組の男がおばあちゃんを誘拐しようとした。幸い邪魔がはいり、失敗。しかし、次に展望台でおばあちゃんを狙った二人組は、まんまと**誘拐に成功！**急いで車に乗って逃走する。それを見たモモは、バスの運転手に変身して追跡開始。連続する急カーブもなんのその、バスの巨体を操って二人組の車を追いつめるのだった。一方、逃走中の車の中では……!?「エラく楽しそうじゃね。あたしも仲間にいれとくれよ、ひっひっひっ」おばあちゃんが持ち前の若さで二人組を圧倒、逆に彼らがおばあちゃんに振りまわされていたのである。おまけにむりやりハンドルを奪われる。おばあちゃんの乱暴な運転に、二人組は、**ノックアウト。**亀の甲より年の功。どうやらおばあちゃんのほうが、犯人たちより一枚も二枚も上手だったようである。助けにやってきたモモの前で、おばあちゃんはおっしゃいます。

「まだまだ世の中、おもしろいこともいっぱいあるのがわかった。イジワルはやめじゃ」今回の主役は、モモよりもおばあちゃんだったようですね♡

男がいた。女がいた。ふたりは愛しあっていた。だがふたりの間にはあまりに障害が多すぎた。引き裂かれた愛のゆくえは？ ロンドンはテムズ川のほとりに、悲劇の愛のドラマがいま、花散る。な～んちゃってさ。でもこれ、人間じゃなくてね、かわいい子猫ちゃんのお話なんだって。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「恋の美容師よ子猫ちゃん」。なんかいいことありそうよ。ニャ～オ♡



レッドキャットも最初怪盗ベニトカゲとか何とかいう名前でね、こちらも「ラ・セーヌの星」みたいなキャラ作ったの。そしたら名前変わったってんで、マスクもかわいくし、ネコ耳つけて…。（神宮慧氏談）

⑪ 恋の美容師よ子猫ちゃん



全国の短足・太めの男子諸君……。夢は大きくもとう！ きっと君にもかわいい女の子が……。

猫のコンテストの健康診断をするために、パパはロンドンへ向かった。それを見送ったモモ、「ねエ、いこいこ、ロンドンいっちゃお！ あたしたちも!!」こっそりパパのあとをついていくことになった。

ロンドンの片隅で、モモはドラ猫のハリーと知り合いになる。実はこのハリー、コンテストの子猫部門で**プリンセス**にみごとえらばれた、**ローズマリー**の恋人だったのだ。

しかし、二匹の飼い主だったウォーカー夫人の誤解によって屋敷を追い出され、ローズマリーに会うこともできなくなってしまったというのである。

「よし、あたしがなんとかしちゃう！」モモは、猫の美容師に変身すると、ウォーカー夫人の屋敷にはいりこみ、ハリーをローズマリーに会わせてあげるのだった。二匹の強いきずなを確認したモモは、彼らが本当に一緒になれるように、ある計画を思いつく。それはモモが猫泥棒に変装してローズマリーを誘拐するというものだった。そこへハリーが助けに飛び込んでくれば、さすがのウォーカー夫人も、感激のあまり、二匹の仲を許すに違いない。

ところが決行の日、ローズマリーは本物の猫泥棒に誘拐されてしまった。モモはハリーや仲間の猫と協力して、無事ローズマリーを救出する。大喜びのウォーカー夫人の前に、ハリーを連れてくるモモ。「ハリーは、いつだってローズマリーちゃんのことを、**一番大切に**していたのよ。ね、わかって！」いまこそ自分の誤解に気づいた夫人は、二匹の仲を心から祝福するのだった。

闇の世界に生き、華麗にはばたく女盗賊レッドキャット。かたや、世界にその名をとどろかせた怪盗ルピン。いま、世界を恐れさせたこの二人の、世紀の対決が火花散る。ナポレオンの秘宝を手に入れるのは、レッドキャットかはたまたルピンか!? ワォ～ン、なんとあたし、今度は泥棒に変身しちゃうのです。いいのかな？

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「怪盗ルピン大反撃」。君のハートを盗むのは、このあたしだヨン。ナハハ…。

⑫ 怪盗ルピン大反撃



ミイラとりがミイラに。カエルの子はカエル。将来有望大怪盗・ルピン二世！ 大怪返かな………？

「ADIEU（アデュー）」

以前、婦人警官に変身したモモにつかまった怪盗ルピンが、刑務所を脱走した。ルピンは世間でも有名な泥棒紳士。しかし、実は彼は大金持ちで、泥棒はほんの趣味みたいなものだった。舞いもどってきたルピンの泥棒趣味をやめさせようと、彼の息子のペペは、婦人警官に変身したモモを捜していた。なぜなら、婦警モモが好きなルピンは、彼女のいうことなら聞いてくれるだろうと考えたからだ。

話を聞いたモモは考えた末、自分も怪盗レッドキャットに変身。ペペの協力でルピンのターゲットを先回りし、盗むことにした。ゆく先々で自分の狙う獲物が先に奪われてしまうのには、さすがの怪盗ルピンも大弱り。ついに頭をかかえ寝こんでしまった。

少し薬が効きすぎたかな？ 反省したペペの告白で、ルピンは息子のペペがレッドキャットの手びきをして自分の仕事の邪魔をしていることを知る。「ハハハ…、私はまだ負けてはおらんぞ、レッドキャットめ！」ルピンはレッドキャットに挑戦した。勝負は、博物館に保管されているナポレオンの辞書を先に盗むこと。博物館に忍びこんだ二人は剣を持って戦ったが、その時誤って警報器を作動させてしまう。二人は急いで退却。そのあとに忍びこんできた二人の泥棒が、なにも知らずに辞書を手にすると、すでにまわりは警官隊にとり囲まれていた。

かくして、つかまったこのドジな二人組の泥棒がルピンだと、テレビで放送された。「ああ、あんな**マヌケヅラ**をした男たちがルピンなどと…私は死にたい」落ち込むルピンは引退を決意、ペペに励まされて盗品返しに転業した。

拝啓、このたびモモのペンダントが光らなかったこと、まことに遺憾に存じます。今後このようなことのなきよう、制作者一同身を清めがんばる所存、お許しください。これね～、ミンキーモモを作っている人たちからみなさんへのお手紙です。よ～し、あたし、メゲずにがんばります。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「魔術師と11人の少年」。今度こそ必殺シュートでペンダント光らせてみせちゃう。いえ、みせましょう。



Character

13 魔術師と11人の少年

ラム
親の反対なんのその。一度決めたことは、最後までやりとげる。それが男の子というものです。

どこかの町の少年サッカーチームは、次の日曜日の対抗戦にそなえてきょうも練習に励んでいた。けれどとても危なっかしくて見ていられない。サッカーコーチに変身したモモは、バイスクルシュートを決めて見せ、チームの指導をすることになる。「ひょっとして、このおねえさん

サッカーの女神？」

力強い味方を得て喜ぶ少年たち。ところがチームのキャプテン、ラムは、家庭教師につかまりむりやり自動車で連れ去られてしまう。

ラムの父親はどこかの町の名士。自分はサッカーファンのくせにラムにはサッカーをするのを許さず、熱心な家庭教師をつけてむりやり勉強をさせるのだ。しかも、対抗戦のある次の日曜日は、新市長がひらくオエライ・ミナサン・ヨロシク・パーティがあるから、ラムも出席するようにと命じるのだった。

こんなことで負けてはいられない！と家を抜け出してモモのコーチを受け、バイスクルシュートをマスターしたラム。しかし試合の当日、いつものように家を抜け出そうとしたラムは、家庭教師につかまってしまった。「へへへ…私も家庭教師のプロ！二度と同じ誤ちは誤ちません」ついにラムはパーティに連れていかれ、キャプテンを欠いたメンバーたちはすっかり気落ちしてしまう。そこでモモはマジシャンに変身。パーティの余興にもぐりこみ、ラムを消してみせるマジックでパーティ会場から連れ出すのに成功、彼を試合場へと急がせるのであった。

試合はラムの大活躍で圧勝。連れもどしに試合会場にやってきた父親も、この試合を見て感激。ラムがサッカーをやることに大いに賛成するようになった。

ハ～イ♡ ギアーをトップにたたき込み、アクセル全開フルパワー。時速300、さあ飛ばせ！ どこかの町のグランプリ。チェッカーフラッグ誰の手に!? おひさしぶりの乗っ取り屋さん、ワルダーおじさんお相手に、やってみせます勝利のドライブ。でも、悪い人っていつもやることワンパターンなのよね。だけどあたしはミラクルパターン。

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「ゴールはいただき激走レーサー」。炎のレースは燃えてます。さて…。

14 ゴールはいただき激走レーサー

ケン
スピードを出すために安全性をまったく無視した車を作りあげ、当然のごとくケガをした。

ある日、ペットショップの店先に改造したラジコンカーが飛び込み、ガラスを割ってしまった。モモはラジコンカーの持ち主をつかまえた。そのラジコンは、自動車修理工場のチビが改造したものであるということがわかった。そこでモモがさっそくその修理工場にいってみると、工場の主はケンという名の憂い顔のハンサムな青年だった。彼がチビの兄だという。二人の兄弟はグランプリレースでの優勝を狙っていた。ワルダーへの借金返済のために、どうしても賞金が必要だったのだ。もし期限までにお金を返せなければ、工場は借金のかたにワルダーに取りあげられてしまう。

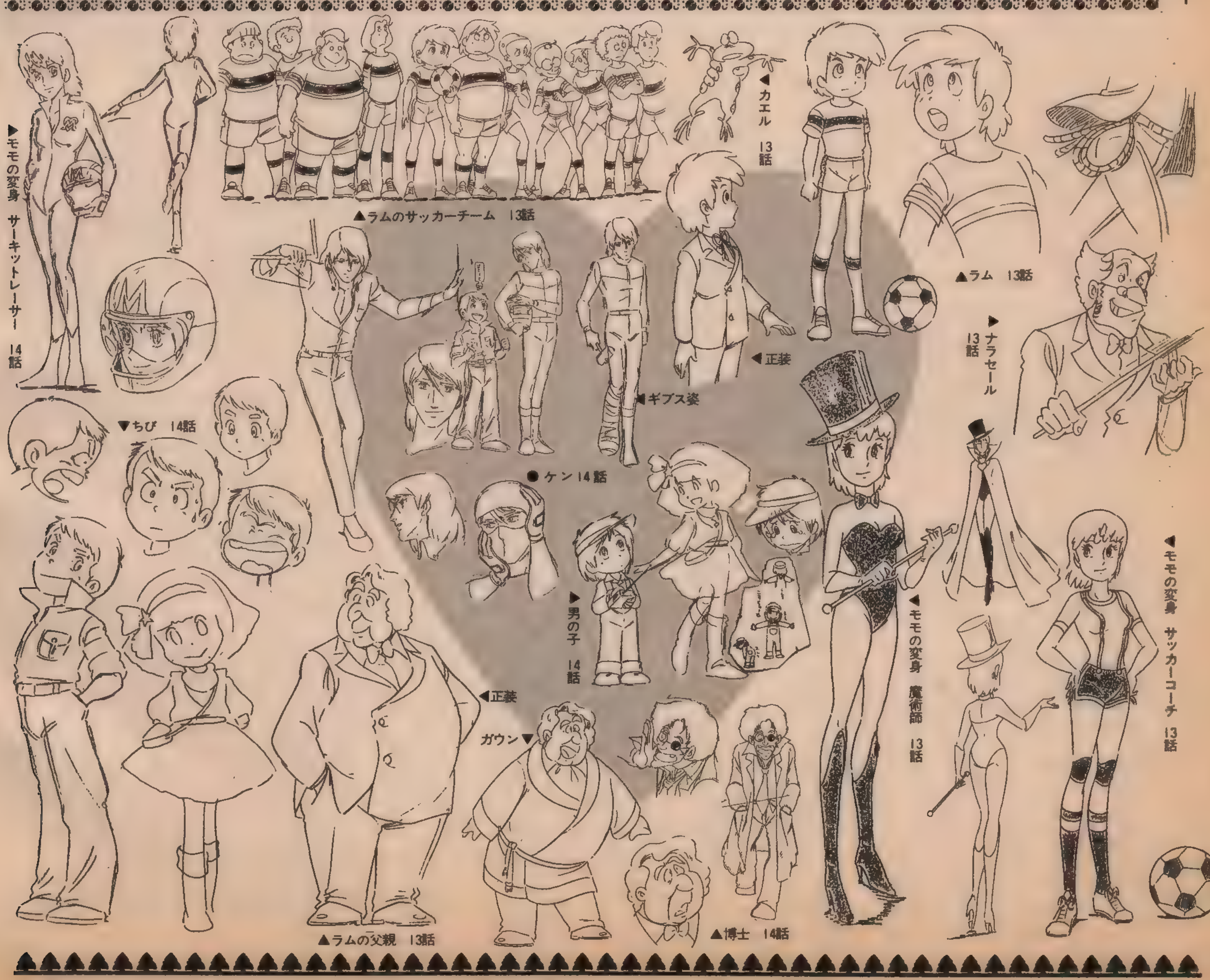
グランプリの予選の日がやってきた。ワルダーの部下が乗る千馬力のマシンに対抗するために、ケンは自分のマシンを**徹底的に軽く**した。その結果、ケンは予選で素晴らしい記録を出す。ところが、ワルダーの陰謀にかかったケンは足を折ってしまい、レースに出場することができなくなってしまう。二人のピンチを見かねたモモは、レーシングドライバーに変身し、ケンの代わりに出場。「さあ、しっかり飛ばすわよ♡」ワルダーの部下たちがしかけてくるさまざまな攻撃を、難なくかわしていくモモ。

「あいかわらずのパターンネ」ワルダー側が発射した最後の切り札ケッケッケッ爆弾も、自らの墓穴を掘る結果となり、モモは見事に優勝を果たした。

ささやかな祝賀パーティの席上、モモは二人に、割れた**ガラスの請求書**をシッカリ渡すのだった。

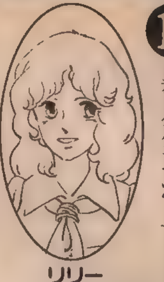
エンジン全開、飛ばせ！ 飛ばすはいいんだけどね、最近ちょっとスピード出しすぎで、さすがのあたしも目がまわりそう。そこで、高いお山のてっぺんでゆっくりのんびりお休みしようと思ったら、な、な、なんと、ここでも登山列車が大暴走！

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「暴走列車が止まらない」。神様、あたしはスピードの世界から逃がれられない運命なのでしょうか？ アハハなどといいつつやめられない、止まらない。もうやっちゃうのみじゃ！



Story Digest &

⑮ 暴走列車が止まらない



リリー

ハラハラドキドキものだったジャックとの恋愛劇。やっとウエディングベルを鳴らせました♡

パーティに出席するために乗った汽車で、モモは小さな車掌のチロルと知り合った。チロルは機関士の兄ジャックと二人で、霧の山鉄道という山岳列車を運営しているのだ。小さな汽車と美しい風景、そしてなごやかな雰囲気の乗客たち。けれど、ここにも大きな問題があった。ジャックにはリリーという恋人がいたが、彼女の父親は彼を嫌っていたのだ。リリーの父親は霧の山鉄道の乗っ取りを企んでおり、ふたりが恋仲になるのを快く思っていない。そこで、彼は二人のチンピラを雇って、ジャックへのいやがらせをさせる。二人の計画は汽車に時限**爆弾**をしかけてブレーキを壊し、ジャックもろとも谷底に落とそうというものであった。

不審な二人の行動を見かけたモモは、ジャックらに知らせようとしてリリーと一緒に捕えられ、監禁されてしまう。爆弾をしかけてあるとは知らずに、汽車を走らせるジャック。モモとリリーはチンピラをだまして脱出、リリーは知らせるために汽車に飛び乗り、モモは機関士に変身して、あとを追った。**あっ**という間に暴走を始める汽車。モモはまず客車を切り離して乗客の安全を確保すると、計画の悪どさを知って後悔するリリーの父に協力させ、ジャックと一緒に汽車を昔の引き込み線へと向けた。「止まってー!」ものすごい勢いで突進する汽車は、レールの上の枯れ木を踏みくだき、崖の直前でかろうじて停止。九死に一生を得たジャックとモモだった。

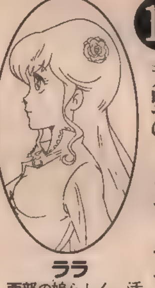
この事件を機にジャックを見直すリリーの父。数か月後二人のウエディングベルが鳴り響いた。

「ハッピーエンド♡」

沈む夕陽を背に受けて、荒野にスクッとモモの影。そーです♡ ついに出ました西部劇。しっかりたっぷり、荒野の真昼の大決闘。やります、見せます! 大いなる西部で明日に向かって撃つのだ。総天然色、本格お茶漬けウエスタン。

魔法のプリンセス ミンキーモモ、次回「荒野のミンキーモモ」。なぜかモモは叫ぶのです。ガチョンシンボリー! ガチョーン、カムバ〜ック!

⑯ 荒野のミンキーモモ



ララ

西部の娘らしく、活発な少女だったララ。ジョニーのおかげで、たいへんな旅となってしまった。

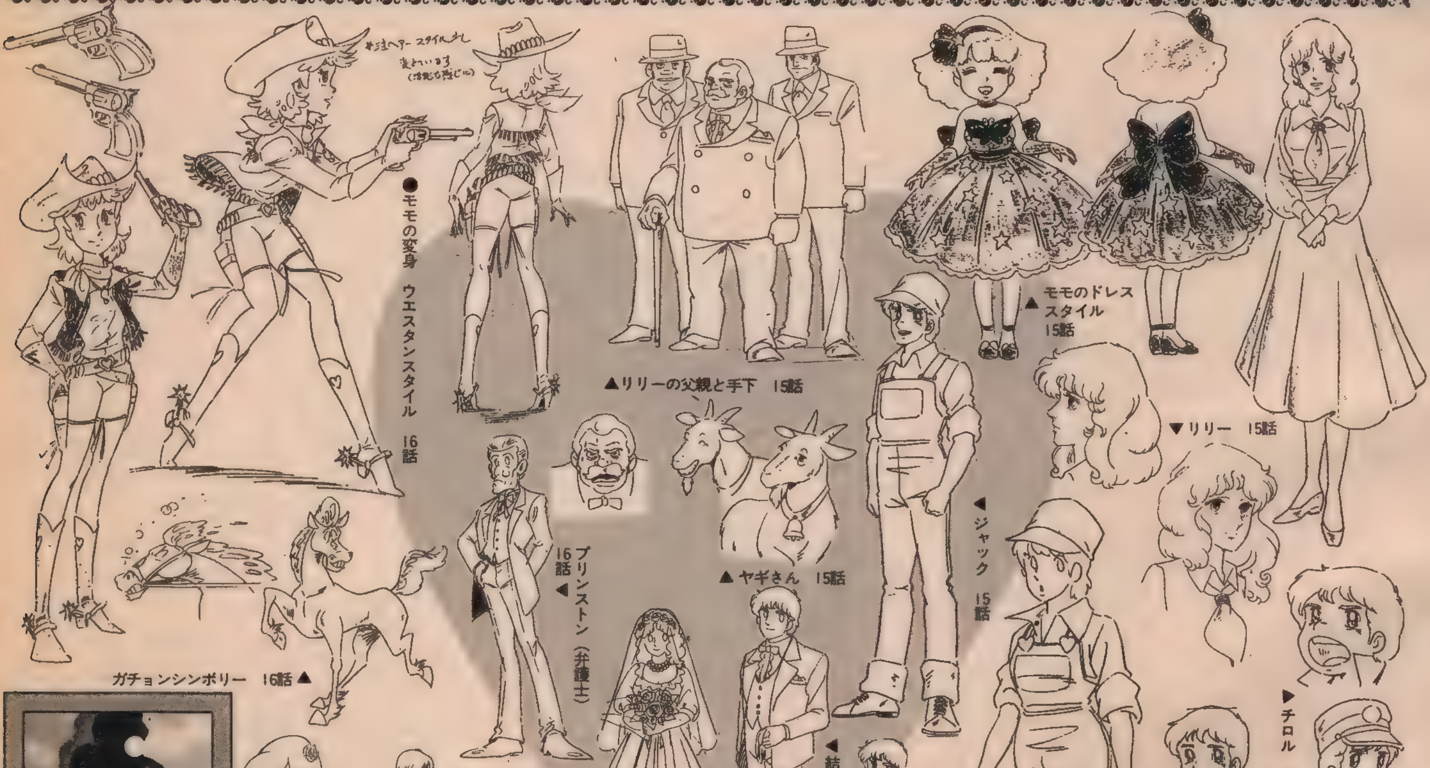
西部劇にあこがれるモモたちは、ガチョンシンボリーとともにサンフランシスコへと向かった。ところが、町に着くやいなやモモは、ララという少女を連れた弁護士のプリンストンに、ガチョンシンボリーを貸してくれないか、と頼まれた。

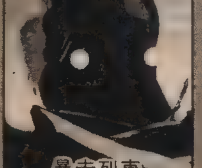
実はこのララという少女、バンバンシティに住むオイルという大金持ちの孫で、病に倒れたオイルがプリンストンに行方を捜してくれと頼んでいたのだ。ララは花屋の売り子をしているところを、プリンストンによって見つけられ、いまはちょうどオイルのもとへと駆けつける途中だった。しかし、オイルの財産をひとり占めしようとするもうひとりの孫ジョニーは、手下に空港や駅を見張らせてララの行く手を阻もうとしているのだった。「この馬を見た途端、バンバン! とひらめいたのです。馬車で平原を走れば、ジョニー坊っちゃまに気づかれずにバンバンシティにたどり着ける!」プリンストンのアイデアを聞いて、モモもすっかり乗り気。「せっかくここまできたんだもの、**西部劇ごっこ**しなくちゃ帰れないわ!」モモはガンマンに変身。グルメポッポを幌馬車に魔法で変型させると、ララの護衛を引き受けた。ところが旅の途中、とうとうジョニーに見つかり、ララはつかまってしまう。彼女を救うために敢然と悪と対決する**ガンマン・モモ!**

モモは次々と手下どもを射ち倒していく。最後に残ったのは、ジョニーただひとり。ジョニーとの一対一の決闘に勝ったモモは、無事にララを送りとどける。病床のオイルもララの姿を見て元気を取りもどすのだった。

『キャ〜ッ!』闇を切りさく悲鳴とともに、またひとり若い女性が消えた。くちはてた屋敷にうごめく影の正体は? 出たっ! ドラキュラ、狼男! ついにミンキーモモ、恐怖怪奇シリーズに挑戦です。暗闇の魔の手にひきさかれた恋人たちの運命は?

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「おばけ屋敷でラブアタック」。君に恐怖の一夜をおくるのは、このあたしだよ。ニヒヒヒヒヒ…。

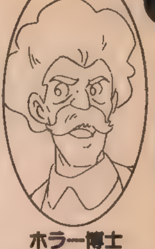


僕がモモでやった話はメカ物とかアクションとかやたらそんな話が多いのね。だから自分としてはもう少し簡単なのやりたかったんですけど(笑)別にメカが好きってわけじゃないんだけどね。(上條修氏談)

Character

17 おばけ屋敷でラブアタック



ホラー博士

「マイ・フェア・レディ」のヒギンズ教授、といったら聞こえはいいけど、彼の場合は……。

どこかの町では、最近若い女性の蒸発事件が頻繁に起きていた。そんなある日、お隣のカップル、ジョンとケイトと一緒にドライブに出かけたモモたちは、途中深い霧のため道に迷い、古ぼけた洋館にたどりついた。ジョンとケイトの二人が館に入っていくと、突然現れた**ドラキュラ**がケイトをさらってゆき、ジョンは外に放り出されてしまう。ケイトの身を案ずるジョンは、とおりがかりの警官とともにふたたび館に入ろうとするが、主人のホラー博士ににべもなく追い返された。それでもあきらめきれないジョンは、窓から侵入を試みあっさりとつかまってしまう。

あとにとり残されたモモは、ニュースキャスターに変身して館に入りこむ。「はあーい♡どこかのテレビ『わいわいワイドショー』です！」そしてモモは、続発する蒸発事件がホラー博士のしわざであることを発見する。「なぜなの？　博士！」問いつめるモモ。博士は恥ずかしげに答えた。

「嫁さんが欲しかったんじゃ」

金も名誉もあるが花嫁だけは手にはいらない博士は、理想の女性を自らの手で創り出さんと、材料となる女の子を集めていたのである。もちろん、怪物たちは博士が古いいい伝えをもとに作ったニセ者だった。

ところが、博士はモモに一目惚れ。プロポーズするが、当然ながら相手にされず、ヤケクソになった博士は巨大ロボットを出動させるものの、逆に館を破壊させるだけに終わってしまった。

夏です、海です、太陽です。さあ、ビキニにしようか、それともあなたはワンピース？　スイミング、スイミング。見せます、泳ぎます、もぐります。しかもね、めざすは南の海に眠る宝物。なんとジョーズもゲスト出演。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「南の島の秘宝」。そして、いま明らかにされる、あさましくもいじましい秘宝の謎。次回の結末は、決して人に話さないでください。な～んちゃって…。

18 南の島の秘宝



チムル

褐色の肌が、いかにも健康的な女の子。宝もみつかったし、ガガンコじいさんともども、よかったね。

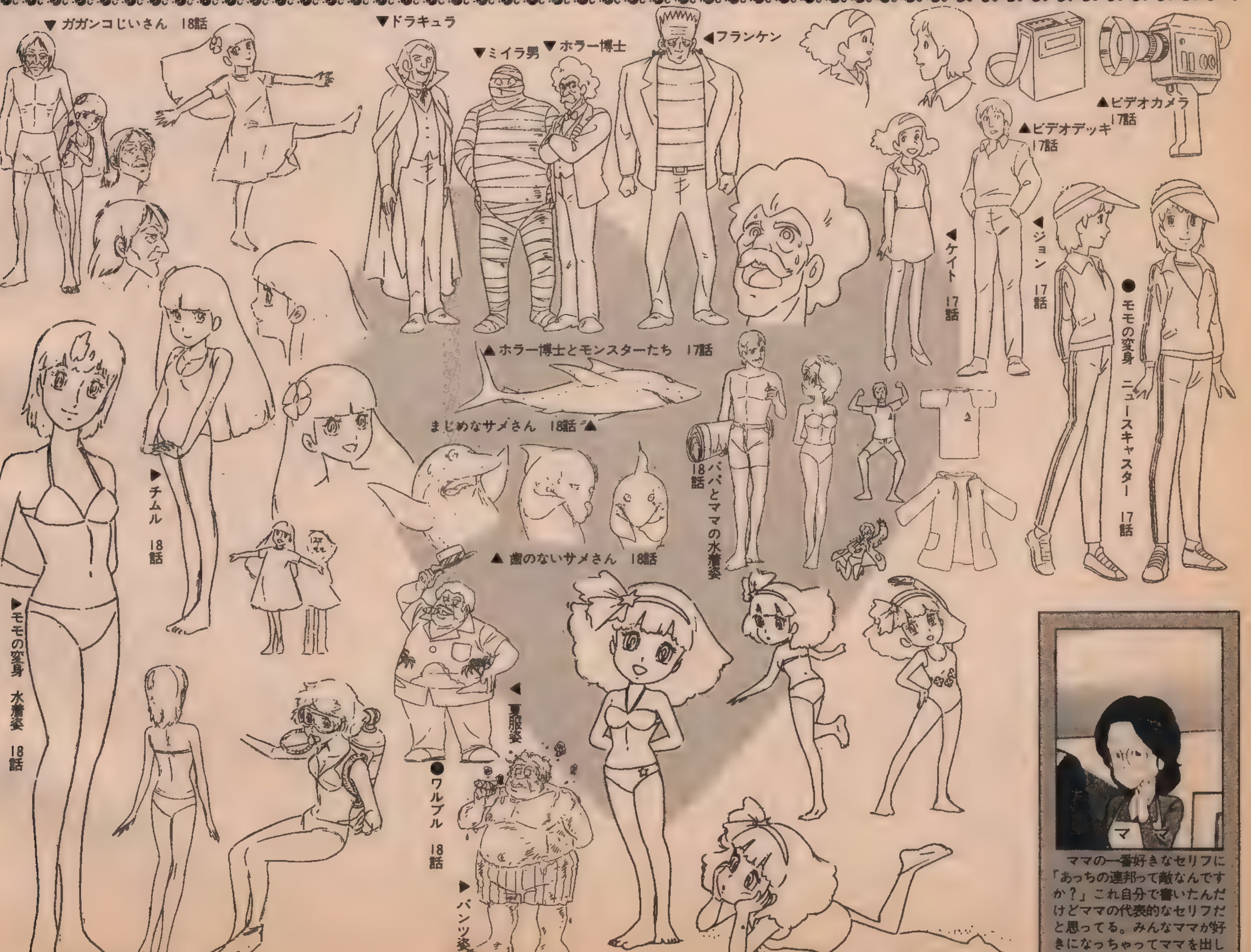
モモたち家族は、夏休みを南の楽園ババリ島で楽しんでいた。海で泳いでいたモモは、**チムル**という少女から、海底でおぼれかけている祖父、ガガンコを助けてくれと頼まれる。モモはすぐさまダイバーに変身し、ガガンコを救出した。

話を聞くと、ガガンコはババリ島の沖に沈む七つの船のひとつに積んであるといわれる財宝を、何十年も探しているというのだった。モモは体の弱ったガガンコの代わりに、チムルとともに宝探しをすることを引き受けた。そして調べた結果、財宝は沈没船に積んであるのではなく、悪魔島と呼ばれる島の海底洞窟にあることがわかった。

ところが宝を目の前にして、ババリ島の乗っ取りをたくらむ**ワルブル一味**がこのことを聞きつけ、誰も近づけまいと悪魔島を占領してしまった。これではヘタに手出しはできない。そこでモモは、宝探しの途中で仲良くなったサメに協力してもらい、ワルブル一味を悪魔島から追い出すことに成功した。

海底の洞窟から出てきた木箱をモモがあけてみると……「あ〜っ、なんじゃこれは!?」なかから現われたのは、フェナリナーサの王様の銅像だけ。「そんなバカな!?　こんなちっぽけな銅像のためにわしはいままで……」ガガンコは失望する。が、そのとき、「待って、なにか書いてあるわ。ここ、銅像の裏側に」モモが注意書に従って指輪を銅像にはめこむと、なかから念願の金銀宝石が出てきたのであった。どうやらババリ島に代々伝わる宝物というのは、**王様のへそくり**だったようである。

たっ、大変です、大変です！　なんとね、あたしのふるさと、そう、夢の国フェナリナーサのそっくりさんが、この地上に現れちゃったんです。しかも、ホンマモンのフェナリナーサよりず～っとステキな国かもしれません。ときはまさにコンピューター時代。コンピューターは現代に夢の世界をつくれるか!?　わっ、シビア…。次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「機械じかけのフェナリナーサ」。わたしさァ、メカはさっぱりわかんないけど…ピポパポピー。メゲずにやるぞっ！



ママの一番好きなセリフに「あっちの連邦って敵なんですか？」これ自分で書いたんだけどママの代表的なセリフだと思ってる。みんなママが好きになっちゃってママを出したがってね。（土屋斗紀雄氏談）

Story Digest &



ルーカス少年
コンピューターにしか興味がないのかと思いきや、短期間にふたり（?）の女性にホレルとは。

19 機械じかけのフェナリナーサ

「ウーン、好きになれないわあ」モモが算数の宿題とにらめっこしていると、テレビを見ている三匹が騒ぎ出した。「あーっ、あれ…」画面を見て驚くモモ。なんとフェナリナーサのお城が映っている。

それは、最新のコンピューターが制御する**遊園地だった。**宿題にあきたモモは、遊びにいこうといい出す。「ティーンエイジは二度こない♡」

一方遊園地では十二歳の**天才**プログラマー・ルーカス少年が、ひとり寂しくコンピュータールームで働いていた。彼の理想はモモのような女の子。ベンチでソフトクリームを食べるモモをスクリーンで見つけたルーカスは、有頂天になって仕事場を飛び出してしまう。

モモとのデートにごきげんのルーカス。ところが折も折、主のいないコンピュータールームに泥棒が入り、遊園地のプログラミング・カセットを盗み出してしまったから、さあたいへん。遊園地は機械が勝手に動き出し、メチャメチャになってしまった。プログラマーに変身しようとするモモに、魔法の国のプログラミングは地上では通用しないと三匹はいう。

「ここは子どもたちにとっては、**魔法の国よ。**その心が集まれば、魔法が使えるかもしれないわ」モモがコンピューターにカセットを入れると、ジェットコースターが、UFOが、遊園地のあらゆる乗り物が空を飛び始める。モモはルーカスと空飛ぶ木馬で泥棒を追いかけ、カセットを取り返した。

今度は十八歳のモモに恋してしまうルーカスであった。

ア〜アア〜。昼なお暗いジャングルに、華麗にとどろく雄叫びは？　出ました、見せます、野性の叫び。そう、ミンキーモモ、スーパーヒーローに挑戦。ア〜アア〜のターザンです。でもねえターザンって、どうしてア〜アア〜しかいわないのかしら？

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「密林の王者」。ア〜アア〜。こればっか。発声練習しとかなくちゃ♡



クレタ
動物を友とする代表的ジャングル少年。この少年のおかげでモモのターザン姿が見れた。感謝！

20 密林の王者

パパが、動物の健康診断にアフリカへ出かけるらしい。「アフリカだって！　ジャングルだって！　ね、みんな♡」パパに内緒で、モモたちもアフリカへ遊びにいくことにする。

アフリカに着いたモモは、クレタという少年と仲良しになり、村へと案内された。動物の健康診断をするパパをこっそりのぞくモモ。「うーん、女の視線♡」とパパ。

だがそのころ、村の周辺で**残酷な狩り**を行っていた。クレタのかわいがる黒ヒョウのアントンも、後足を撃たれ、けがをする。

「ひどいやー、ここらで動物狩りは禁止されてるのにー！」と怒るクレタ。モモは動物保護官に変身すると、密猟者たちを追い払った。

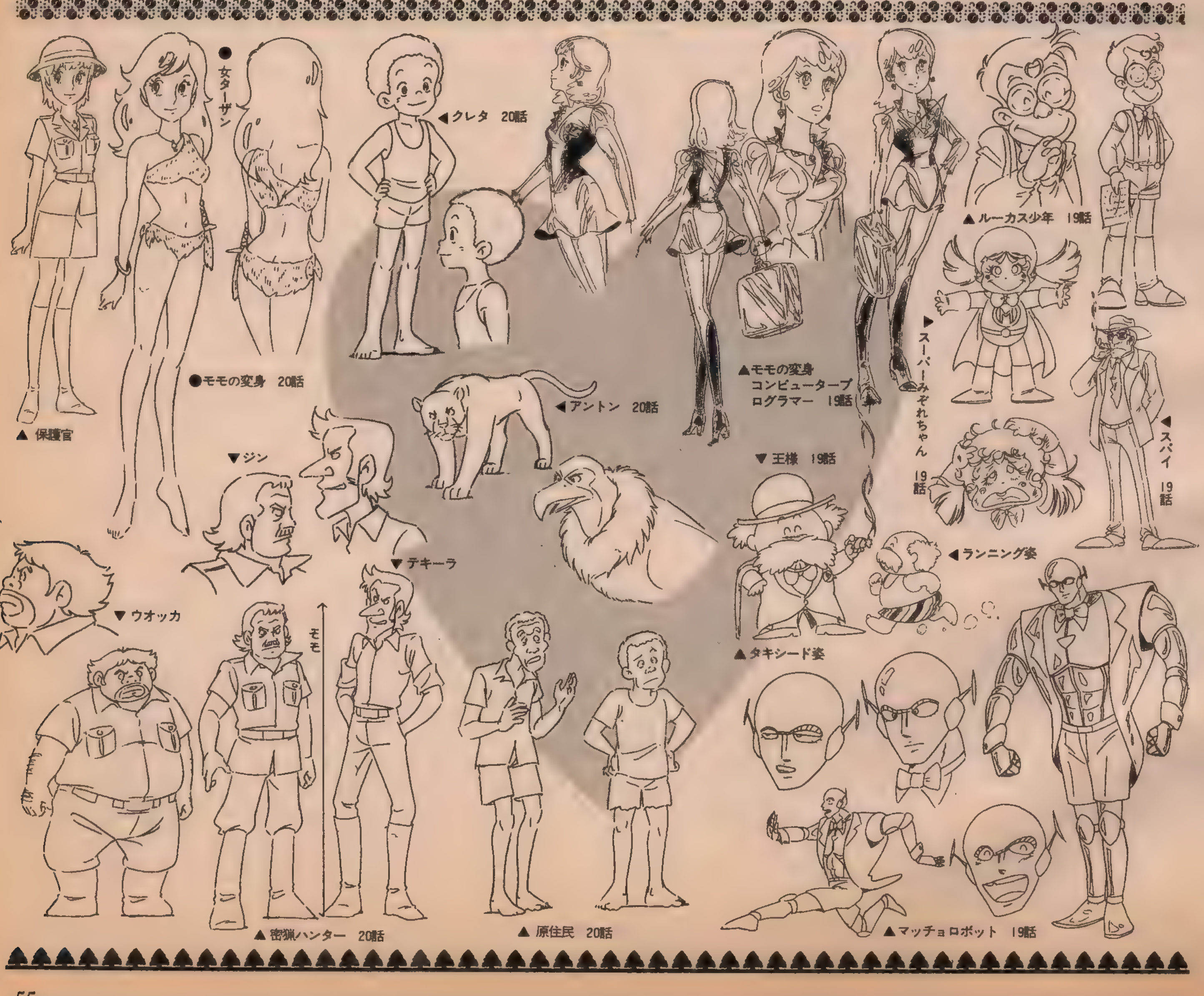
だが密猟者たちは逆に、サバンナから保護官のいないジャングルへ入り込もうと企み、クレタを脅して道案内をさせるのだった。アントンから知らせを聞いたモモたちは、密猟者たちを追う。「シンドブック、ジャングルで一番強いのは？」モモ、なんとターザンに変身！

密猟者たちはターザンモモの出現に驚き、クレタを人質にモモをしばろうとするが失敗、車で逃亡する。だがモモが岩に上り**「アーアーアー！」**と叫ぶと、その雄叫びに呼応して動物たちが集まってきた。大破した車を前に動物たちの大群に取り囲まれ、自らオリの中に逃げ込む密猟者たち。グルメポッポで帰るモモを動物たちが見送る。

ジャングルの平和は守られたのだ！

極秘指令。重要機密をミラノからパリまでオリエント急行にて運ぶべし。諸君の身近になにがおころうとも当局はいっさい関知しないからそのつもりで。なお、このテープは15秒後に消滅する。そーです♡　ユア・アイズ・オンリー。あなただけにお見せします。スパイの世界。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「00（ゼロゼロ）モモ危機いっぱい」。シュルシュルシュルシュルシュル…これ、テープの燃えた音。アチチッ、火遊びには気をつけよう！



Character

21 00(ゼロゼロ)モモ危機いっぱい

ジェイムズ・ギブミー
カッコウだけは、まあまあなんですけどね……キザも度を越えるとイヤミでしかないんですよ。

ママのいいつけて、モモは三丁目のボワロ博士にペンギンのクシャミのエキスを届けることになった。ところが、いってみると博士は留守で、イタリアのミラノまできてくれと電話が入る。グルメポッポはミラノへ向かうが、またもや博士は不在。国際犯罪組織スルメッチに狙われ、すでにパリに逃れたらしい。どこかの情報部のミラノ支部に助けを求めるよう指示を受けたモモは、**00(ゼロゼロ)モモ 秘密情報部員**に変身する。カバンの秘密兵器を三匹に披露するモモ。「夜店のたたき売りみたい」とシンドブックがいう。「ドコカのドはドーナッツのド」「ドラネコ踏んだらおろろいた」無事情報部に接触したモモに、秘密兵器つきのまっ赤なスーパーカーが与えられた。ジュネーブで応援の情報部員と合流し、パリ行きの夜行列車に乗れというのだ。急ぐモモに追手が迫る。「どうやら見つかっちゃったみたいねえ。見せ場はこれからよ」激しいカーチェイスのすえ、秘密兵器で敵を振り切る00モモ。

ジュネーブではギブというキザな情報部員が待機していた。列車に乗り込む二人。「でもどうしてペンギンのクシャミのエキスなんかで、こんなに大騒ぎになるの?」モモの質問にギブは、エキスには熱帯に雪を降らせる働きがあり、スルメッチはその利益の独占を狙っているのだと答えた。ギブとカードを楽しむモモ。だがそのころスルメッチは、トンネルの向こうに**戦車**で待ち構えているのだった。

00モモ危うし!

ヤバシ、ダブルヤバシ、トリプルヤバシを乗り越えて、00(ゼロゼロ)モモはついにパリに。『フロム・パリ・ウィズ・ラブ』パリから愛をこめて…な〜んちゃって、ロマンチックにハゲムひまなんてありません。

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「00(ゼロゼロ)モモは勝利の暗号」。しかし、闇にうごめくスパイにとって本当の勝利などあるのか? サブタイトルなんてあてにならないミンキーモモ、はたして…。

22 00(ゼロゼロ)モモは勝利の暗号

ボワロ博士
悪の組織スルメッチに狙われる天才科学者らしいのだが…、あまり重要人物には見えなかった。

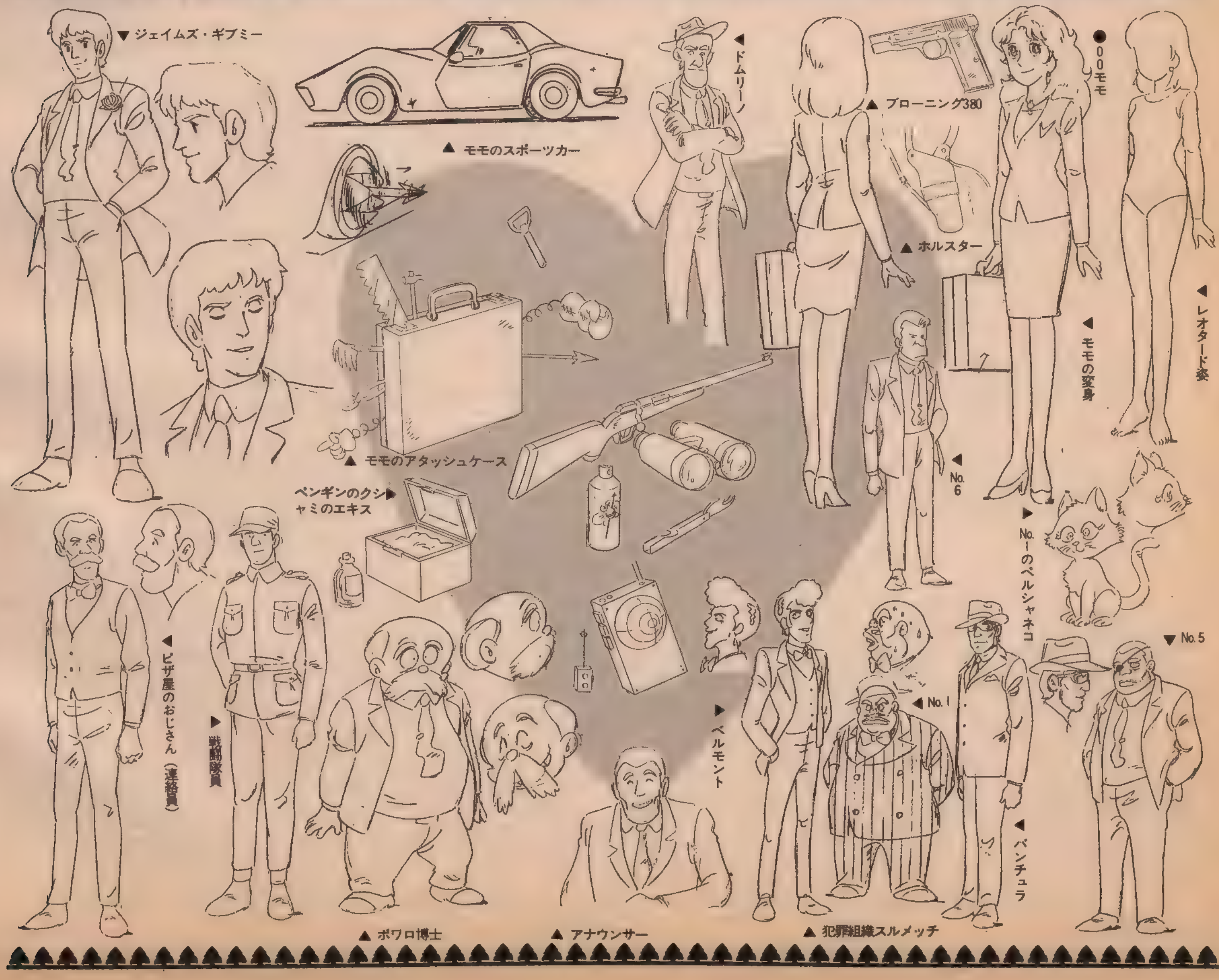
スルメッチの待ち伏せを知ったグルメポッポから、ピピルが伝令に飛んだ。ギブはひとり用ロケットを取り出すが、小さ過ぎて使えない。そこでモモは子どもにもどり、ロケットで上空のグルメポッポへ。「さあ、グルメポッポの**秘密メカを出すわよ!**」

「えーっ、そんなものあったのかい!?」「なぜかあるのよね。それ!」グルメポッポからたくさんのプロペラ付き吸盤がばらまかれ、列車の屋根に吸いつくと、列車は離陸! 敵の上空を通過した。敵は戦車で砲撃するが、弾はみな列車には届かず山に当たり、崩れる岩が戦車を押しつぶす。「でもさ、この程度じゃ迫力ないわよねー♡」とモモ。

パリに着いたモモたちは、駅を出たところでまたもスルメッチに囲まれた。「ホントにしつこいんだから、もう!」だがボワロ博士と三匹を人質に取られては、従うよりない。モモたちはエキスを取り上げられ、スルメッチに監禁されてしまう。ギブは発信機で情報部の戦闘隊員を呼び寄せるが、モモは「ただ助けを待ってるだけじゃ00モモの名がすたるわ」と扉を爆破、博士たちを逃がすとエキスの奪還に赴くのだった。ひとり乗りヘリで逃亡したスルメッチのナンバーワンを追って、モモもひとり乗りヘリに乗る。壮絶な空中戦のすえ、一度はエキスを取り返したモモだが、執ように追ってきたナンバーワンとの格闘でエキスはセーヌ河に。河はあっという間に凍りついてしまう。

「ペンギンのクシャミのエキスってすごいのねえ」どたん場の失敗で、モモのペンダントは輝かない。二話にわたる努力も水の泡となってしまった。

心から愛しあう夫婦がいた。そして、かわいくやさしいひとり娘も。幸福な家庭に忍び寄る不信の影。ひとり娘は、ふたりの夫婦の本当の娘ではなかった。しかもその秘密を握る男は、ママを愛し始めた…。こりゃ、お昼のメロドラマか!? いえ、次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「ころがりこんだ王様」。マジに予告をしゃべってみてもマジにいくわけないのよね。あ〜、まぶたの父よ…。



23 ころがりこんだ王様



あの王妃様にかわいがってもらえるとは……なんともうらやましい恐竜さんですよね。

ある日突然前ぶれもなく、フェナリナーサの王様がモモのところへやってきた。「わし、きょうから地球で暮らすことにしたんだばさ！」

何事が起きたのかと驚きあわてるモモ。王妃様が、ペットのドッシーをあまりにかわいがるので、相手にされない王様はすねて宮殿をとび出し、あやまって地球に落ちてきてしまったのだった。「わし、もう決めたんだばさ。この地球で

あったかーい家庭

を作るんだばさ♡」「だれと？」「ペットショップのママさんとだばさば！」あきれ果てるモモたち。でも王様はすっかりソノ気であった。

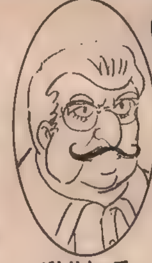
さて、千年ぶりに地球を訪れた王様、世の中の変わりようについてゆけず、ジュースの自動販売機を泉と勘違いしたり、銀行からただでお金を取ってこようと考えたり、奇行が絶えない。また、魔法で映画のなかの人物をとび出させて楽しむなど、いたずらもやり放題。モモは、世話のやける王様を早くフェナリナーサへ帰そうとするが、王様は帰るどころか、ママにプロポーズしようとした。それを見たパパはすっかりやきもち。ママと口ゲンカを始めてしまう。ケンカするほど仲の良い二人に、王様は自分の負けを認める。

「失恋だばよ…」

王妃様のことが急に恋しくなった王様。フェナリナーサへ帰りたいが、どうすることもできない。そこへ、王妃様がイカロスの翼を送ってくれた。王様はそれを身につけ、モモに別れを告げると、フェナリナーサへ向けてはばたいていった。

> アッ！ アッ！ アッ！ 気がついてみたら、大変です。きょうでとうとう連続3回もペンダントがつきません。これじゃ4回に一度でしょう…毎月の誕生石、ハッピーティアが月遅れになっちゃいます。あわてず、急げ、ミンキーモモ。さて、次回は、幻のユニコーン、一角獣の登場です。魔法のプリンセス ミンキーモモ「さすらいのユニコーン」。人のやさしさを求め、さすらうユニコーンに幸せをプレゼント。今度こそ、やらねば！
> (サブタイトルのみ／12歳のモモ)

24 さすらいのユニコーン



ユニコーンは夢の象徴。でもそれをお金で買って、ひとり占めしようなんて……よくありませんよ。

森で見つけた傷ついた一頭のユニコーン。ペットショップに連れ帰り介抱するが、警戒心が強く、モモ手製のお花のサラダもなかなか食べてくれない。「モモ、負けない、めげない、がんばるもん！」

ところがそんなモモの気持ちをよそに、ユニコーンは脱走してしまう。「キャイーン、町は大騒ぎ！」モモはユニコーンを見つけ出すとわけを尋ねた。「ユニコーン語よわかれ！」ユニコーンの名前はマイルといった。「ぼくは、ぼくは……この世で最後の、ひとりぼっちのユニコーンなんだ」マイルは仲間を捜していたのである。

話しているモモたちを謎の男たちが襲った。強引に連れ込まれた飛行船のなかのお花畑には、なんと一頭の雌のユニコーンが！ 飛行船の主ベリリッチは大金持ち。見世物小屋で拾ったティアというそのユニコーンの仲間を捜して、世界中を旅行しているのだった。モモはティアからユニコーンの住む谷の話を聞き、ベリリッチに伝えるが、彼は信じない。マイルたちはガッカリ。

「あー、ノン、ノン、ノン。ユニコーンが

夢と希望

をなくしちゃいけないわ♡」モモは、魔法の女王様に変身すると、ベリリッチの夢枕に立ち、ユニコーンの谷に導いた。モモのことばを信じた彼は、飛行船で一路ユニコーンの谷へと向かう。「さあ、いきましょう、

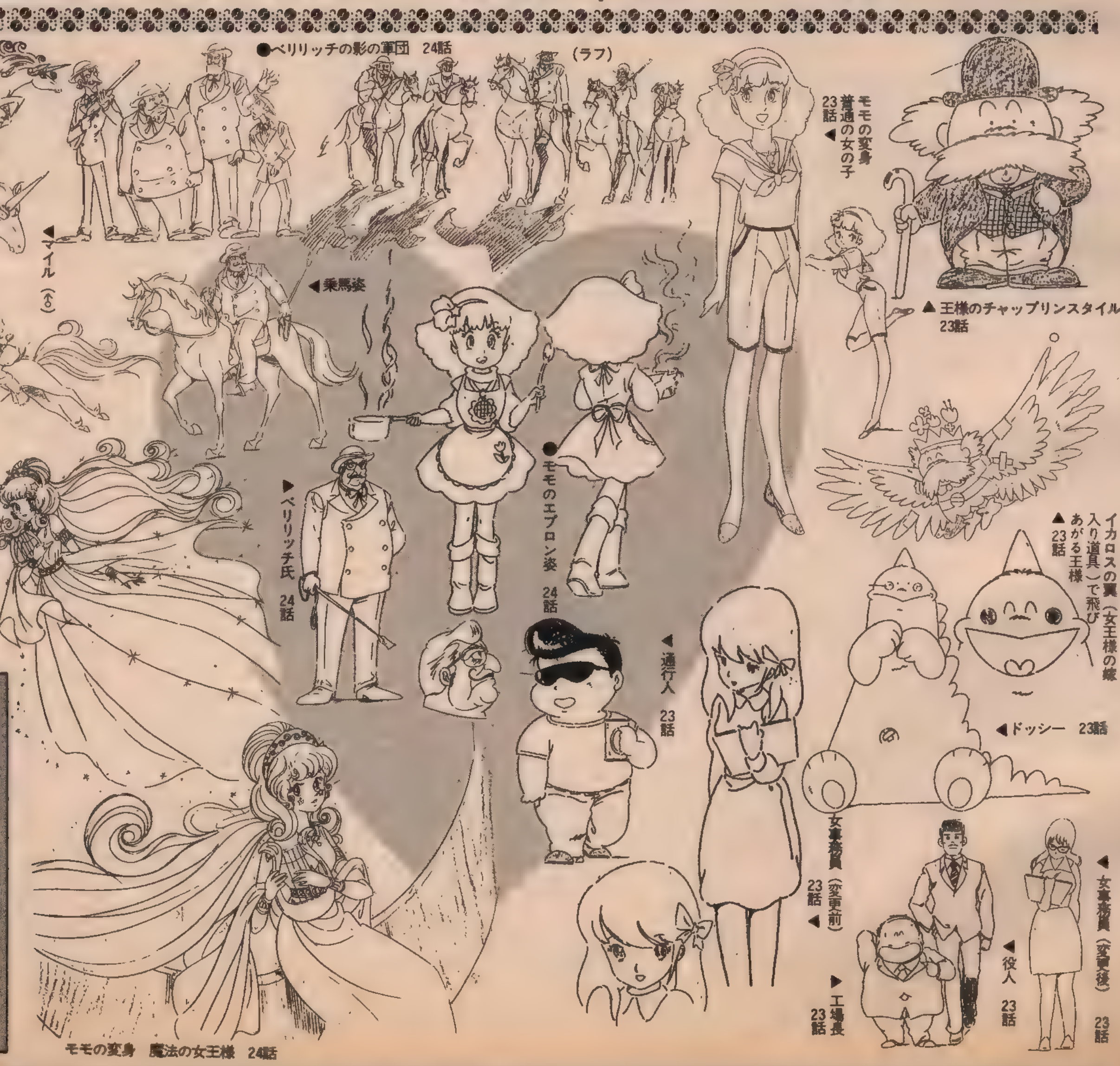
ユニコーンの谷へ。

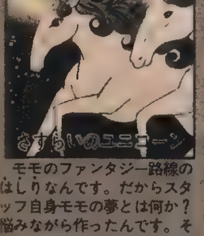
ワタシ信じますよ、夢も希望も、そしてユニコーンの谷もね」

ユニコーンの群れる美しい谷。仲間と戯れるマイルとティアの姿を見て、満足そうに微笑むベリリッチであった。

> ハ〜イ♡ ミンキーモモです。きょうはまった宝石は、8月の誕生石、サードニクス。意味はね『夫婦の幸せ』マイル、ティア、お幸せに。さ〜て次回は、投げます、打ちます、野球狂の詩。勇気をもってやっちゃいます。とーちゃん、俺はやるぜ！ いつかきっと、どこかの星になるんだ！ ピンクのオーバースロー♡
> 次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「がんばれミラクルズ」。君のハートにウイニングボール、決めるのあたしだもん♡







モモのファンタジー路線のはしりなんです。だからスタッフ自身モモの夢とは何か？悩みながら作ったんです。そういう意味で、あれはとまどいのなかで描いたコンテでしたね。 (石田昌平氏談)

Character

25 がんばれミラクルズ



サキ

女の子だからってなめないでよね。野球だってこなしてしまう、サキはつよーい女の子！

テレビでプロ野球の試合を観てはしゃぐママ。野球をやりたくなったモモは、近所の草野球のチームにいき、入れてくれとたのむが、女の子だからと相手にしてくれない。

「女には野球ができない」

なんて、時代遅れもいいとこよ！」と、突然現れたおねえさんは、ピッチャーと勝負すると、こてんぱんにやっつけてしまう。「カッコイイ♡」モモはおねえさんにたのんだ。「ねえ、お願い。あたしに野球を教えてちょうだい」

おねえさんの名前はサキといった。野球ファンの父親が彼女に野球を教えたのだ。サキのチーム、ミラクルズは、野球の好きな女の子たちばかりが集まって作ったチームだったが、まだキャッチャーがいなかった。モモは魔法で野球選手に変身し、ナインに加わる。

しばらくしてプロ野球チームのドコカーズが、ワールドシリーズ優勝の記念イベントにとミラクルズに試合を申し込んできた。弱気のみんなを励ますモモ。「みんな聞いて。勝ち負けは問題じゃないはずよ。大事なことは、女でも男と同じように野球ができるってことをみんなにわからせることだと思うの」

試合の日、ミラクルズはサキのスピードボールとモモのバッティングで善戦した。

九回裏、

肩に打球を食らい、投げられなくなったサキの代わりにモモがマウンドに立つ。

「みんな、あたしを信じて！」

バックに炎をしょったモモ、根性の豪速球に、相手打者のバットが砕ける！ モモたちは勝ったのだ。

ハ～イ♡ 女の子なら誰もが一度は夢みる花嫁姿。とうとう、あたし、着ちゃいます。ウフフッ…ていってもね、ロマンチックじゃないのよね。フェナリナーサから脱け出した怪物相手に、ウエディングドレスふりみだしての大活躍。

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「妖魔が森の花嫁」。なにやら時代劇風で、オドロオドロとやっちゃいます。あ～あ、せっかくの花嫁姿、どうしてこういう話になっちゃうんだろう？ 考えてほしいなァ…。

26 妖魔が森の花嫁



エリカ

幾多の試練を乗りこえて、やがておとぎ話の姫君はハンサムな王子様と出会うのです。お幸せに♡

パパが仕事にいったきり、帰ってこない。心配したモモは、パパを迎えにいくことにした。グルメポッポは一路グリーンランド山脈のヒル村へと向かう。村に着いたモモは村人のようすがなんだかおかしいのに気がついた。パパも、モモのことばにうわの空である。

パパが沼の古城に入っていくのを見たモモは、「パパに会わせて！」と城の主に迫るが、冷たく追い返されてしまう。「みんな伯爵のせいだ」「あいつが化物を連れてきて、村のおとながおかしくなったんだ」と村の男の子たちはいう。事情を聞くと、領主の伯爵は魔力で村人を意のままにし、村で一番美しい娘を

怪物ウラヌス

の花嫁として差し出すよう強要しているらしい。「へえ、メッチャクチャな話ねえ」

モモは花嫁エリカとのすりかわりを計画、魔法で花嫁に変身する。「バケモンにゃもったいない」と目を細めるシンドブック。「ありがとうみなさん。モモはいまからお嫁に参ります。ハハハッなーんちゃって♡」

血のように、赤い沼。

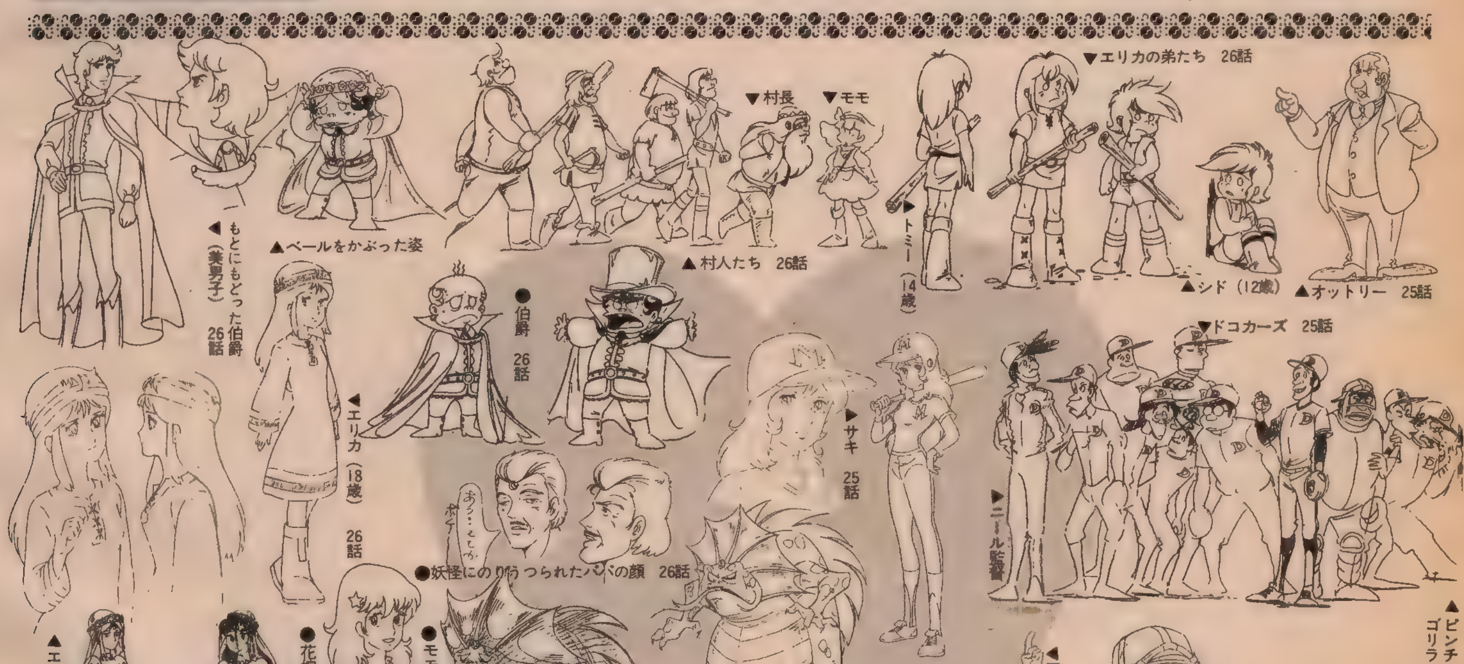
ウラヌスがこつ然と姿を現した。三匹は、グルメポッポでウラヌスを引き揚げようとするが失敗。グルメポッポをかじったウラヌスは、虫歯を痛めて怒り狂う。と、そのとき、モモの投げるステッキがウラヌスの額の宝石を割った！ ウラヌスは倒れ、人々にかけられていた呪いも解ける。ウラヌスに操られていた伯爵も、もとの姿へともどるのだった。

晴れてパパと帰るモモは、結婚も間近いという伯爵とエリカを見ながら思った。

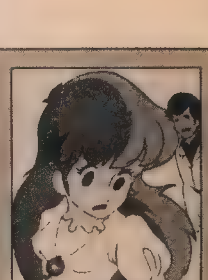
「なんだかちょっぴりうらやましいみたい♡」

ハ～ッ、肩こった。ウエディングドレスって走りにくいのよね。アッシにはイマイチ早いのかな？ さて、ミンキーモモ、世界の七不思議に挑戦！ 不思議はいろいろあるけれど、魔の三角地帯、どこかのトライアングル登場です。突然消滅する船や飛行機。なんと異次元空間を抜け、フェナリナーサに通じていた…。

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「魔のトライアングル」。気分はほとんどSF…かな？







初めての作監作品でしたからね。葦プロの加藤(博)さんが、ためしにやらせてみようかって感じで…そしたらその途中で新婚旅行にいっちゃったから……いま考えると冷や汗ものですね。（渡辺浩氏談）

27 魔のトライアングル



チャコ
ポンミューダで行方不明になった父を、岸壁の母よろしくジッと港で待っていた消極的な女の子。

大西洋のポンミューダ島を囲む三角形の海域で、貨物船が消息を絶った。そこは、昔から多くの船舶が遭難している**「魔のトライアングル」**だという。「ミステリーはモモを呼ぶ！ね、みんないっちゃおー」

グルメポッポでポンミューダ島に着いたモモたちが見たのは、波止場でひとり海を見つめる少女チャコの姿だった。話を聞くと、行方不明になったおとうさんの船を待っているのだという。「待ってても始まらないって。いくべし！」とモモは、チャコを沖に誘った。

観光用の帆船。モモたちは留守番の少年をからかって船を出させることに成功するが、突如現われた**海賊船**の砲撃に大パニック。「このままじゃ、おだぶつだよ〜」とモチャーが叫ぶ。モモは海賊退治の船長に変身し舵をとるが、帆柱が折れて絶体絶命！ すると突然空から不思議な光がさし、モモの船は空間の裂け目へと吸い込まれてゆくのだった。ボーゼンと見送る海賊たち。

気がつくと船は霧の湖にいる。「ここは…？」とあたりを見まわすモモの前に、なんと、フェナリナーサの王様が、現れた。フェナリナーサと魔のトライアングルは、**異次元空間**でつながっていたのだ。父親と再会したチャコは大感激。モモは魔法で帆船を修理する。「地球じゃききめのなかったモモの魔法も、ここじゃすごい威力じゃ」

「これが実力です♡」

そして、魔法でパワーアップした空飛ぶ帆船とモモの活躍で、海賊たちも退治され、海には平和がもどるのだった。

さあ飛ばせ！ 信号無視、パトカー無視！ 年に一度、どこかの町の暴走レース。このあたし、心ならずもまきこまれちゃって、こーなったらやるしかないモン。ヨーシ！

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「激走タマゴレース」。モモはやります！ なに、パパもやるの!? えっ、ママも飛び入り!? 一家そろって大暴走！ みなさん、スピード厳守、安全運転を心がけましょう。ちょっとシラジラしいか…。

28 激走タマゴレース



メロン鳥の妻
今回はモモよりもママに救われた、メロン鳥のタマゴ。どこの世界でも、母は強し！ってところ？

世界に二羽しかいないメロン鳥の卵を、あそこの動物園に届けるモモとパパ。ママは連れていってもらえず残念そう。

パパが卵を割らないようにゆっくり運転していると、突然後方から猛スピードの車の一団が現われ、危うくモモたちとぶつかりそうになる。運の悪いことにその日は、どこかの町からあそこの町までの、**「警察なんかクソクラエレース」**が開かれていたのである。モモたちは先を急ぐが、更に運の悪いことに、レース参加者と間違えられパトカーに逮捕されてしまう。パパのいい分をまったく信じない警官たち。「あんなの相手にしてたら来年になっちゃう」モモはトイレでプロドライバーに変身、消えたモモを捜して警官が出払ったすきに、モモに頼まれたとパパを連れ出す。そのころ、パパの危機を知ったママもバイクであそこの町へと向かっていた。「パパ、モモ、待っててね」

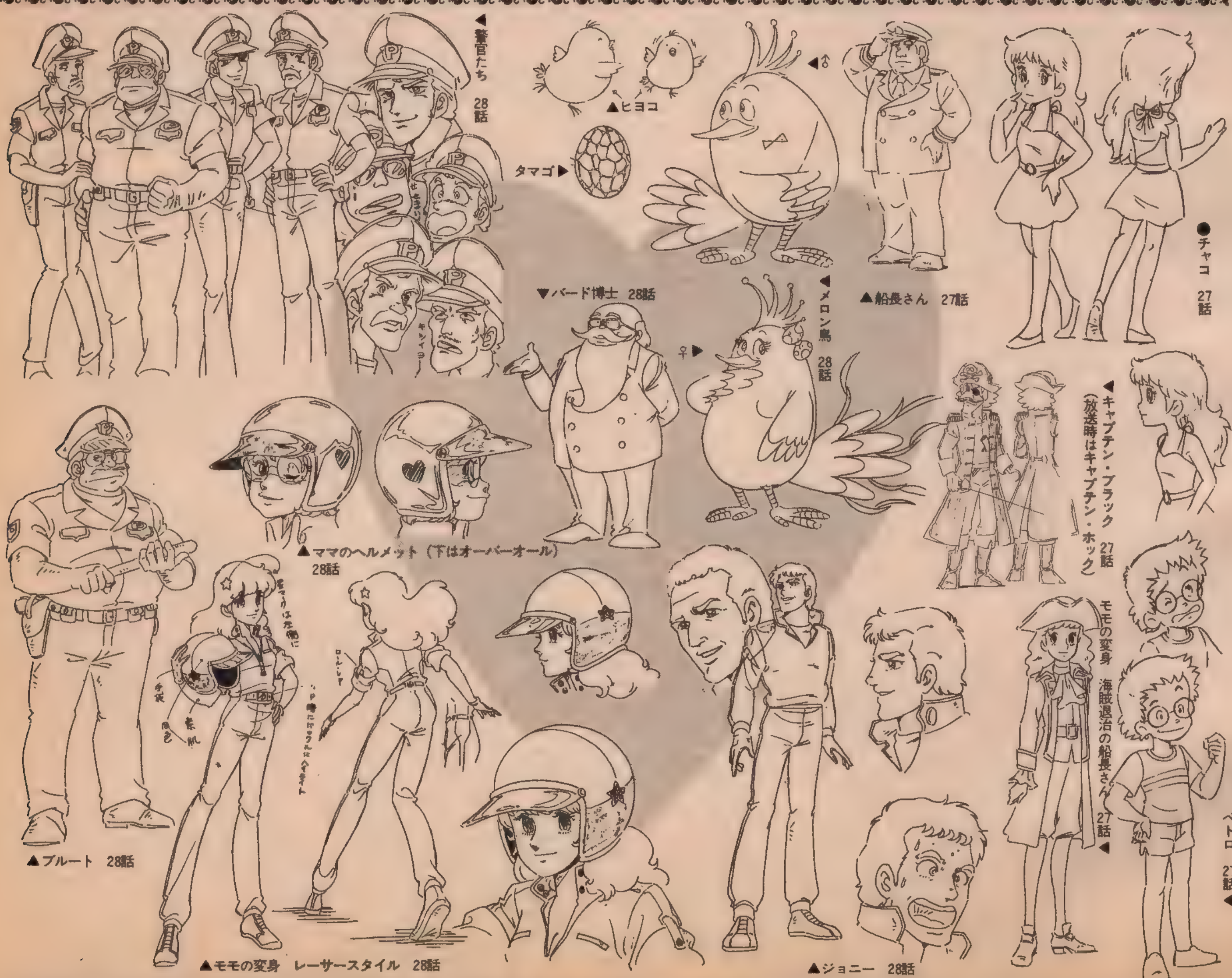
逃げるモモたち。追うパトカー。やがて動物園のバード博士からパトカーに、モモたちの無実が伝えられるが、モモは追ってくるパトカーが今度は卵を守る命令を与えられていることなど知らないから、必死で逃げる。モモがレースの車を追い抜くと、彼らまでがモモをレース参加者と思い食い下がってくる。

「どうしてあたしがなにかやると、大騒ぎになるのよ、もう！」

大混戦のすえ、重油をかぶりブレーキのきかなくなった車は動物園へ突っ込む。「いやあーん、止まらなあーい！」車はワニの池へ。だがかけつけたママが、池に落ちそうになる卵を空中でキャッチ！ 卵は守られたのだった。

ピーポーパーポーピー。We are not alone. 宇宙にいるのは我々だけではない。そりゃそうですね。空のかなたにはフェナリナーサの住人が生きていますもの。でもね、次回は、フェナリナーサの王様もびっくり。現れちゃったんです。本物のUFOが…乗っているのはエイリアンか、UFOか!?

魔法のプリンセス ミンキーモモ「UFOがやって来た」。夜空を見上げ、星に願いを。きっと会えます、あなたにも。ねっ♡



Character

29 UFOがやって来た



トニー
UFO好きの少年ならば、一度はみたい本物のUFO。トニー君はその夢がかなったわけです。

月夜の晩、千年ぶりに目覚めたフェナリナーサの空中宣伝カーが、モモを訪ねて地上にやってきた。モモはいまの地球の事情を説明して、宣伝カーに帰ってもらうのだった。

数日後、モモは、**UFOを見た**いとい張るトニー少年と知り合った。トニーが見たのは宣伝カーに違いない。友だちにうそつき呼ばわりされるトニーを見て、モモは責任を感じるのだった。

両親のいないトニーはおじいさんと二人暮しだった。かわいい孫が仲間はずれにされていると知ったおじいさんは怒り、トニーのためにUFOを作って飛ばすが、UFOは墜落、おじいさんも姿を見られてしまう。「おじいちゃんのバカあ！」おじいさんも結局自分を信じてくれなかったのだと、トニーは悲しむ。モモはトニーに、おじいさんを悪く思わないよう説き聞かせるのだった。「だってさあ、トニーがUFOのことで仲間はずれになってるって、それだけのことでUFO作ってくれたおじいさんよ。そんなステキなおじいさんて、サンタクロースもマッツァオってカンジ♡」

トニーのために、今度はフェナリナーサの王様が、宣伝カーを地上に派遣した。だがトニーは、自分の見たUFOとは違うといい張るのだった。困ったモモは、死んだママがお星さまになったことを宇宙人が知っていればトニーの心もなごむだろうと、宇宙人に変身してトニーに会いにいく。喜ぶトニー。

だがそのときトニーの耳に、不思議な信号が走る。

「友だちがきた！」飛び出すトニーを追って裏山に出たモモは、そこで本物の、巨大なUFOと遭遇するのだった。

♬は〜るばるきたぜフェ〜ナリナ〜サ〜…ひひっ、なんて話じゃありません。科学の粋を集めたスペースシャトルが、なんとフェナリナーサに不時着。ついに人類は夢の国と本格的に接触なるか!?

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「ふるさと行きの宇宙船」。宇宙飛行士いわく、この人間の小さな一歩は人類にとって大きな飛躍なのだ…。たまにはマジな予告もいいもんだな〜や。

30 ふるさと行きの宇宙船



マッチ売りの少女
ご存知代表的悲劇の少女。ボーマンに宇宙服をもらい、凍え死ぬことなく元気にマッチを売り続ける。

きょうはスペースショッテルの打ちあげ日。モモたちも見物にいくが、モチャーが実験動物と間違えられてショッテルに送られるというハプニングがおこる。なにも知らないモモは、モチャーを捜そうと女性宇宙飛行士に変身するが、ショッテルの搭乗員と間違えられ、船長のところへ案内されてしまう。船長のボーマンは、実は大のおとぎ話ファン。いまも部屋で、「マッチ売りの少女」を読んで泣いていたのだが、部下たちの手前「出発前の緊張をやわらげるには、アホなおとぎ話が一番だ」などとごまかすのだった。

ロケット発射！　ショッテルは無事大気圏を脱出。ところがモチャーたちのせいで、ショッテルのメカがメチャメチャに。半狂乱となった船長は気絶してしまう。モモにしてもこのままでは地球に帰れない。「そうだ！　フェナリナーサへいきましょうよ。魔法ならどんな修理も簡単よ♡」ショッテル着水。だが意識を取りもどした船長はそこを地球だと思い込み、モモの説明にも耳をかさない。「からかうのはいいかげんにせいよ、もう。そりゃな、どうせわしはおとぎ話の**ミーハーおじさん**ですよだ。しかしながら、現実とおとぎ話のさかいぐらい、ちゃーんとわかってんだい！」しかし船長もロック鳥やドラゴンの実物を見て、ついにフェナリナーサの存在を信じるのだった。大感激の船長。そのうえ、記念に王様が願いごとをかなえてくれるという。

——雪の降る街角。船長はマッチ売りの少女からマッチを全部買い、暖かい宇宙服を着せてやる。「こんなにやさしくしてもらったのはじめて♡」少女のことばに長年の望みをはたした船長は、喜んで帰っていくのだった。

ついに出た。南海の孤島に眠る伝説の巨大メカ・ミンキナーサ。そして、いまあかされるフェナリナーサの王妃の過去。モチャー、ピピル、シンドブック、発進だ。合身GO！次回、戦国魔神…じゃなかった、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「よみがえった伝説」。なにやら、ワクワクドキドキで、See you again♡…いいんですか、こんなことといっちゃって…。



31 よみがえった伝説

ゴッドスルメッチ
典型的やられメカ。ミンキナーサも結構弱かったので、いい勝負をしていたが、安心して戦えるタイプ。

テレビで自分たちそっくりの石像を見たモモと二匹は、さっそくその像のあるホレホレ島へいってみることにした。実はこの石像、大昔まだ子どもだった王妃が侵略者の手からこの島を救い、それをたたえて島民たちがつくったものだった。

そのころ、この島を買収しようとして断わられたスルメッチは、カンカンに怒って島への攻撃を始めていた。島民は島を守るため、すぐに槍をとった。そこで、モモも負けてはいられない。兵隊に変身して戦いを挑んだ。しかし近代兵器の前に、モモたちは活躍する間もなくケチョンケチョンにやられてしまう。おまけにスルメッチは潜水艦を分離合体させて、ロボットにしてしまった。このままではこの島に明日はない！ 伝説の女の子よ、長き眠りからよみがえりて再び島を救いたまえ！

そのとき石像の表面が光り輝き、四機のメカが現れた。これぞまさしく、伝説の**合身人形**だ。「ミンキーモモ・スペシャルメカ、合身!!」四機のメカは変型合体して巨大ロボ、ミンキナーサになった。スルメッチたちは、一度はたじろぐものの、「パワーはこちらのほうが上だ」と、ミンキナーサをつかむと、力まかせに振りまわすわ、投げ飛ばすわで、さすがのモモも苦戦をしいられる。だが、そこはヒーローメカ。ちゃんと決め手があった！ 取り出したるは、輝くミンキーサーベル！その一撃で、一挙に形成は逆転、あわれスルメッチメカは空中でバラバラ。

こうして、戦いは終わった。島民の伝説を**信じる心**が悪の力に打ち勝ったのだ。モモたちを見つめる人々の心は明るかった。

考えちゃうなあ…ホントに最近考えちゃいます。いったいワシャアどういう番組に出とるんじゃろ!? 確かミンキーモモはさあ、女の子向けのお話だったハズなのにね。ところが今回の合身メカに続いて、なんと次回は大怪獣登場。

魔法のプリンセス ミンキーモモ「大きすぎた訪問者」。母をしたって三千里。涙なしには見られない、愛の怪獣ドラマ…ですって。なんのこっちゃ、いってる本人もわからんたい…。

32 大きすぎた訪問者

ジミー坊や
ミス湖の怪獣夫婦の一粒種。母を求めさまよう姿はマルコだが、最後はどーみてもキングコング！

ある日海岸に、**怪獣**が打ちあげられ、その研究チームを作るために、パパにお呼びがかかった。自分のことばかり考えている教授陣のなかで、パパはひとり親身になって弱った怪獣を診察するのだが、病名がわからない。そこでパパについてきたモモがみんながいなくなるのを待って、魔法で話を聞いてみる。彼女はミス湖に住む怪獣ミッシーのサマンサといい、ひたすら息子のジミー坊やに会いたいとくり返すばかりだった。サマンサのためにミス湖に向かったモモは、彼女の夫ジョンとジミー坊やに会うが、話を聞くなりジミーが飛び出してしまったからさあ大変！ なにしろ**坊や**といっても、ジミーが一番**巨大**なのである。

さっそくジョンを連れて先回りをしたモモは、考古学者に変身。サマンサをミス湖に返すように教授陣を説得するが、「あんな貴重な研究材料を、おまえなんかに渡してたまるか」といってちっとも聞き入れない。

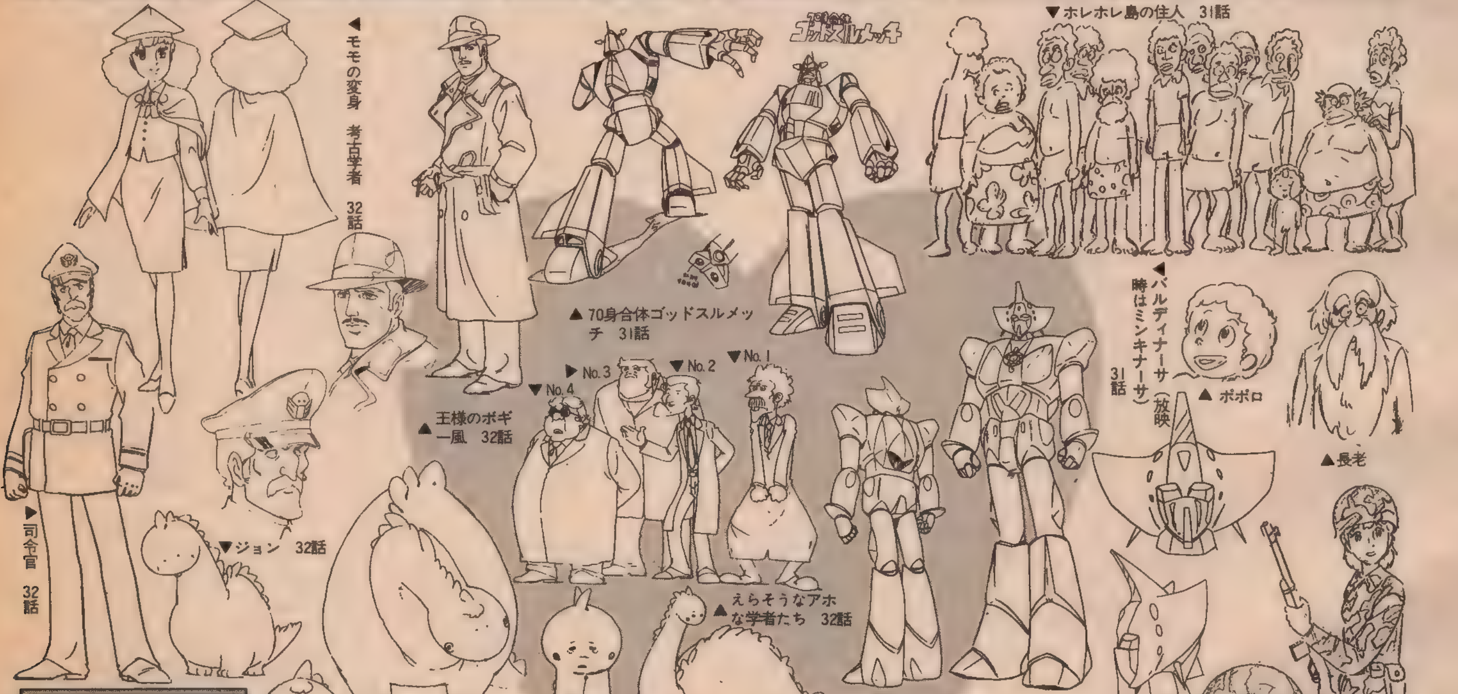
一方、町にジミーが現れたため、案の定町は大騒ぎ。モモがかけつけたときには、ジミーは戦車にとり囲まれ、石油タンクの上に追いつめられていた。モモはなにに変身しようかと悩んだあげく、そのままの姿でタンクを登りジミーの楯となった。そこへ「動物保護協会に訴えたんだ。大丈夫、すぐに攻撃中止命令が出るぞ」というパパの声が…。ところが、その命令がちょっと遅れたためヘリが発砲し、ジミーはあわや転落。そのとき、ジミーを救う一筋の光が…。そう、フェナリナーサの王様が、魔法で助けてくれたのだった。

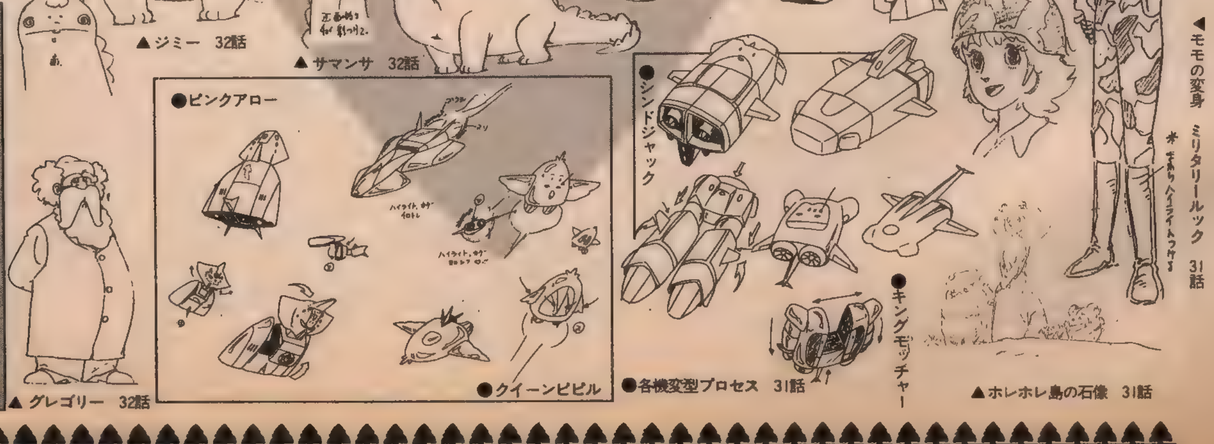
こうして、事件は丸くおさまり、ミッシー一家は元気にミス湖へ帰っていった。

降りしきる雪。さまよう二人。北国の春は遠い。ふたりの愛にあすはあるのか？ 愛に国境はない。たとえそれが動物であっても、機械であっても。メカは友だち、いや、メカは恋人。今世紀最後のSF恋愛巨編。

魔法のプリンセス ミンキーモモ「アンドロイドの恋」。人にはそれぞれそれなりの愛の形がある。ああ根暗にマジに迫るのです。

な〜んちゃって…。





◀モモの変身 考古学者 32話

▲70身合体ゴッドスルメッチ 31話

▼ホレホレ島の住人 31話

◀バルディナーサ(放映時はミンキナーサ) 31話

▲ポポロ

▲長老

▶No.1 ▶No.2 ▶No.3 ▶No.4

▲王様のボギー風 32話

▶司令官 32話

▼ジョン 32話

▲えらそうなアホな学者たち 32話

▲ジミー 32話

▲サマンサ 32話

●ピンクアロー

●シンドジャック

●クイーンビビル

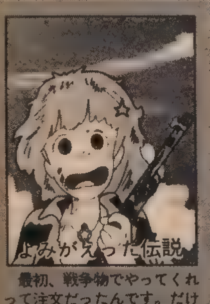
●各機変型プロセス 31話

●キングモッチャー

◀モモの変身 ミリタリールック 31話

▲ホレホレ島の石像 31話

▲グレゴリー 32話



最初、戦争物でやってくれって注文だったんです。だけどモモが強力な戦士になったらどうしても人を殺さざるを得ないでしょ。それはさせたくない。で、でてきたのがあの形だったわけ。(戸田博史氏談)

Character

33 アンドロイドの恋

ナナ
天才技師ライアンの運命を狂わせた人造美女（アンドロイド）。この手の女（タイプ）はまた別の男をひっかけては……うう恐い。

モモとママは、雨のなかを追われている若いカップルを泊めた。二人の名は、ライアンとナナ。だがなんとナナは、技師ライアンの造った、**アンドロイド**だった。さらに強いアンドロイドに造り変えるべく、ナナを解体せよとの社長命令にそむいて、二人で逃げてきたというのだった。

翌朝、ライアンは自分がアンドロイド泥棒として指名手配されていることを知る。モモたちに迷惑がかかることを恐れたライアンは家を抜け出し、ナナとともに故郷である北国村へと向かった。しかし、そこにもすでに警察の手が…。逃げ場を失ったふたりは、吹雪の吹き荒れる山の中へ。「いこう、二人だけの世界へ……」二人を心配して追ってきたモモは、山岳レスキュー隊員に変身し、二人を救出しようと説得にあたる。「でも僕らには、もういく場所がない」モモは叫んだ。「あるわ！**フェナリナーサ**よ」

「フェナリナーサ？」「そう、あそこよ。ライアン見て！　あなたなら見えるはずだわ、ナナを愛せる**あなたなら!!**」

そこへ警察が駆けつけ、二人を包囲し、観念しろと迫ってくる。もはやこれまでと思った二人は、手を取り合って谷底へ飛び込んだ。モモは必死に二人を魔法の光で包み込み、そして祈った。「二人をフェナリナーサへ……お願い、魔法よ通じて!!」

そのとき、緑色に輝く光の中で空を見あげる二人の瞳に美しいフェナリナーサの姿が映った。

そして二人は、ゆっくりと空へ舞い上がっていくのだった。

うーん、ナナとライアン、ステキッ♡　あたしも早くあんな熱い熱い恋をしてみたいなあ…なんて、いつまでも夢を見てるわけにもいかんのだった。ぬ、ぬわんと来週はですねェ、このですよ、このあたしよりカッワユイ女の子が出てきちゃうとの評判。しかもあたしとその娘でパパの奪い合いをするんだと…。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「地底の国のプリンセス」。魔法が勝つか、地底が勝つか…プリンセス同士どっちゃが勝つか!?　うーん、絶対負けんぞえ〜っ！

34 地底の国のプリンセス

レイ
地底王国タラッコ族最後のひとり。余談だが、『ゴーショーグン』の再放送をみたい人は地底王国へ。

（準備稿）

エスキモー村に往診にいったまま行方不明となったパパを捜して、地球の割れ目へと飛び込んだモモと三匹は、その地底の王国で、**恐竜**たちを守り続けているタラッコ族の王女レイと出会う。

レイの家に招待されるモモ。だがそこで紹介されたレイの〝すてきなパパ〟を見てもうびっくり！　なぜなら、捜していたモモのパパその人だったからである。しかもそのパパはモモを見ても知らんぷり。「実の娘を忘れちゃうなんて…」と悩むモモ。けれどもその謎はすぐにとけた。レイが、食べると人のいいなりになる木の実をパパに食べさせたのだ。「もう頭にきた！　あの子、少しとっちめてやる」でも無邪気にパパに甘えるレイの姿に、彼女のさびしさを察したモモの心は揺れた。

そのとき、たいへんなことがおこった。火山が大噴火をおこし、多量の溶岩が流れ出したのだ。恐竜たちが**危い。**さあ、地底の国のプリンセス、レイの出番だ!!

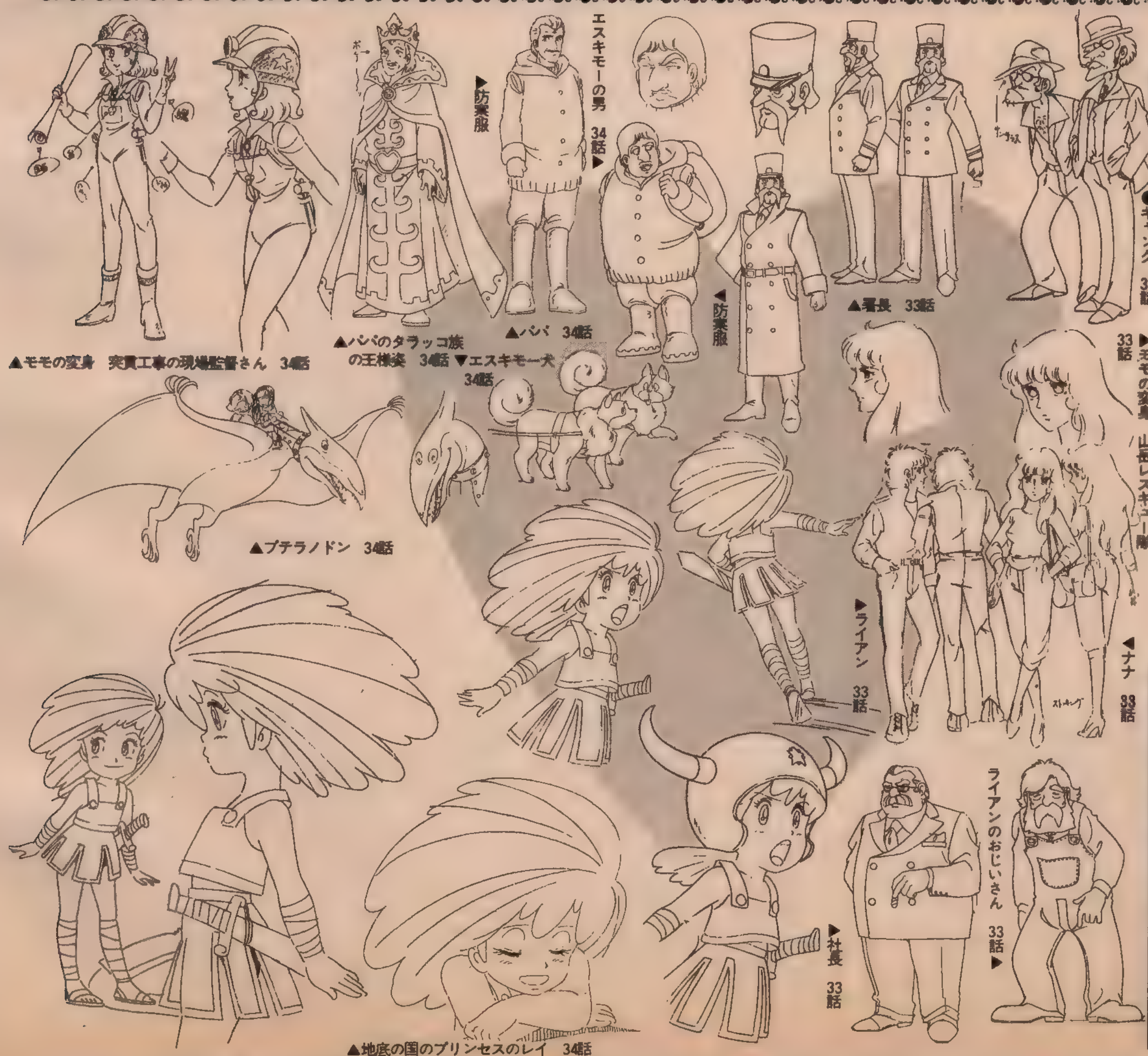
さっそうとプテラノドンにまたがるレイに、駆け寄るモモ。「私もいっしょに連れてって！」けれども、「私はタラッコの王女。地上の人を危険な目にあわすわけにはいかないわ」とレイ。モモも負けずに「私はフェナリナーサのプリンセス。きっとお役に立つわ!!」

見つめ合う二人。その顔に笑みがもどった。二人が力を合わせれば、できないことなんてありはしない。さあいけ、二人のプリンセス！　突貫工事の現場監督に変身したモモの指揮のもと、レイの友だちである恐竜たちが総動員で運河を築きあげ、溶岩を無事、湖に導くことに成功した。

こうしてレイと熱い友情で結ばれたモモは、パパを連れてこの国をあとにするのだった。

あなたへのこの愛は消えるはずもないわ。歌い続けたいの、あなたへのラブソング。いつもあなたのそばにいたいの。瞳閉じればこぼれ落ちるの、涙。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「夢みるダイヤモンド」。エンドレスラブ、終わりなき愛。もしも本当にそんな愛があるのなら、あたしも夢見た〜い。あ〜あ…。





「地底の国のプリンセス」は最後レイにモモが遊びにきてよと別れましたよね。そのあとがあってどこかの町に怪獣が大挙して「遊びにきたよ！」そのシーン無言の内に削られましたけど㊟（谷本敏次氏談）

Story Digest &

35 夢見るダイヤモンド



アルベール
殿下！　モモは全国の少年たちのアイドルなんです。そのモモちゃんにプロポーズするとは……。

落ちゆく木の葉が乙女心をくすぐり、ステキな予感がやさしく体を包み込む……そんな秋のこと。

十八歳のレディに変身してひとりで宝石店にはいったモモは、そこでアルベールという青年と知り合い、公園を案内したりするうちになにやらいいムードに……。だがその帰り、二人は謎の黒い車につけ狙われる。船上ダンスパーティにまぎれ込んでなんとか連中を巻いた二人はダンスを楽しんだ。そして帰りぎわ、アルベールは二日後の再会を約束してモモにダイヤのブローチをプレゼントした。

翌日、そのブローチが本物のピンクダイヤだと知ったモモは、約束の日より一日早いものの、それを返すためにアルベールに会いにいくことにした。一方、アルベールのクルーザーでは、例の宝石商が売りにきたピンクダイヤがニセモノであることが、アルベールたちによって発覚していた。ピンクダイヤの産出国リヒテンブルグ王国は、最近何者かが外国でニセダイヤを販売したため、ニセダイヤ輸出の疑いがかけられていた。そして、実はアルベールはその国の**皇太子**で、自国の汚名をはらすため真犯人の証拠をつかもうとずっと探っていたのだ。

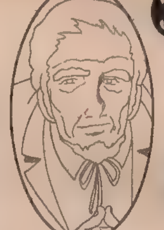
正体のバレた宝石商は拳銃をとり出すが、窓から一部始終を見ていたモモの活躍で、全員逮捕される。事件解決ののち、モモはアルベールの側近から、モモのもらったダイヤには求婚の意味があることを聞かされた。

次の日、モモは十二歳の姿のままアルベールに会いにゆき、モモの使いといつわってダイヤを返した。静かに港をあとにするクルーザーを見送りながら、アルベールと、そして自分の初恋に別れを告げるのだった。

約束。人と人との心の絆は、何年たとうと風雪を越えて変わることはない。な～んちゃって。秋深し、しっとり文芸路線。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「大いなる遺産」。人が人に残せる最大の遺産。それは税金をとられるお金なんかじゃなく、ハート、優しさ…そうなんですよねぇ、それが大事なんですよね。なにやら最近マジに迫って、秋ですねぇ…。

36 大いなる遺産



おじいさんの幽霊
70年前の少女との約束を果たすため、死してなお古屋敷に住み続けた。専門用語では地縛霊という。

オモチャのグライダーが飛び込んでしまったことから、うわさに高い**幽霊屋敷**にはいることになったモモたちは、そこで幽霊のおじいさんと仲良しになった。おじいさんが生前、仕事にあけくれ、老いてひとりぼっちになったとき、その心を慰めてくれたちっちゃなミイちゃん。小鳥の国を作りたいというミイちゃんに、屋敷の土地をプレゼントすると約束したまま、果たせずに死んだことをあやまりたくて幽霊になったという。

そんなおじいさんの幽霊生命の源である屋敷が取り壊されると聞いたモモは、画家に変身。ミイちゃんの似顔絵を描くと、さっそくミイちゃん探しを始める。が、それは無駄な努力だった。なぜなら、おじいさんが死んでからすでに何十年もたっていたからだ。

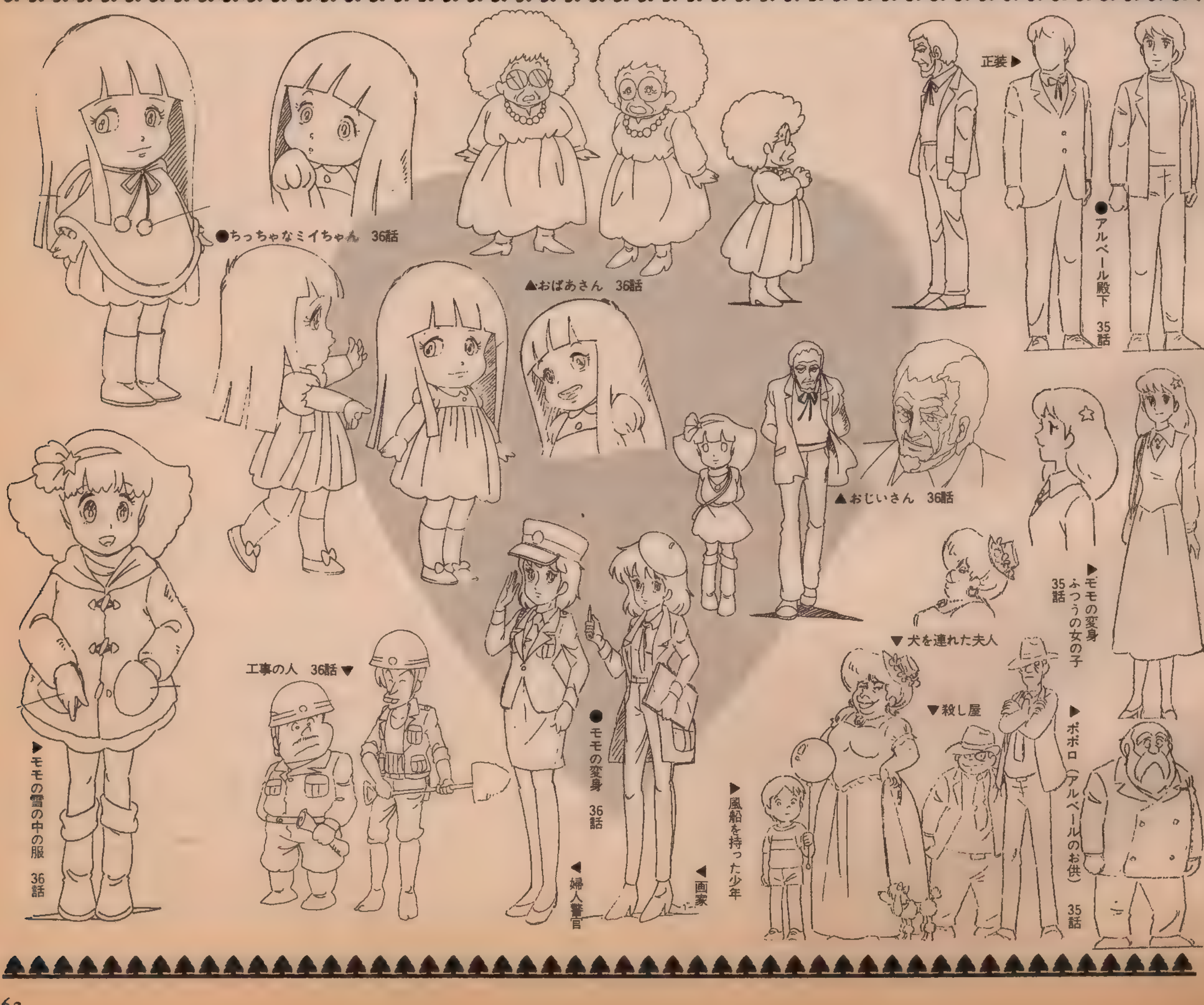
それに気づいたモモが屋敷にもどってみると、取り壊しが始まっていた。モモは婦警に変身してウソをつき、作業員を追い帰そうとするが逆に、土地の持ち主となった迫力あるおばあさんに怪しまれ、追いまわされるハメになる。

子どもにもどったモモがおじいさんの部屋で震えていると、駆け込んできたおばあさんは、幽霊おじいさんを見てがく然……。「ああっ……あなたは、おじいちゃん」「おおッ！　ミイちゃん、ちっちゃなミイちゃん！」そう、そのおばあさんこそ、ミイちゃんだったのだ。

思いをとげたおじいさんの昇天するときがきた。今度は天国で待っててくださいねというおばあさんに、おじいさんはやさしく声をかけて昇天していった。「ああ、なるべく、**ゆっくり**おいで……」

大変ですぅ！　な、なんとパパのワイシャツの胸にチェリーピンクの口紅が。ママの口紅はシャイニングオレンジ。いったい誰の口紅か？　まさかあのパパが浮気なんて。しかも相手はティーンエイジャー。いままさに家庭崩壊の危機。昼メロまっつぁお、モモもまっつぁお…。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「愛の空中ブランコ」。こーなったらモモも、ピーチピンクの口紅で迫っちゃう。ママのためならお色気勝負じゃ！　やるぞぉ～ん♡



Character

37 愛の空中ブランコ

ジュディ
サーカスの花形、空中ブランコのスター。母の死にもめげずがんばる姿はけなげだが、化粧は下手だった。

近ごろ異様に浮かれているパパ。そのパパのシャツに、チェリーピンクの口紅がついていた。泣きわめき、怒り狂うママ。モモが口紅の正体をつきとめようとパパのあとをつけてみると、なんとパパの相手はサーカスにいるジュディという、

ローティーン・ギャル。

これは家庭の一大事！　というわけで、セクシー美女、マリリン・モモに変身したモモは、パパとジュディのあいだにはいって、ことごとく二人の邪魔をする。モモの陰険ないじわるに、泣いて走り去るジュディ。怒ったパパに、モモはさらに詰問した。「そんなに彼女のこと大事なの？　どうして……」そんなモモに、パパは話す決心をした。

昔、学生だったパパが獣医試験に落ち、生きる希望を失っていたときのこと。「人はね、涙の数だけ幸せになれるのよ」といってなぐさめてくれた人がいた。夫に死なれたばかりで自分の方が悲しいはずなのに……。その人の名はエレーヌといって、ジュディはその娘だったのだ。そしていま、すでに帰らぬ人となったエレーヌを想い、悲しむジュディを、パパはなんとか元気づけてあげたかったのだ。

なんということだろう。モモの誤解は、パパのやさしい心遣いを台無しにしてしまったのだ。モモはパパに深くあやまると、きょう失敗すればサーカスをやめさせられるというジュディのために急いでサーカス小屋に向かった。

かくして、ジュディとモモの空中ブランコは大成功！　観客は総立ちで、拍手の嵐がわきおこるのだった。そのようすを見ていたパパの瞳に喜びの涙が光った。「どうやら、足ながおじさんは、もう必要なさそうだな」■

雪の妖精。おとなはその存在を信じようとしない。たとえその目で確かに見ても、幻といって信じてはくれない。たとえその妖精が、最愛の人の化身だとしても…。
次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「雪のめぐり逢い」。吹雪の夜、愛する人を求めてさまよう魂のすすり泣きも、あなたには風の音にしか聞こえない。あたし、今夜という今夜はマジです…。

38 雪のめぐり逢い

サラ
事故で死亡、雪の精となり恋人アロンに会いにくる。怪談牡丹燈籠とはなんの関係もないので念のため。

「その夜は、とっても不思議な夜でした。まんまるいお月さまが出ているのに、どこからか静かに雪が降り出して……」

三匹とソリで遊んでいて、偶然アロンの家の庭に飛び込んでしまったモモは、「こんなにきれいに雪が積もっているのに、庭になにもないのは寂しいわ」といって、雪ダルマや雪の汽車を作った。すると、「みなさんといっしょに遊びたいの」と

雪の妖精

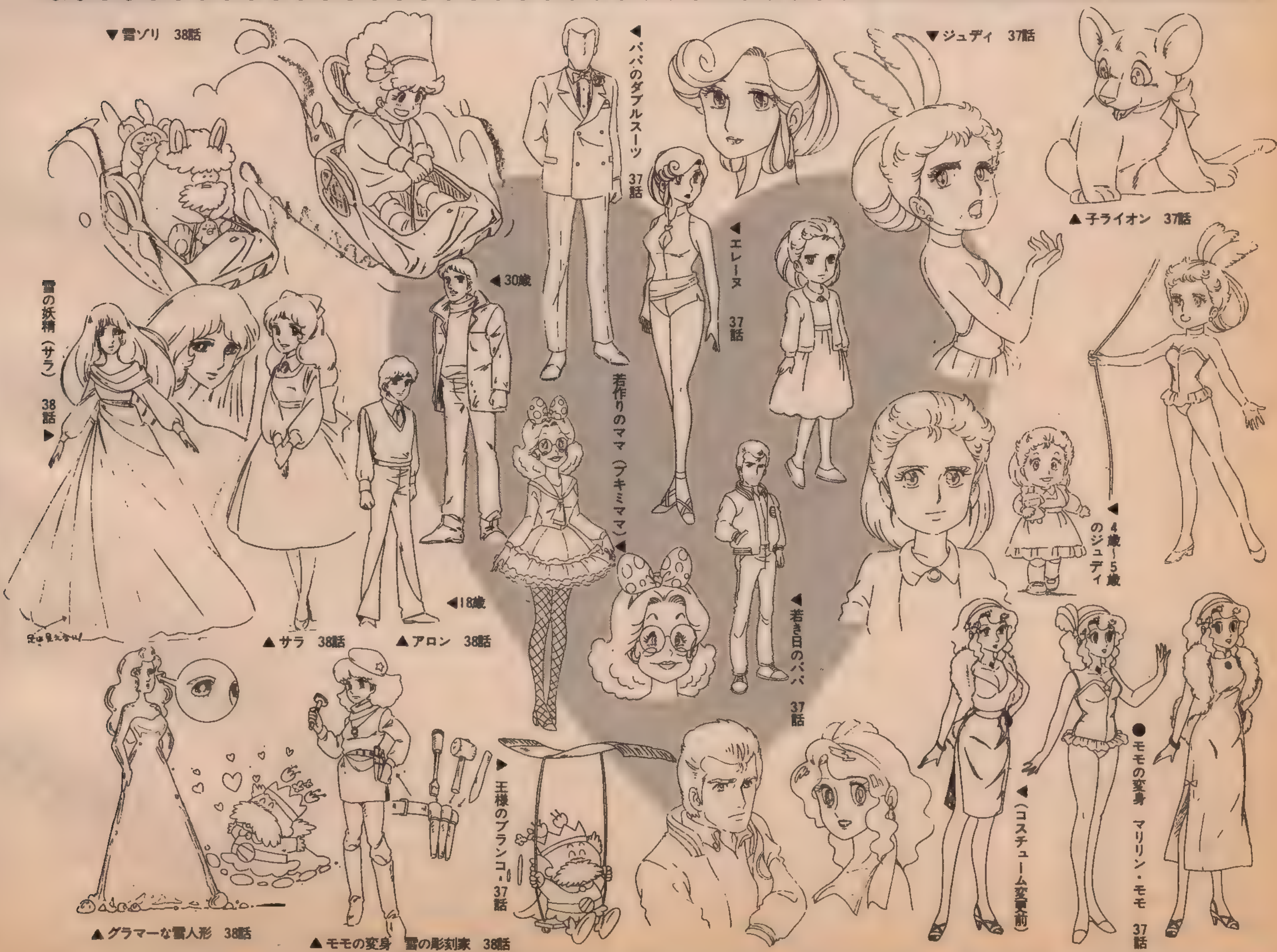
が現れて、踊ったり、雪の汽車を動かしたりして大はしゃぎ。

そこへアロンが帰ってきたが、アロンには雪の妖精が見えなかった。その妖精こそ、アロンが十年も待ち続けていた恋人サラのいまの姿だというのに……。サラは事故で死んでしまい、雪の妖精としてよみがえっていたのだ。「私が一番会いたい人が、私のことをまったく気づいてくれない」悲しむサラのため、モモは雪の彫刻家に変身して、アロンにもサラがみえるように、雪像でサラの体を作ってあげた。

雪像の体を借りたサラを見たアロンは、人間のサラが帰ってきたと思って家に迎え入れた。そして、体が暖まるようにと熱いスープを差し出す。モモはあわてて、いまのサラは雪だからと説得するが、アロンはまったく相手にしない。スープを飲んだサラの体は溶けてなくなってしまった。でもこのことで、態度とはうらはらに妖精を信じるようになったアロン。今度は妖精のままのサラの姿が見えるようになっていた。「サラ！」「アロン、私が見えるのね」こうして二人の心は、十年の時を越えて再びかよいあった。たとえそれがつかの間の再会であろうとも……。

サラはもういってしまった。でもアロンは、雪の降るたびに彼女を思い出すことだろう。

人は、タフでなければ生きられぬ。しかし優しくなければ、生きる資格はない。人それぞれ、それなりの過去がある。ハードボイルド、かたゆでタマゴ。いま明かされるママの暗い過去。でも、どんな過去も、パパとママのふたりの絆を引き裂くことはできないのです。
魔法のプリンセス　ミンキーモモ「突撃ミンキーママ」。なぁんと次回はママも変身、アダルトタッチ。親子でピピルマ、決まったぜ！



Story Digest &

39 突撃ミンキーママ



デカイツラー
しっかし、ママのおやっさんの知り合いだったとは……世の中ヘンなところでつながってるモノです。

パパはサファリパークのサイの診察にいこうとした矢先、モモとママの目の前でギャングに誘拐され、彼らの屋敷に連れていかれてしまった。モモが、たいへん！　と思ったときには、すでにミニバイクにまたがったママが、パパを乗せた車を追撃！こうしちゃいられないとモモはハードボイルドの探偵に変身するが、変身途中でママのミニバイクとドッシーン!!　魔法がママにも働いてしまった。「私立探偵マイク・ママー登場！」慎重に行動することをすすめるモモを振り払い

「ご意見無用！いきます」ついにひとりで屋敷に突撃してしまった。

一方、屋敷に連れ込まれたパパは、彼らのボス、デカイツラーがかわいがっているブタの病気を**いますぐ**治せと迫られていた。そこへさっそうと現れカッコよく決めたママ！　だったが、眼鏡を落としてしまったために、ママに続いてモモが飛び込んできたときにはすでにとらわれの身。そして、モモの活躍を見ることなく全員つかまってしまった。

だがそこに帰ってきたデカイツラーは、ママを見てびっくり！「デイジーお嬢さんじゃありませんか」なんとママの父、カポカポネはギャング仲間にその名をとどろかす大親分だったのだ。かくしてパパは、ギャングに送られてサファリへ。すべてがまるくおさまったかに見えたが、ひとつだけ難題が残っていた。ママの魔法がとけず、家に帰ってからもハードボイルドにナリキリッコ！　やっとの思いでママの魔法をとくことに成功し、どうやら一件落着。

なんにしても、今回は完全に主役をママに奪われて、いいとこなしのモモだった。

夢。それは、人間がたえず持ち続けなければいけないもの。でも、人は夢だけで生きていけるのか？　あ～マジだなあ、マジって苦手だよなあ…。でも、そんな話にモモも突入。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「夢の戦士」。ママ、夢からさめて！　夢なんか見ないで！　あ～、なんであたしがこんなことといわねばならんのか。あ～あ～あ～、悩むな、モモ!!

40 夢の戦士



ミミア
ピーターのように目先のことにとらわれず、広く深い愛情でママを助けようとした偉大なネコ。

いつまでたってもママの目が覚めない。モモが医者に変身して診察すると…ママは夢につかまっていることがわかった。早く夢の世界から連れもどさなければ、ママが死んでしまう！

「ママの夢のなかへ　グルメポッポスタート!!」

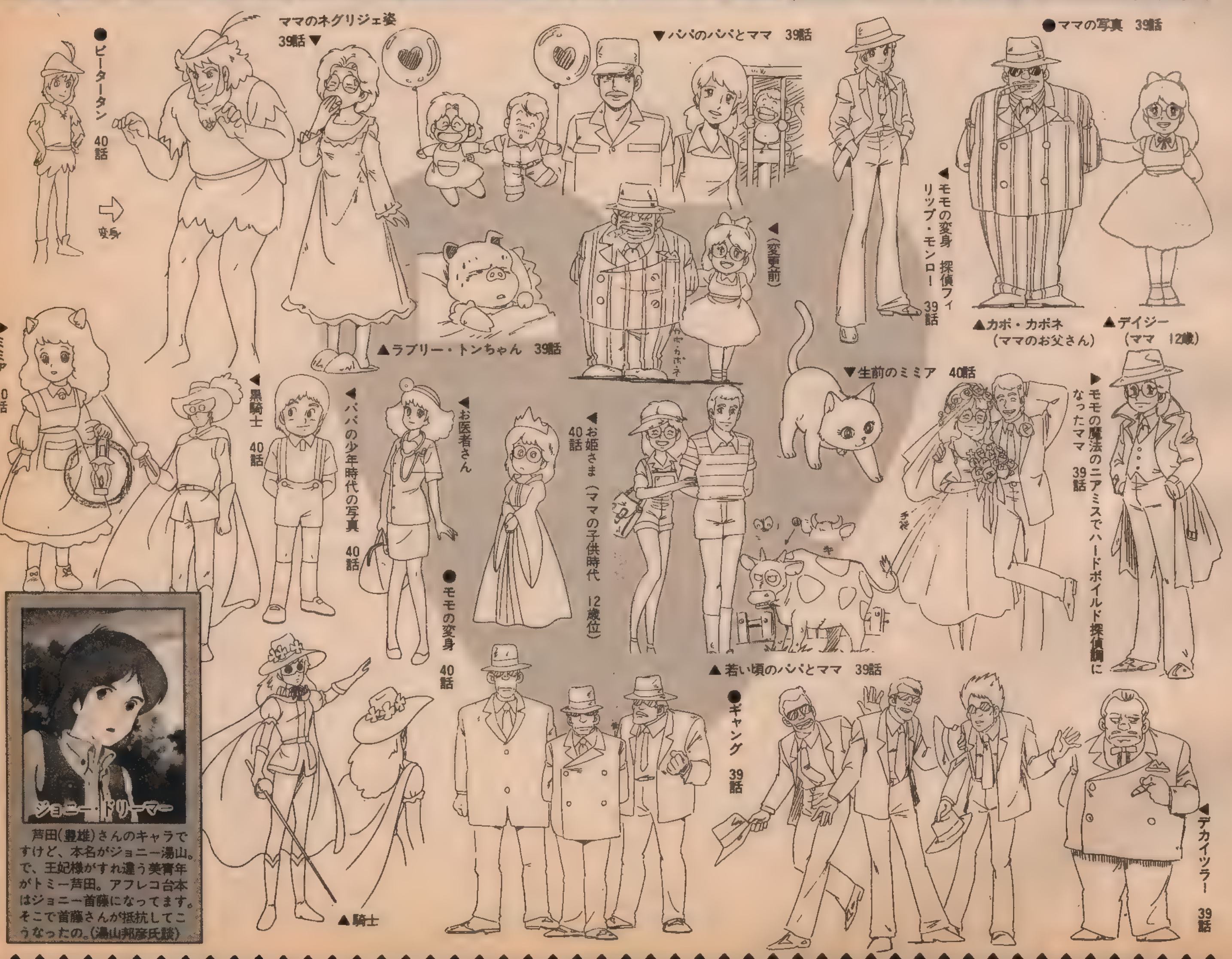
ところが、着いたとたんにピータータンという少年につかまったモモたちは、この国の姫の前に引き立てられた。モモたちはその姫を見てビックリ、デイジーと呼ばれていた子どもの頃のママだったのである。モモを思い出せぬママは、侵入者として地下牢に閉じ込めてしまう。が、そのモモを猫の耳を持った少女ミミアが助けた。

実はこの世界、おとなばかりに囲まれてさびしかったデイジーが空想でつくった世界で、ミミアは当時死んだ彼女のかい猫が、空想のなかで生まれ変わった姿だった。でもデイジーがおとなになるにつれ、この世界のことを忘れてしまったため、それを不満に思うピーターが、彼女をこの世界に引きもどしたというわけだ。

ミミアはモモたちを城から逃がしてくれようとするが、ピーターの待ち伏せにあってしまう。剣を振りかざして向かってくるピーターに、モモは快傑ミンキーゾロに変身してひとひねり。ところがここはデイジーのつくった世界。デイジーが思うだけでピーターはみるみるたくましい大男になり、今度はモモが大ピンチ。そのとき、突然雨が降り出した。デイジーの夢であるため、必ず晴れるはずのこの世界に……。この雨のために、デイジーは現実の世界を思い出し、ママの姿にもどり、眠り続けていたママは目を覚ました。この雨は、ママを想うパパの涙がママのほおにこぼれ落ちたものだった。結局ママを救ったのは、パパの**愛**だったのである。

ここに、ひとりの少年の書いたサンタクロースへの手紙があります。『サンタクロースさん。あなたは本当にいるんですか？　ぼくはただの一度もあなたからプレゼントをもらったことがありません』んふっ♡　お答えしましょう。思い出してください。あなたはきっと、どこかでサンタに会ったことがあるはずです。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「お願いサンタクロース」。で、もう一度あなたに会いにサンタクロースがやってきますよ。



芦田（豊雄）さんのキャラですけど、本名がジョニー湯山。で、王妃様がすれ違う美青年がトミー芦田。アフレコ台本はジョニー首藤になってます。そこで首藤さんが抵抗してこうなったの。（湯山邦彦氏談）

Character

41 お願いサンタクロース

ポール
彼の"悲劇の主人公"パワーは、ついに6人のサンタクロースを呼びよせてしまったのであった。

親のないポールは、クリスマスプレゼントをもらったことがない。そのため、サンタクロースはいないといいはっていた。でも、やはり心のなかではサンタへの想いがあふれ、サンタあてに手紙を書くのだった。

だが、サンタあての手紙はいままでは郵便局員が代わりに返事を書いていた。サンタがクリスマスにしかこないことになっていること、そしてプレゼントをもらえない子がいることを知ったモモは、本物のサンタはいったいどうしているのかと、子どもたちの手紙を持って会いにいくことにした。でも、本当の理由は…「私だってね、サンタのおじいさんのプレゼント、もらえないなんてイヤじゃない!!」

北極にあるサンタの工場に着いてみると、プレゼントを作る機械はさびつき、ホコリをかぶっていた。昔はフル回転で、毎日休みなく働いていたものだが、人々が夢や希望を失い始めるとともに、機械のパワーもどんどん衰えていったのだった。「わしも、もうすぐ失業じゃ」としょげかえるサンタに、モモはたくさんの子どもたちの手紙を見せた。「これだけの手紙、これだけの夢……機械のパワーももどるかもしれん。

「夢の機械」

さあ、よみがえれ

山ほどの手紙を吸い込んだプレゼントメカは、たちまちピッカピカ！　サンタは、さっそく子どもたちへのプレゼントを持って、飛び立った。モモもレッドキャットに変身してお手伝い。ポールにプレゼントを届けようとして四人のサンタとハチ合わせ。怪盗ルピンやパパなど、ポールに同情した町の人々だった。

そんな五人を見降ろしながら、夜空を駆けるサンタクロースは、希望に満ちた口調でこうつぶやいた。「わしはプレゼントを贈り続ける。一年中、世界中の子どもたちにな♡」

スクランブル、スクランブル。一九八ン年高性能爆弾を積んだ爆撃機が発進した。もう誰も止められない。ああ、地球の最期がすぐそこに…。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「間違いだらけの大作戦」。愛は地球を救えるか？　なるようになるしかないだばさ。ミンキーモモスタッフが、ありったけの異常な愛情を込めて贈る、今年度最高の支離滅裂超大作。乞う、ご期待！

42 間違いだらけの大作戦

ボトム大佐
破壊することに快楽を感じていると思われる。ついには、自分の身をも破壊しそうになる。

出張中のパパに代わり、モモがオスカー将軍の愛猫ジェーンを診察することになった。治療法に悩んでいるあいだにジェーンがグッタリ。それを見て、死んだと思い込んだ将軍は、泣きわめきながら家に知らせの電話をかけた。

「ネ、ネコが死んだ〜!」

ところが、手にしたのば緊急電話。しかもこのことばは敵国首都モラレスクワ爆撃の秘密暗号文と同一であったのである。このネコガシンダ作戦が遂行されれば、東西諸国間の全面戦争に発展し、地球は滅亡してしまうのだ。

自分の間違いに気づいた将軍は、連絡をはばむコンピューターを戦車で粉砕、出撃した爆撃機に作戦中止命令を告げる。だが、機長のボトム大佐はそれを信用しない。またジェーンをパパに診せようともぐり込んだモモの説得にも耳をかさず、逆にモモをスパイと決めつけて追い回す。二人は脱出シートで外に放り出され、敵国の迎撃機による銃撃の雨のなかで翼の上を逃げまわった。

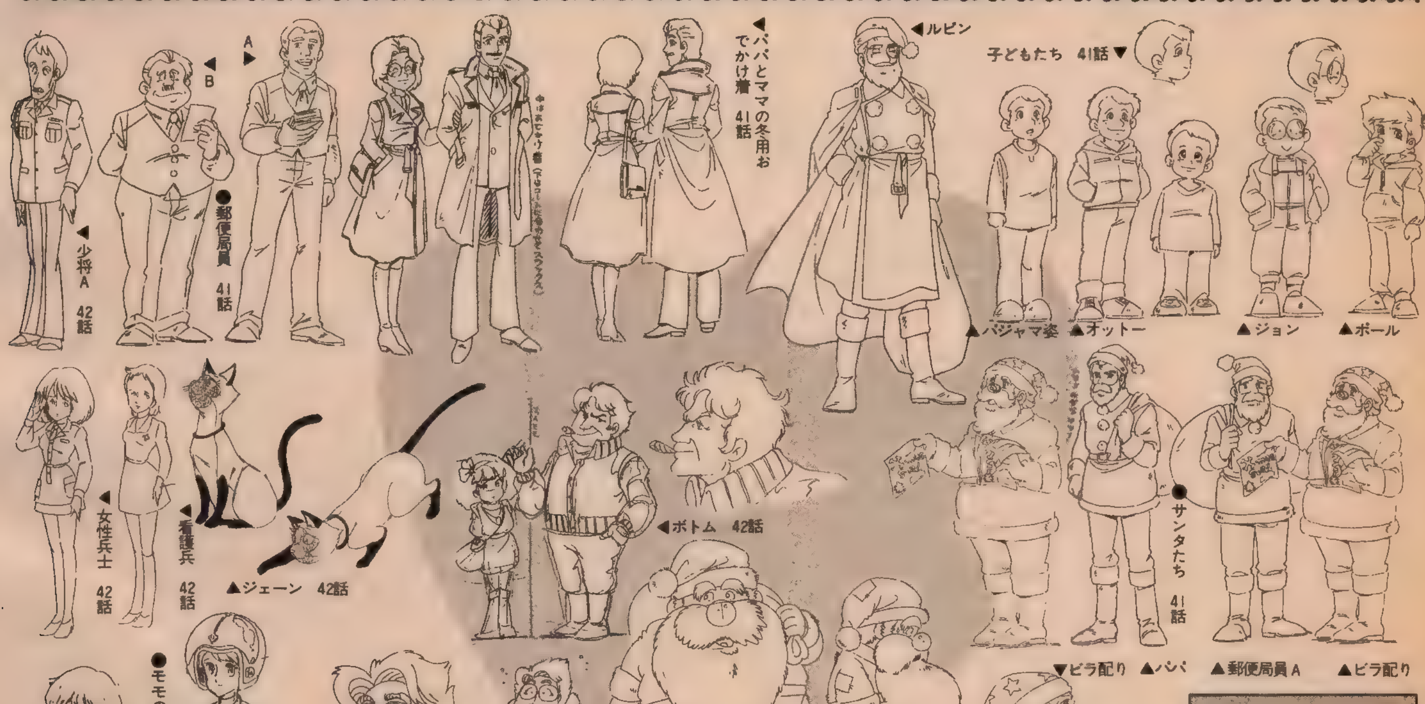
かくなる上は自分で機を操縦しようと、モモは、パイロットに変身。ボトムをなぐろうとして間違え、爆弾のタイムスイッチをバチン！　あわてたモモは、ボトムに見られるのも承知の上で、目の前で爆弾技師に変身し、危いところで時限装置の解除に成功した。

こうして地球滅亡の危機は、間一髪、モモの活躍によって回避された。そして、モモにとってはたいへん幸運なことに、爆発しなくなった爆弾とともに地表に落下したボトム大佐は、そのショックのためモモが変身したことなどすべて忘れてしまっていた。

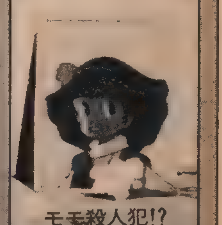
このモモの大活躍をたたえるかのように、フェナリナーサの王冠には、宝石が同時にふたつもはまるのだった。

人には、それぞれ愛の形がある。いま、初めて明かされる、フェナリナーサのパパとママの結婚のワケ。そしてとうとう、あたしにもそんな日が…。モモの恋人、モモのフィアンセ。でもそれは結局、夢の国の少女の見る淡い幻…。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「いつか王子さまが」。夢はどうせ夢。現実の世界では果たせないのでしょうか…。どうしたモモ！　しっかりせい!!







46話放映後しばらく耳すましてました。何通かは何で殺したかってきましたが思ったより反応は静かでした。冗談でね、主犯首藤剛志、共犯湯山、大野(実)さんは殺人幇助罪という話をしたり　(湯山氏談)

43 いつか王子さまが



ジョニー・ドリーマー
全国のしがないアニメーターたちに夢と希望を与えてくれたエライ人。実際はこんなにウマくは……。

困っている人のため、きょうもモモはふつうの女の子に変身して、忙しそうに飛びまわっていた。そんなとき、モモの胸からはずれたペンダントを、アニメーターの青年ジョニーが拾う。

ジョニーの顔をみつめて驚くモモ。フェナリナーサではペンダントを拾った者と結婚するのがきまりだったからだ。しかし「そうなのよね。ペンダントを拾ったからって……」自分にそういい聞かせるモモではあったが…、アニメをとおして自分の夢を語るジョニーに魅かれていく自分を、おさえることはできなかった。モモは何度も尋ねた……。「あなたは、

地球の人？」

本当に

ジョニーと過ごす時間は、本当に楽しいものであった。けれども、そのあとには必ず現実のむなしさに襲われ、モモの小さな胸は張り裂けそうになるのだった。

コンクールに出すアニメを作ろうと励んでいたジョニーは、しめきり一週間前にして病気にかかってしまう。なんとか彼を助けたい、力になりたいと願うモモは、魔法で絵を飛び出させ、それを撮影する。しかし、できたフィルムはまっ白だ。魔法では、ジョニーの現実の夢の世界には入れない。そのとき、テレビにジョニーの姿が映った。病をおして作品を描きつづけ、コンクールに優勝したのだ。

モモは自分の淡い恋、つかの間の夢に別れを告げるため、もう一度だけジョニーに会うため、公園に出かけた。十二歳のままの姿で、ジョニーがモモとはわからないことを承知のうえで…。

ジョニーの横を走り去るモモの胸には、ペンダントだけが変わらぬ姿で揺れていた。

みなさん流れ星を見たことがありますか？ 流れ星に願いをかければ、その夢はきっとかなうっていいます。モモの願いはかなうかなァ？ ところが、どこかの町に降った流れ星はE・Tまっつぁお、なんとエンジェル、天使だったの！

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「天使が降りてきた」。天使がパパとママにもたらすのは幸せか不幸か？ もしも不幸だったら、いくら相手が天使だって、あたし負けないから！

44 天使が降りてきた



エンジェル君
ママさんに受胎告知にきたはずが、大騒動をおこしちゃった問題児くん。前方不注意は事故のもと。

あいかわらずの中年アツアツカップルのパパとママ。そんな二人のところに、突然光の玉が飛び込んできた。それは居眠り飛行をしていて落っこちてしまった天使、エンジェルくんだった。ところがペットショップにぶつかった拍子に、エンジェルくんの大事な白い翼がママにくっついてしまったから、さあたいへん。「おいどんの翼を返せ！」と叫ぶエンジェルくんに対して「よし、私がなんとかしてみよう」とタンカを切ってみせるパパだが、やはりどうにもならない。「もうだめだ、現代医学の敗北～」とどこかへ消えてしまった。

それでは！ とモモが世界一の外科医に変身して手術をしようとしたとき

「その手術、待った!!」

といって、ふたたび現れたパパさんは、なんと白鳥のかっこうをしていたのである。「ママが白鳥になるなら白鳥に……さあいこう！ ふたりで大空をはばたくんだ」自分の力では、ママの翼を取ってあげることもできないと知ったパパの、精一杯の愛情表現であった。月夜を楽しげに飛ぶパパとママ。もう物語は完全に二人の世界。

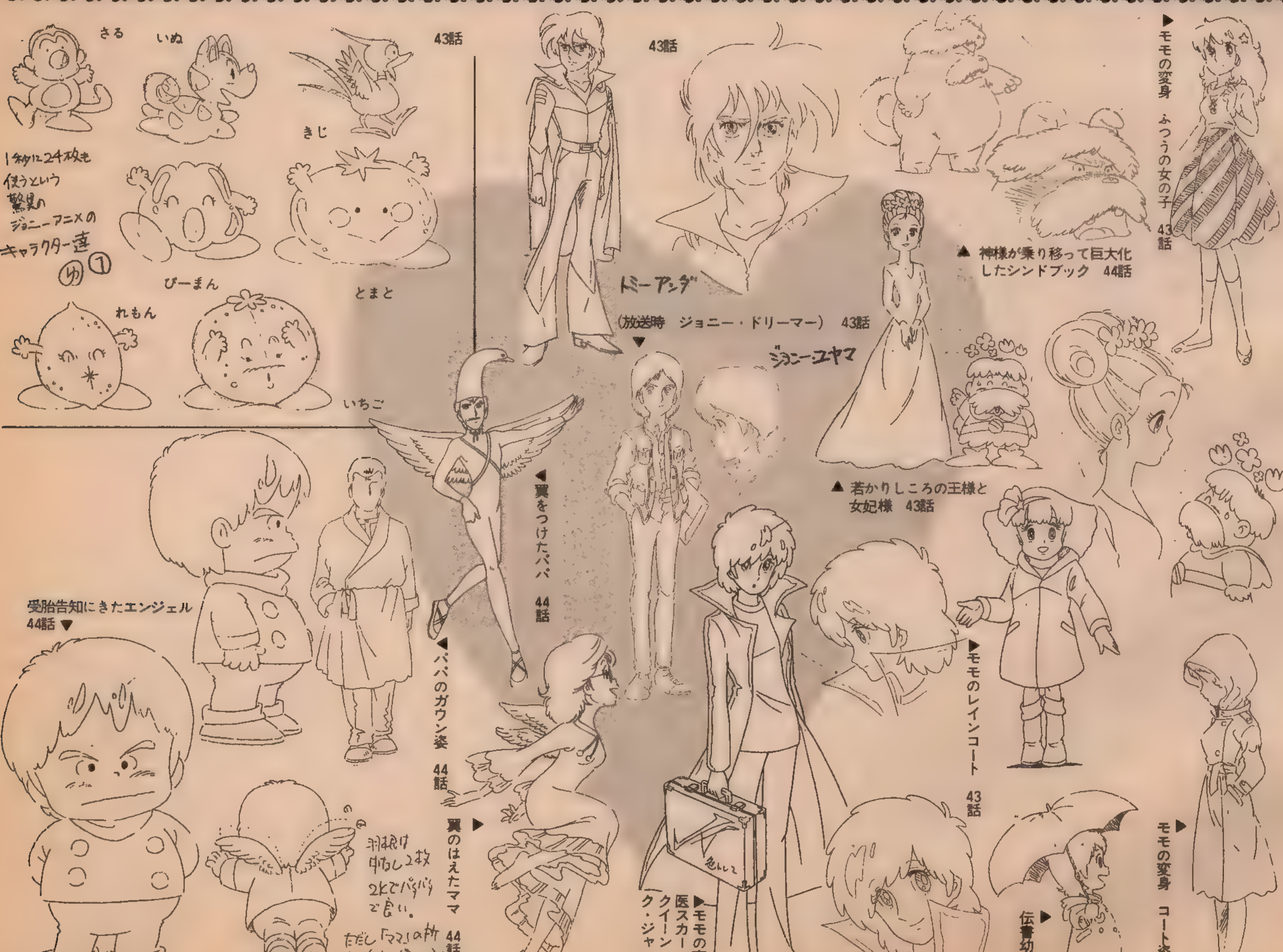
「ホントに飛んじゃった」とモモがあっけにとられるまに、怒ったエンジェルくんは父、すなわち神さまに、こらしめてくれと告げ口をしてしまった。神さまはシンドブックの体を借りて現れ、翼をもとにもどすが、しかられたのはエンジェルくんだった。エンジェルくんはママにあやまってから、帰りぎわに小さな箱を手渡した。開けてみるとなかから光が飛び出して、ママにもうじき赤ちゃんができるよと夜空に、

BABY

の文字を輝かせるのだった。

あたし～、最近思うんです。いったいあたしはなんのために地球へやってきたのか…。あたしの使う魔法って、いったいなんのためになるのか？ ある日、グルメポッポが消え、シンドブックたちともはぐれ、ついに魔法のペンダントが…。

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「魔法の消えた日」。あたしはいったいどうなってしまうのかしら…。ミンキーモモの世界もいよいよのようです。



（放送時 ジョニー・ドリーマー） 43話 ▼

▶モモの変身 ふつうの女の子 43話

▲神様が乗り移って巨大化したシンドブック 44話

▲若かりしころの王様と女妃様 43話

◀翼をつけたパパ 44話

◀パパのガウン姿 44話

受胎告知にきたエンジェル 44話 ▼

▶翼のはえたママ 44話

▶モモの変身 外科医スカーレット・クイーン（ブラック・ジャック風） 44話

▶モモのレインコート 43話

▶伝書幼児 43話

▶モモの変身 コート姿 43話

Story Digest & Character

45 魔法の消えた日

ピーター
貧乏でも夢を追いつづけている男。もしくは、夢を追いつづけているがために貧乏のままの人。

モモと三匹は、パパのお使いでハルカナシティへ向かっていた。と、途中でドリームエネルギーが切れ、グルメポッポはあとかたもなく消滅。しかたなく電車に乗ろうとして、モモは誤ってペンダントを落としてしまった。それを追い電車に飛びこんだ三匹は、モモをホームに残し、離ればなれに——。

三匹は車内で車掌に追われ、そこらの町行きのトラックに飛び移った。町について、なんとかモモに連絡しようと、電話をかけてくれる人を捜す三匹。でも、人間のことばを話す三匹は、逆に悪党につけ狙われることになった。必死に逃げる三匹は、偶然ピーターと出会い、彼の家にかくまわれた。

三匹のたのみで、モモに連絡をしようと電話ボックスへいったピーターは、そこでモモとバッタリ会う。ホッと一安心もつかのま、二人がピーターの家へいくと、三匹が例の悪党に連れ去られようとしていた！　そして、モチャーが、モモに渡そうと投げてよこした

魔法のペンダント

が悪党の銃に打ち砕かれて

バラバラ

になってしまった。三匹を助けようと駆けよったピーターまでが凶弾に倒れる。

ぼう然と立ちつくすモモ。「どうして…どうしてこんなことに……」——やり場のないモモの怒りがついに爆発した。モモの瞳が輝やくと、悪党たちの車がフワリと宙へ。そのままエンジンが爆発！　悪党はあわてて逃げ出した。モモのパワーはさらにピーターにも及ぶ。死んだはずのピーターを生き返らせたのである。

こうして事件は解決した。でも、モモはもうおとなに変身できなくなってしまった……。

Ⓜ「もうなにもいえません。普通の女の子になったあたしは、ある日突然…シンドブック、あと続けて…」㋛「もうワシ胸がいっぱいで、え～モチャー」㋲「こんなことって…ヤダッ、ピピル～」㋪「あたし、いくらおしゃべりだからって、こんなつらいこと…」Ⓜ「だめだなァみんな…」
次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「夢のフェナリナーサ」。見てください。
NR／Ⓜ18歳のモモ／㋛シンドブック／㋲モチャー／㋪ピピル

46 夢のフェナリナーサ

モモ
そしてモモは眠ります。今度は夢の世界のものではなく、本当の自分の夢をみるために……。

「そりゃあ、おとなに変身できるペンダントは壊れ、お家の外にはグルメポッポも、もうありません。でも普通の女の子には、それが普通でしょ。モモはきょう、

普通の女の子

なのです」普通の女の子になったモモに、普通の朝が普通に始まる。ママに起こされ、ママたちと食事をし、学校に行って、友だちと遊ぶ。でも、いくら明るく振る舞ってみても心の片隅に潜む、どうしようもないさびしさを消し去ることはできなかった。

そんなある日……モモは、公園近くの路上で暴走トラックのために……あっという間に帰らぬ人となってしまうのだった。

モモの心は、突然の悲劇に悲しむ王様と王妃様のもとへと飛んだ。もう一度、魔法で体を作ってあげるから、フェナリナーサへもどっておいでと語りかける王様。でもモモは「パパ、もしもどれるんなら、あたしは

あたしの夢

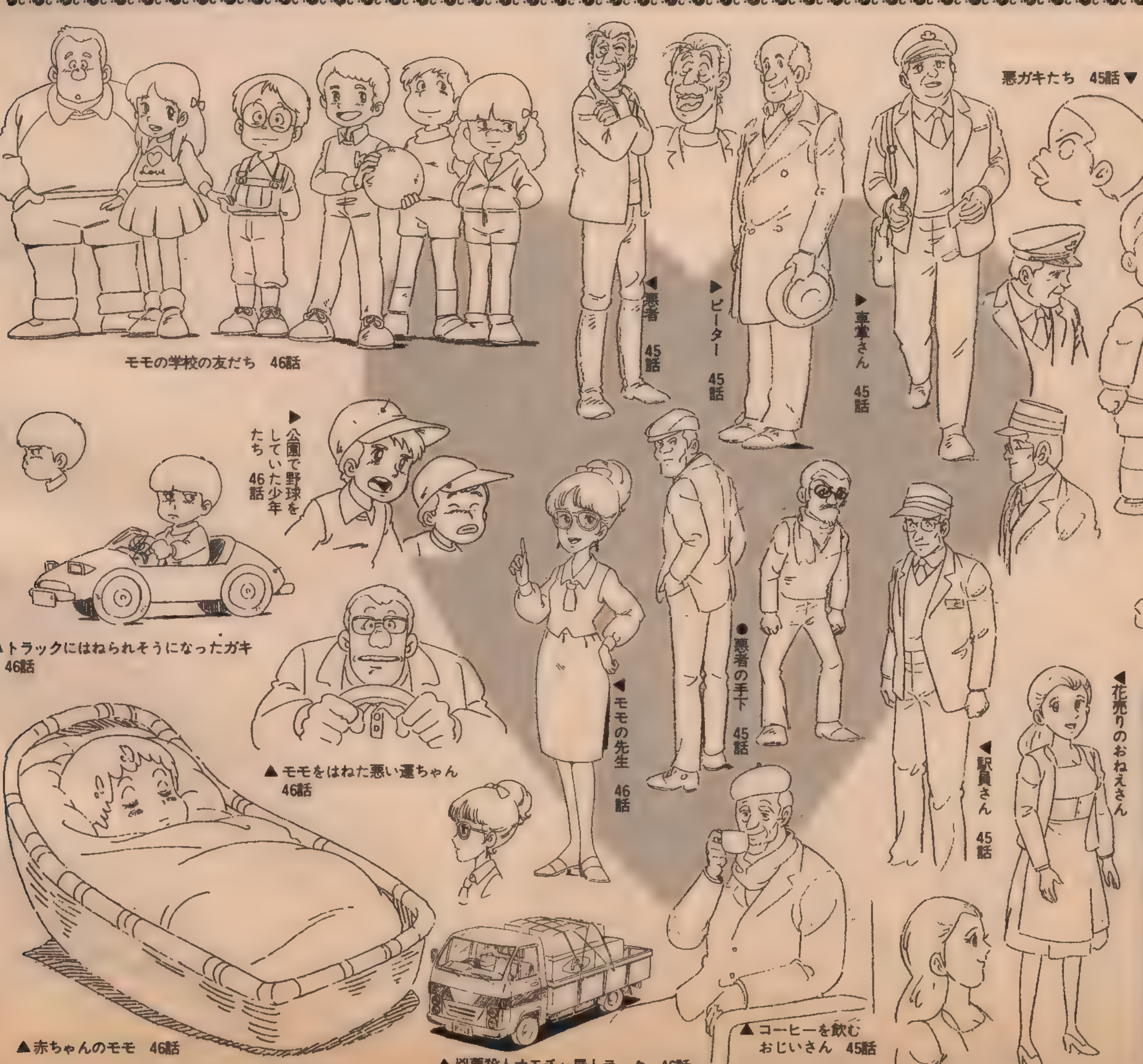
を見たいわ。夢の国のあたしの夢じゃなくて、本当のあたしの、本当の夢……」

かくして、モモはペットショップのパパとママの本当の子どもとして生まれ変わった。モモの心がパパたちに通じたのか、ふたたびモモと名づけられて……。そして、人間となったモモがおとなになって、夢や希望を失わずにいれば、フェナリナーサは地球にもどることができる。そのとき、モモは地球とフェナリナーサを結ぶ、架け橋となってくれるだろう。

いま、赤ちゃんのモモは眠っている。やさしい日ざしに包まれながら、かわいい口もとに笑みをうかべて。「見える。わたしには見えるわ、フェナリナーサの降りてくる日が……」

ミンキーモモは、どこかの地球のどこかの国のどこかの町の子どものお話でした。もしかしたらあなたの隣りにモモが…いいえ、あなた自身がモモなのかもしれませんね。次回の魔法のプリンセス　ミンキーモモは、モモの想い出をつづったアルバム「MINKY MOMO GRAFETY Part—1」そしてもうすぐミンキーモモの新しい冒険が始まります。どうぞお楽しみに。
NR／ママ





〈47話次回予告より〉
お見せします、ミンキーモモ、懐かしの想い出。ミンキーモモの世界をいろどったステキな女の子たち。そして愛の世界、驚異の合体メカ・ミンキナーサも。想い出よよみがえれ。
次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「MINKY MOMO GRAFETY Part-2」May happiness be you and Minky Momo's world. モモとあなたに幸せを…。
NR／中村正



Minky Momo Second Series Episode Catalog

Episode Catalog 49~54

リンゴに御用心



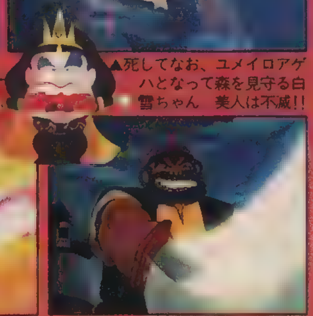
▲話し合いにきたはずが……？



▲死してなお、ユメイロアゲハとなって森を見守る白雪ちゃん　美人は不滅!!

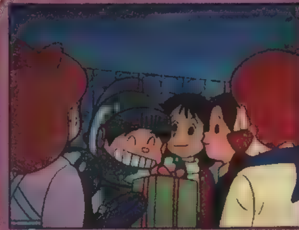


▲自分のビボーにうっとりするデビルクィーン。

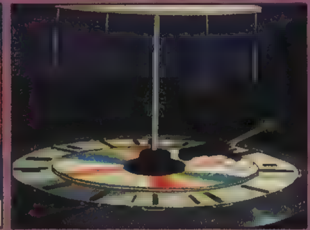


▲用心棒の青ヒゲ氏。(ヒョーキンな方です)

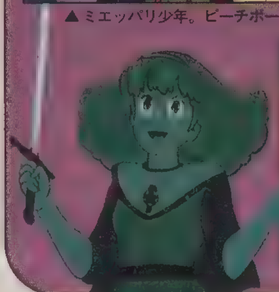
桃とモモの謎

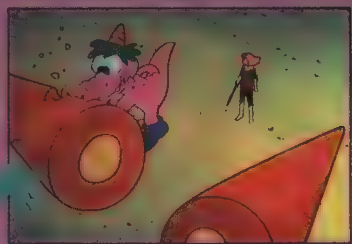


▲ミエッパリ少年。ピーチボーイ。



▲モモの新しい冒険のパスポート。





▲なんでも食べちゃう、カジ、カジラー♬

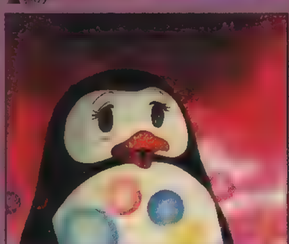
モチャーとペンギン



▲梟か……



▲名探偵登場

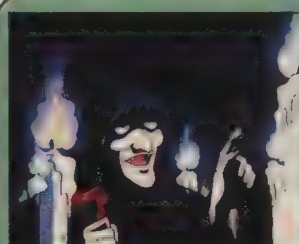


▲過去を忘れ、いま、新たな愛の旅路へ。



▶ペンギンに変装するモチャー。

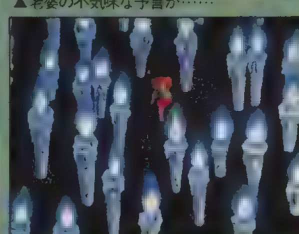
ラストアクション

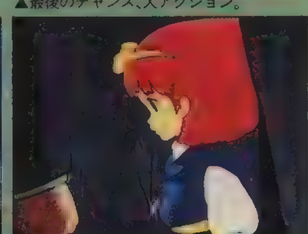


▲老婆の不気味な予言か……



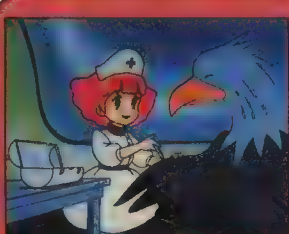
▲最後のチャンス、大アクション。





▲一人のスターの死……。世の中はそんなことなど気にとめることもなく、動きます。黙々と……。

飛べアルバトロス号



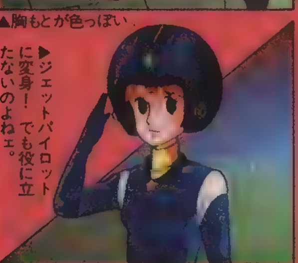
▲変身ナシでもこれくらいできますョ！



▲胸もとが色っぽい。



▲よっぱらい変人、ドランコじいさん。



▶ジェットパイロットに変身！　でも役に立たないのよねェ。

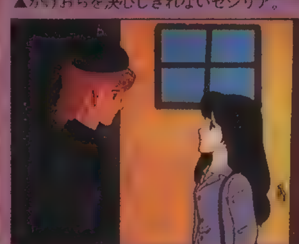
お花畑を走る汽車



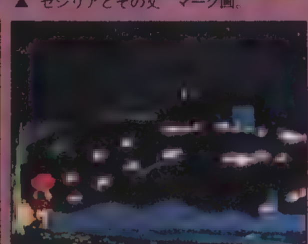
▲かけおちを決心しきれないセシリア。



▲"セシリアとその父" マーク画。

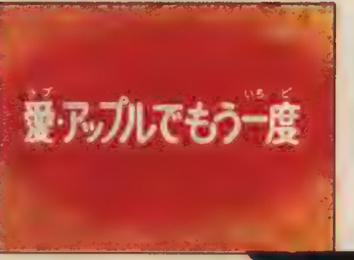


▲二人の間にことばは不要。



▲夜のお花畑を走る汽車、それは夢？

Episode:55

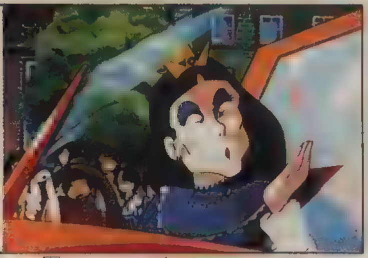


♡かいせつ

デビルクィーンの魅力を十二分に見せてくれた、このエピソードは、同時にもっとも、ミンキーモモらしい作品でもある。
デビルクィーンが自分の愛をモモに伝えようと、胸を開く。すると、胸からあふれるようにして、螢光ピンクのハートマークが飛び出し、町の中へ広がってゆく……。
モモの世界を、もっともよく表しているシーンだといえよう。

♡ストーリー

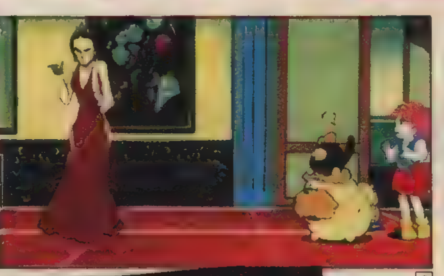
デビルクィーンが帰ってきた! 町の人々を迎え、リンゴパーティを開く彼女の真意はなにか…? それを探ろうと会場へきたモモだが、会場はガッラガラ。クィーンのかつての部下が、わが身かわいさに彼女の正体をバラしたのだ。ホテルを追われ、町をさまよう彼女は、不運にも川へ落っこちてしまう。モモの家へ身を寄せた彼女は、心機一転、再出発を誓うが……。



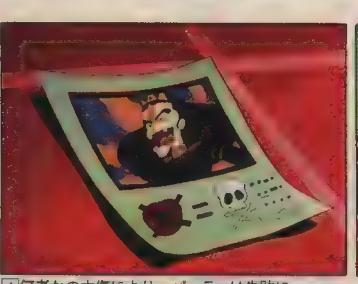
1 リターン・オブ・デビルクィーン!



2 おびえるジャックとトニー。



3



4 何者かの中傷により、パーティは失敗に終わった……。



5 さらに借金の取り立てが追い討ちをかける。



6 ホテルを追われて…。(BGM・昭和枯れすすき)



7「いけないわ、身投げなんて!」「身投げ!?」



8 必死でひっぱり上げようとするモモですが……。ツイてないときはこんなものです。



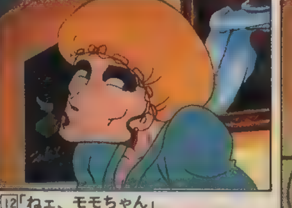
9 モモの家にやっかいになるデビルおばさん。



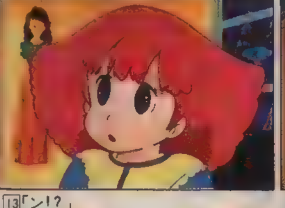
10 熱いスープをすすめるママ。



11「こんなに優しくしてもらったのは初めてよ」



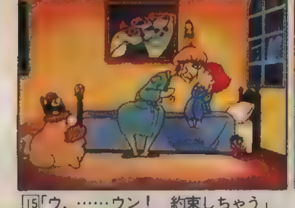
12「ねェ、モモちゃん」



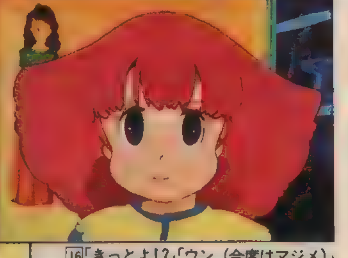
13「ン!?」



14「笑わないって約束してくれるかい?」

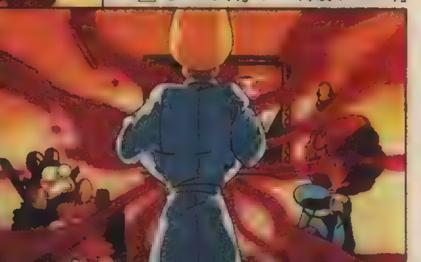


15「ウ、……ウン! 約束しちゃう」



16「きっとよ!?」「ウン(今度はマジメ)」

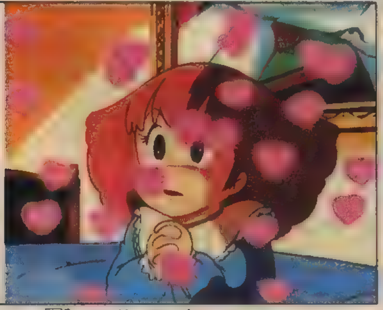




17 突如としてデビルクィーンの胸から、あふれんばかりのラブが……!!



18「私のハートだってラブがいっぱいつまって…」

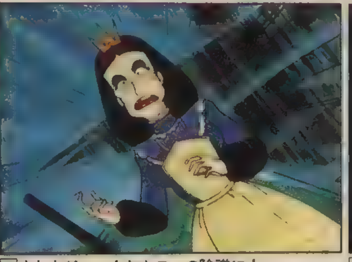


19「ステキ!!」思わずカンドー!!

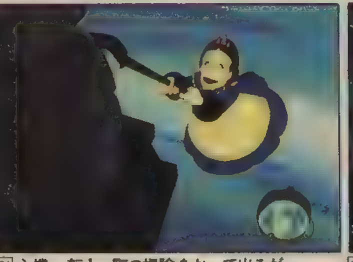




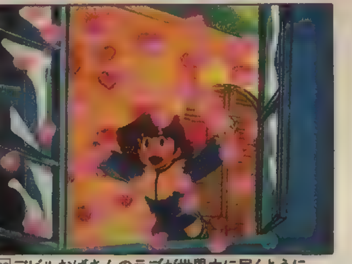
23 ふたりとも内心は小心者なんだけど…。



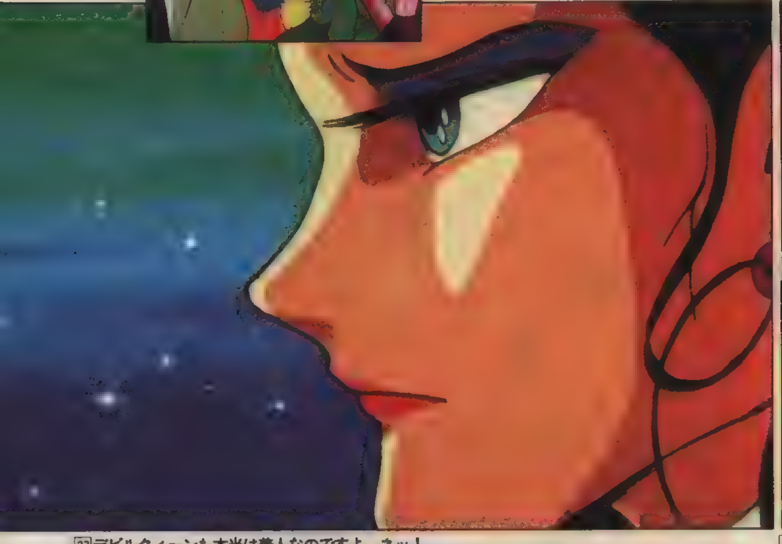
22 またもジャックとトニーの陰謀に！



21 心機一転！ 町の掃除をかって出るが。



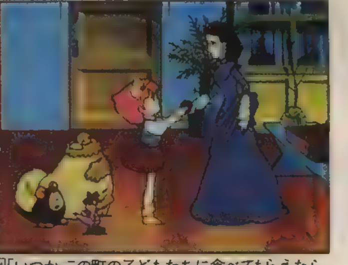
20 デビルおばさんのラブが世界中に届くように…。



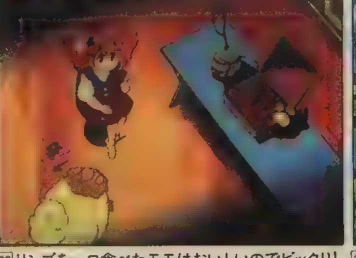
27 デビルクィーンも本当は美人なのですよ。ネッ！



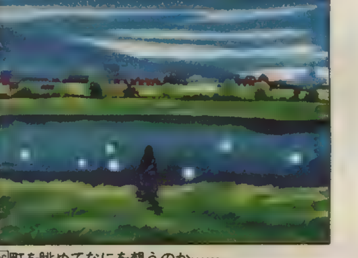
25 モモにリンゴを渡して去ってゆくクィーン。



24「いつか、この町の子どもたちに食べてもらえたら」



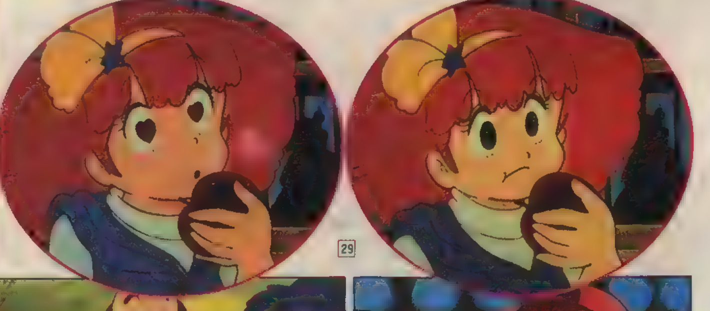
28 リンゴを一口食べたモモはおいしいのでビックリ！



26 町を眺めてなにを想うのか……。



30「おいし～い!!」ラブ・アップルの威力をみよ！



29



33 リンゴがあんまりおいしいので注文殺到！



32「いい町だよねェ…」さりげなく二人を許すデビルさん。やっぱり、いい女なのです。



31 宣伝に努める白雪モモちゃん♡



37



34「やりましょう！ デビルクィーン様」



38 デビルおばさんのセカンドライフに乾杯！



36 そして、おとぎ森にはデビルクィーンのリンゴ園が……。



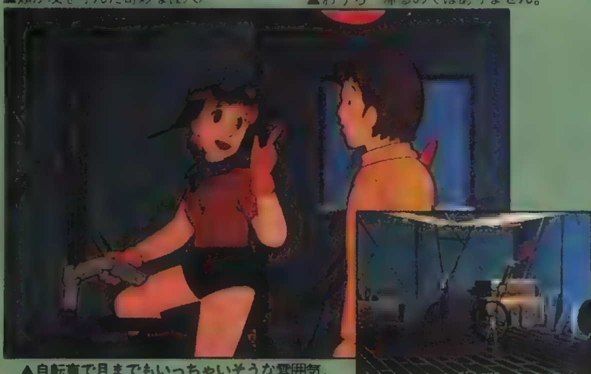
35「よーし！ やったろうじゃないの！ デビルクィーン様のリンゴは世界一おいしいしよ！」

Episode Catalog 56~60

人力飛行機ラプソディー


▲類が友を呼んだ奇妙な住人。

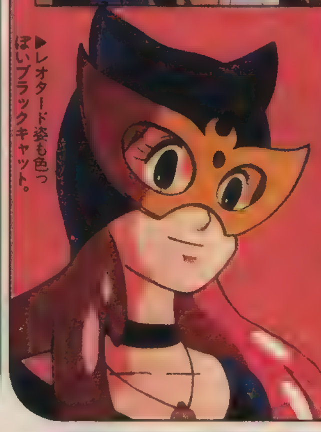

▲おうちへ帰るのではありません。


▲自転車で月までもいっちゃいそうな雰囲気。翔んでる女の競輪選手。飛ばないはずはない！

▲大公開！　これが人力飛行機だ。

木もれ陽の少女


▶仲間を集めるレイとゼナ。


▶レオタード姿も色っぽいブラックキャット。

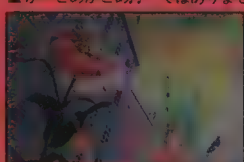

▲"薄幸の美少女"シベールちゃん♡

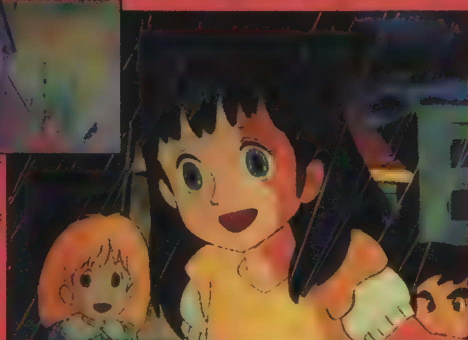

▲出たし　これがウワサの[illegible]

ある街角の伝説


▲か～ごめかごめ!?　ではありません！


▲冬、夏、春、秋、四季の妖精が勢ぞろい。


▲みんなの協力で「あそこの公園」に妖精が復活した。そして町にも花がもどった。


▲黒雲から花を守りぬいたフェアリーちゃん。

ペテン師のノクターン


▲「ピアノのコンサートがあるの」「ああ」コンサートの券を手に入れるために、たいへんなさわぎにまきこまれるモモたちでした。


▲ゼペット神父と幼い頃のジム。

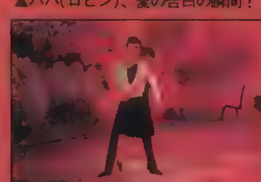



▲天国と地獄を見たコックさん。

時は愛のゆりかご


▲パパ(ロビン)、愛の告白の瞬間！


▲ＩＶＹがよくにあう若いころのママ。




▲見よ愛のオーラカ！

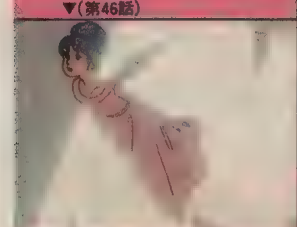


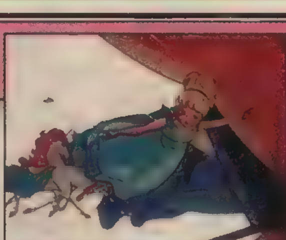
マイリー

美少女名鑑 ③

ここには主として第二シリーズの写真を収録した。なお、某作画監督の回に限り、ひんぱんに同じ顔が出てくるが、これは奥さんがモデルに違いないと、もっぱらの評判である。

▼(第46話)



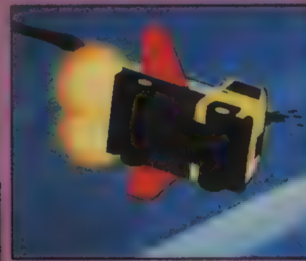

▲(第46話)モモのあけた扉から飛び出したフェナリナーサの妖精たち。間違っても、捕虫網を持って飛び出したりしてはいけません。


▲(第55話)デビルクィーンのパレードを見る町の人たち。

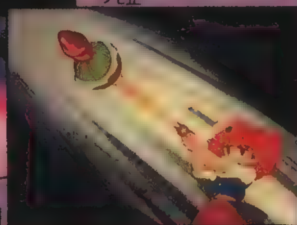
愛・アップルよ永遠に

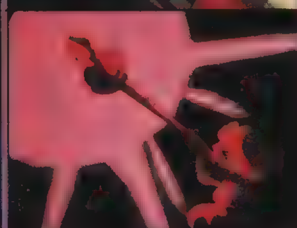


◀ついにモモの前に正体を現した黒雲。モモの怒りがビームとなって黒雲を貫く!!



▲デビルおばさんの秘密兵器。





▲今回はミンキーステッキ大活躍♡



▲メカに強かったデビルクィーン。

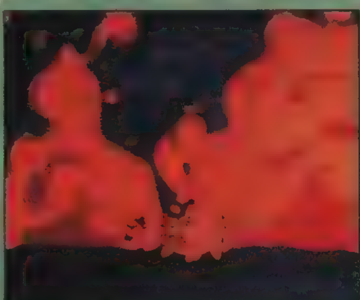


▲愛・アップルは永遠に不滅なのです。



▲「グルメポッポ・カモーン!」

しのびよる影



▲「モモっ!!」仲間たちとも離ればなれになり…。



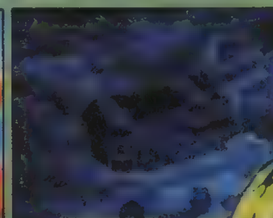
▲朝日に照り映える町を見て、なにを想うモモ!?



▲パパとママが石になり、狂暴化した動物がせまる。



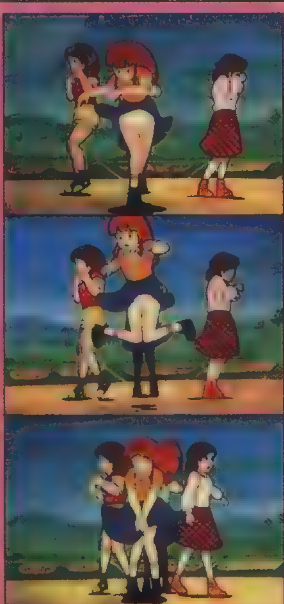
▲天災は忘れた頃にやってくる。忘れた頃に再登場!魔女のおばあさん。



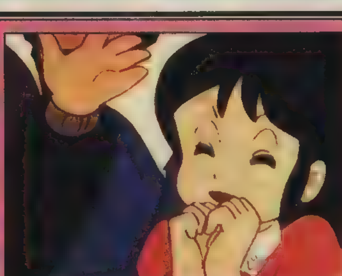
▲ついに黒雲の魔手が……。



▶化石化したデビルクィーン。



▲(第3話)"赤いスカンク"の被害者。



▲(第55話)



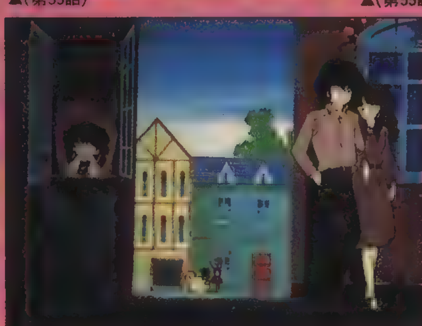
▲(第55話)



▲(第55話)デビルクィーンにリンゴをねだる子。

▼(第55話)愛・アップルをほおばる女の子。



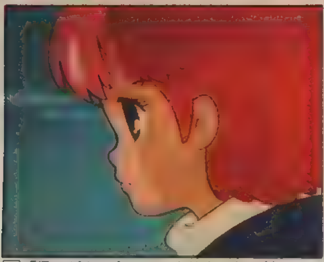


▲(第60話)ひと昔前のどこかの町の恋人たち。



▲(第59話)オーラ力を集中する……いや……手をつなぎ、妖精を復活させようとしているところ。一途な顔立ちがカワイイ。

Episode:63



1「帰るがよい！　フェナリナーサへ!!」
不気味な黒雲の声が、モモに迫る。

♡ストーリー

両親を、友人を化石とされ、三匹とも離ればなれになってしまったモモ。そのモモに止どめを刺そうとするかのように現れる黒雲――。

「さあ、地球から出ていけ！　おまえたちの夢や希望は地球には必要のないものじゃ！」

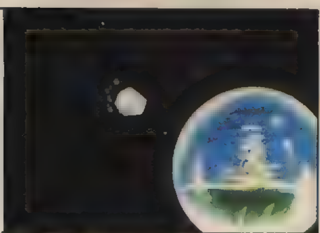
「それはあなたが決めることじゃないわ！　地球の人たちが決めること！　そうよ、私はどこにもいかない。ここであなたと戦う！」

♡かいせつ

最終回とはいえ、ストーリー自体は46話で終わっており、そのため、ラストも46話に回帰するような形になっている。

前半の、モモが追いつめられていくあたりの迫真の描写や、モモと黒雲のセリフの応酬の見事さなどは、他に類がない。また後半の黒雲との戦いの、作画の盛り上がりもあり、クライマックスにふさわしい締めくくりを見せてくれた。





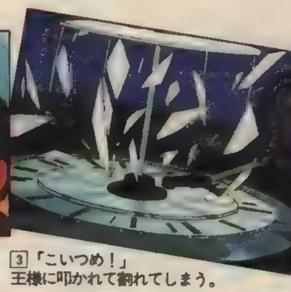
6フェナリナーサへと飛んできていたのだ。ふたたび宝石を拾いセットする王様。



5眠りながらモモが泣いている!?その涙は宝石となり……。



4突然泣き出したモモをあやすパパとママ。「ゆっくりおやすみ…」だが、



3「こいつめ！」
王様に叩かれて割れてしまう。



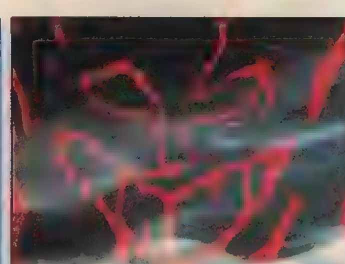
2「かわいそうなモモ、やたらかわいそうだば…」



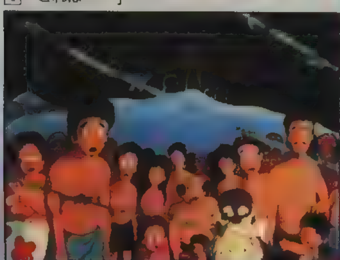
9「これは……」



10そこはかつてモモが合身人形で救ったホレホレ島であった。しかしその後……。



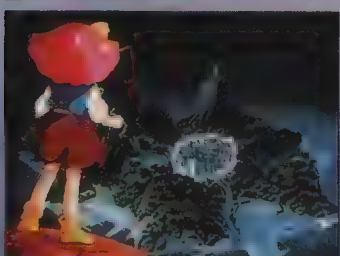
7モモに迫る黒雲の魔手!!



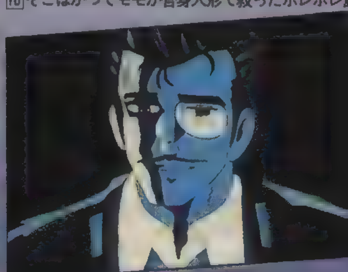
11島はどこかの国に占領されてしまっていた。



8黒雲の力に翻弄される。



15今や、あきらめの島と化したホレホレ島。



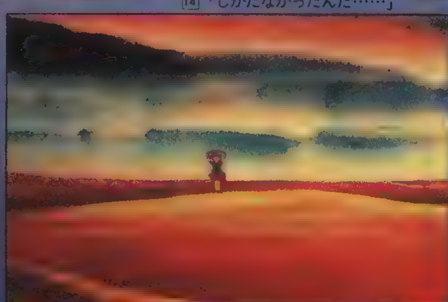
14「しかたなかったんだ……」



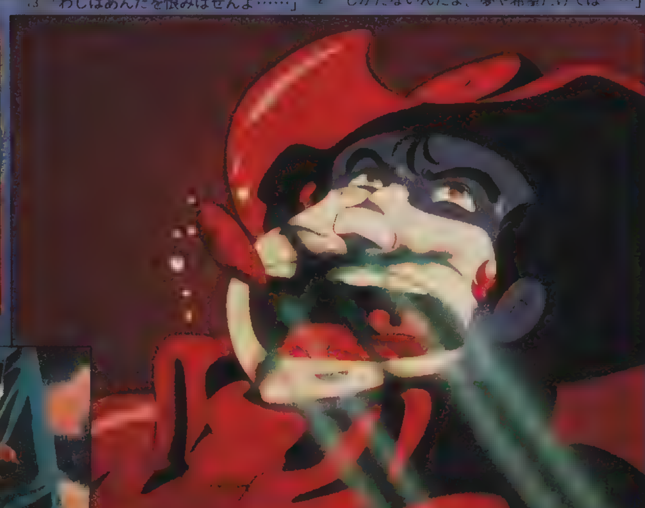
13「わしはあんたを恨みはせんよ……」



12「しかたないんだよ、夢や希望だけでは……」



17ぼうぜんとするモモの前で、砂のなかから氷の柱が……。



16「爆撃じゃ！　爆撃じゃ！　あっちの国を爆撃じゃ！」そして「変わらぬ者も……おまえが防いだつもりの戦争も、あいかわらず続いておるぞ」黒雲の勝ち誇った声。



20ひとりぼっちで凍りついていった。

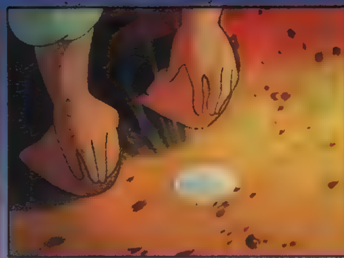


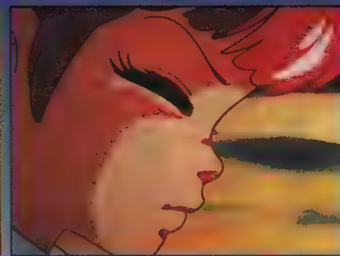
19誰にも信じてもらえず、



18そのなかには、夢を失った人々が、


23 「人間は夢を捨てちゃいない。その証拠がボクなんだ」モモが死んだとき人々が流した涙が、

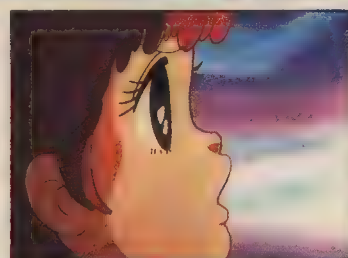

22 「ちがう！　ちがうよ！」光がカジラに…。

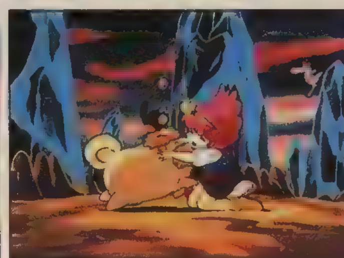

21 「こんな！ ……こんなことって!!」


25 その前にふたたび光が……。


24 カジラとなったのだ。

カジラと三匹のことばにモモは再び立ちあがった！
「私は負けないわ！　あなたなんかに!!　そりゃ人に夢をあげることはできないかもしれない。でも私は私の夢をなくしたりはしない！ どんなにあなたが強くても夢を捨てない、絶対にあきらめないわ!!」
「人間になったおまえに、わしに勝つ力はない！」
「私が人間のおとなになったとき、それがわかるわ！」


28 「私は負けないわ、あなたなんかに！」


27 モモとともに戦うという３匹。


26 「モチャー！　ピピル……シンドブック！」

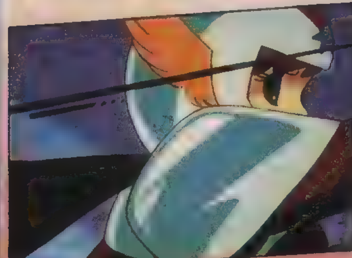

32 「知識の宝庫、シンドブック！」

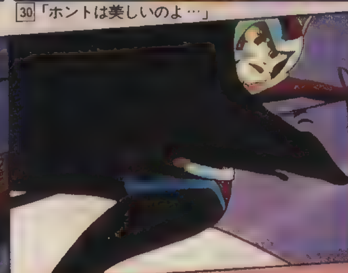

31 「正義と真実の戦士、モチャー！」

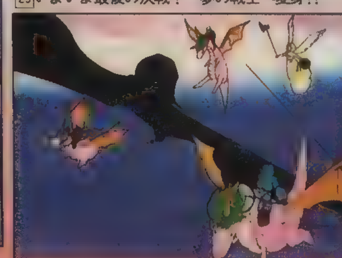

30 「ホントは美しいのよ…」

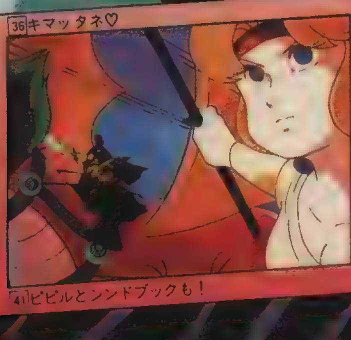

29 いよいよ最後の決戦！　夢の戦士へ変身!!


36 キマッタネ♡

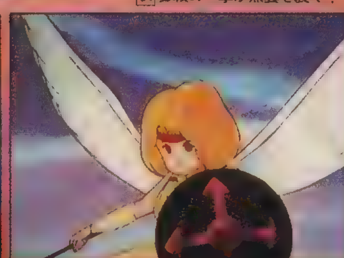

35


34 必殺の一撃が黒雲を裂く！


33 3匹のドラゴンとなったカジラにまたがる。


41 ピピルとシンドブックも！


40 黒雲に突入するモモ！

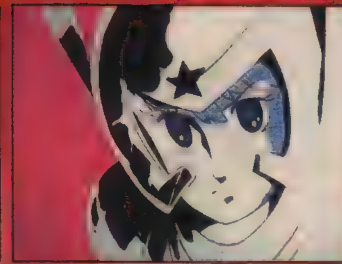

38 ピピルも雄々しく戦う


37 パワードスーツの威力を見よ！




42 ここで負ければ、それは夢が絶望の前に屈したことになる！　黒雲のなかへと突入する戦士たち。
43


39



44 黒雲のなかを奥へと飛ぶ一同。そして……。



45 モモのステッキからあふれた光は…、



46 一同をのみこみ光の矢となる。



47 そのまま黒雲のなかを駆け抜ける。



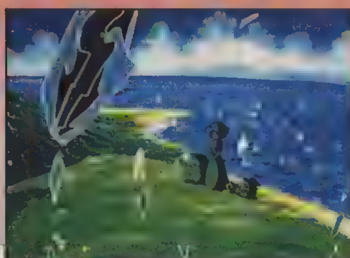
48 あちこちに光のヒビを生じさせ、四散していく黒雲。モモたちの勝利!!



49 その瞬間、人々の氷が割れていった。



50 モモの勝利で、人々の心に巣食った悪夢が、



51 消えていったのだ。



52 「ア……ハハハッ」ルピンたちにも笑顔が。

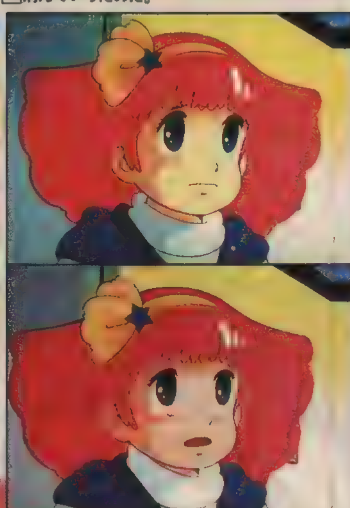


53 石になっていたパパたちも、もとの姿に。

そしてついに悪夢は破れ、モモの心にも平安がもどった。モモの眼に光る涙も、二度と悪夢を呼びさますことはない――。

そして、いまはおやすみ、モモ、パパとママの腕のなかで。いつか、おとなになって自分の夢をかなえる、その日のために……。

そう、いつかきっと――。



54 「パパ……ママ……」



55 目をうるませ、二人の胸にとびこんでいく。



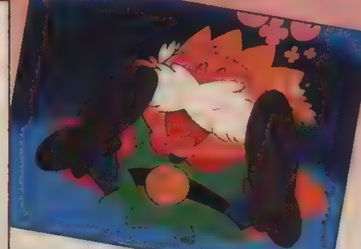
56 自分の夢を捨てず、悪夢に打ち勝ったモモ。いま、彼女はパパとママのそばで、安らかな寝息をたてていた。



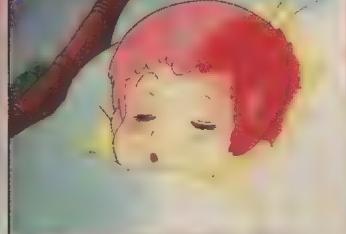
57



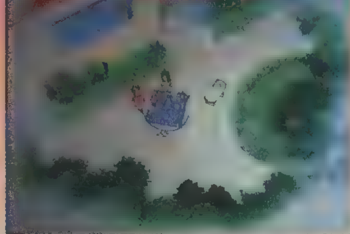
58 「勝ったんですわ…夢をはばもうとする敵に」



59 「モモ、早く大きくなるだばよー♡」



60 暖かな光のなかでニッコリ笑い、眠りにつく。



61 おやすみなさいモモ。そしていつかきっと…。

SOMEDAY, SOMETIME,

Story Digest & Character

49 桃とモモの謎



ピーチボーイ
口でいうのはたやすいけれど、行動がともなわないという見本のような子。ホラもほどほどに……。

王妃様に連れられてジョギングに励んでいた王様は、とおりがかりの池の中から珍しい宝石を見つけ出した。宮殿にもどった二人は、コンピューターの勧めに従ってそれを王冠にはめてみる。すると、宝石はレーザー・ディスクに加工され、懐かしいモモの映像がビジョンに映し出された。「ひゃあっ、モモだば、モモだば、モモちゃんだば!!」「いいえ、どこかモモと違うようですわ」なるほど、画面のモモは、服装や住む世界が現実と少し違っているようであった。

その世界のモモは、近所の女の子たちとなわ跳びをして遊んでいた。そこへ〝世界一〟と自称する

大ボラ吹き少年

ピーチボーイ君がやってきて、鬼が島の鬼を退治してやる、と宣言した。女の子たちはバカにして相手にしない。そこでピーチボーイは、いつもホラばかりではないことを証明しようと、本当に鬼が島に乗り込んでいくことにした。ヨロイ、カブトに身を固め、キビダンゴで買収した三匹をひきつれて……。

ところが、島に到着したピーチボーイ一行、やたら強い赤鬼さんに追いかけられ、命からがら逃げ出す始末。心配してあとを追ってきたモモは、スーパーウーマンや一寸法師に変身して赤鬼をやっつけ、彼らを無事、救い出す。

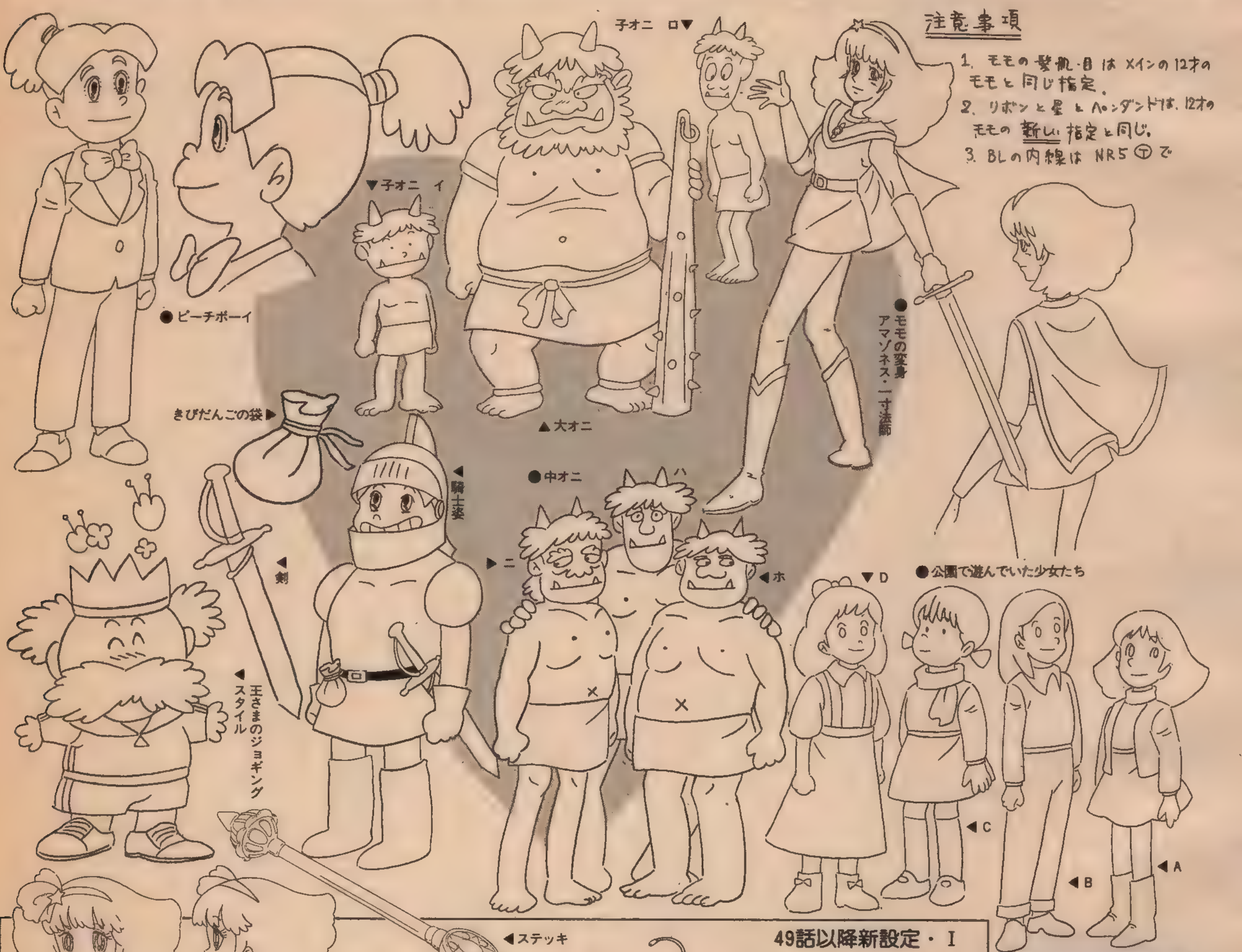
モモたちは、鬼から手に入れたみやげを持ってどこかの町へ帰ってくるが、ピーチボーイはさも自分が鬼を退治したかのように自慢するのだった。

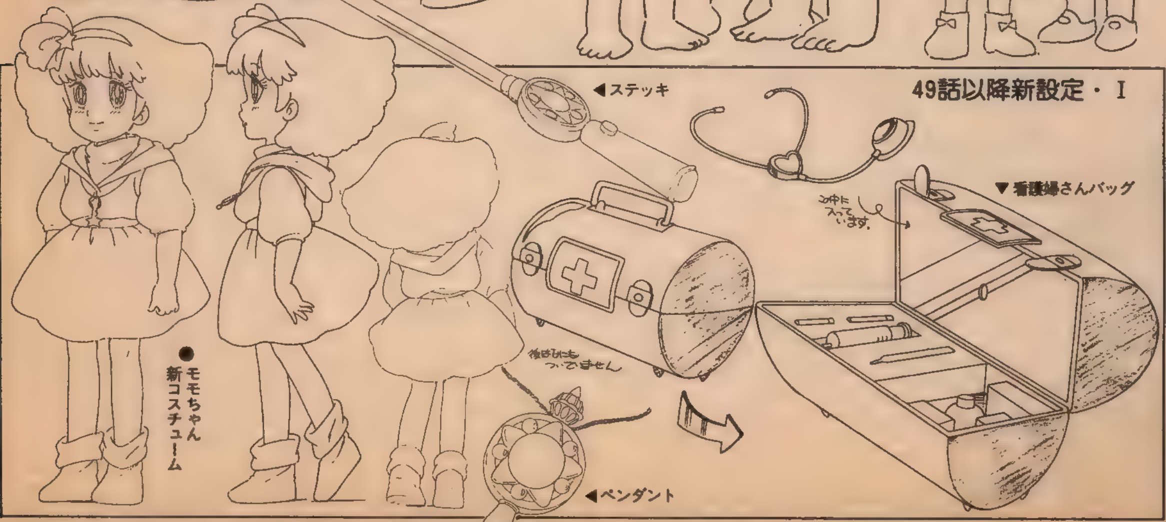
一方、鬼が島にいたおかしな動物 **カジラ** は、モモにくっついてきてしまい、新しい仲間になった。

私、フェナリナーサの王妃でございます。まあ、なんと申しますか、宅の宿六ダンツクさんが、池のなかから拾ってきた宝石は、いったいなんなのでしょうか?

魔法のプリンセス ミンキーモモ「リンゴに御用心」。次回は中年オバサマ、デビルクイーンが大奮戦。若い女の子もいいけど、私の年頃も捨てたもんじゃないでしょう? ネ、あなた…。

NR/王妃様





〈48話次回予告より〉

人間になってしまったモモ。ワシ待つだば。モモがおとなになり、夢をかなえたとき、フェナリナーサは地球へもどる。待ち遠しいだば。そんなある日、ワシ、見たこともない宝石を見つけただば。その宝石のなかに、なんと、新しいモモの冒険が隠されていたんだば。

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「桃とモモの謎」。謎は謎を呼ぶ…。モモは永遠に不滅だば!

NR/王様

50 リンゴに御用心



デビルクィーン
悪役と思われがちだが、実は心の優しいおばさん。おいしいリンゴ作りに、女の意地をみせてくれる。

ユメイロアゲハという幻のチョウに導かれ、おとぎ森へとやってきたモモたち。デビルクイーンという女の手下につかまりそうなところを、小人たちに助けられる。デビルクィーンは、自分以外の美しいものをすべて滅ぼそうとするコワーイおばさん。小人たちのアイドルだった白雪ちゃんも、彼女のためにガケから落とされてしまったという。モモは、小人たちを勇気づけるため、**白雪ちゃん**に変身する。「私がもどってきたからには、デビルクィーンなんか、のさばらせておかないわ!! みんなで力を合わせて、デビルクィーンをやっつけちゃいましょう!!」威勢のよい白雪ちゃんに、驚きつつも励まされる小人たち。

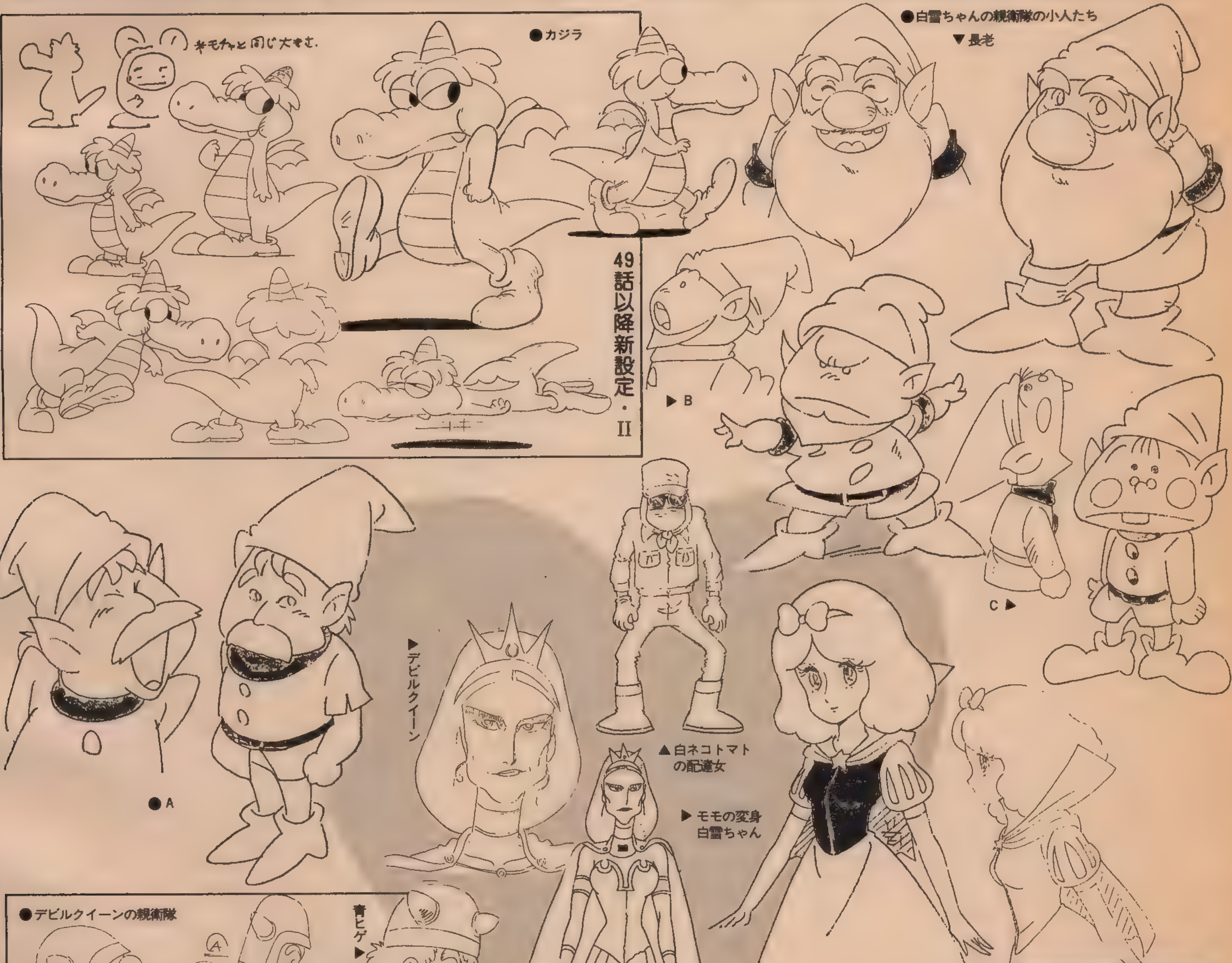
白雪ちゃんに美女ナンバー1の座を奪われまいとするデビルクィーンは、爆弾で白雪ちゃんモモを殺そうとするが、見事に失敗。モモと小人たちは、ついにデビルクィーンのお城へと乱入した。モモは話し合いを求めるが、デビルクィーンは聞き入れない。「どうあっても、あなたと対決するしかなさそうね」「アタリキシャリキの焼きリンゴ、それがおきまりのストーリーじゃ!!」デビルクィーンは、シワの素の**巨大リンゴ**を食べさせんと入った、モモに迫る。が、間違って自分がリンゴをかじってしまい、シワクチャのおバアさんになり果てる。城の塔型ロケットに乗って、逃げ去っていくデビルクィーン、哀れ……。

森に平和がよみがえった。白雪ちゃんがニセモノであることを見やぶっていた小人たちは、モモに深く感謝する。本物の白雪ちゃんは、いまではあのユメイロアゲハに姿を変えていたのであった。

カジカジ、カジラ〜。うふっ、ぼくカジラ。ぼくのセリフこればっか。こらっ、たまにはなにかいわせてくれェ! で、来週の予告やっちゃうもんね。

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「ラストアクション」。花の都はどこかのハリウッド。夢と希望の映画のお話。でも、ホントは暗い。めいっぱい暗い。こんなに暗い話があっていいのか!? カジ、カジラジ…イテッ。なんのこっちゃ…。

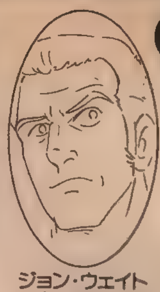
NR/カジラ






自分ではポール・ニューマンのイメージで作ったんですね。似てたかなって心配はあるけれど、自分なりに気に入ってるキャラです。コスチュームも全部考えてね。なんたってファンだから。(兵頭氏談)

51 ラストアクション



ジョン・ウェイト
ルピンと並ぶ、渋いおじさま族の代表者。「死ぬなら舞台の上で……」というケナゲな考えの持ち主。

モモたちは、超二枚目のアクションスター ジョン・ウェイトと知り合った。彼は絶対にスタントマンを使わないことで有名だったが、三年前に突然引退してしまっていた。

そのジョンが、また映画を撮るという。モモは撮影所に連れていってもらい、大喜び。だが、カジラを追いかけているうちに、気味の悪い地下室へ迷いこんでしまう。そこには

無数のローソク

とひとりの老婆の姿があった。「ここにあるローソクはな、人の命の長さじゃ」老婆は、かたわらの消えかかったローソクを指さす。「それはな、おまえの友だちのジョン・ウェイトの命じゃ!」ジョンの命があとわずかしかないことを聞かされて、驚くモモ。

ジョンは、ほとんど眼の見えないまま、危険なアクションシーンを撮り続けた。あとは車と飛行機の連係アクションを残すのみ。ところが、飛行機の失速によりアクションは失敗し、パイロットが足をケガしてしまった。ジョンはあせっていた。「なんとかパイロットを捜せ! きょう中に撮り直すんだ! 最後なんだぞ!

最後の

アクションなんだ!! きょうやらなきゃだめなんだ」モモは、ジョンの切なる願いをかなえるため、飛行機専門のスタントマンに変身した、そして……文字どおりそれはジョンのラストアクションとなったのだった。

「ジョンは自分の死を知っていたんだなあ。だからあんなにあせっていたんだ」監督は、ジョンの墓の前でつぶやいた。スクリーンに映し出される華麗な、そして悲しいラストアクションを見るモモ。映画館を出たとき、モモは実感した。ジョンはもういない、と……。

ぼく、愛の戦士モチャーだ。でも、おいらだって人の子。あ、いやいや猿の子。たまには星空を見上げて、いまは亡きママを思ってジ～ンとなることだってあるんだい!

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「モチャーとペンギン」。岸壁の母もまっつぁおの母と子の愛のドラマ。ペンギンだってかまわない。いつまでもおいらのママでいて。ああ、泣ける泣ける。だっておいらが主役だもん!

NR/モチャー

52 モチャーとペンギン



母ペンギン
わが子を失った心の痛手は、きっと、ハンサムペンギンの暖かい心でいやされることでしょう。祝福♡

子どもを亡くしたママペンギンが、悲しみのあまりご飯も食べないでいる。このことをパパに聞いたモモたちは、さっそく動物園へいってみた。すると、例のママペンギン、モチャーを自分の子と間違え近寄ってきた!?

モモにひとつの名案が浮かぶ。「モチャー、かわいそうなママさんペンギンのために、ひとハダ脱ぐ気あるわよね?」かくしてモチャーはペンギンの子に変装させられ、ママペンギンのもとへ。案の定、モチャーをかわいがるママペンギンの姿に、モモたち大満足。だが、ママペンギンの愛の重さにたまりかね、思わず金網にとびついたモチャーは、インチキ動物ブローカーに眼をつけられてしまった。「木のぼりペンギンか……こいつは高く売れるぜ」その夜、ブローカーはまんまとモチャーを誘拐してしまう。モチャー危うし!!

モチャーと犯人を捜し出すため、モモは探偵に変身。さらにペンギンたちに魔法をかけて飛べるようにしてやる。「なんと!? おとなになる以外の魔法も使えちゃうのか?」驚くシンドブック。やはり、この世界のモモは現実とは少し違うようであった。

空飛ぶペンギン

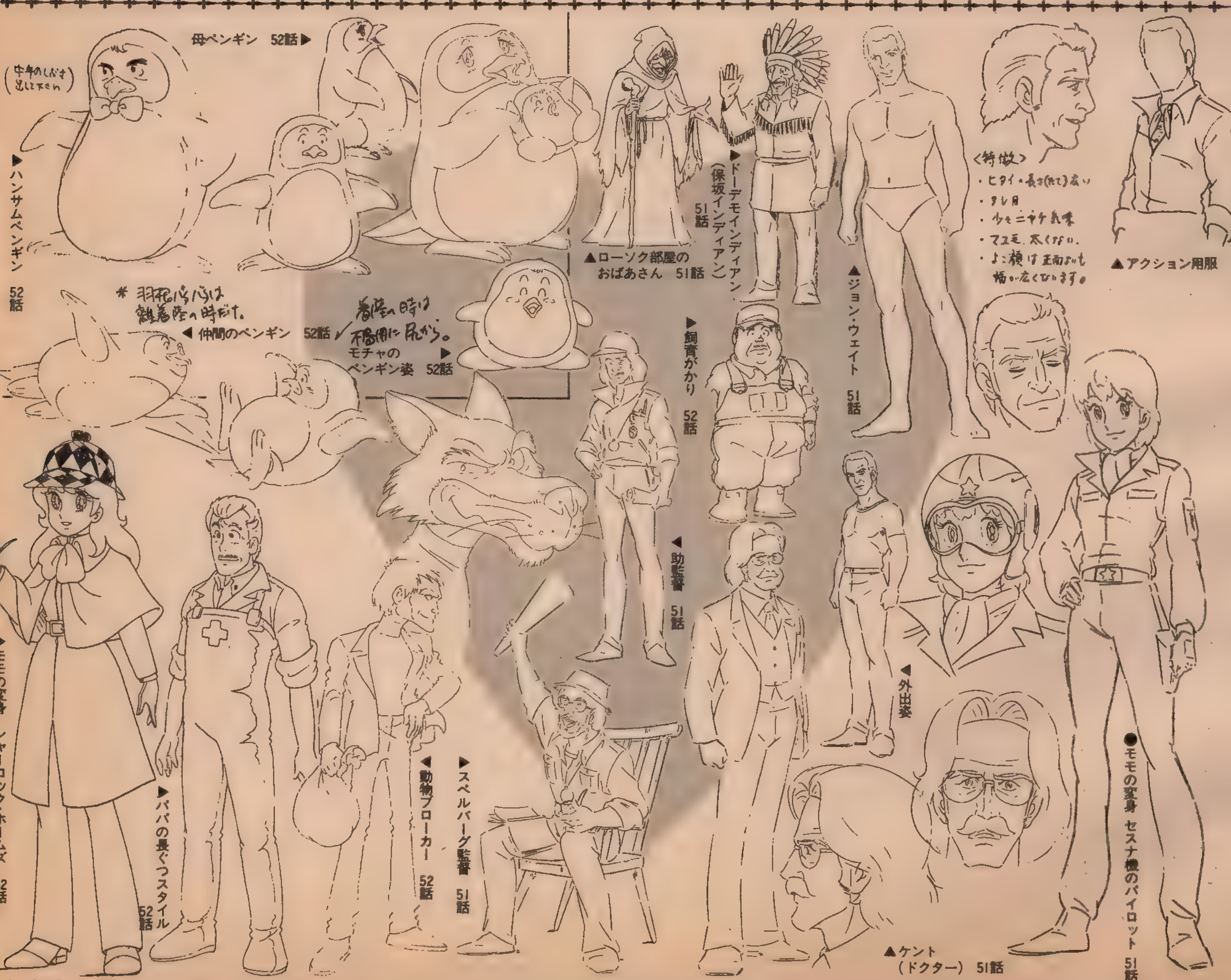
の群れはたちまちブローカーを追いつめ、モチャーは無事救出された。ところが、ママペンギンとの感激の再会!! と思ったその瞬間、モチャーの変装がばれてしまう。悲しむママペンギンだが、そこへハンサムな中年ペンギンが現れ、愛の力でその心をいやすのだった。つかの間だが、母親のぬくもりを味わうことのできたモチャーは、ママペンギンのうしろ姿に、そっとつぶやいた。「さよなら、

ママ…」

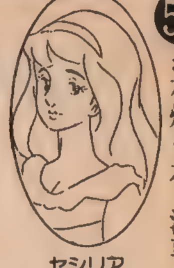
愛、それは永遠の時を越え、男と女を結びつけるもの。いいわァ。60年前に燃えた愛の炎が、SLの懐かしい煙とともによみがえる。走れSL!

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「お花畑を走る汽車」。お年寄りにも夢を与える愛の復活。あー、でもあたし、若く美しいピピルの愛はどこにあるの? 教えて～ん。

NR/ピピル



53 お花畑を走る汽車



セシリア
ナント！ 60年もの月日を越えて、悲劇の恋をハッピーエンドにかえた老年パワーにはおみそれ。

しらない村にあるバスカヴィルさんの村までパパの薬を届けにいったモモは、途中で道に迷い、お花畑の中を走り抜ける幻想的な汽車の姿を見た。モモの話を聞いたバスカヴィル夫妻は、この村には汽車なんて走っていない、ととり合わない。翌日、モモたちは夕べの場所へいってみるが、汽車どころか線路さえも見あたらない。「あ〜あ。信じられない、られられない」そこへセシリアと名乗る老婦人が現れた。モモの話を聞いたという。「この村に鉄道がとおっていたのは、私の娘時代のことなんですよ」彼女は想い出を語った……。

彼女は、画家を志す恋人マークとの結婚を父親に反対され、かけおちを決意した。だが、パリへ出発しようとするその晩、あとにとり残される父親の悲しみを考え、ついに約束の汽車に乗れなかったのだという。「私はときどき思うんですよ。あのとき、**汽車に乗っていればって…」**

その夜、お花畑で待つモモとセシリアの前に、再び汽車が現れた。魅かれるようにして乗り込むセシリア。モモも駅員に変身して、あとを追う。だが汽車のなかには若い頃のマークとセシリアが！「きたわ私…約束どおりこの汽車に乗ったわ！」「セシリア…僕は信じていたよ、君がきっとくるって！」見つめ合う二人。やがて汽車は虚空に消え、ぼう然としていたモモは、はじきとばされてしまった…。気がつくと、そこは朝のお花畑。あわててセシリアの家へもどったモモは、そこに年老いたセシリアと夫のマーク、そして二人の子どもや孫の姿を見た。セシリアの願望が、彼女に六十年の人生をやり直させたのだった。

飛行機は、ジェット機もいいけれど、ブルンブルンブルン、やっぱりプロペラ機がいいなァ。ああわたし、いつもウチの娘がお世話になっとります、ペットショップのパパです。
次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「飛べアルバトロス号」。モモもいつかおとなになってわたしたちのもとから飛び立つ日がくる。でも、わたしにはママがいる。ママ〜、いつまでもどこまでも飛び続けようね。なに、予告になってない!? いいじゃないですか。
NR／パパ

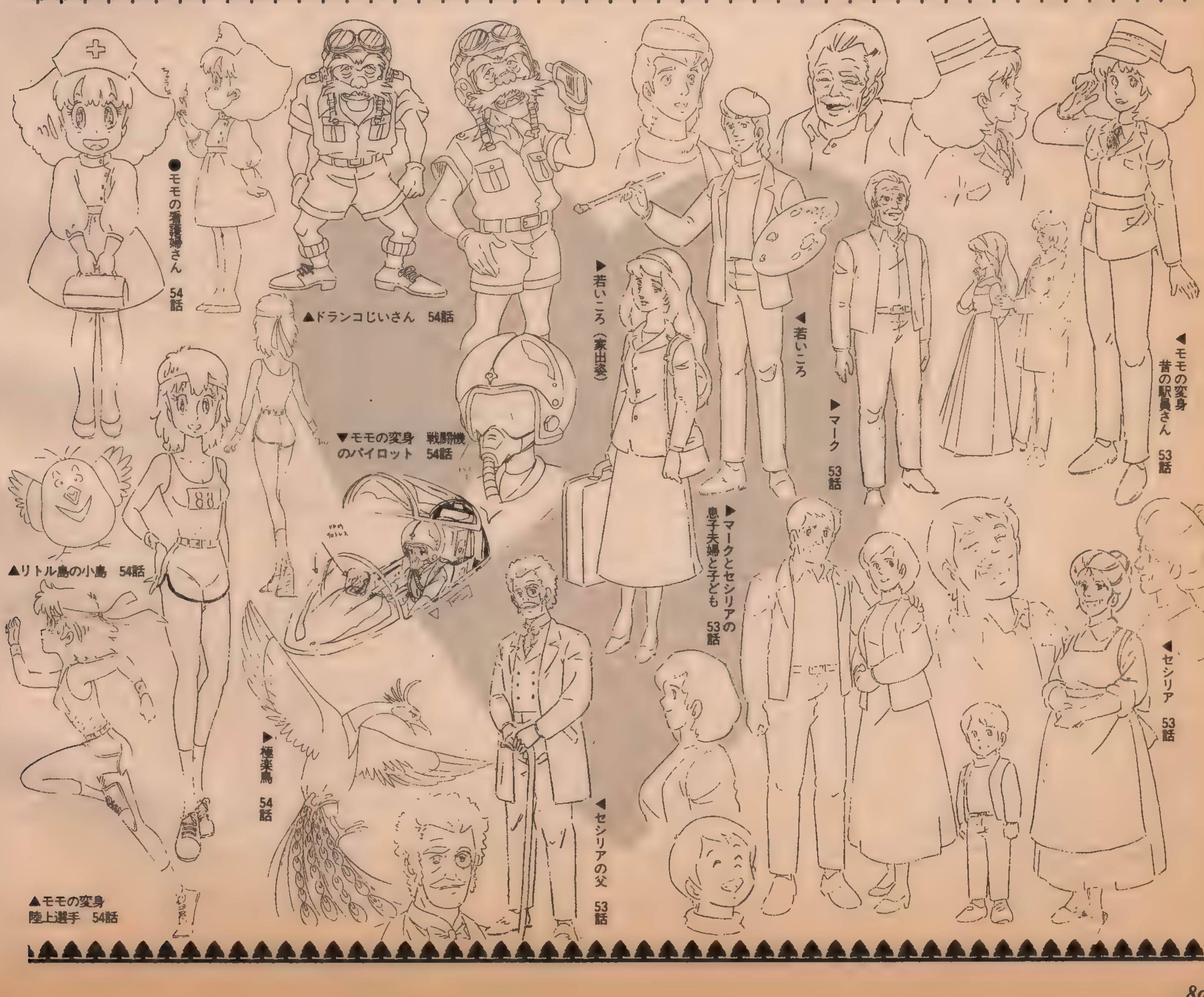
54 飛べアルバトロス号



ドランコじいさん
人間、文明化すると素朴な物が使えなくなるようで……こういうお年寄りには元気でいてほしいもの。

遠い南の国から、はるばるモモの家へとやってきた一羽の極楽鳥。「いま、ヘブン島はたいへんなんです。すごい病気がはやってて、鳥や動物たちがバタバタ倒れている！」
出張中のパパに代わって、モモはヘブン島へ飛んだ。ところが、動物たちを治療し終わったと思いきや、そこへ現れる青い小鳥さん。「あたしはおとなりのリトル島からきたの」リトル島でも同じ病気が広まっていると聞いて、モモの使命感は燃える!!「急いでください。早くしないと台風がきちゃいます！」ところが**謎の黒い雲**がグルメポッポの機能を停止させてしまった。モモはしかたなく、ジェット機パイロットに変身。空軍基地からジェット機で発進するが、速度があり過ぎてリトル島に着陸できない。「科学の最先端って不便なのねえ」モモが思案にくれていると、モチャーがオンボロの複葉機を見つけてきた。しかし、ジェットパイロットの能力しか持たないモモには、複葉機がうまく扱えない。そこで、持ち主のドランコじいさんが自ら操縦することになった。「さあいくぞ！ アルバトロス号よ！ **十年ぶり**に大空へはばたけ!! ウ〜イ」海への墜落と山への激突、という危険をはらみつつ、複葉機は嵐の空を飛んでいった。だが、このままではリトル島にそびえる山を越えることはできない。モモは機体を軽くするため、子どもにもどったり、陸上選手に変身して地上を走ったりして山越えに成功。ところが飛行場直前に燃料切れで大木にゴツン。モモたちはみごと動物たちのところへ落下。
こうしてヘブン島と同様、リトル島の動物たちも、モモによって救われたのだった。

しんどいこっちゃあ。ホントしんどいこっちゃ。ワシ中年、くたびれシンドブック。若い連中とつき合うのはホント楽じゃな〜いです。ところが、出た！ 中年パワー大爆発。デビルクィーンふたたび復活。
魔法のプリンセス　ミンキーモモ「愛・アップルでもう一度」。デビルクィーン、あんたが迫力出すならワシもがんばらにゃ。中年だって、中年だって、捨てたもんじゃ〜ない。でも、シンド…。
NR／シンドブック



●モモの看護婦さん 54話
▲ドランコじいさん 54話
▶若いころ（家出姿）
◀若いころ
▶マーク 53話
◀モモの変身 昔の駅員さん 53話
▼モモの変身 戦闘機のパイロット 54話
▲リトル島の小鳥 54話
▶マークとセシリアの息子夫婦と子ども 53話
◀セシリア 53話
▶極楽鳥 54話
◀セシリアの父 53話
▲モモの変身 陸上選手 54話

55 愛(ラブ)・アップルでもう一度


青ヒゲ
(ジャック・オレンジ)
町会議員になりたいがため、自分の過去を知るデビルクィーンを町からおいだそうとする。

あのド迫力おばさん、デビルクィーンがどこかの町へやってきた。しかも、町中の人を無料招待してリンゴパーティを開くという。

不思議に思ったモモが会場へいってみると、誰もお客がいない。デビルクィーンの手下だった青ヒゲたちが、『魔女よりこわいデビルクィーン。クィーンのリンゴは悪魔のリンゴ』と書いたビラを配ったからだ。おまけに、悪徳金貸しが借金の催促にきたため、デビルクィーンは一文なしになり、路頭にまよってしまう。そんな彼女を、モモの家族は暖かくむかえた。「うえ～ん。こんなにやさしくしてもらったのは初めてよお。あたしは本当は

「さびしいんじゃあ～く！」

冷酷を装った仮面の下にひそんでいた愛!! デビルクィーンが恥ずかしそうに開いた胸もとからは、無数の♡(ラブ)があふれ出た。彼女は、人と仲よくする術を知らなかっただけなのだ。

翌朝、HAPPYな気分で公園のそうじを始めるデビルクィーンだが、またも青ヒゲたちにより、銅像を倒したというぬれぎぬをきせられてしまう。絶望したデビルクィーンは大事に育ててきたリンゴとその苗木をモモに渡し、町を出ていった。だが、モモはリンゴを食べてみてびっくり。

「おいしい♡」

そこで白雪ちゃんに変身!!「デビルクィーンのラブアップルで～す」町で配ったところ大評判、またたくまになくなった。子どもたちはデビルクィーンが出ていくのをひき止める。「おばさん、この町でリンゴ作ってください!!」感動したデビルクィーンは、改心した青ヒゲたちとともに、リンゴ栽培を始めることにした。めでたし、めでたし♡。

モモ、あなたはいつもひとりぼっち。なぜなら、あなたは普通の子どもと違う魔法の国の少女だから。どうして人は自分と違う人間を仲間はずれにするのかしら？ ついに、モモの夢をはばむ敵が姿を現す。

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ、「木もれ陽の少女」。だけどモモ、ついてるわ、わたしたちが。がんばって!!

NR／ピピル

56 木(こ)もれ陽(び)の少女


シベール
常人にはない超能力という力をもつゆえ村八分に。危険な目にもあったけど、仲間にあえてヨカッタ。

パパとママがその昔デートしたという思い出の地、のどかな村にやってきたモモたちは、林のなかで、木の葉を自在に操る不思議な少女を見かけた。少女は、モモたちの姿に気づくと、あわててその場を立ち去る。落としていったハンカチから、少女はシベールという名であることがわかった。

村人たちは、モモがシベールのことをたずねると口々にいった。「あいつは、呪われた

魔女の子

だ！」でもモモには、シベールが悪い子だとはどうしても思えなかった。川べりでふたたびシベールの姿を見つけたモモは、彼女の前で自分の魔法を使ってみせる。シベールの顔は喜びに輝いた。「モモちゃん、わたしと同じことができるのね！」超能力をもっているために人々から恐れられ、孤独な生活を送っていたシベールは、モモという理解者を得た。

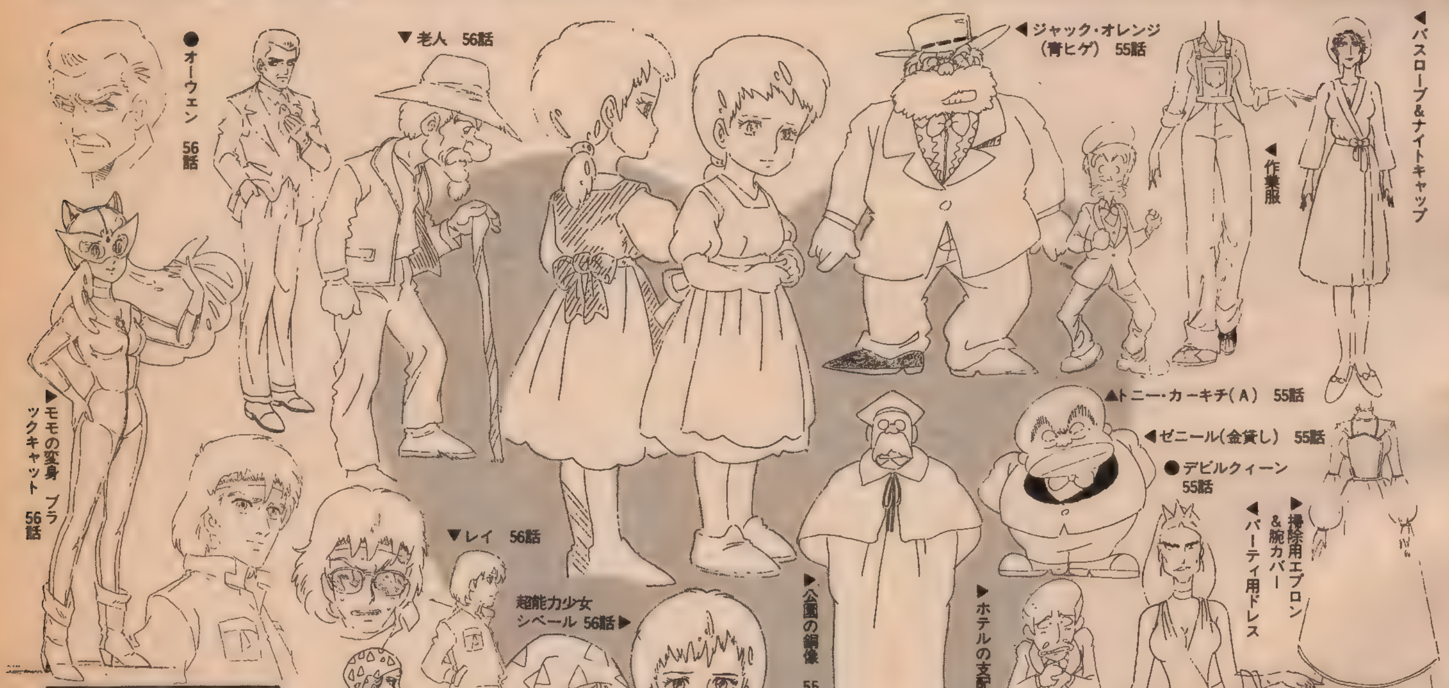
そんなとき、黒雲にとりつかれた村人たちが、シベールを村から追い出そうとやってきた。そばの別荘に住むオーウェンは、その騒ぎへ割って入り、村人を説得してシベールとモモを自分の別荘へと連れていく。オーウェンのやさしさに感謝する二人。

だが、彼はシベールの超能力を利用しようと考えるスパイの一味だった。別荘を逃げ出すモモとシベール。モモはブラックキャットに変身してオーウェンの追跡を阻むが、飛んできた手榴弾が爆発!! シベールもろともガケから投げ出されてしまった。黒い霧に邪魔されて、モモの魔法も効力がない。まさに一巻の終わりか、と思われたその瞬間、二人の体は宙に浮いた。同じ力を持つ仲間としてシベールを迎えにきた超能力者、ゼナとレイが、彼女たちの命を救ったのだった。

カジカジラン♡ もう、たまにしゃべれると思うとうれしくって…カジラ、アハッ。町の小さなアパートに住む落ちこぼれた男たち。えっ、また暗そうな話だって？ い～え、今度は夢がいっぱい、人力飛行機。

次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「人力飛行機ラプソディー」。落ちこぼれだって飛ぶ権利はあるよ。カジラだって飛べるんだ。がんばれ落ちこぼれ！ カ～ジラ。

NR／カジラ







ああいう生き方しかできない人もいるんですよね。あれが悪いというのでなくみんな各自こういう方法でしか生きられないって所で生きている。そういう事を考えさせられる話でしたね。（千葉繁氏談）

Character



57 人力飛行機ラプソディー

リチャード・ドレッシング
アパート仲間の夢を乗せ、ついに飛んでくれました！ で、アパート代は無事に払えたのカナ…？

モモは、オードリィおばさんの代理として、一週間アパートの管理人をすることになった。アパートには、風変わりだが気のいい仲間たちが住んでいた。俳優のマーロン・ブレンド、プロレスラーのハルク・モーガン、シナリオライターのニイル・サイモン、そして、人力飛行機を作っている発明家のリチャード・ドレッシング。リチャードは、今度の人力飛行機大会での優勝を目指しており、それは同時に仲間たちの願いでもあった。「がんばれよ、リチャード。おまえが夢をかなえてくれたらみんなも希望をもてる！」

「夢、希望…」

「いいことばね！」モモの瞳も輝く。おまけにリチャードが優勝すれば、仲間たち全員がためている部屋代も支払うことができるのだ。

モモや仲間たちの全面的協力を得て、リチャードは試験飛行に成功。が、途中で警官を怒らせ、追いかけられたあげくに川の中へ落ちてしまった。人力飛行機は水びたしとなり、翼の紙を張りかえる必要が生じた。ニイルが提供したタイプ用紙を使い、徹夜で翼を治すモモたち。ところが、朝になって今度はリチャードが熱を出してしまった。大会は目前に迫っている。「そうだわ！ あたし、人力飛行機のパイロットのプロフェッショナル知ってるの!!」モモは競輪選手に変身すると、アパートの屋上から直接人力飛行機で会場へとかけつけ、見事優勝を手にした。「やっと、僕の夢が大空に舞い上がったよ。次は、君たちの番だ……」

空を飛ぶ人力飛行機を見ながら、リチャードは仲間たちに呼びかけた。そしてその願いどおり、やがて仲間たちも次々に夢を実現し、成功していったのだった。

> ワシ、知識あふれ教養にじみ出るシンドブック。騒がしい連中の狂想曲(ラプソディー)はしんどいこっちゃ。ワシゃ夜想曲・ノクターンでも聞きながら、ノクタン、ノクタンとい眠りしたい。んにゃ、ナニ、予告読めって？ しんどいこっちゃ…。
>
> 次回、魔法のプリンセス ミンキーモモ「ペテン師のノクターン」。なぬ、またなんか事件がおこるの？ ペテン師？ ノクターン？ もう、よそう曲…。
>
> NR／シンドブック



58 ペテン師のノクターン

ジム
理由はどうあれ、人をペテンにかけるのはいけません。思いやりへの第一歩は、正しい心から！

モモたちは、ポスター貼りをしている青年ジムと出会った。「へえ、ピアノのコンサートがあるの？」「ああ、公園の…ホールでやるんだ」ジムの代わりにポスターを貼る手伝いをして、コンサートの券をもらうモモたち。

だが、コンサートがあるというのはまっ赤なウソで、券を買わされた町の人々はカンカンになって怒り始めた。モモたちは、サギ師の一味と勘違いされ、人々に追いまわされる。婦人警官に変身し、やっとのことで逃げのびたモモは、ジムのところへゆき、問いつめようとした。人々から集めた金を持って逃げ出すジム。再び始まる追いかけっこ！ ジムは遊園地へと入りこむが、モモはあくまでも追い続ける。とうとうジェットコースターにとび乗るジムとモモたち。ジムは観念した。「負けたよ」「どうしてサギなんかしたの？」「ピアノ買いたくてね」「ピアノ？」「神父さまの……ゼペット神父さまの誕生日が近いんだ…」両親を亡くしたジムにピアノを教え、わが子のように育ててくれたゼペット神父。ジムはピアニストになって、神父の誕生日にピアノをプレゼントする約束をしていたのだ。

行く手に警官が待ちうけているのを知ったモモは、ステッキをふり上げた。神父に会いたい、と願うジムの強い気持ちが、モモの魔法に力を与える。「飛んで！ 神父さまのところへ、

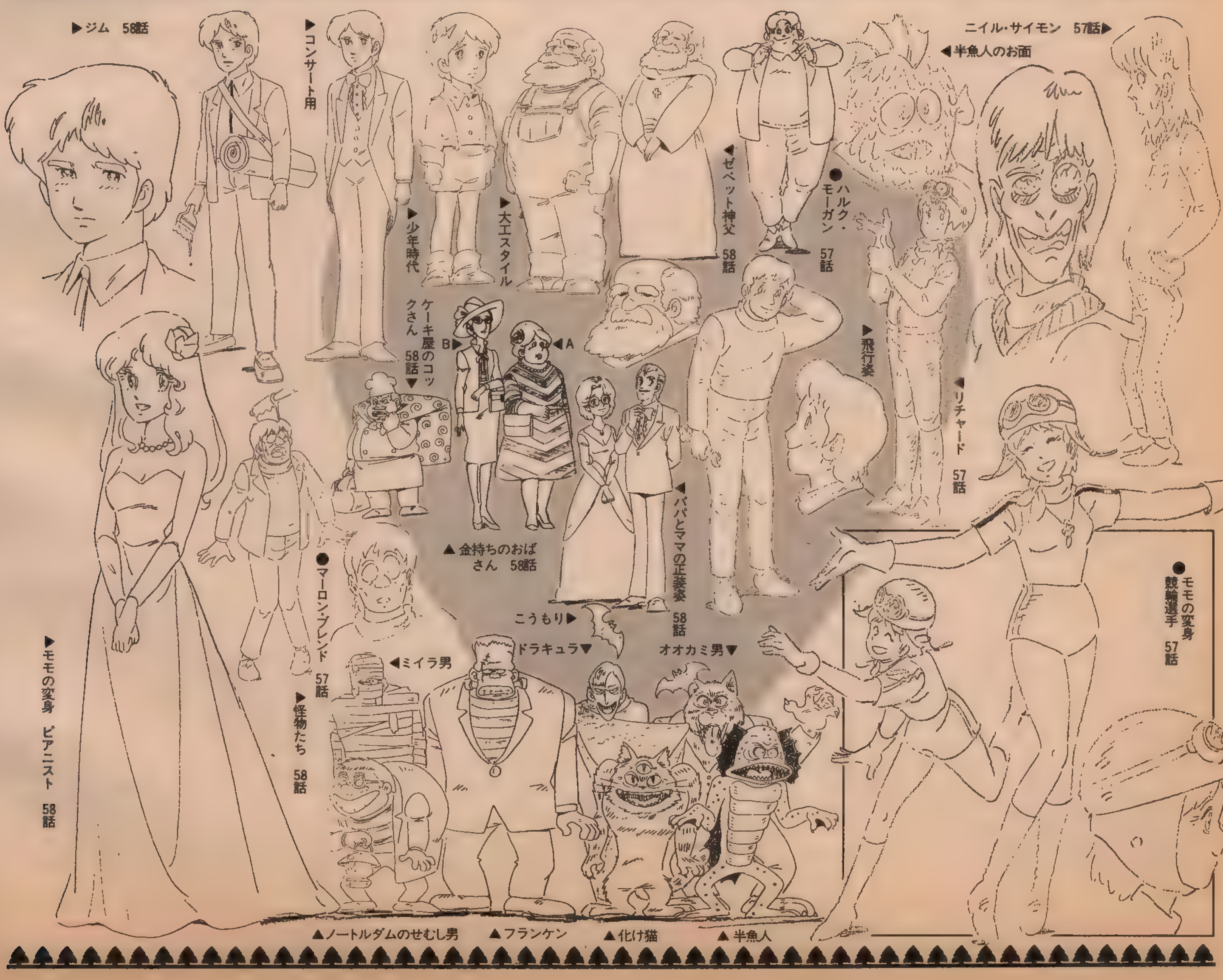
「お願い！」

空を飛ぶコースター。

懐かしい神父さまとの再会に、ジムの瞳は涙にぬれた。

モモは本当にコンサートを開いて、ジムのサギを無実(タダ)とした。ピアニストに変身したモモの弾く夜想曲は、ホール内に静かに響き渡っていった。

> 妖精、おとぎ話の世界。人間のうごめく現実の世界には縁のないもの。しかしそれは真実だろうか？ 見つめてごらん、あなたのまわりを。きっとなにかが見えてくるよ。それがあなたの世界のあなたの妖精。
>
> 魔法のプリンセス ミンキーモモ「ある街角の伝説」。正義と真実のヒーロー、モチャーがお贈りする夢の世界。どう、みんな。おいらがやると、予告だって、こ～んなマジになるんだぜ。おいら、マンゾク。
>
> NR／モチャー



59 ある街角の伝説



フェアリー
妖精たちを呼び出すために、モモといっしょに黒雲と戦う。将来は画家さんになるのかな？

どこかの町のあそこの公園は、町の人たちの憩いの場所だった。それが、あるときから木や花が次々に枯れ始め、荒れ果てた公園になってしまっていた。ところが今年は、町のほかの場所でも花が咲かない。

モモは、公園で**妖精を信じる**少女フェアリーに出会った。「わたしには見えるの。この公園が、とても美しかったころの景色が……」フェアリーはそれを絵に描いていた。この公園は、妖精たちが百年に一度お祭りを開く場所で、フェアリーはそのお祭りに参加しようと思ってやってきていたのだ。

モモとフェアリーは魔法で小さくなり、妖精に会いにいった。しかし、二人の前に現れたのは、春夏秋冬の四人の妖精だけ。実はほかの多くの妖精たちは、例の黒雲によって地下にとじこめられていたのである。彼らを救い出す方法はただひとつ。四人の妖精が咲かせた花の花粉を空からまくこと、その花粉がついた子どもたちがここに集まり、呼びかければ、妖精たちは地中から出られるのだ。

モモは、グルメポッポに乗って花粉をまきにいき、一方フェアリーは、黒雲の攻撃から必死に花を守ろうとした。だが、黒雲が降らせた激しい雨の前に、花はついにしおれ始める。そこへ、妖精の声を聞いた子どもたちがかけつけてくれた。モモとフェアリーは大喜び。「ありがとう、みんな。さあ、妖精たちに**呼びかけるのよ！」**子どもたちが花のまわりに手をつないで並ぶと、その輪が輝き出し、上空の黒雲をけちらした。そして、花からはたくさんの妖精が現れ、町中の花を次々と咲かせていくのだった。

時は流れます、オルゴールのように。くり返しくり返し、幸福の調べをかなでながら。でも、ひとつの出会いがなければ、そのあたりまえのくり返しがまるでウソになってしまう。パパとママが結ばれなければ、モモの世界はなかったかもしれません。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「時は愛のゆりかご」。モモ、ひっさしぶりの予告だっていうのにマジなんだな～。そろそろ終わりが近いかもよ。

NR／18歳のモモ

60 時は愛のゆりかご



カポカポネ
ギャングのボスとはいえ、本当は優しいママのパパ。黒雲にとりつかれて、パパたちを攻撃する。

パパが昔、ママにプレゼントしたというオルゴール。モモたちがその音色を聞いていると、部屋の時計が逆回りしはじめ、あたりが不思議な光に包まれた。

気がつくと、ペットショップは影も形もなく、モモたちは中古車展示場のドまんなかにいた。そこはたしかにどこかの町。だがいつもとようすが違っている。花屋の店先にパパの姿を認めたモモは、近寄ってみてびっくり！そのパパは花の二十代、つまり十数年前のパパだったのだ。どうやらモモは、十数年前の世界に、**タイムスリップ**してしまったらしい。

この時代のパパ＝ロビンは、まだママ＝デイジーとは結婚していなかった。でも二人はすでにアツアツ♡

ところが、パパとママが幸せ気分でいるちょうどそのとき、ママを連れもどそうと実家のギャングたちがやってきた！モモは、ママに似た女の子に変身！ギャングたちをひきつけ、その間に二人を逃がそうとするが、運悪く現れたカポネに偽物であることがばれてしまう。裏口から逃げたパパとママは、ギャングたちにたちまち追いつめられた。

黒雲にとりつかれたカポネは、パパに銃を向け、本当に撃とうとする。パパとママの結婚を邪魔して、モモを地球から追い出してしまおうとする悪夢の陰謀なのだ。しかし二人を結びつける**愛のパワー**は、強い光となって悪夢をはじきとばした。二人は結婚を誓い合い、パパはママにオルゴールをプレゼントする。モモたちはそれを聞くうちに、ふたたび現在の世界にもどってきた。

わたしたちの夢と希望をはばむ敵。現実の世界ではその姿を直接目で見ることはできない。でもいまのわたしには、確かに見えるわ、黒い雲の形で。そして、黒い雲はとうとうわたしの大切な仲間に襲いかかってきたんです。

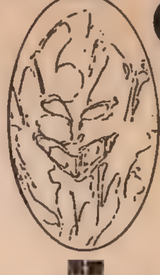
次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「愛・アップルよ永遠に」。デビルクィーン、あなたとわたしの愛・アップルを、わたしたちは守りぬいてみせるわ。これからは予告もマジになるしかないだばさ。

NR／18歳のモモ



61話でね、デビルは死ぬんです。殺すつもりでずっとやってた。途中まで描いててどうしても死なないんですよ。トラックが空飛んじゃうとね、あ、こいつはもう死なないと。好きだったしね。（湯山氏談）

61 愛（ラブ）・アップルよ永遠に



黒雲
人は“あきらめ”を知っておとなになるというけれど、君もモモのように夢を捨てずに生きれるか？

デビルおばさんのおとぎ園に、まっ赤なリンゴが実った。待ちに待った初めての収穫。モモとデビルおばさんは、さっそくトラックで初売り出しに出発する。だが途中で、黒い雲がリンゴの中に入りこんだことに誰も気づかなかった。町の子どもたちは、一口かじるなり「まず〜い。こんなリンゴ食べられないよ！」と不平をいい始めた。思わぬことの成り行きにすっかり自信を失うデビルおばさん。

モモはおばさんを元気づけるため、みたび白雪ちゃんに変身したが、そこへあの黒雲が現れ、三匹を連れ去ってしまった。白雪モモとデビルおばさんはトラックを変型させて追跡、彼らを救出する。黒雲は、「おとぎ森のリンゴを一個残らず全滅させてやる！」と叫ぶと彼方へ飛び去った。リンゴを死守せんと発進するデビルおばさん。モモもあとを追う。

しかし、モモがおとぎ園に到着してみると、そこはすでに焼け野原。最初に植えたリンゴの苗木だけが、奇跡的に助かっていた。デビルおばさんは死んでしまったのだろうか？モモは、あざ笑う黒雲に向かって尋ねる。

「あなたの目的はなんなの？」

黒雲の意外な答え……。**「おまえだ！」** しかし、いままでの不可解な事件の数々も、モモ自身に向けられたものだと考えると納得のいくものだった。モモのステッキから放たれた光線によって、黒雲は高らかに笑いながら消えてゆく。

焼けあとにたたずむモモたち。と、そのとき地面から青ヒゲたちが姿を現した。さらに生き残った苗木をかかえるようにしてデビルおばさんも!! 苗木さえあればまたリンゴは作れる。デビルおばさんの不屈の精神は、黒雲の陰謀からリンゴを守り抜いたのだった。

ひとり、またひとり。わたしの友だちが、わたしの仲間が、悪夢の手にむしばまれてゆく。そしてついにパパとママの心も化石のように凍りつき、シンドブック、モチャー、ピピル、カジラと別れなければならない日がきた。

次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ「しのびよる影」。モモ、とうとうひとりぼっち。でも、わたしは守る。わたし自身の夢だけは。わたし、負けない！

NR／18歳のモモ

62 しのびよる影



ローソクばあさん(通称)
実は黒雲の世を忍ぶ姿(？)。もし彼女がクシャミでもして火が消えたら、その人は急死してしまう!?

謎の病気にかかってペットショップに入院する動物たちが急に増えた。そのうえ、診察中に手をかまれたパパとママまでが、なにやらおかしくなってしまう。モモは不吉な予感におそわれる。その夜、ペットショップ全体が黒い霧に包まれると、動物たちが狂い始めた。異変にいち早く気づいたモモは、パパとママの寝室に逃げ込む。ドアを壊してとびこんでくる動物たち。だが、パパとママは、モモを守ろうとした瞬間、石に変わってしまう。

カジラがあけた壁の穴から、モモたちは外の異様な空間へと逃げ出した。なおも動物たちは追ってきたが、そこへシベールが現れ、超能力でモモを救う。動物たちの体にとりついていた黒い霧の正体は、**悪夢**だった。悪夢は今度かった。「モモ！　逃げちゃだめ、戦うのよ。あなたが逃げたら、この地球の夢と希望が、悪夢に……ああ〜〜っ」シベールもまた、モモの眼の前で石に変えられてしまった。続いてモモを助けにやってきたフェアリーやデビルおばさんも同じく石に……！

モモはいつしか、夜の闇にとざされたあそこの公園にたたずんでいた。打ちひしがれたモモの心に、悪夢の声はさらに重苦しく、さらに冷酷にこだまする。「おまえが地球にいる限り、おまえのまわりの者たちはみんな悪夢を見ることになるぞ。そして、おまえの代わりに傷つき、倒れていくのじゃ！ **モモ、出てゆけ！** 地球から去れ、フェナリナーサへ帰るのじゃ!!」

モモは、仲間の幸福を祈り、三匹やカジラにさえ別れを告げて去っていく。孤独なモモに、どんな運命が待ちうけているのだろうか…。

マ『モモ、いよいよみなさんとお別れねえ』
パ『モモ、子どものいなかったわたしたちに、夢を見させてくれてありがとう』
マ『いいえ、夢ではありませんわ。モモはいま、確かにわたしたちの子どもです』
パ『次回、魔法のプリンセス　ミンキーモモ』
マ『最終回「さよならは言わないで」』
パ『ありがとう、モモ。もう一度モモにいいたいんだ。いいね、ママ』　マ『ええ』
パ＋マ『さよならは言わないで…』

NR／パパパ・マママ



63 さよならは言わないで



夢の戦士
モモ最後の変身は、広刃の剣もりりしく竜にまたがる女騎士。MOMO THE GREAT!

モモのかわいそうな姿をこれ以上見たくない王様は、ディスクをたたいて壊してしまった。「わし、人間になった現実のモモを見るだけで満足なんだぱ」ところが、ビジョンに映った赤ん坊のモモは、眼にいっぱいの涙を浮かべていた。王様は、その涙のしずくが宇宙を越えて、フェナリナーサの池のなかへと落ちていくのを見る。王様が見つけた宝石は、実は

モモの涙

であり、宝石のなかに映っていたものは、モモが見ている夢だったのだ。

夢のなかのモモは、悪夢によってホレホレ島へと連れていかれた。そこは、モモに夢を与えられた人たちが、結局夢に破れたり、孤独に心を凍りつかせてしまい集まってきた〝あきらめの島〟だった。夢や希望は、このような悲しい人々を作り出すだけなのだろうか。

「ちがう、ちがうよ！」絶望するモモの前に、カジラが突然現れた。カジラは、モモに夢を見せてもらった人たちが、モモの死を悲しんで流した涙でできているのだった。「人間は夢を捨てちゃいない。その証拠がぼくなんだ」

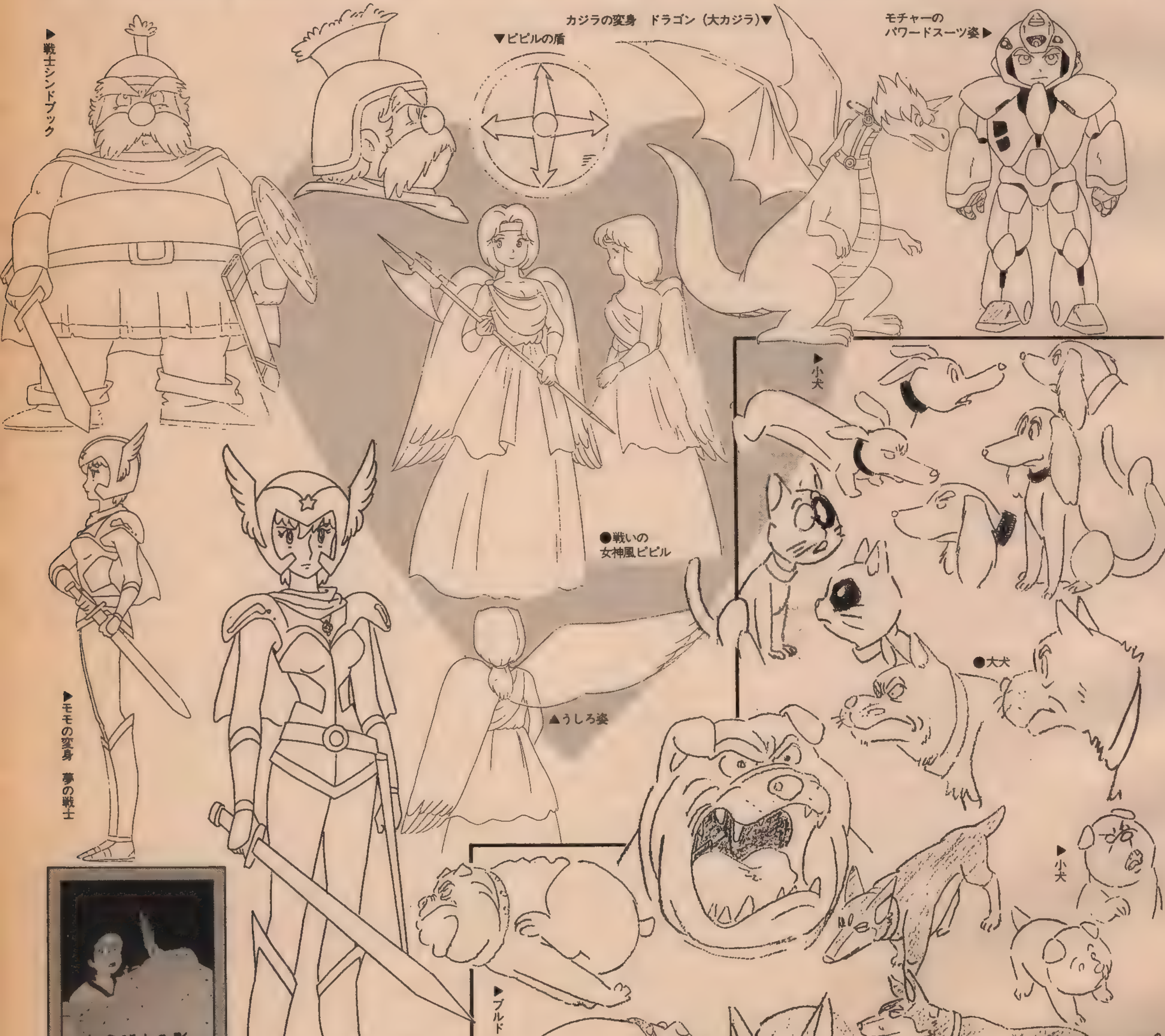
カジラのことばに、いまこそモモは悪夢と戦う決意をした。三匹の仲間も、モモのためにかけつけた。「あたしは負けないわ！　あなたなんかに。そりゃ、人に夢をあげることはできないかもしれない。でも、あたしはあたしの夢を失くしたりはしない！」

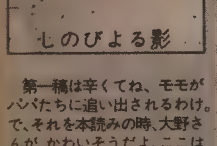
夢の戦士

に変身したモモ、勇ましい戦士やドラゴンに姿を変えた三匹とカジラ！　モモたちの夢のエネルギーは、悪夢の強大な力をついに打ち破った。

赤ん坊のモモに、すこやかな寝顔がもどった。おとなになる日を思い、いまのモモはきっとすばらしい夢を見続けている……。

Ⓐ『モモ、ご苦労さま、長い間』
㋲『サンクス♡　18歳のわたし。でもわたしまだ赤ん坊でしょ。これからがたいへん』
Ⓐ『まァ気楽に気楽に。子どもはいつかおとなになる。なるようになるしかないわよね』
㋲『ま、がんばっちゃうわ。そこそこに…』
Ⓐ『うん、そして、いつかきっと会おうよね。おとなのわたしと』
㋲『うん、いつかきっとね。みんなもね！』
Ⓐ＋㋲『フェナリナーサで会いましょう！』
NR／Ⓐ18歳のモモ・㋲12歳のモモ





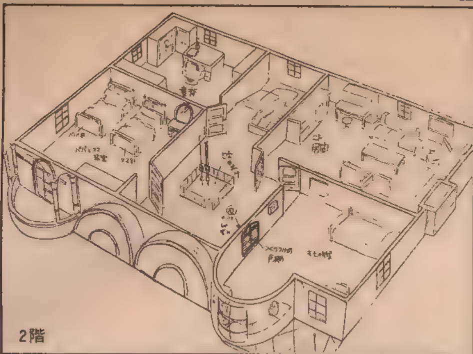
第一稿は辛くてね、モモがパパたちに追い出されるわけ。で、それを本読みの時、大野さんが、かわいそうだよ、ここはなんとかしようよとしきりにいって石にしたの。やっぱモモを愛してるからね。（土屋氏談）

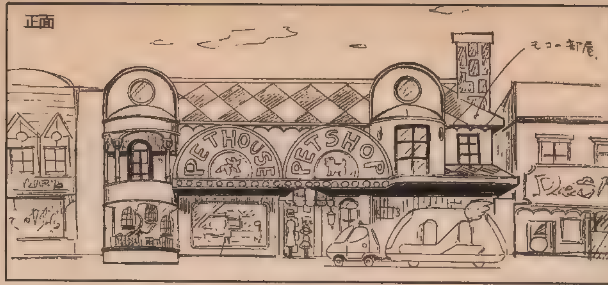
ART SHEET &…

どこかの国のどこかの町のペットショップ

モモちゃんの住む町は、地球上のどこかにあるどこかの町♡

その町の、ペットショップをかねたお家で、モモちゃんは、とっても優しくてステキなパパと、かわいくてメカに強いママの子どもとして、暮らしています。


2階

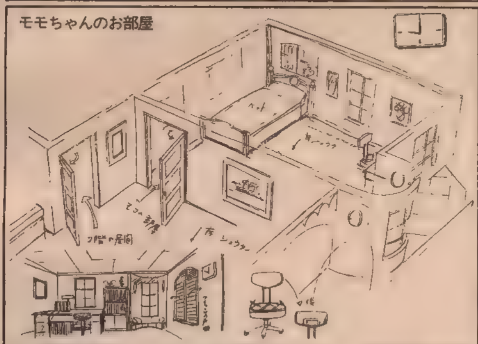


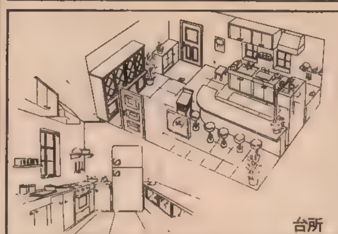
正面

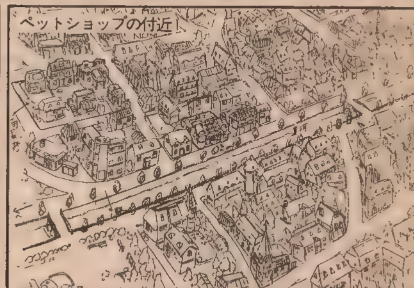


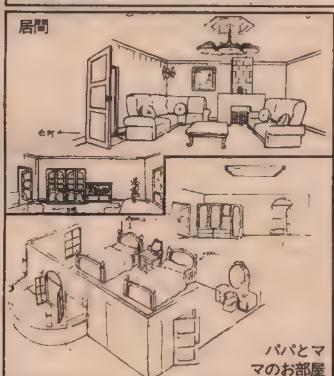
おもての看板

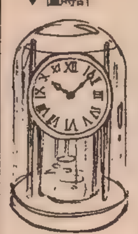
一階には、動物の診療所や、忙しいパパに代わりママが経営するペットショップがある。家のなかはいつも動物たちでとってもにぎやか。看板のワンちゃんも、昼と夜とじゃ違うのよ♡

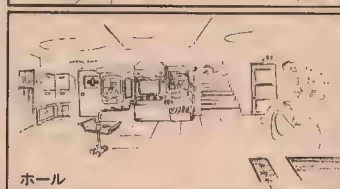

モモちゃんのお部屋


台所

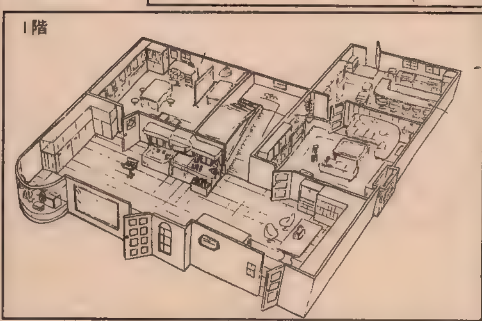

ペットショップの付近

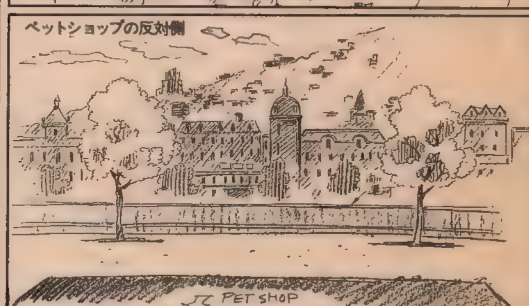

居間
パパとママのお部屋


▼置時計


ホール


町並み


1階



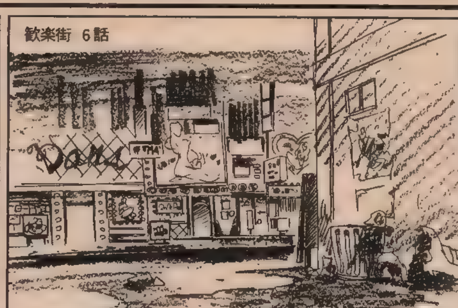
ペットショップの反対側



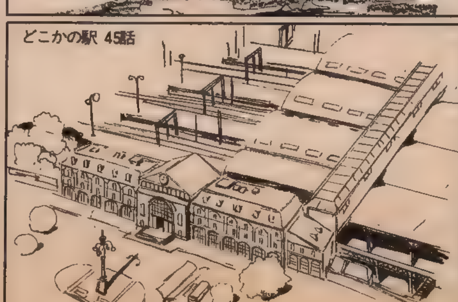
どこかの町のどこかの町角

パステルカラーのステキな町並み。駅に病院、動物園に、チョッピリ悲しい人生の終着駅。それに、モモにはまだ関係のなさそうな歓楽街と、どこかの町はいろいろな雰囲気を持ったとってもしゃれたところです。


丘の上病院 7話


歓楽街 6話

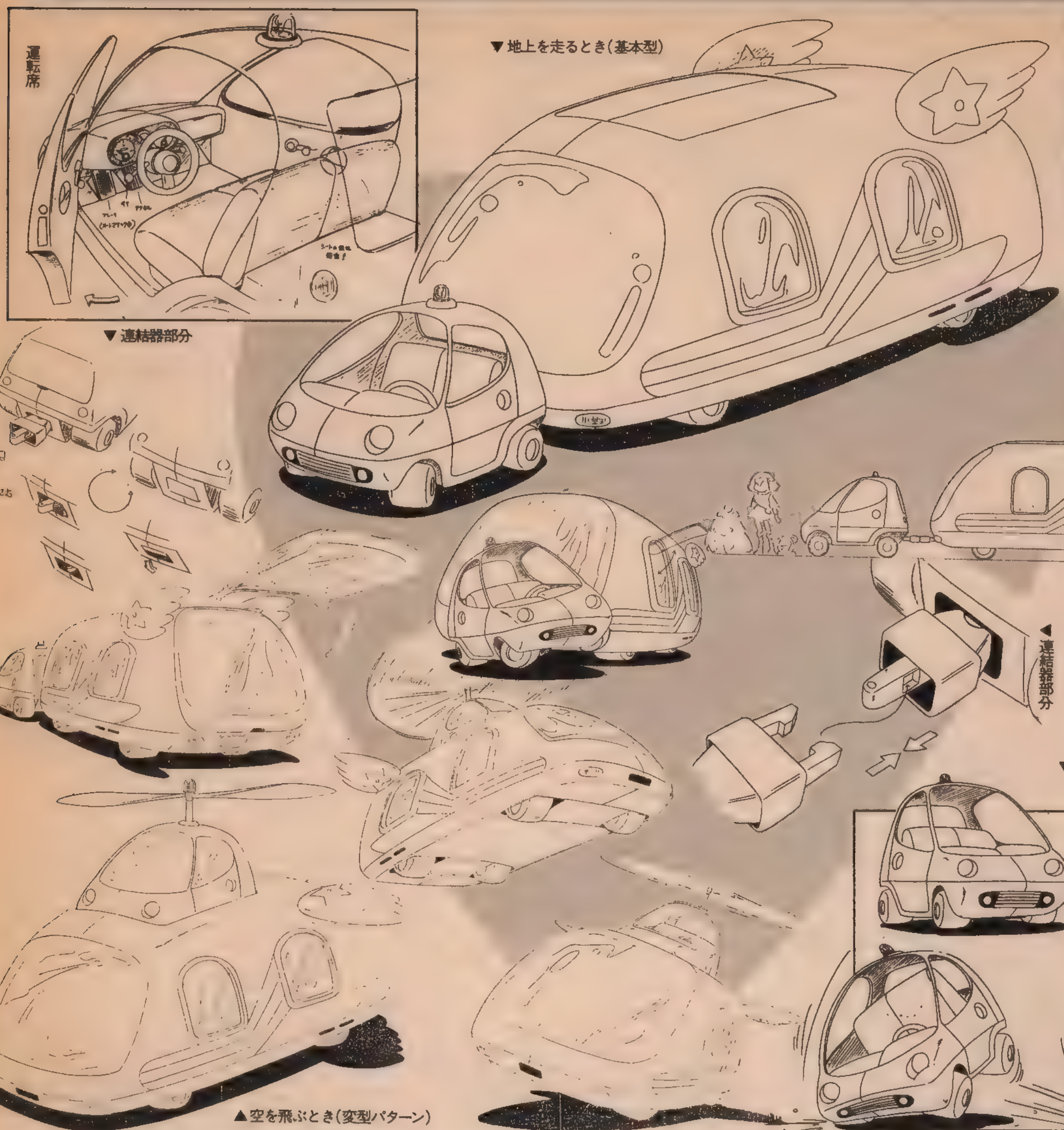

モモちゃんが眠る墓地 46話


どこかの駅 45話

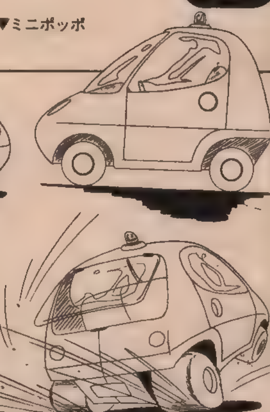

ジョニーと出会った街角 43話

モモちゃんの愛機 魔法の乗り物 グルメポッポ

モモちゃんが、お出かけのときに使う乗り物。エネルギーは夢(ドリームエネルギー)。フェナリナーサにいたときには自動的にエネルギー補給されていたが、この世界には夢がなさすぎたため、エネルギー不足でついには消えてしまいました。

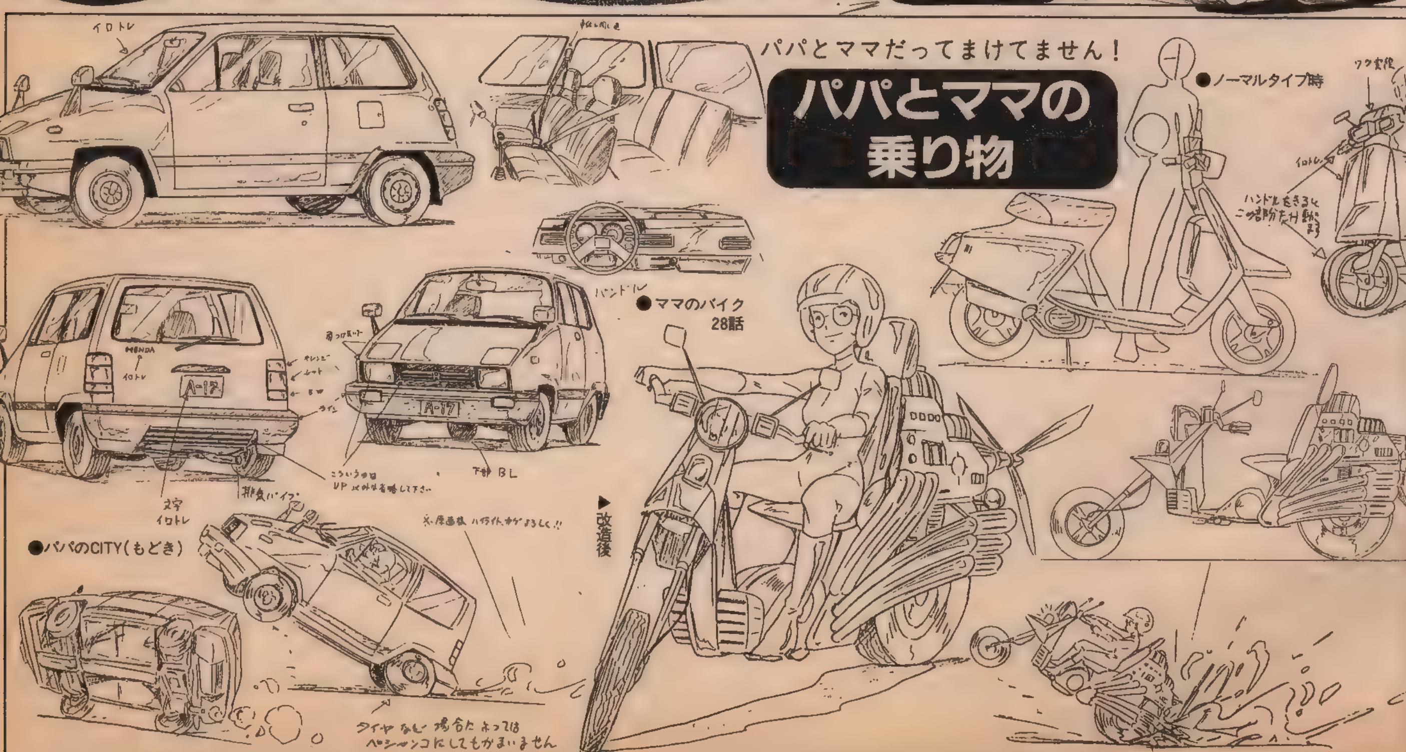


▲空を飛ぶとき(変型パターン)



パパとママだってまけてません！

パパとママの乗り物

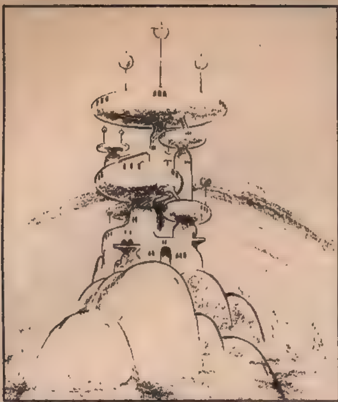


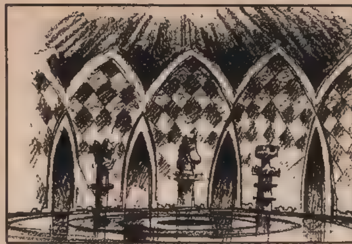
ART SHEET &・・・

魔法とメルヘンの国 夢の楽園 フェナリナーサ

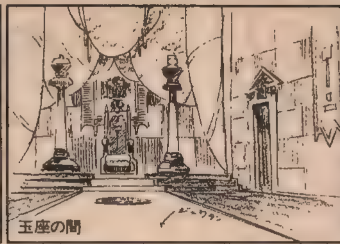
マッチ売りの少女に不思議の国のアリス、七ひきの小やぎは森をかけまわり、畑のカボチャは馬車になる日を待ちながら、ティンカーベルとひそひそ話。
人々が忘れかけた夢の世界。それがモモちゃんのふるさとです。

モモちゃんが暮らしていたお城はどんなところ?



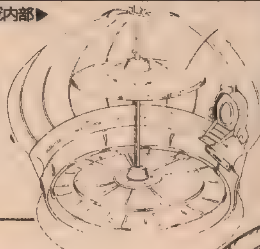


▲王冠の間

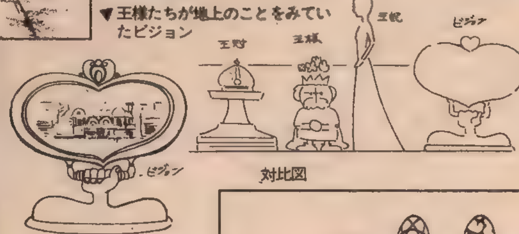


玉座の間

王冠内部▶



▼王様たちが地上のことをみていたビジョン

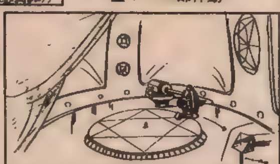


対比図





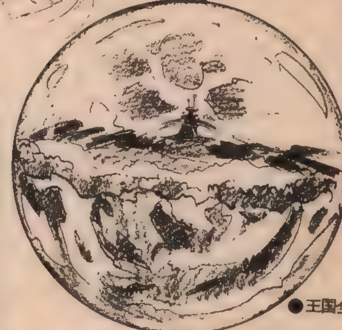
▲アーム部作動



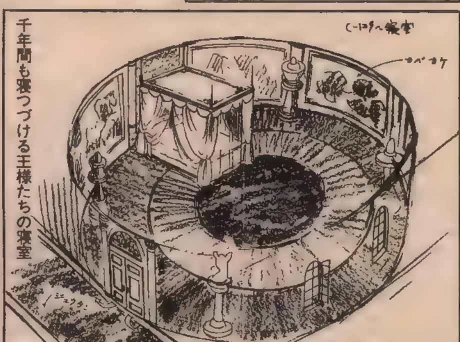
▶49話以降王冠内部



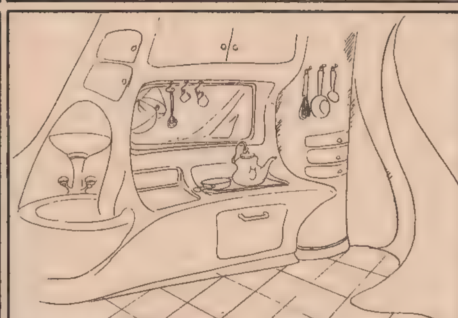
王冠にはまるハッピーティア



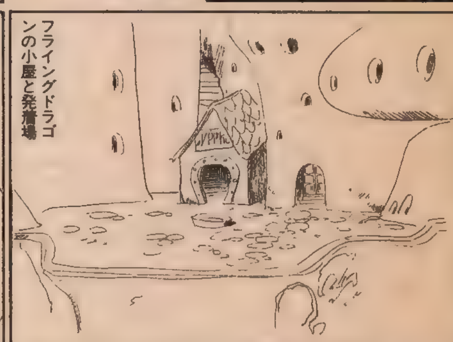
●王国全景



千年間も寝つづける王様たちの寝室

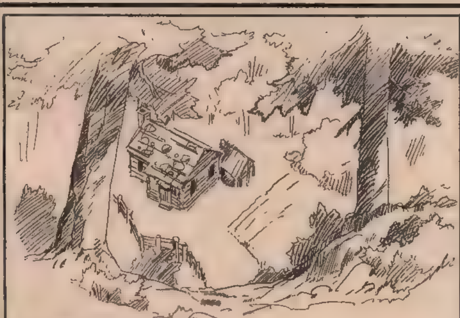


ダイニングキッチン



フライングドラゴンの小屋と発着場

モモちゃんが遊んでいたかもね



七ひきの小ヤギの小屋

フェナリナーサの観光案内?▶

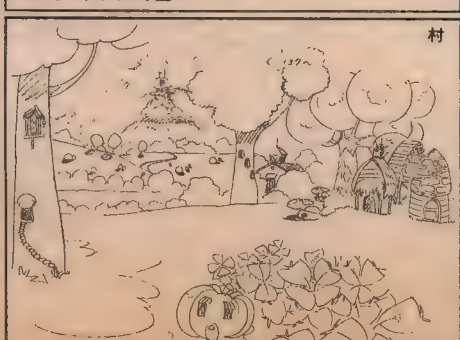




◀マッチ売りの少女がいた暗い町



国境



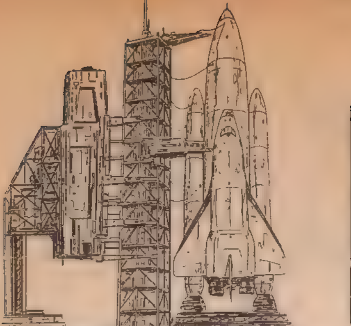
村



湖



湖のほとり



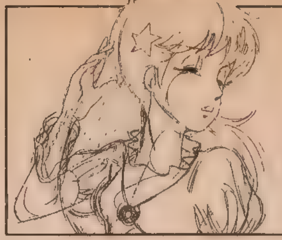
魔法のプリンセス ミンキーモモ FILMOGRAPHY

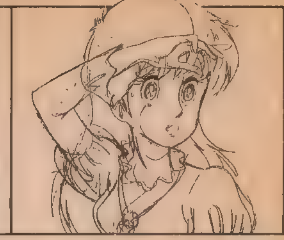


話数	放映日	サブタイトル シナリオタイトル (AR台本タイトル)	脚本	演出 (絵コンテ)	作画監督	原画	動画	背景	色指定 (仕上検査)	仕上	制作進行	キャスト(ゲストキャラ・声の出演)	アイキャッチャー
1	3/18	ラブラブ・ミンキーモモ 魔法の冒険ミンキーモモ〈仮〉 (ラブラブミンキーモモ)	首藤剛志	湯山邦彦 (湯山邦彦)	田中保	神宮慧・林隆文・福田浄二・柳田勤	丹澤学・増井泉・大島利恵・小野浩一郎・片田敬信・近藤津也子・斉藤明英・岡村泉・相多孝子・井上典子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	(杉田泰子)	マキプロダクション 蓼沼晴子 横瀬美実 井上千鶴子	馬場秀雄	(ケン)神保なおみ・(牧場主)野本礼三・(牧童)福士秀樹(ワルダー)滝口順平・(ナレーター)(アナウンサー)納谷六朗	Ⓐ M・M・M・M Ⓑ シ・ピ・M・モ
2	3/25	メガネでチャームアップ モデル編モモの笑顔は百万ドル (メガネでチャームアップ)	筒井ともみ	大庭寿太郎 (小島正幸)	柴崎計	松下佳弘・和泉絹子・時矢義則	スタジオ・ワールド	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	(浅田久恵)	スタジオワールド 穴見順子 卯坂りょうこ 伊藤恵美	本橋文雄	(メリージェーン)島津冴子・(カメラマン)福士秀樹(部長)たてかべ和也・(保護官)幹本雄三・(メガネの女)岡崎裕美	Ⓐ シ・シ・シ・シ Ⓑ シ・シ・シ・M
3	4/1	走れスーパーライダー スカッと飛ばせ白バイライダー〈仮〉 (走れスーパーライダー)	戸田博史	西村純二 (西村純二)	上條修	鶴山修・富田悦子・工藤征輝	丹澤学・増井泉・大島利恵・小野浩一郎・片田敬信・近藤津也子・斉藤明英・岡村泉・相多孝子・井上典子	にしこプロダクション	(杉田泰子)	マキプロダクション 蓼沼晴子 横瀬美実 井上千鶴子	間島弘一郎	(ジムル)井上和彦・(キャニー)高木早苗(ジムルの父)長堀芳夫・(おばさん)岡崎裕美(マスター)福士秀樹・(警察署長)増岡弘	Ⓐ ピ・ピ・ピ・ピ Ⓑ ピ・ピ・ピ・M
4	4/8	青い鳥をみた少年 フェナリナーサの謎〈仮〉 (青い鳥をみた少年)	首藤剛志	山田雄三 (湯山邦彦)	神宮慧	楠田悟・白土理徳・堀隆・武藤照美・高橋千代子	丹澤学・増井泉・大島利恵・小野浩一郎・片田敬信・近藤津也子・岡村泉・斉藤明英・相多孝子・井上典子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	(浅田久恵)	山室智弘 塩野谷京子 伊藤美穂子 中山久美子 北村則子 黒岩優子	下地志直	(ケン)小宮和枝・(教師)岡崎裕美・(鏡)安田隆・(警官)福士秀樹・(目覚しニワトリ)土井美加	Ⓐ モ・モ・モ・モ Ⓑ モ・モ・モ・M
5	4/15	ワルガキ王子大混戦 ワルガキ王子はタッチがお好き! (ワルガキ王子はタッチがお好き)	筒井ともみ	大庭寿太郎 (野田作樹)	田中保	林隆文・柳田勤・田巻剛	丹澤学・増井泉・大島利恵・小野浩一郎・片田敬信・近藤津也子・斉藤明英・岡村泉・相多孝子・井上典子	にしこプロダクション	(永江由利)	マキプロダクション 蓼沼晴子 横瀬美実 井上千鶴子	馬場秀雄	(タムタム王子)中野聖子・(じいや)田口昴・(ウエイトレス)岡崎裕美・(スチュワーデス)阿部きし子・(ボーイ)(殺し屋)福士秀樹・(アナウンス)納谷六朗・(取調官)増岡弘・(機内アナウンス)土井美加・(男)田の中勇	Ⓐ シ・シ・ピ・モ Ⓑ M・モ・M・モ
6	4/22	テニスコートに赤いバラ 思い出のテニスコート (思い出のテニスコート)	鷺山京子	吉田健次郎 (吉田健次郎)	田中保	富山雄三・小林勝利	戸倉健二・今井正彦・伊藤真知子・山本佳子・野津真	スタジオ・イースター 東城エリ子 高橋美智子 鈴木国生 清水隆夫	(鈴木敏明)	スタジオ雲雀 堀江敬子 磯野洋子 加藤文江	井藤誠	(ジミー)山田栄子・(ティム)近藤多佳子・(記者)福士秀樹、増岡弘・(女)山田礼子・(女の子)阿部きし子・(トンガ)岡崎裕美・(ラン)木藤玲子・(リン)土井美加	Ⓐ ピ・M・ピ・ピ Ⓑ モ・モ・M・シ
7	4/29	ナイチンゲールはお好き ナイチンゲールはお嫌い? (ナイチンゲールはお嫌い?)	渡辺由自	山田雄三 (野村和史)	神宮慧	時矢義則・高橋千代子・堀隆・武藤照美	丹澤学・増井泉・大島利恵・小野浩一郎・片田敬信・近藤津也子・斉藤明英・岡村泉・相多孝子・井上典子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	(杉田泰子)	マキプロダクション 蓼沼晴子 横瀬美実 井上千鶴子	本橋文雄	(アン)秋山るな・(父親)福士秀樹・(母親)幸田直子・(婦長)岡崎裕美・(看護婦)阿部きし子	Ⓐ ピ・M・ピ・ピ Ⓑ モ・モ・M・シ
8	5/6	婦人警官ってつらいのネ 婦人警官ってつらいのネ! (婦人警官ってつらいのね)	土屋斗紀雄	西村純二 (西村純二)	上條修	鶴山修・富田悦子・工藤征輝	丹澤学・増井泉・大島利恵・小野浩一郎・片田敬信・近藤津也子・斉藤明英・岡村泉・相多孝子・井上典子	にしこプロダクション	(杉田泰子)	マキプロダクション 蓼沼晴子 横瀬美実 井上千鶴子	間島弘一郎	(マリー)吉田理保子・(泥棒)小出童太・(ルビン)菅見純(シカゴボスⒶ)笹岡繁蔵・(シカゴボスⒷ)(署長)西村知道・(女性)岡崎裕美・(妹)阿部きし子・(兄)(通信)土井美加・(支店長)増岡弘	Ⓐ シ・ピ・M・モ Ⓑ M・M・M・M
9	5/13	森の音楽祭 しなやかに歌って!音楽祭 (しなやかに歌って!!音楽祭)	戸田博史	古沢日出夫 (古沢日出夫)	田中保	藤原万秀・上妻晋作・増子修	戸倉健二・西森真由美・遠藤ひろみ・桑本みずえ・中田貞俊	スタジオ・イースター 東城エリ子 高橋美智子 鈴木国生 清水隆夫	(堀江敬子)	スタジオ雲雀 清水弘子 加藤文江 丹野功一	高田薫	(マック)三ツ矢雄二・(ガナール)峰あつ子・(グラム)千田光男・(司会者)仲木隆司・(客)岡崎裕美	Ⓐ シ・シ・シ・シ Ⓑ ピ・ピ・ピ・ピ
10	5/20	ハイウエイ大追跡 ワクワクバスジャック (ハイウエイ大追跡!)	渡辺由自	大庭寿太郎 (大庭寿太郎)	神宮慧	垣野内成美・高橋千代子・小林明美・武藤照美	丹澤学・増井泉・大島利恵・小野浩一郎・片田敬信・近藤津也子・斉藤明英・岡村泉・相多孝子・井上典子	にしこプロダクション	(杉田泰子)	マキプロダクション 蓼沼晴子 横瀬美実 井上千鶴子	下地志直	(セーラ)鈴木れい子・(デブ)田口昴・(ノッポ)(町の人Ⓐ)二又一成・(町の人Ⓑ)増岡弘・(町の人Ⓒ)塚田恵美子	Ⓐ シ・シ・シ・シ Ⓑ シ・シ・シ・シ
11	5/27	恋の美容師よ子猫ちゃん 恋の美容師よ!子猫ちゃん (恋の美容師よ!!子猫ちゃん)	金春智子	山田雄三 (小島正幸)	柴崎計	松下佳弘・和泉絹子・時矢義則	スタジオ・ワールド	にしこプロダクション	(永江由利)	山室智弘 塩野谷京子 伊藤美穂子 中山久美子 北村則子	馬場秀雄	(ハリー)たてかべ和也・(ローズマリー)原えり子・(ウオーカー夫人)尾崎桂子・(役員)龍田直樹・(猫泥棒)小出童太・(のら猫)屋良有作	Ⓐ ピ・ピ・ピ・ピ Ⓑ ピ・ピ・ピ・ピ
12	6/3	怪盗ルピン大反撃 怪盗騒ぎでクッタクタ…… (怪盗騒ぎでクッタクタ)	土屋斗紀雄	石田昌平 (野田作樹)	田中保	林隆文・神宮慧・堀隆・高田三郎・柳田勤	丹澤学・増井泉・大島利恵・榎本明広・羽原信義・近藤津也子・岡村泉・斉藤明英・相多孝子	にしこプロダクション	(浅田久恵)	高山洋美 池田千絵 森康介 山本美穂子	下地志直	(ルビン)菅見純・(ペペ)中野聖子(男A)笹岡繁蔵・(執事)沢木郁也・(TVアナウンサー)長堀芳夫	Ⓐ モ・モ・モ・モ Ⓑ モ・モ・モ・モ
13	6/10	魔術師と11人の少年 魔術師と十一人の少年 (魔術師と11人の少年)	戸田博史	大庭寿太郎 (日下部光雄)	兵頭敬	白土理徳・わたなべひろし・兵頭敬	丹澤学・増井泉・大島利恵・榎本明広・羽原信義・近藤津也子・相多孝子・斉藤明英・岡村泉	にしこプロダクション	(杉田泰子)	山室智子 塩野谷京子 山本美穂子 中山久美子 北村則子	間島弘一郎	(ラム)神保なおみ・(少年B)岡崎裕美(少年C)阿部きし子・(ナラセール)緒方賢一・(父親)水鳥鉄夫・(司会者)福士秀樹(チング)巴菁子	Ⓐ M・M・M・M Ⓑ M・M・M・M
14	6/17	ゴールはいただき激走レーサー ゴールをめざせ!レースドライバー (ゴールを目ざせ!レースドライバー)	佐藤茂	吉田健次郎 (吉田健次郎)	田中保	富沢雄三・上妻晋作	戸倉健二・今井正彦・伊藤真知子・山本佳子・野津真	スタジオ・イースター 東城エリ子 高橋美智子 鈴木国生 清水隆夫	(鈴木敏明)	スタジオ雲雀 堀江敬子 加藤文江 磯野洋子	村竹保則	(ワルダー)滝口順平・(ケン)田中亮一・(チビ)高木早苗(スピーカー) 西川幾雄・(博士)村松康雄・(係官) 笹岡繁蔵・(男の子)岡崎裕美	Ⓐ モ・M・ピ・シ Ⓑ シ・ピ・M・モ
15	6/24	暴走列車が止まらない 止まらない!?暴走登山列車〈仮〉 (暴走登山列車)	鷺山京子	山田雄三 (西村純二)	上條修	白土理徳・小林明美・垣野内成美・高田三郎・わたなべひろし	丹澤学・増井泉・大島利恵・榎本明広・羽原信義・近藤津也子・岡村泉・斉藤明英・相多孝子	にしこプロダクション	(浅田久恵)	山室智子 塩野谷京子 山本美穂子 中山久美子 北村則子	馬場秀雄	(リリー)滝沢久美子・(ジャック)谷田節・(リリーの父)雨森雅司・(ヒデエ)福士秀樹・(ボロウ)田口昴・(客A)岡崎裕美・(客B)阿部きし子・(チロル)土井美加	Ⓐ シ・シ・ピ・ピ Ⓑ M・モ・M・モ
16	7/1	荒野のミンキーモモ 荒野のミンキーモモ (荒野のミンキーモモ)	戸田博史	大庭寿太郎 (日下部光雄)	兵頭敬	神宮慧・比護美雪・岩田通代・中村まゆみ・堀隆	丹澤学・増井泉・大島利恵・榎本明広・羽原信義・近藤津也子・斉藤明英・岡村泉・相多孝子・片田敬信	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	(永江由利)	高山洋美 池田千絵 森康介 山本美穂子	下地志直	(ガチョンシンボリー)(子分B)笹岡繁蔵・(プリンストン)村越伊知郎・(ジョニー)小出童太・(ララ)原えり子・(オイル)(子分A)龍田直樹	Ⓐ シ・シ・シ・ピ Ⓑ ピ・ピ・ピ・シ

(注)アイ・キャッチャー（Ⓐは Aパートの終り、Ⓑは Bパートの始めにつくものを、スロットマシンの左側のキャラから順番に記録したものです）

略号／M・モモ／シ・シンドブック／モ・モチャー／ピ・ピピル





（各話共通スタッフ）

●企画―佐藤俊彦
●プロデューサー―大野 実（読 広）
加藤 博
梅原 勝
●原案・構成―首藤剛志
●総監督―湯山邦彦
●音楽―高田ひろし
●美術監督―新井寅雄
●音響監督―藤山房延
●録音製作―ザックプロ
モーション
●撮影監督―福田岳志
（三晃プロダクション）
●キャラクターデザイン―
芦田豊雄
みさきのあ
服部あゆみ
●色彩設定―永江由利
●録音―成清 量
（整音〈上画〉）
●効果―加藤昭二
（アニメサウンド）

話数	放映日	サブタイトル シナリオタイトル （AR台本タイトル）	脚本	演出 （絵コンテ）	作画監督	原画	動画	背景	色指定 （仕上検査）	仕上	制作進行	キャスト（ゲストキャラ・声の出演）	アイキャッチャー
17	7/8	**おばけ屋敷でラブアタック** 怪奇！ラブアタック作戦〈仮〉 （怪奇ラブアタック作戦〈仮〉）	戸田博史 首藤剛志	日下部光雄 （日下部光雄）	飯村一夫	飯村一夫・もくだい典子	尾崎正善・古川加代子	スタジオ・コスモス 千々波美恵子 日渡ひろみ 梶尾雅夫	―（浅田久恵）	マキプロダクション 増田ちあき 伊藤久江 酒井公子 佐々木七枝 蓼沼晴子	中林正道	（ジョン）古谷徹・（ケイト）勝生真沙子・（ポリス）小出童太・（ホラー）宮内幸平・（ドラキュラ）稲葉実・（女の子A）岡崎裕美・（女の子B）阿部きし子・（女の子C） 土井美加・（ミイラ）増岡弘	Ⓐピ・モ・シ・M ⒷM・シ・ピ・モ
18	7/15	**南の島の秘宝** 宝探しは危険がいっぱい （南の島の秘宝）	土屋斗紀雄	岡田宇敬 （岡田宇敬）	田中 保	小林勝利・山岸弘 甘粕浩滋	野津真・遠藤ひろみ 山本佳子 戸倉健二・西森真由美	スタジオ・イースター 東城エリ子 高橋美智子 鈴木国生 清水隆夫	―（鈴木敏明）	スタジオ雲雀 丹野功一 遠藤真弓 小川明美	村竹保則	（チムル）島津冴子・（ガガンコ）千葉耕一・（ウルブル）たてかべ和也・（サメ）納谷六朗	Ⓐモ・モ・モ・M ⒷM・M・M・モ
19	7/22	**機械じかけのフェナリナーサ** （コンピューターは魔法がお好き！）	山崎昌三	大庭寿太郎 （山田雄三）	上條 修	林隆文・高田三郎	丹澤学・増井泉・大島利恵 榎本明広・羽原信義 近藤津也子・斉藤明英 岡村泉・相多孝子・片田敬信	にしこプロダクション	―（杉田泰子）	高山洋美 池田千絵 森 康介 山本美穂子	保坂和彦	（ルーカス）つかせのりこ・（みぞれ）秋山るな・（スパイ）西村知道・（マッチョロボ）増岡弘・（アナウンサー）納谷六朗・（コンピューター）土井美加	ⒶM・M・M・M ⒷM・M・M・M
20	7/29	**密林の王者** 密林の王者 （ミンキーモモ密林の王者）	戸田博史	古沢日出夫 （古沢日出夫）	田中 保	富沢雄三 なべしまよしつぐ 藤原万秀	野津真・神田郁子 山本佳子 牛田貞俊・桑本みづえ	スタジオ・イースター 東城エリ子 高橋美智子 鈴木国生 清水隆夫	―（鈴木敏明）	スタジオ雲雀 堀江敬子 磯野洋子 加藤文江	井藤 誠	（クレタ）野崎貴美子・（ジン）屋良有作・（テキーラ）笹岡繁蔵・（ウォッカ）田口昂	Ⓐモ・モ・モ・M ⒷM・モ・モ・モ
21	8/5	**00モモ危機いっぱい 前編** 00MM危機いっぱい！〈前編〉 （ミンキーモモ危機いっぱい〈前編〉）	土屋斗紀雄	日下部光雄 （日下部光雄）	飯村一夫	飯村一夫・もくだい典子	尾崎正善・古川加代子	スタジオ・コスモス 千々波美恵子 日渡ひろみ 梶尾雅夫	―（浅田久恵）	マキプロダクション 増田ちあき 伊藤久江 酒井公子 佐々木七枝 蓼沼晴子	馬場秀雄	（ボワロ）村松康雄・（ベルモント）二又一成・（ジョルジョ）たてかべ和也・（ギブミー）鈴置洋孝・（ドムリン）福士秀樹	Ⓐシ・ピ・モ・シ Ⓑピ・シ・シ・モ
22	8/12	**00モモは勝利の暗号 後編** 00MM危機いっぱい！〈後編〉 （ミンキーモモ危機いっぱい〈後編〉）	土屋斗紀雄	日下部光雄 （日下部光雄）	飯村一夫	飯村一夫・もくだい典子	尾崎正善・古川加代子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	―（杉田泰子）	高山洋美 池田千絵 森 康介 山本美穂子	馬場秀雄	（ボワロ）村松康雄・（ベルモント）（ナンバーファイブ）二又一成・（ナンバーワン）たてかべ和也・（パンチュラ）笹岡繁蔵・（ギブミー）鈴置洋孝・（ドムリン）福士秀樹・（ナンバーシックス）（隊長）（アナウンサー）納谷六朗	ⒶM・M・M・M ⒷM・M・M・M
23	8/19	**ころがりこんだ王様** ころがりこんだ王様 （ころがりこんだ王様）	鷺山京子	古沢日出夫 （古沢日出夫）	田中 保	小林勝利・山岸弘	野津真・田島実 西森真由美 牛田貞俊・神田郁子	スタジオ・イースター 東城エリ子 高橋美智子 鈴木国生 清水隆夫	―（鈴木敏明）	スタジオ雲雀 丹野功一 遠藤真弓 小川明美	村竹保則	（役人）（肉丸）小滝進・（工場長）屋良有作・（女事務員）岡崎裕美・（犬）阿部きし子	Ⓐシ・ピ・モ・モ Ⓑモ・シ・ピ・ピ
24	8/26	**さすらいのユニコーン** ひとりぼっちのユニコーン （ひとりぼっちのユニコーン）	金春智子	石田昌平 （石田昌平）	田中 保	白土理徳・楠田悟 堀隆・柳田勤 神宮靈	丹澤学・増井泉・大島利恵 榎本明広・羽原信義 近藤津也子・斉藤明英 岡村泉・相多孝子・片田敬信	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	―（浅田久恵）	塩野谷京子 中山久美子 池田千絵 山室智弘	下地志直	（マイル）安原義人・（ベリリッチ）石井敏郎・（ティア）島津冴子・（男）福士秀樹	Ⓐシ・モ・ピ・M ⒷM・ピ・モ・シ
25	9/2	**がんばれミラクルズ** （君にも野球ができる…ノダ！）	土屋斗紀雄	大庭寿太郎 （日下部光雄）	高橋正宗	金子隆一・大山重高 高根沢忠明・佐藤英實 谷口成治	柳兼一・下田幸雄 松野ちはる・町田典子 佐藤里美・山田悦子 水野裕子・西脇恵子	にしこプロダクション	―（杉田泰子）	日高 一 原田和代 山本浩美 中野昭次	中林正道	（サキ）小宮和枝・（リンダ）勝生真沙子・（アン）岡崎裕美・（ピッチャー）山崎哲也・（ニール）（審判）たてかべ和也・（ゴリラ）屋良有作・（オットリー）水鳥鉄夫・（ファースト）増岡弘	ⒶM・M・M・M Ⓑピ・ピ・ピ・ピ
26	9/9	**妖魔が森の花嫁** 妖魔ガ森の妖怪 （妖魔ガ森の妖怪）	安斎あゆ子	山田雄三 （日下部光雄）	わたなべひろし	松下浩美・臼井孝二 小林早苗 渡辺浩・長谷川桂子	高橋理恵・門多ひとみ 斉藤純一郎・高実子とみ子 只野和子・神志邦弘志 宮嶋堅 （スタジオ・ライブ）	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	―（浅田久恵）	マキプロダクション 増田ちあき 伊藤久江 酒井公子 佐々木七枝 蓼沼晴子	保坂和彦	（伯爵）肝付兼太・（トミー）鈴木れい子・（シド）中野聖子・（エリカ）高島雅羅・（村人）岡崎裕美・（村長）増岡弘	Ⓐモ・モ・モ・モ Ⓑモ・モ・モ・モ
27	9/16	**魔のトライアングル** 魔のトライアングルと海賊船 （魔のトライアングルと海賊船）	戸田博史	岡田宇敬 （岡田宇敬）	田中 保	藤原万秀・富沢雄三	野津真・田島実 増田あや子 山本雅子・伊藤真知子	スタジオ・イースター 東城エリ子 高橋美智子 鈴木国生 清水隆夫	―（鈴木敏明）	スタジオ雲雀 堀江敬子 加藤文江 磯野洋子	井藤 誠	（チャコ）原えり子・（ペトロ）神保なおみ・（キャプテンホック）野本礼三・（船長）屋良有作・（子分）広瀬正志、福士秀樹	Ⓐシ・シ・シ・シ Ⓑシ・シ・シ・シ
28	9/23	**激走タマゴレース** タマゴを抱いてつっぱしれ！ （タマゴを抱いてつっぱしれ！）	土屋斗紀雄	石田昌平 （日下部光雄）	上條 修	上條修・林隆文 富田悦子	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子・羽原信義・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	にしこプロダクション	―（杉田泰子）	高山洋美 池田千絵 森 康介 山本美穂子	下地志直	（ジョニー）（無線の声）安原義人・（プルート）水鳥鉄夫・（バード博士）稲葉実・（ポリス）福士秀樹・（ポリスB）楠正通・（ポリスC）小出和明・（無線の声）塚田恵美子	Ⓐピ・ピ・ピ・ピ Ⓑピ・ピ・ピ・ピ
29	9/30	**UFOがやって来た** UFOで愛の接近遭遇 （UFOがやって来た）	首藤剛志 佐藤 茂	大庭寿太郎 （大庭寿太郎）	田中 保	丹澤学・斉藤明英 堀隆・神宮靈 田中保	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子・羽原信義・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	―（浅田久恵）	塩野谷京子 中山久美子 池田千絵 山室智弘	下地志直	（トニー） 鈴木れい子・（ゼンダー）宮内幸平・（ダン）野崎貴美子・（空中宣伝カー）（少年A）土井美加	ⒶM・M・M・M Ⓑシ・ピ・M・モ
30	10/7	**ふるさと行きの宇宙船** おとぎの国のスペースシャトル （おとぎの国のスペースシャトル）	谷本敬次	山田雄三 （山田雄三）	上條 修	金子良一・大山重高 高根沢忠明・佐藤英實 谷口成治	柳兼一・下田幸雄 松野ちはる・町田典子 佐藤里美・山田悦子 水野裕子・西脇恵子	にしこプロダクション	―（杉田泰子）	日高 一 原田和代 山本浩美 中野昭次	中林正道	（ボーマン）飯塚昭三・（リブリー）小宮和枝・（ボブ）屋良有作・（トム） 福士秀樹・（アナウンサー）長堀芳夫・（職員A）納谷六朗・（アリス）土井美加・（マッチ売りの少女）木藤玲子	ⒶM・M・ピ・シ Ⓑモ・モ・M・シ
31	10/14	**よみがえった伝説** 南の島の不思議な伝説 （南の島のフシギな伝説）	戸田博史	日下部光雄 （日下部光雄）	飯村一夫	飯村一夫・もくだい典子	尾崎正善・古川加代子	にしこプロダクション	―（浅田久恵）	マキプロダクション 増田ちあき 伊藤久江 酒井公子 佐々木七枝 蓼沼晴子	保坂和彦	（スルメッチ）たてかべ和也・（村長）龍田直樹・（老婆）中島喜美江・（ベルモント）桜本昌弘・（ポポロ）川島千代子・（パンチュラ）山崎哲也・（ミンキーナーサ）鵜飼るみ子	Ⓐシ・シ・M・ピ Ⓑシ・シ・M・モ

●主題歌――「ラブ・ラブ・ミンキーモモ」
「ミンキーステッキドリミンパ」
作詞／荒木とよひさ
作曲／佐々木勉
編曲／高田ひろし
歌　／小山茉美
(ビクターレコード)
●連載――「よいこ」
(小学館)「幼稚園」
「学習雑誌」
●制作管理――佐藤訓史
古林明子
●制作担当――庄司　清
●オープニング作画――
わたなべひろし(スタジオライブ)
●製作――読売広告社
葦プロダクション
●撮影――
(9話のぞく全話) 広川二三男
(9話のぞく1～28話)磯部泰宏
(　〃　)川原美香
(29～63話)不破孝幸
(　〃　)石原　清
(9話)旭プロダクション・
坂東昭雄・奥井敦
●編集――辺見俊夫
(1～26話) 山崎昌三
●タイトルデザイン安食光弘
●現像――東映化学

(メイン・キャスト)

●ミンキーモモ―小山茉美
●王様――増岡　弘
●王妃様――塚田恵美子
●パパ――納谷六朗
●ママ――土井美加
●シンドブック―田ノ中勇
●モチャー――木藤玲子
●ピピル――三田ゆう子
●カジラ――千葉　繁

話数	放映日	サブタイトル シナリオタイトル (AR台本タイトル)	脚本	演出 (絵コンテ)	作画監督	原画	動画	背景	色指定 (仕上検査)	仕上	制作進行	キャスト(ゲストキャラ・声の出演)	アイキャッチャー
32	10/21	**大きすぎた訪問者** ミッシー!! (ミッシー!!)	土屋斗紀雄	川端蓮司 (古沢日出夫)	田中　保	小林勝利・山岸弘	野津真・田島実・遠藤ひろみ 山本雅子・牛田貞俊	スタジオ・イースター 東城エリ子 髙橋美智子 鈴木国生 清水隆夫	―― (鈴木敏明)	スタジオ雲雀 丹野功一 遠藤真弓 小川明美	村竹保則	(グレゴリー)藤本譲・(サマンサ)鈴木れい子・(ジョン)塚田正昭・(ジミー)室井深雪・(研究員)田口昂・(兵隊)小出和明・(司会)亀山助清・(アナウンサー)稲葉実・(学者)堀内賢雄	Ⓐモ・M・モ・ピ Ⓑモ・M・モ・シ
33	10/28	**アンドロイドの恋** 恋するアンドロイド (恋するアンドロイド)	戸田博史	岡田宇敬 (木暮輝夫)	田中　保	藤原万秀・富沢雄三	田島実・遠藤ひろみ 神田郁子 山本雅子・増田あや子	スタジオ・イースター 東城エリ子 髙橋美智子 鈴木国生 清水隆夫	―― (鈴木敏明)	スタジオ雲雀 堀江敬子 加藤文江 磯野洋子	井藤　誠	(ライアン)鈴置洋孝・(ナナ)麻上洋子・(社長)水鳥鉄夫・(署長)幹本雄三・(おじいちゃん)西川幾雄・(ギャングA)たてかべ和也・(ギャングB)二又一成	ⒶM・M・M・M Ⓑモ・M・ピ・シ
34	11/4	**地底の国のプリンセス** 地底の国のプリンセス (地底の国のプリンセス)	谷本敬次	大庭寿太郎 (日下部光雄)	兵頭　敬	楠田悟・和田卓也 山岸弘・兵頭敬	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子 羽原信義・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	―― (杉田泰子)	髙山洋美 池田千絵 森　康介 山本美穂子	下地志直	(レイ)秋山るな・(男)広瀬正志	Ⓐピ・ピ・ピ・ピ Ⓑピ・ピ・ピ・ピ
35	11/11	**夢見るダイヤモンド** 夢のファーストキス (夢のダイヤモンド)	安斎あゆ子	日下部光雄 (日下部光雄)	飯村一夫	飯村一夫・もくだい典子	尾崎正善・古川加代子	にしこ プロダクション	―― (浅田久恵)	マキプロダクション 増田ちあき 伊藤久江 酒井公子 佐々木七枝 蓼沼晴子	中林正道	(子供)土井美加・(ファット)稲葉実・(夫人)峰あつ子・(アルベール)田中亮一・(司会者)福士秀樹・(殺し屋)亀山助清・(ポポロ)長堀芳夫	ⒶM・M・M・M Ⓑモ・ピ・シ・シ
36	11/18	**大いなる遺産** 大いなる遺産 (大いなる遺産)	金春智子	石田昌平 (野田作樹)	わたなべひろし	渡辺浩・松下浩美 臼井考二・小林早苗 長谷川桂子	髙橋理恵・門多ひとみ 斉藤純一郎・高実子とみ子 只野和子・宮嶋堅・神志那弘志 (スタジオ・ライブ)	にしこ プロダクション	―― (ひろかわゆり)	塩野谷京子 中山久美子 北村則子 山室智弘	保坂和彦	(おじいさん)宮内幸平・(おばあさん)好村俊子・(ミイちゃん)髙木早苗・(作業員A)納谷六朗・(作業員B)増岡弘	ⒶM・モ・M・ピ Ⓑシ・M・シ・M
37	11/25	**愛の空中ブランコ** パパ　好みはローティーン・ギャル!? (パパの好みは……)	筒井ともみ	坂上　睦 (日下部光雄)	田中　保	林隆文・丹澤学 斉藤明英	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子 羽原信義・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	―― (杉田泰子)	髙山洋美 池田千絵 森　康介 山本美穂子	杉浦　勉	(ジュディ)大塚知子・(団長)村松康雄・(ピエロ)龍田直樹・(エリーヌ)塚田恵美子	Ⓐピ・モ・シ・M ⒷM・M・M・M
38	12/2	**雪のめぐり逢い** 雪のめぐりあい (雪のめぐり逢い〈仮〉)	土屋斗紀雄	大庭寿太郎 (日下部光雄)	上條　修	神宮慧・髙田三郎	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子 伊藤久美子・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	にしこ プロダクション	―― (浅田久恵)	塩野谷京子 中山久美子 北村則子 山室智弘	下地志直	(アロン)古谷徹・(サラ)髙島雅羅	Ⓐシ・シ・シ・シ Ⓑシ・M・シ・シ
39	12/9	**突撃ミンキーママ** さらば愛しき女よ (魔法の主婦ミンキーママ)	戸田博史	石田昌平 (野田作樹)	兵頭　敬	楠田悟・白土理徳 山岸弘・兵頭敬	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子 伊藤久美子・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	にしこ プロダクション	―― (浅田久恵)	髙山洋美 池田千絵 森　康介 山本美穂子	保坂和彦	(デカイツラー)飯塚昭三・(ギャングA)二又一成・(ギャングB)幹本雄三・(ギャングC)福士秀樹・(ギャングD)亀山助清・(ギャングE)鈴木勝美	ⒶM・M・ピ・ピ Ⓑシ・モ・M・M
40	12/16	**夢の戦士** 夢の戦士 (夢の戦士)	金春智子	日下部光雄 (日下部光雄)	飯村一夫	飯村一夫・もくだい典子	尾崎正善・古川加代子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	―― (浅田久恵)	髙山洋美 池田千絵 森　康介 山本美穂子	中林正道	(ピーター)山田栄子・(ミミア)中野聖子	Ⓐモ・モ・モ・モ Ⓑシ・シ・M・M
41	12/23	**お願いサンタクロース** サンタへの手紙 (サンタへの手紙)	首藤剛志	大庭寿太郎 (日下部光雄)	田中　保	林隆文・丹澤学 斉藤明英	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子 伊藤久美子・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	にしこ プロダクション	―― (浅田久恵)	塩野谷京子 中山久美子 北村則子 山室智弘	須貝　尚	(ポール)鈴木れい子・(オットー)髙木早苗・(ルピン)菅見純・(サンタ)村松康雄・(郵便局員A)福士秀樹・(郵便局員B)(ビラ配り)広瀬正志・(ジョン)三田ゆう子	Ⓐシ・ピ・M・モ ⒷM・M・M・M
42	12/30	**間違いだらけの大作戦** まちがいだらけの大作戦 (まちがいだらけの大作戦)	土屋斗紀雄	石田昌平 (石田昌平)	わたなべひろし	渡辺浩・松下浩美 髙橋理恵・小林早苗 宮嶋堅	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子 伊藤久美子・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	にしこ プロダクション	ひろかわゆり (浅田久恵)	髙山洋美 池田千絵 山本美穂子	下地志直	(オスカー)飯塚昭三・(ボトム)田口昂・(ジェーン)大塚知子・(兵士)山崎哲也、村田則男・(通信兵) 古田信幸・(少将)亀山助清・(コンピューター)幹本雄三・(看護兵)木藤玲子・(女性兵士)土井美加	Ⓐモ・モ・M・モ ⒷM・M・モ・M
43	1/6	**いつか王子さまが** グッドルックィントゥナイト (GOOD LOOKIN, TONIGHT)	土屋斗紀雄	坂上　睦 (日下部光雄)	兵頭　敬	山岸弘・神宮慧 斉藤明英・丹澤学	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子 伊藤久美子・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	にしこ プロダクション	杉田泰子 (浅田久恵)	塩野谷京子 中山久美子 北村則子 山室智弘	保坂和彦	(ジョニー)鈴置洋孝・(アナウンサー)小柳全弘・(司会者)桜本昌弘・(女の子)三田ゆう子	ⒶM・M・M・M ⒷM・M・M・M
44	1/13	**天使が降りてきた** 天使の翼はハッピーサイン (天使の翼はハッピーエンド)	谷本敬次	大庭寿太郎 (大庭寿太郎)	田中　保	林隆文・丹澤学 斉藤明英・兵頭敬	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子 伊藤久美子・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	にしこ プロダクション	ひろかわゆり (浅田久恵)	髙山洋美 池田千絵 山本美穂子	須貝　尚	(天使)野沢雅子・(神)伊井篤史	ⒶM・M・シ・M Ⓑシ・シ・M・シ
45	1/20	**魔法の消えた日** ペンダントを追いかけろ〈仮〉 (ペンダントを追いかけろ)	金春智子	日下部光雄 (日下部光雄)	飯村一夫	飯村一夫・もくだい典子	尾崎正善・古川加代子	にしこ プロダクション	杉田泰子 (浅田久恵)	塩野谷京子 中山久美子 北村則子 山室智弘	下地志直	(グルメポッポ)小柳全弘・(駅員)福士秀樹・(車掌)(子分A)二又一成・(悪玉)村松康雄・(ピーター)西川幾雄	Ⓐピ・ピ・モ・シ Ⓑシ・シ・モ・ピ
46	1/27	**夢のフェナリナーサ** ある日突然に〈最終回〉 (夢のフェナリナーサ〈最終回〉)	首藤剛志	湯山邦彦 (ゆやまくにひこ)	上條　修	わたなべひろし 松下浩美・丹澤学 小林早苗・斉藤明英	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子 伊藤久美子・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	ひろかわゆり (浅田久恵)	髙山洋美 池田千絵 北村則子	中林正道	(鐘)神保なおみ・(先生)梨羽雪子	ⒶM・M・M・M ⒷM・モ・ピ・シ
47	2/3	**MINKY MOMO GRAFETY Part-I** "MINKYMOMO GRAFETY"〈PART I〉	首藤剛志	湯山邦彦 (ゆやまくにひこ)	――	田中保	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子 伊藤久美子・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	杉田泰子 (浅田久恵)	髙山洋美 池田千絵 北村則子	須貝　尚	(カジラ)千葉繁・(ナレーション)中村正	

第2シリーズ アイキャッチャー Aパート終了後

① 

♥Bパートが始まるときは、3匹の登場パターンが逆になります。

② 

♥まずモチャーが出て、

③ 

♥次にシンドブック、

④ 

♥最後にピピルでせいぞろい。

話数	放映日	サブタイトル シナリオタイトル (AR台本タイトル)	脚本	演出 (絵コンテ)	作画監督	原画	動画	背景	色指定 (仕上検査)	仕上	制作進行	キャスト(ゲストキャラ・声の出演)
48	2/10	MINKY MOMO GRAFFETY Part-2 "MINKYMOMO GRAFFETY"〈PARTⅡ〉	首藤剛志	湯山邦彦 (ゆやまくにひこ)	—	田中保・上條修 神宮慧・飯村一夫 兵頭敬・わたなべひろし 林隆文・丹澤学	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子 伊藤久美子・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	杉田泰子 (浅田久恵)	塩野谷京子 中山久美子 山室智弘	須貝　尚	(カジラ)千葉繁・(ナレーション)中村正
49	2/17	桃とモモの謎 桃から生まれたミンキーモモ (桃から生まれたミンキーモモ〈仮〉)	首藤剛志 戸田博史	日下部光雄 (日下部光雄)	飯村一夫	飯村一夫・もくだい典子	尾崎正善・古川加代子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	— (浅田久恵)	塩野谷京子 中山久美子 山室智弘	下地志直	(ビーチボーイ)小宮和枝・(大鬼)飯塚昭三・(鬼A)長堀芳夫・(鬼B)藤[illegible]三・(女の子A)土井美加・(女の子B)三田ゆう子・(女の子C)木藤玲子
50	2/24	リンゴに御用心 我が心の白雪姫ちゃん (我が心の白雪姫ちゃん)	筒井ともみ	湯山邦彦 (ゆやまくにひこ)	わたなべひろし	渡辺浩・松下浩美 白井考二・小林早苗 高橋理恵・宮嶋堅	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子 伊藤久美子・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	にしこ プロダクション	ひろかわゆり (浅田久恵)	高山洋美 池田千絵 北村則子	中林正道	(デビルクィーン)沢田敏子・(用心棒)加藤正之・(小人A)沢木郁也・(小人B)福士秀樹・(小人C)稲葉実・(小人D)小柳全弘
51	3/3	ラストアクション ラストアクション〈仮〉 (ラスト・アクショニスト)	土屋斗紀雄	大庭寿太郎 (日下部光雄)	兵頭　敬	林隆文・高田三郎	増井泉・大島利恵・岡村泉 榎本明広・片田敬信・相多孝子 伊藤久美子・増田恵子 竹内美智子・村田美樹子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	杉田泰子 (浅田久恵)	塩野谷京子 中山久美子	保坂和彦	(ジョン)屋良有作・(ケント)嶋俊介・(老婆)鈴木れい子(助監督)佐藤正治・(スペルバーグ)千葉繁
52	3/10	モチャーとペンギン ペンギンさんのもらいっ子 (ペンギンさんのもらいっ子〈仮〉)	谷本敬次	石田昌平 (日下部光雄)	田中　保	須田正己・丹澤学 斉藤明英・榎本明広	増井泉・大島利恵・岡村泉 片田敬信・村田美樹子 相多孝子・伊藤久美子 増田恵子・竹内美智子	にしこ プロダクション	ひろかわゆり (浅田久恵)	高山洋美 池田千絵 北村則子	須貝　尚	(ブローカー)たてかべ和也・(警察)藤[illegible]三・(飼育係)千葉繁
53	3/17	お花畑を走る汽車 お花畑を走る汽車 (お花畑を走る汽車〈仮〉)	金春智子	日下部光雄 (日下部光雄)	飯村一夫	飯村一夫・もくだい典子	尾崎正善・古川加代子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	杉田泰子 (浅田久恵)	塩野谷京子 中山久美子	下地志直	(ヘレン)芝夏美・(老夫人)斉藤昌・(老人)伊井篤史・(若いセシリア)土井美加・(若いマーク)納谷六朗・(駅員)千葉繁
54	3/24	飛べアルバトロス号 飛べ!アルバトロス号 (飛べ!アルバトロス号)	土屋斗紀雄	大庭寿太郎 (日下部光雄)	上條　修	山岸弘・林隆文 高田三郎・斉藤明英 榎本明広	増井泉・大島利恵・岡村泉 片田敬信・村田美樹子 相多孝子・伊藤久美子 増田恵子・竹内美智子	にしこ プロダクション	ひろかわゆり	高山洋美 池田千絵 北村則子	中林正道	(極楽鳥)藤[illegible]三・(小鳥)大塚智子・(ドランコ)野本礼三
55	3/31	愛(ラブ)・アップルでもう一度 魔女だって愛がいっぱい デビルクィーンの追跡レポート (魔女だって愛がいっぱい デビルクィーン追跡レポート・その①)	筒井ともみ	湯山邦彦 (ゆやまくにひこ)	わたなべひろし	渡辺浩・松下浩美 小林早苗・只野和子 長谷川桂子	増井泉・大島利恵・岡村泉 片田敬信・村田美樹子 相多孝子・伊藤久美子 増田恵子・竹内美智子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	ひろかわゆり —	塩野谷京子 中山久美子	高橋正宗	(デビルクィーン)沢田敏子・(ジャック)加藤正之・(支配人)屋良有作・(トニー)福士秀樹・(ゼニール)千葉繁
56	4/7	木もれ陽の少女 ひとりぼっちのシベール〈仮〉 (ひとりぼっちのシベール)	金春智子	大庭寿太郎 (大庭寿太郎)	田中　保	白土理徳・丹澤学 斉藤明英・榎本明広 須田正己	増井泉・大島利恵・岡村泉 片田敬信・村田美樹子 相多孝子・伊藤久美子 増田恵子・竹内美智子	にしこ プロダクション	ひろかわゆり —	マキプロダクション 増田ちあき 伊藤久江 酒井公子 佐々木七枝 蓼沼晴子	保坂和彦	(シベール)秋山るな・(おじいさん)伊井篤史・(オーウエン)笹岡繁蔵・(レイ)福士秀樹・(ゼナ)土井美加・(大佐)千葉繁
57	4/14	人力飛行機ラプソディー ペントハウスの人力飛行機 (ペントハウスの人力ヒコーキ)	谷本敬次	日下部光雄 (日下部光雄)	飯村一夫	飯村一夫・もくだい典子	尾崎正善・古川加代子	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	ひろかわゆり (中山久美子)	マキプロダクション 増田ちあき 伊藤久江 酒井公子 佐々木七枝 蓼沼晴子	須貝　尚	(半魚人)佐藤正治・(リチャード)二又一成・(ハルク)亀山助清・(マーロン)屋良有作・(ニール)福士秀樹・(ポリス)藤[illegible]三・(会長)千葉繁
58	4/21	ペテン師のノクターン バースディ・プレゼント (ペテン師のノクターン)	安斎あゆ子	箕ノ口克己 (大関雅幸)	—	須田正己・田中保	増井泉・大島利恵・岡村泉 片田敬信・村田美樹子 相多孝子・伊藤久美子 増田恵子・竹内美智子	にしこ プロダクション	ひろかわゆり (中山久美子)	高山洋美 池田千絵 北村則子 塩野谷京子	下地志直	(ジム)塩屋翼・(番人)稲葉実・(夫人A)鈴木れい子・(夫人B)芝夏美・(ゼペット)増岡弘・(ケーキ屋)(モンスター)千葉繁
59	4/28	ある街角の伝説 街のちっちゃな楽園 (街のちっちゃな楽園〈仮〉)	土屋斗紀雄 首藤剛志	大庭寿太郎 (日下部光雄)	田中　保	鈴木伸一・戸川俊信 高田三郎・林隆文	増井泉・大島利恵・岡村泉 片田敬信・村田美樹子 相多孝子・伊藤久美子 増田恵子・竹内美智子・坂元恵美	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	北村則子 (中山久美子)	高山洋美 池田千絵 塩野谷京子	中林正道	(フェアリー)原えり子・(春の精)小林優子・(夏の精)芝夏美・(秋の精)室井深雪・(冬の精)長野晶子・(黒雲)千葉繁
60	5/5	時は愛のゆりかご 時よまわれオルゴールとともに (時は愛のゆりかご)	金春智子	箕ノ口克己 (やまだゆうぞう)	田中　保	白土理徳・丹澤学 斉藤明英・榎本明広	増井泉・大島利恵・岡村泉 片田敬信・村田美樹子 相多孝子・伊藤久美子 増田恵子・竹内美智子 坂元恵美	にしこ プロダクション	ひろかわゆり (中山久美子)	マキプロダクション 増田ちあき 伊藤久江 酒井公子 佐々木七枝 蓼沼晴子	保坂和彦	(ギャングA)たてかべ和也・(ギャングB) 福士秀樹(ギャングC)藤[illegible]三・(カポカポネ)加藤正之・(花屋の主人)(黒雲)千葉繁(花屋のおくさん)塚田恵美子
61	5/12	愛(ラブ)・アップルよ永遠に 愛(ラブ)のリンゴよ永遠に (愛(ラブ)アップルよ永遠に)	筒井ともみ	湯山邦彦 (ゆやまくにひこ)	わたなべひろし	渡辺浩・松下浩美 小林早苗・只野和子 長谷川桂子	増井泉・大島利恵・岡村泉 片田敬信・村田美樹子・相多孝子 伊藤久美子・増田恵子 竹内美智子・坂元恵美	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	ひろかわゆり (高山洋美)	北村則子 池田千絵 塩野谷京子 中山久美子	川村恒雄	(デビルクィーン)沢田敏子・(トニー)福士秀樹・(ジャック)加藤正之・(黒雲)千葉繁
62	5/19	しのびよる影 しのびよる影 (しのびよる影)	土屋斗紀雄	日下部光雄 (日下部光雄)	飯村一夫	飯村一夫・もくだい典子	尾崎正善・古川加代子	にしこ プロダクション	北村則子 (中山久美子)	高山洋美 池田千絵 塩野谷京子	須貝　尚	(シベール)秋山るな・(フェアリー)原えり子・(老婆)鈴木れい子・(デビルクィーン)沢田敏子・(黒雲)千葉繁
63	5/26	さよならは言わないで 最終回 さよならはいわないで〈最終回〉 (さよならは言わないで〈最終回〉)	首藤剛志	湯山邦彦 (ゆやまくにひこ)	上條　修	田中保・林隆文 斉藤明英・丹澤学 わたなべひろし 松下浩美	増井泉・大島利恵・岡村泉 片田敬信・村田美樹子・相多孝子 伊藤久美子・増田恵子 竹内美智子・坂元恵美	プロダクションアイ 井上徹雄 西永一光 山本順子	ひろかわゆり (塩野谷京子)	高山洋美 池田千絵 中山久美子	下地志直	(ルビン)菅見純・(ベリリッチ)石井敏郎・(ボトム)田口昴・(ギャング)福士秀樹・(黒雲)千葉繁

●このリストはロマンアルバム編集部で作成しました。



イラスト／服部あゆみの初期設定より

ミンキーモモ スナップアルバム

いろいろな表情を見せてくれた、12歳のモモのスナップアルバムです。

こんにちは

まずは笑顔でごあいさつ。にこっ♡



えとせとら

なにげないそぶりのなかに光るものが見つかる女の子。



ぎょえっ

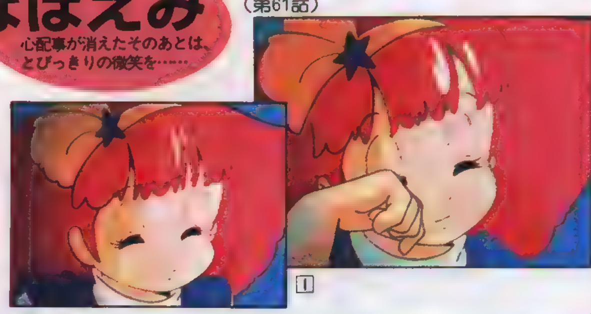
びっくり仰天、そのときも、かわいらしさを忘れずに。



ほほえみ

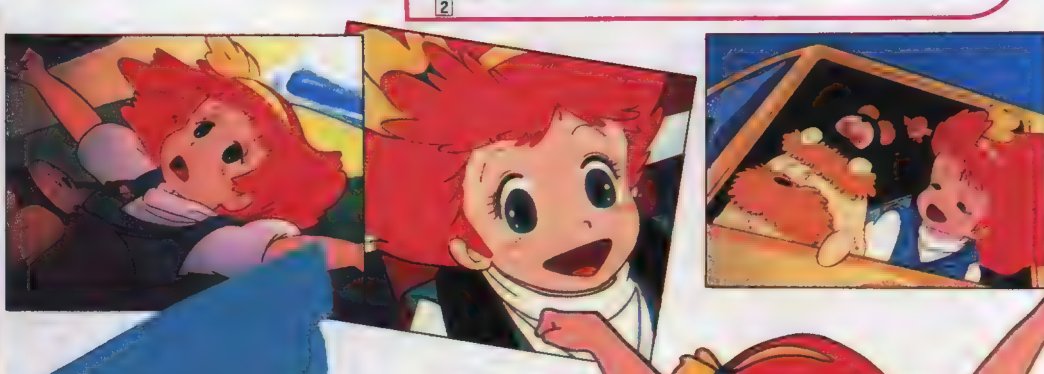
心配事が消えたそのあとは、とびっきりの微笑を……

（第61話）



1 2







乙女の悪あがき

ひきつった顔もさることながら、必死の回転のこの足

（第50話）



3 2 1



絶体絶命（第50話）

ピンチになったときは、相手をおだててごまかそう。



乙女のおどろき（第34話）

一番くずれた顔はトカゲにかくれた部分でしょうか



おとなになったら

将来のため、お料理お注射そして拳銃……!? え？



乙女のあせり（第24話）

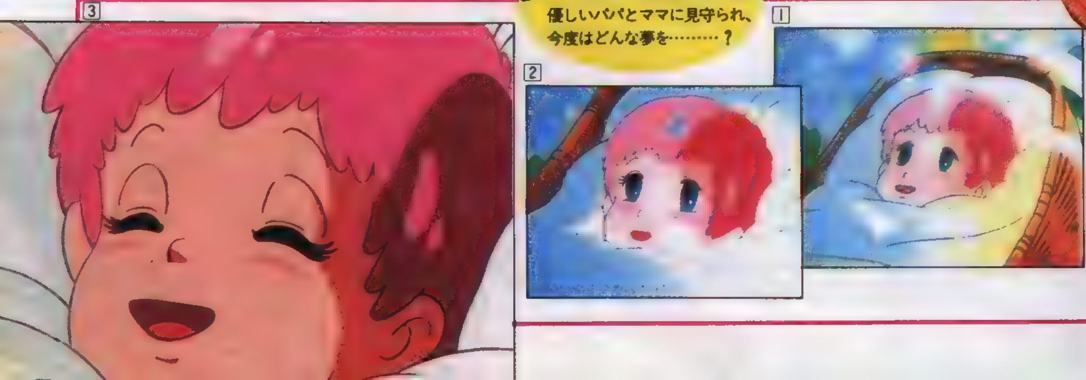
よそ見運転事故のもと。前方不注意気をつけよう





やすらぎ（第63話）

優しいパパとママに見守られ、今度はどんな夢を………？



ミンキーモモ
アクションアルバム

モモのかわいらしさは、表情だけではありません。そのしぐさにもご注目あれ。

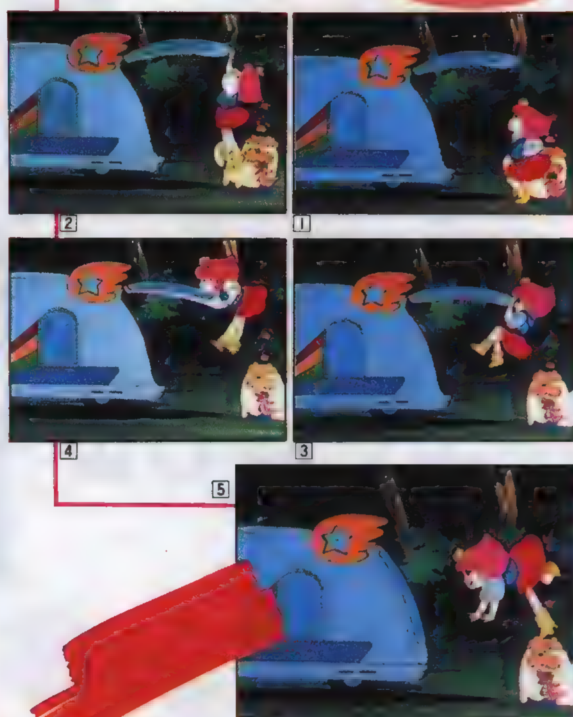
とぶ（第１話）

記念すべきモモの初パンチラ！



はねる（第54話）

バックドアを閉めるときでもリズムにのって、１・２！



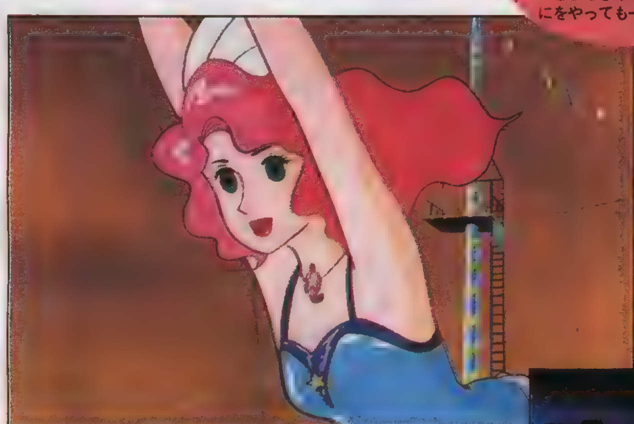
はしる（第54話）

見よこのスピード、この勇姿。最後はＪｕｍｐできまり！



ブランコする（第37話）

「とびっきりの美人」は、なにをやっても一流です。



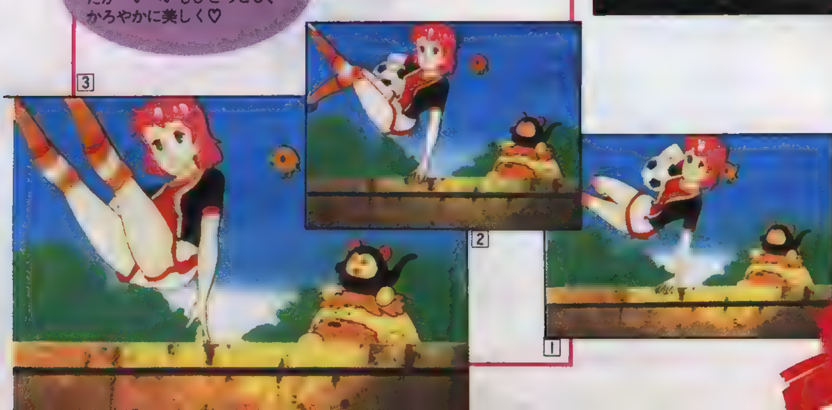
身投げ中年を助ける（第55話）

ひとりと４匹、一致団結、一蓮托生、落ちる時は皆一緒



とびこえる（第13話）

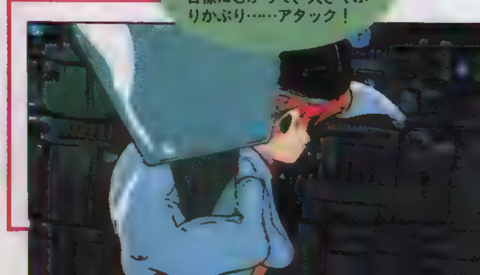
たかーいへいもひとっとび、かろやかに美しく♡





なぐる（第42話）

目標にむかって、大きくふりかぶり……アタック！





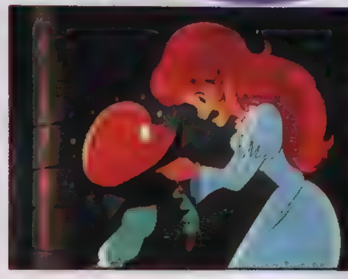
投げる（第50話）

大きくふりかぶりサイド
スローの豪速球いや豪速気



といつめる（第26話

パパのためとあらばときに
ははしたないかっこうも



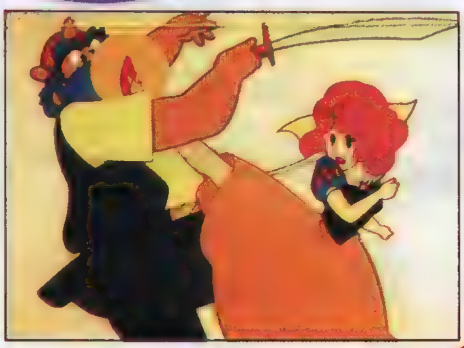
撃つ（第61話

黒猫への一番の武器は、モ
モの夢の象徴のステッキ



ける（第50話

刃の下をかいくぐり、アゴ
めがけて必殺の一撃





モモ・ラストアクション（第63話

自分の夢を守るため、仲間
とともに敵のまっただ中へ



ミンキーモモ
変身ショット

不思議なペンダントからミンキーステッキを抜きとると…。モモの変身をバッチシ公開。

Bパターン（第11話～第46話）



ピピルマ



12（共通A～Jへ続く）

ピピルマ

共通パターン（第1話～第44話）



プリリンパ

Aパターン（第1話～第10話）



8（共通A～

Cパターン（第49話～第63話）



モモ変身カタログ

とにかくこれが最後です。見てください。そして思い出してください。あの懐かしい冒険の数々を。





▲(第1話)



♥まずはペットショップの看護婦と競馬ジョッキーに変身したモモ。衝撃的デビュー！



▲白バイライダー(第3話)



▲(第2話)

♥トップモデルに変身したおかげで町中はモモパニック。これも魔法の力!? それとも……。



▲テニスプレイヤー(第6話)



▲スチュワーデス(第5話)



▲消防レスキュー隊員(第4話)





▲(第9話)

♥モモの歌手。最近ナウいファッションが多い中で、この地味〜な服装に作画の苦労がしのばれる。



▲(第7話)

♥看護婦に変身してアンの手術を手伝ったとき。このときは看護婦としての腕はプロでも、患者とのつきあいは未経験。モモも、勉強させられた。



▲婦人警官(第8話)





◀怪盗レッドキャット(第12・41話)

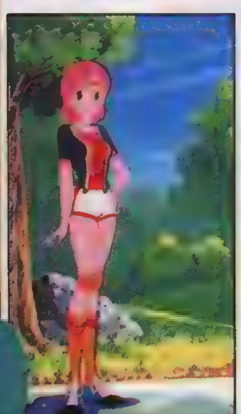


▲バスドライバー(第10話)

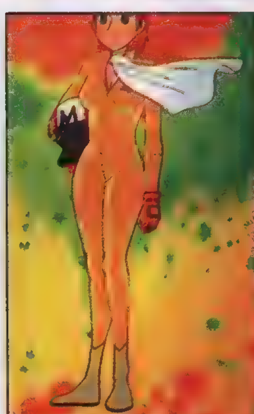


▲ネコの美容師(第11話)



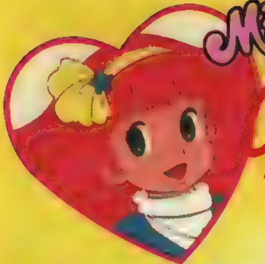


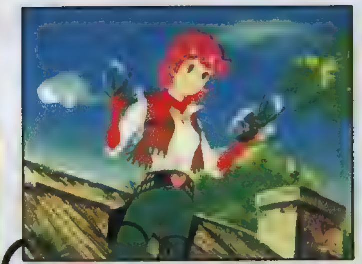
▲マジシャンとサッカーコーチ(第13話)



▲レーサー(第14話)

Minky Momo Graffiti





▼(第16話)

変身さえすれば二挺拳銃も、ほれ、この通り。どんなプロよりも早く抜ける！



▲機関士(第15話)



▲ニュースキャスター(第17話)



▶ダイバー(第18話)



▲コンピュータープログラマー(第19話)





▲▶動物保護官とターザン(第20話)





▶(第21、22話)

0 0(ゼロゼロ)モモ参上！　この時は12歳のモモは、ほとんど活躍しなかった。



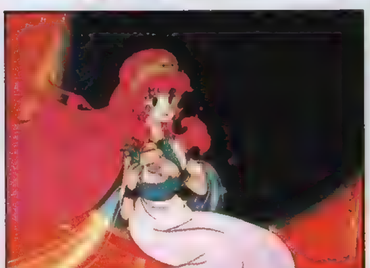
◀(第23話)

王様がどこかの町へやってきたとき、モモは最初のフツーの女の子になる。



▶(第25話)

野球選手になってミラクルズで大活躍。負傷したサキにかわってマウンドにあがり、大魔球を投げてチームを勝利に。



▲妖精の女王(第24話)

ヒル村で妖怪のいけにえにされようとしていた娘になりかわり、花嫁姿で妖怪退治に……。

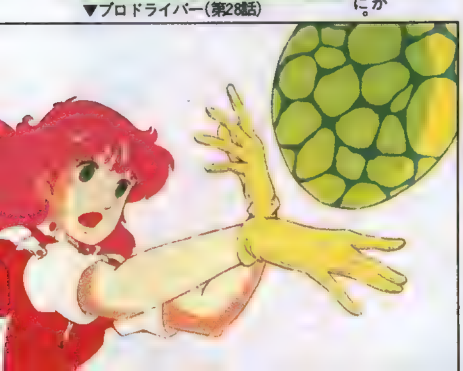


▲(第26話)



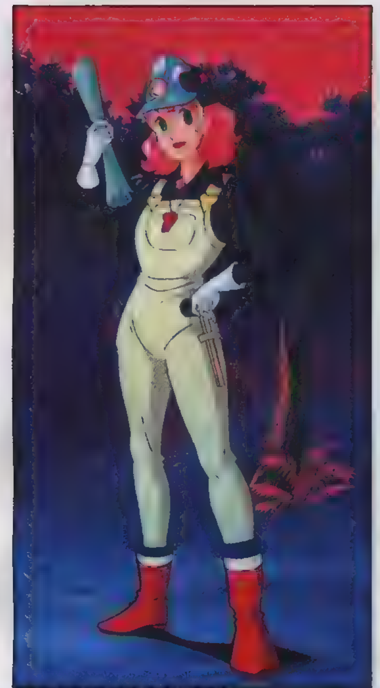
◀海賊退治の船長(第27話)

▼プロドライバー(第28話)





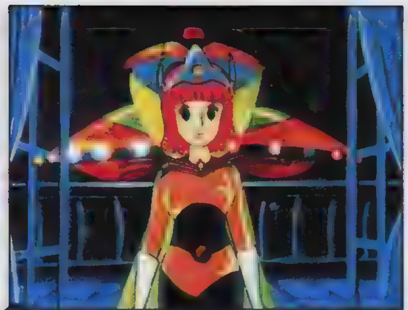
◀女性宇宙飛行士(第30話)



▲突貫工事の現場監督(第34話)



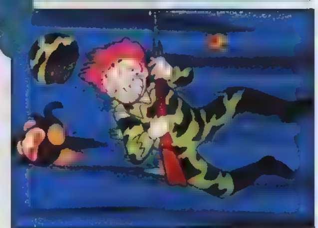
▲考古学者(第32話)



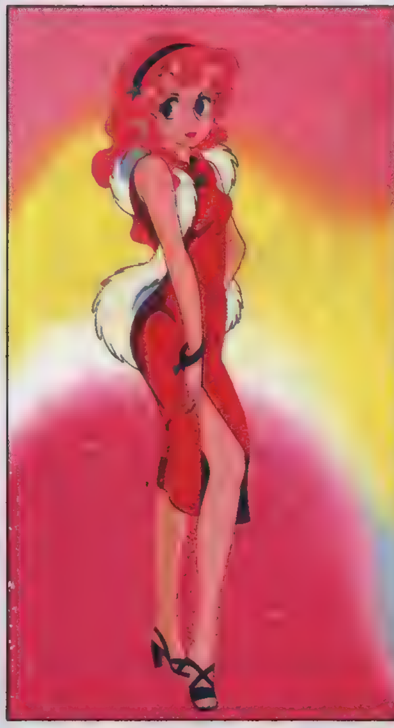
◀(第29話)

モモの変身は、超一流のプロフェッショナルになることだけど、宇宙人のプロっていうのは……？

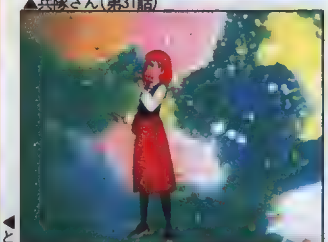




▲兵隊さん(第31話)



◀とびっきりの美人(第37話)



▲レディ(第35話)



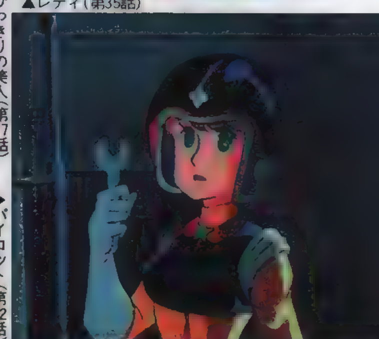
▲山岳レスキュー隊員(第33話)



▲剣士(第40話)



▼医者(第40話)



▶パイロット(第42話)

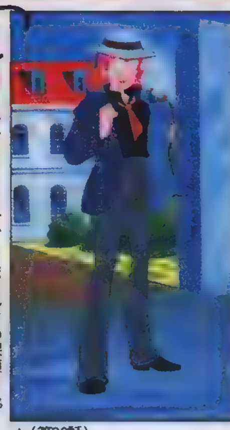


▲雪の彫刻家(第38話)



▶婦人警官(第36話)

ママもまきこみハードボイルドの探偵さん。「タフでなくては生きていけない！」



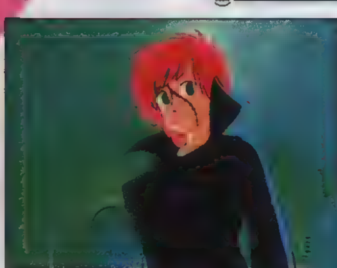
▲(第39話)

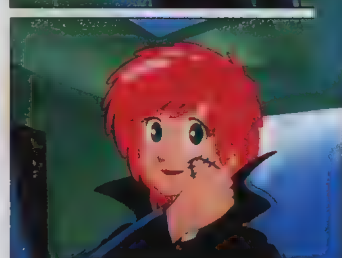


▲爆弾技師(第42話)



◀絵描き(第36話)





▲世界一の外科医(第44話)

ふつうの女の子に変身したモモは、アニメーターのジョニー青年と出会い、恋におちます。しかし、住む世界の違う二人は……。



▼(第43話)

Minky Momo Graffiti





おとぎ森のアイドル白雪ちゃんに変身したモモ。可憐な外観に似ない派手なアクションでデビルおばさんとはりあった。



▲(第50話)(第55話)(第61話)



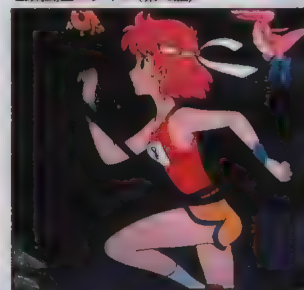
▲スタントパイロット(第51話)



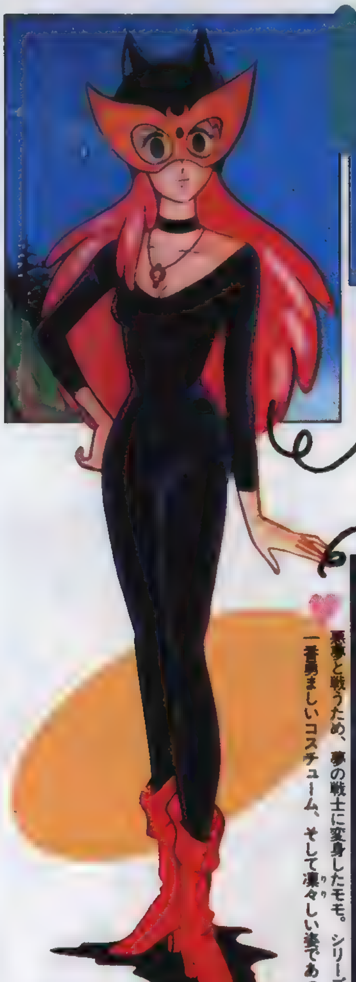
▲剣闘士スタイル(第49話)

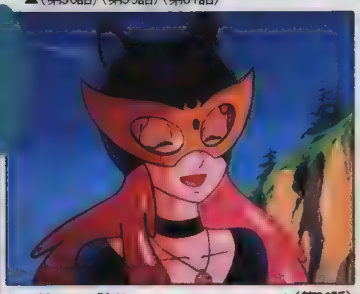


▲昔の駅員さん(第53話)



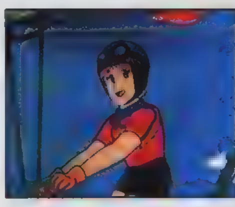
▲陸上選手(第54話)(第59話)





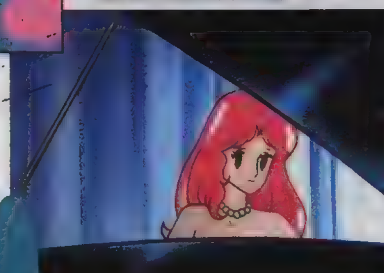
▲(第56話)

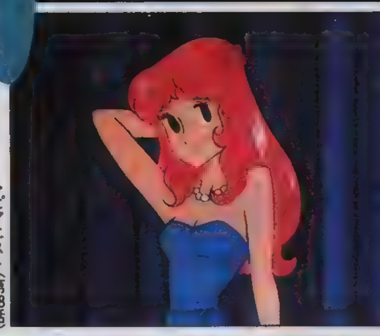
第2シリーズの怪傑ブラックキャット。レッドキャットの姉貴分的貫禄はあるが、中身は!?





▲競輪選手(第57話)





▶ピアニスト(第58話)

悪夢と戦うため、夢の戦士に変身したモモ。シリーズ中、一番勇ましいコスチューム、そして凛々しい姿であった。



▲(第63話)



▲ジェットパイロット(第54話)

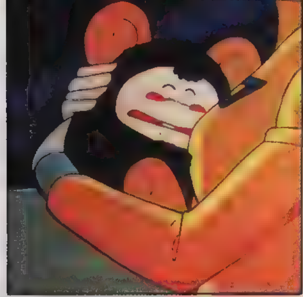


◀ホームズ風探偵(第52話)



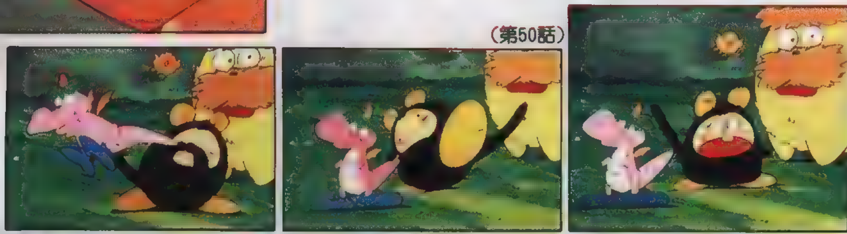


▲若き日のママに似た女の子(第60話)

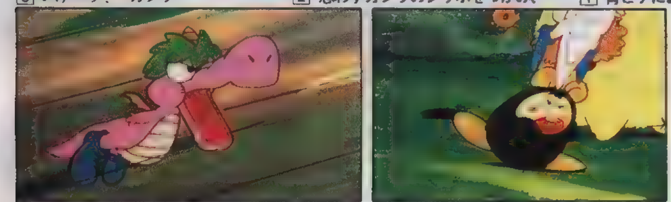


正義と真実の戦士 モチャー様だ！

(第50話)



③ いけーっ！　カジラ　② 思わずカジラのシッポをつかみ、　① 青ヒゲにおわれ、　モモピンチ！



⑤ 青ヒゲに向かって一直線！　④ それーっ!!

ゆかいな仲間たち

モチャー、ピピル シンドブック、カジラ

モモのためなら、たとえ火の中水の中。ボクたちゃ夢の国の三銃士……プラス1！

モチャー

自分では、強くてかっこいい戦士のつもりだが、かなりのお調子ものである。いざとなれば思わぬ力を発揮するが、なかなか最後まで続かない。





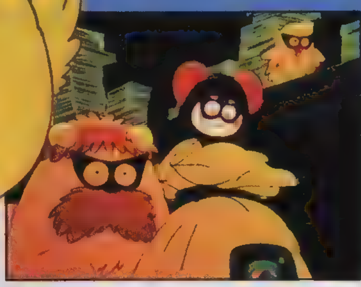




▲ペンギンに変装する途中です。









ほんとは美しいのよ
わたしって

ピピル

いつもだれかの上にとまっている、おしゃまでおしゃべり好きの小鳥。最後の変身で、その美しさを証明してみせた。

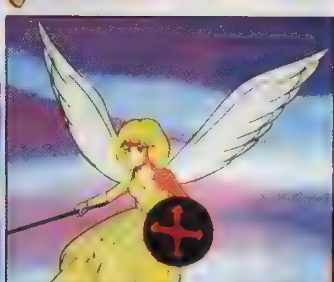


▲不本意ながら…たくましいピピル。

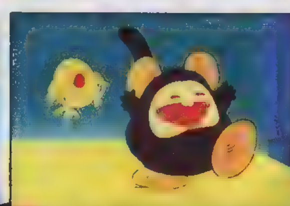
(第63話) 黒雲との戦い



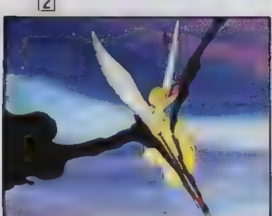
②



①



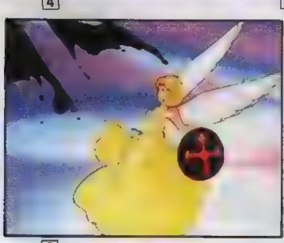




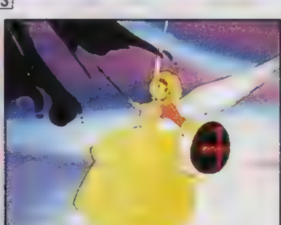
④



③



⑧



⑦



⑥



⑤

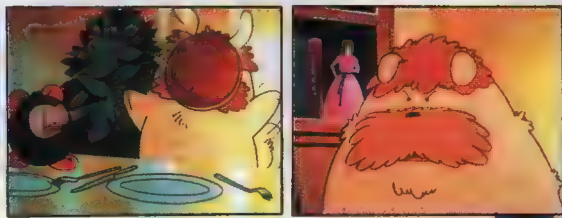


▲変身してビックリ、うるわしのピピル。

フー、しんどいこっちゃ! シンドブック

知識の宝庫を自認するだけあり、なにかのときに役に立つ存在。ただし、かなりのご老体らしく、戦闘等にはあまり用をなさない。







（第50話）



1 なにやら、

2 シッポにやな予感が……。

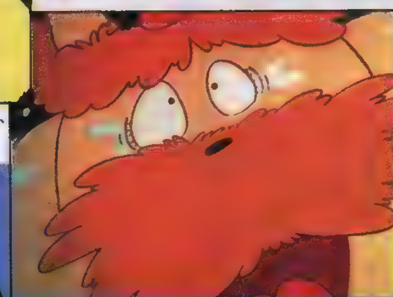
3 くいつきカ〜ジラ！

4 だんだん痛みが伝わってきて…、

6 飛びます、

7 とびます！

8 おたっしゃでー!!

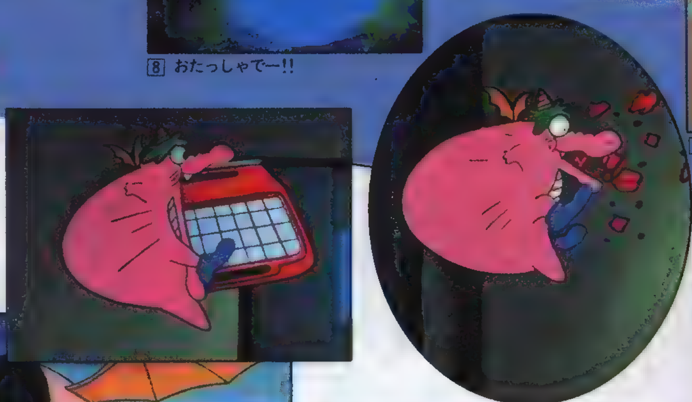


5 どわ〜〜〜っ!!

カジラ

「カージラ」しかいえない恐竜の子(?)かと思いきや、実は、モモを思う人々の心の結晶であった。彼の存在が、最後にモモを支えた。

カジラーァン!





（第55話）



1

2

3



パパ&ママ

結婚して12年、いまだにかわらぬアツアツカップル♡　気を若く持つことはいいことです。

プロポーズ（第60話）

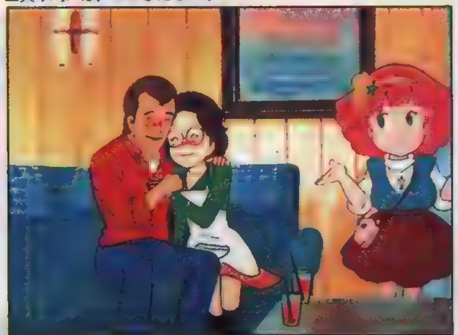
モモの話の根本を造るための、重要なエピソード。黒雲に邪魔されそうになる。



1 ロビン、必死のプロポーズに、
2 デイジー、ニッコリ♡
3 やったね、パパ!!
4 ヒシッ！　と抱きあう二人。



▲笑う門には、モモきたる…？

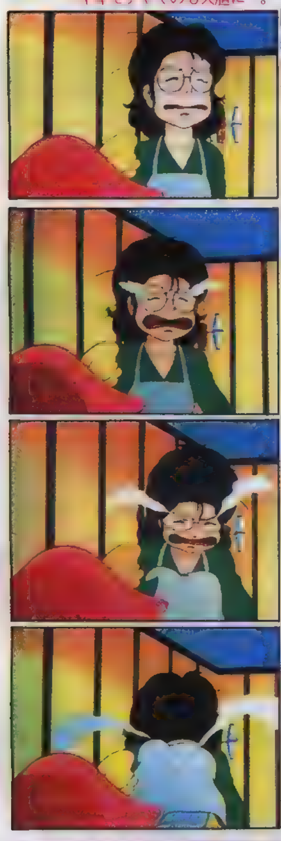


▲こうなると、かける言葉もございません。

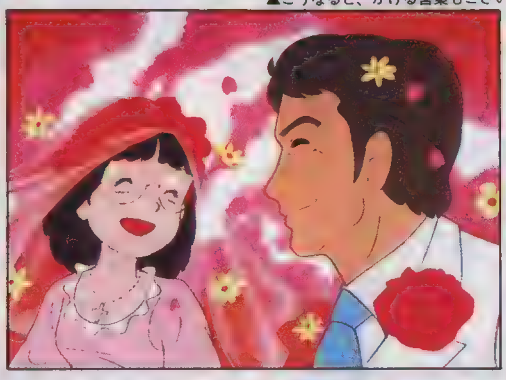


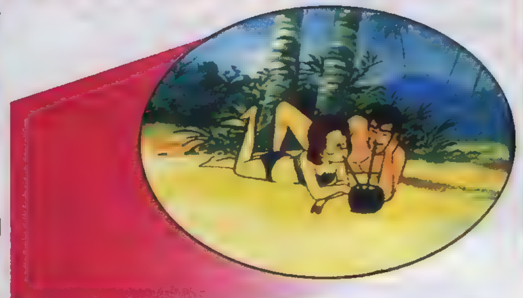
ママの涙（第37話）

ヤキモチやくのも大胆に…。



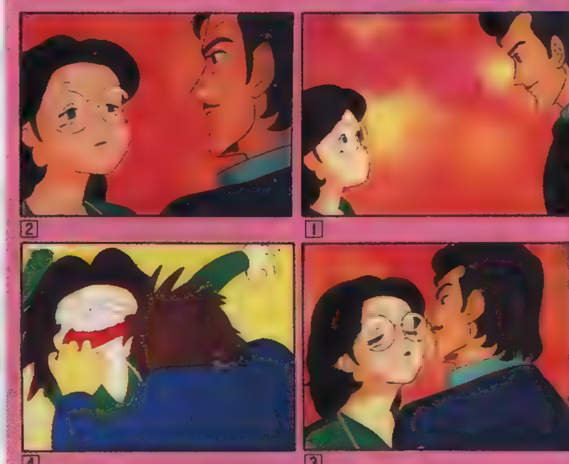
1「私だって、
2 チェリーピンクの口紅が
3 つけたかったの
4 にー！」





キスシーン（第10話）

夫婦ならば、キスのひとつやふたつぐらい…
でも、さすが、[illegible]



ママ百面相

いくつになっても子どものようなかわいさを持ったママ。その純粋な心ゆえに、喜怒哀楽の表情も豊かである。



パパァ〜！大好きっ♥





ママ〜ッ！愛してるよ〜♥

ダンティ・パパ



▲You are Hyokin Papa!!　▲やきもちも、のろけのうち…？　▲ボギーまっつぁお!?

ママのパパとパパのママとパパ

双方ともに、子どもの育て方に、手抜かりはなかったようである。



▲ママのおうちはギャング屋さん♡　▲パパの動物好きは、親ゆずり？





星空ランデブー（第44話）

ママの翼は天使の翼だから飛べるとして、パパのは「愛の力だ」としか、いいようがありません。三日月と星の光のなか、２人の世界は広がっていくのでした。



ママ、怒りの回顧（第37話）

すわっ、パパが浮気!!　怒りに燃えたママの気持ちが、よく表されている。

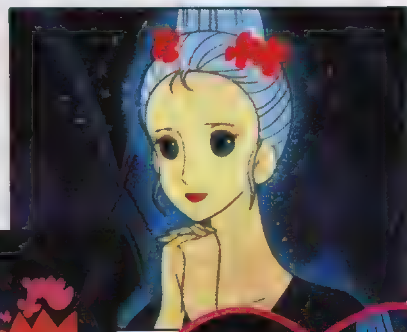


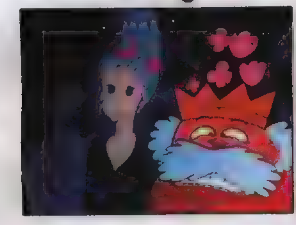


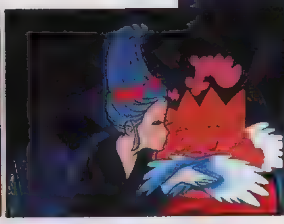
えーだば！ えーだば！

王様&王妃様

なるようになるだばさ♡　と、夢の世界(フエナリナーサ)のデコボコ夫婦。きょうも娘を見守っています。











王様&王妃様結婚秘話 （第43話）

ペンダントを拾ってくれた男性(ひと)と結ばれる——となれば、本人の意志どおりにはいかないことも……



1 でました！　超ドハンサムボーイ。



2 若い頃の王妃様。



3 「ああ…私の運命がきまるとき…」



4 ドキッドキッ、ワクワク♡



5 意中の人の前に、わざとペンダン を落とすが……



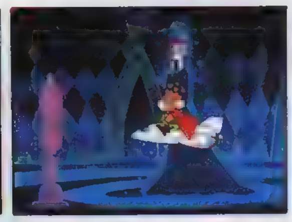
6 「キミィ、落し物だば！」



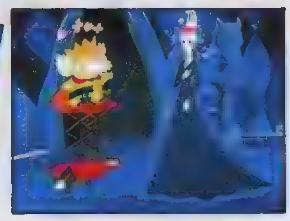
7 「運命の出会い」というよりは、「偶然の産物」といった感じの2人の結婚。いまがハッピーなら えーだばさ♡

あなたと一緒に暮らして二千年
いまだにあなたという人の
性格がわかりませんわ







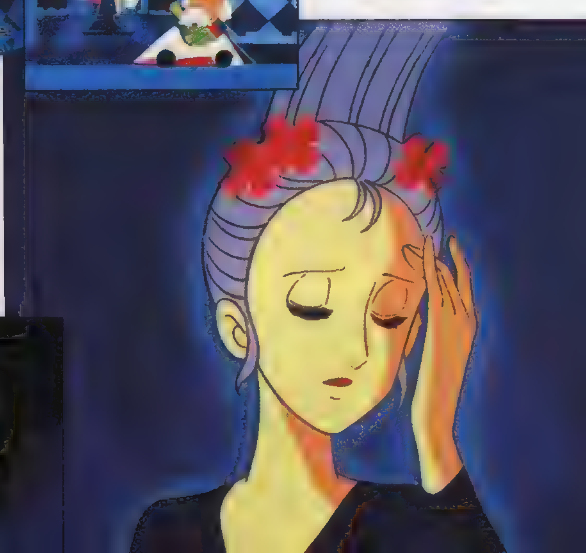




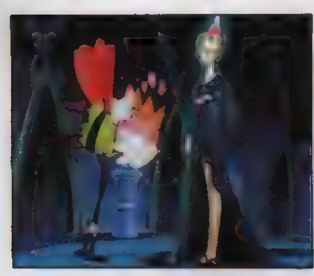


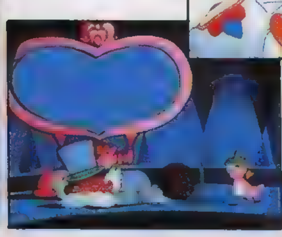














みさきのあミンキーモモ初期設定



みさきのあさんによるモモとおともの三匹の、本当に最初の設定。

上段の「魔女モノ」と下段の「ペットショップの女の子の話」のふたつがひとつになったものがミンキーモモ。

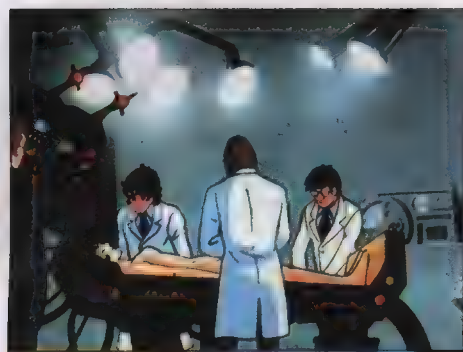
この後、服部あゆみさんや芦田豊雄氏の手をとおるので、いまのモモの面影はほとんどない。

みさきさんの弁をかりると「私の設定で採用されたのは、目の色が緑ということくらいかしら」。

NANA & RYAN

第33話「アンドロイドの恋」より

Passion 熱情



1 ナナは世界初の感情を持つ人造人間だった。





2 ナナをより強力なロボットに改造せよとの命令が。

恋は一種の劇薬にも似ている。ましてその恋が許されないものであるならなおさらだ。かくしてナナとライアンは愛しあったその時から、破滅への道をひた走ることになる。ライアンは科学の最先端をいく工学技師。おそらく夢の国(フェナリナーサ)などというおとぎ話からは最も遠い位置にいたに違いない。ナナに至ってはまったく無縁といってもよかったろう。なにしろ彼女は人造人間(アンドロイド)だったのだから……。

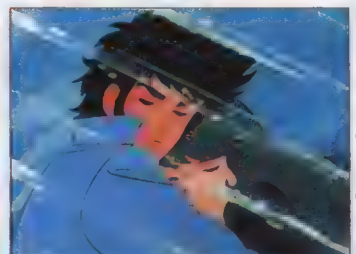


3 いつしか二人の間には恋が芽生えていた。

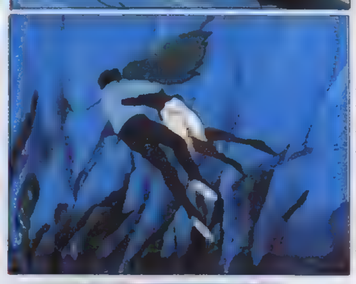
地上では、決して実ることのない恋 ナナとライアンの熱い思いは、ついにフェナリナーサを呼びよせる！

ナナの分解命令が出た時、ライアンはナナを連れてあてのない逃亡の旅に出る。会社は二人を追う。この措置は当然であろう。ナナは会社の財産であり、ライアンは社命に背き、しかも会社の最高秘密を持ち逃げした男なのだ。だが、恋は理屈じゃない。理屈で人間と非人間が愛しあえるわけがない。この時、二人はフェナリナーサの住人たる資格を得たのかもしれない。吹雪のなか、追いつめられた二人はついに千尋(せんじん)の谷底へ……。

二人の前にモモの魔法は不要だった。二人が魔法を行なったのであり、恋はしばしば、そんな理不尽を見せてくれるものだから……。



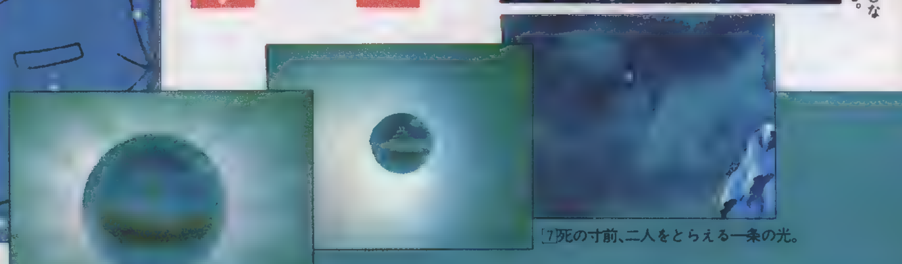
5 「ナナ、いいね？」「……」



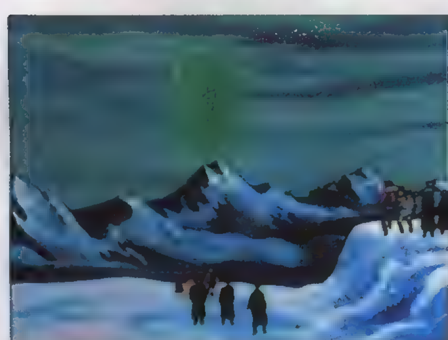
6 「魔法よ、通じて！」モモの絶叫もむなしく、二人は谷底へ身をおどらせる。



4 追っ手を逃れて街から街へとさまよう二人。彼らの安住の地はどこにもない。



7 死の寸前、二人をとらえる一条の光。



9 ぼうぜんと見送る地上にとり残された人々。二人の心はフェナリナーサへ……。



8 「見えるわ！ あれが……あれが！」「……フェナリナーサ」

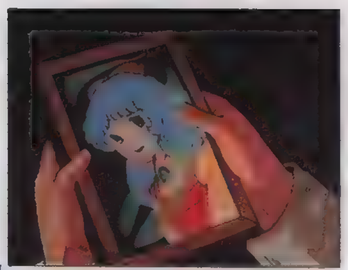


SARAH & ARON

第38話「雪のめぐり逢い」より

Illusion 幻影

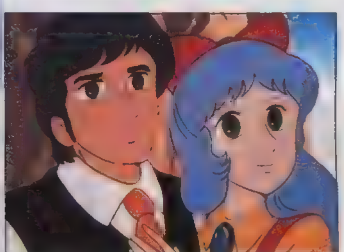
男はもう何年も待ち続けていた。
その女は永遠に帰るはずのないことを
男はまだ知らなかった。



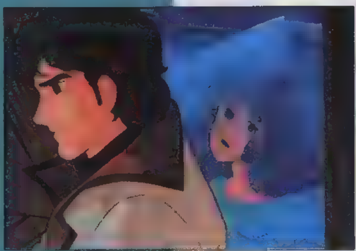
①「サラ、君はいつもどってきてくれるんだ……」

愛は時に過酷な試練を恋人たちに与える。丘の上のアロンは恋人のサラが帰ってくるのを待っていた。「春がきたら、二人で暮らそう」アロンのことばにはにかみながらうなずいたサラは家庭の事情で遠くの町に引っ越していった。十年前の秋のことである。そして、二人に春はこなかった。引っ越しの途中の山道で事故に遭い、少女の体は山深い谷底に埋もれてしまったのだ。男はその春がきて、その次の春が過ぎても待っていた。そうしていつしか十年の月日が流れた。

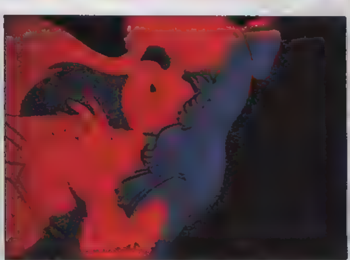




②幸せだったころのサラとアロン。



④雪の精となったサラの叫びはアロンに届かない。



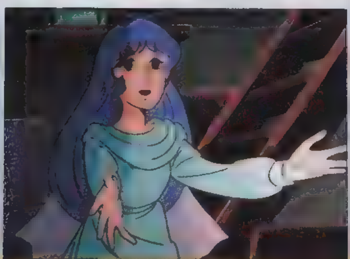
③あまりにも悲しい運命がサラを襲う！



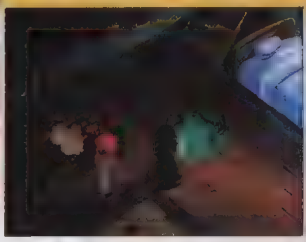
⑤「おいしい……」アロンの差し出す温かいスープを飲むサラ。10年ぶりの微笑。そしてサラの体は徐々に溶けて…。

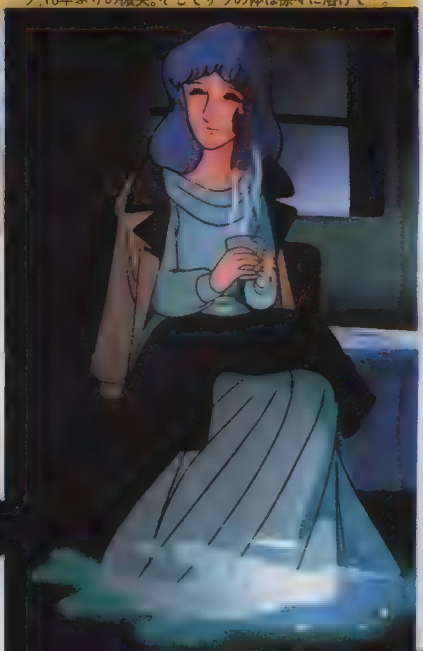


⑦サラの去った空をいつまでも見つめ続けるアロン。さようなら、サラ。



⑥「アロン、私が見えるのね？　アロン！」







サラは雪の精となって帰ってきた。アロンに永遠の別れを告げるために……。自分そっくりに作られた雪像にのり移りアロンの小屋の扉を叩く。狂喜するアロン。そして自分の体が溶けるのを承知でアロンのさしだすスープを飲んだサラは、再び男の目の前から消えていった。

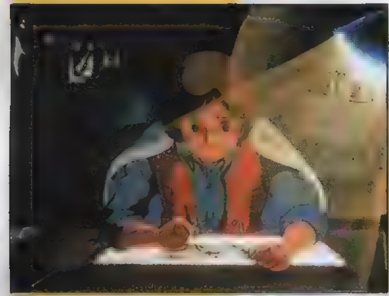
サラとアロンの物語に胸うたれた人は、いつかフェナリナーサを見ることができる人かもしれない……。

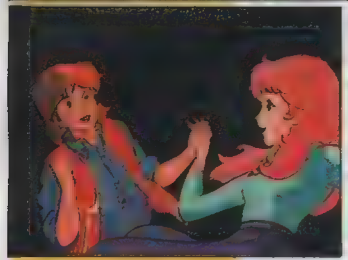


MOMO & JOHNNY

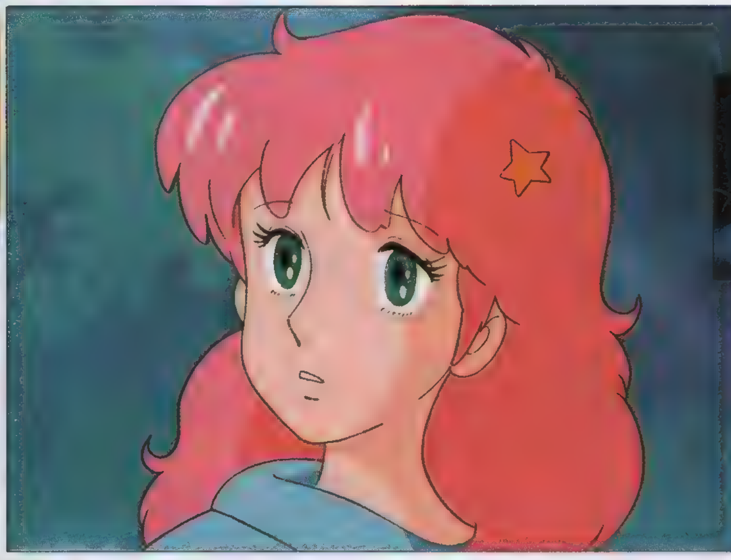
第43話「いつか王子さまが」より

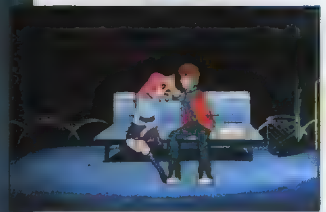
Destiny 運命





1 ジョニーは夢みるアニメーター。モモとともに、空想の世界で時を忘れ遊ぶ。





2 二人はいつしか互いにひかれあうが……。

魔法の国の王女と人間の青年の出会い
つかの間の幸福な時に別れをつげ
モモは初めて恋のせつなさを知る……。

出会いは偶然でも、別れは宿命なのか。モモとジョニーの場合がまさにそうだった。変身したモモのペンダントをひろったのが縁で、知りあう二人。夢みる男ジョニーと、その夢を理解できるモモ。二人はいつしか、毎日、公園でデートを重ねるようになる。

だがモモは気づいていた。ジョニーが見ているのは本当の自分の姿ではない。自分は本当は十二歳の少女であり、そしてさらにその実体は……。

恋しているとき、恋人たちは互いの本当の姿など見ないものなのに……結ばれぬ宿命を知るモモは、突然姿を消した。十八歳のモモを求めて公園にたたずむジョニーの前を少女の姿で走り抜けていくモモの胸には、思い出のペンダントが光っていた…。

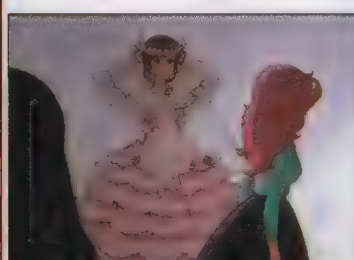


3 ジョニーの部屋から美しい夕陽をながめるモモ。

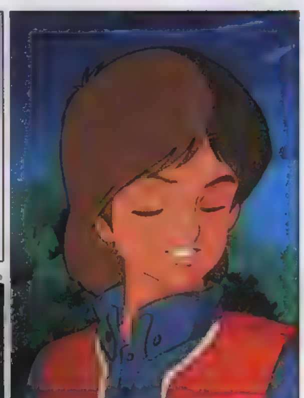




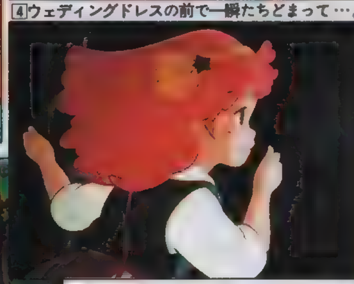
5 楽しい時を過ごすモモとジョニーだが、ジョニーをだんだん好きになればなるほど、ときおりモモの表情がかげりはじめる。別れの予感。



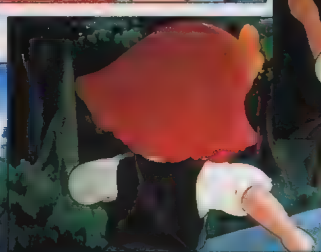
4 ウェディングドレスの前で一瞬たちどまって…。



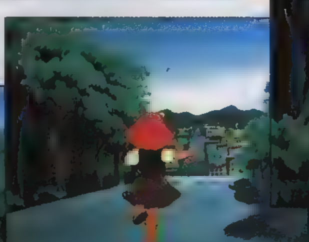
6 走り去る十二歳のモモの胸に思い出のペンダントが光るのを見て一瞬ハッと。が、やがて一人で公園を去るジョニー。



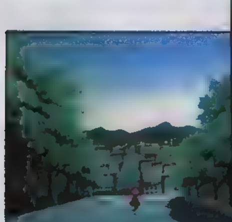
7 公園をかけ抜けるモモ。

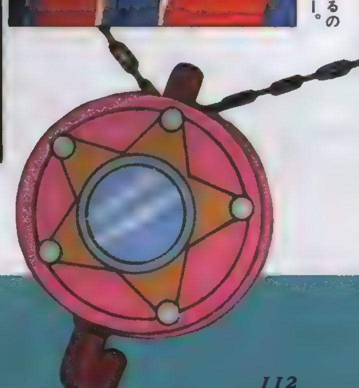


8 走って……。



9 走って……。

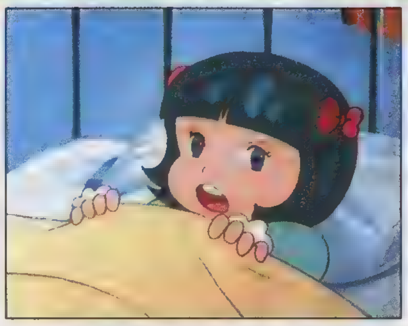






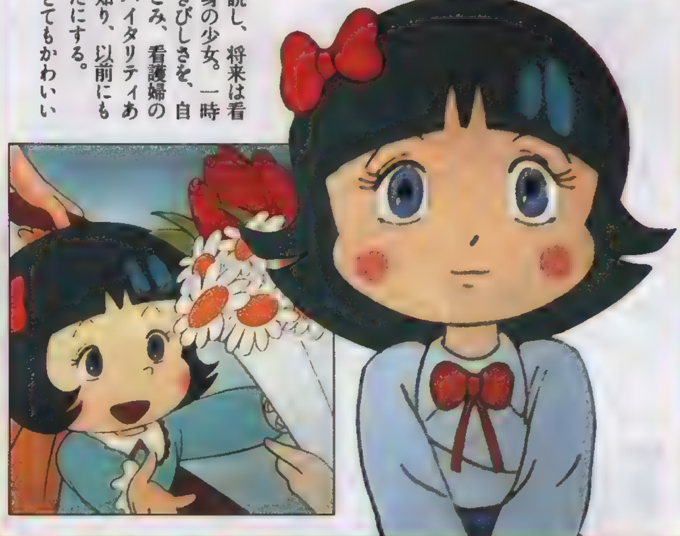
The Guest Character Collection 美少女編

♥アン（第７話）



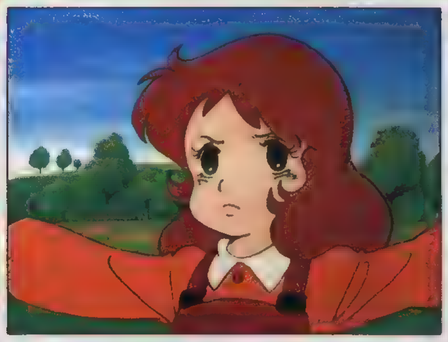
ナイチンゲールの物語を愛読し、将来は看護婦さんになりたいと願う病身の少女。一時は入院している病院の婦長のきびしさを、自分に対するイジワルだと思いこみ、看護婦の世界に絶望する。しかし後にバイタリティあふれる婦長の本当の優しさを知り、以前にもまして看護婦志望の決意を新たにする。

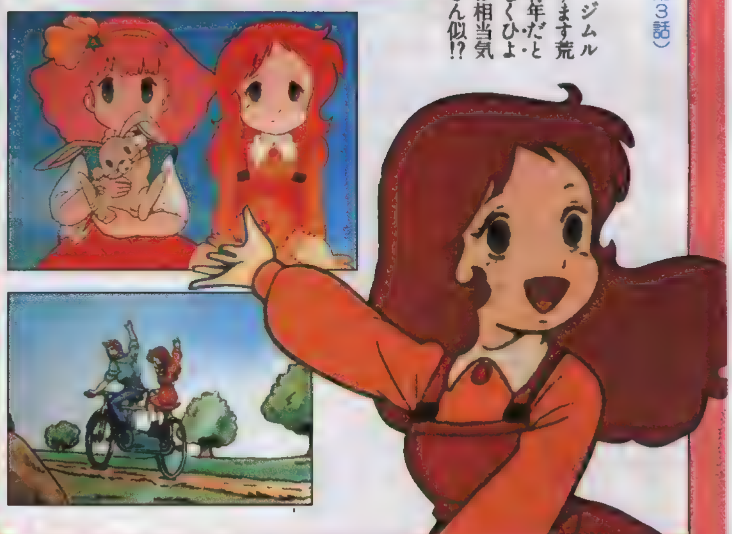
赤いほっぺたが印象的な、とてもかわいい女の子。



♥キャニー（第３話）

暴走族「赤いスカンク」のリーダー、ジムルの妹。周囲のおとなたちに誤解され、ますます荒れる兄が、本当は心の優しい、素直な青年だと信じているただ一人の理解者。どことなくひよわな顔立ちだが兄を制止するシーンでは相当気の強いところも見せた。やっぱりお兄さん似!?

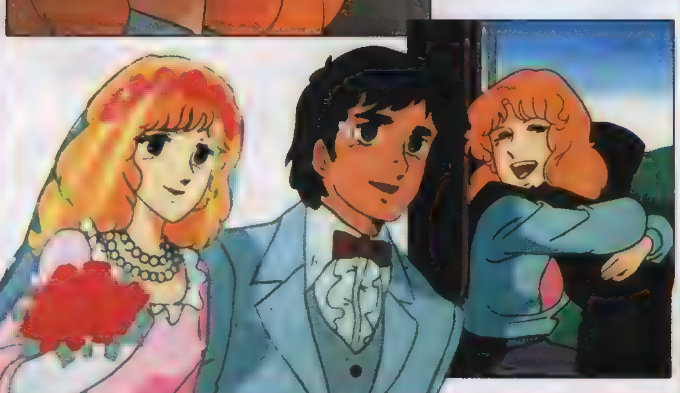




♥リリー（第15話）

霧の山鉄道を弟のチロルと二人きりで守る若き社長ジャックの恋人。しかも彼女の父は霧の山鉄道をのっとろうとしていた。こう書くと舞台はそろったみたいだが、後半のゲストカップルがだいたいネクラ路線を走ったのに対し、こちらは番組のなかでちゃんと結婚式まで挙げてしまった。ハッピーエンドの似合う美女。





♥マリー（第８話）

変身したモモを自分の先輩と勘違いして、しつようにくっついてまわる新米婦人警官。銀行強盗はいるわ、大怪盗はいるわ、ヤクザは公園で大運動会をやっているわのメチャクチャな治安状況にあるどこかの町の警官としては頼りないことこのうえないのだが、最後は人徳(?)で表彰状をもらっちゃう。やることなすことドジばかりだったが、にくめないタイプ。





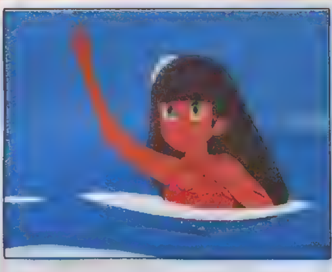
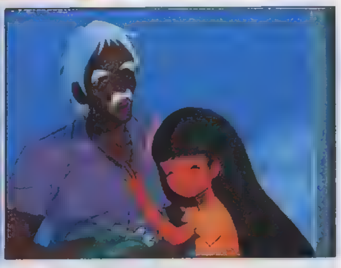


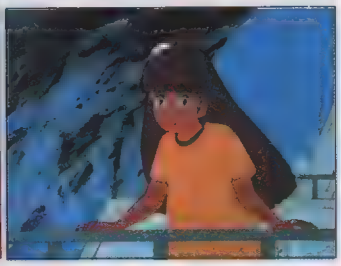
The Guest Character Collection



♥チムル（第18話）

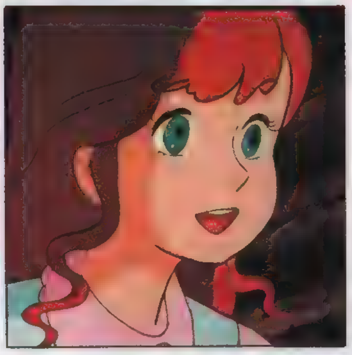
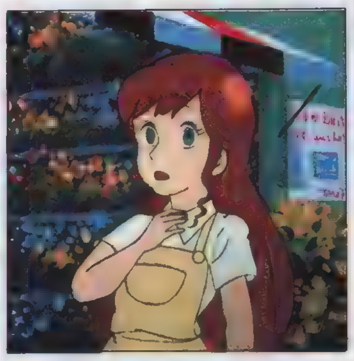
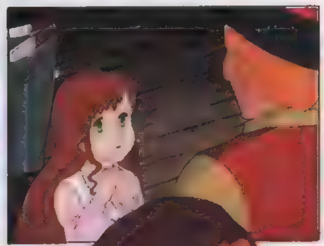
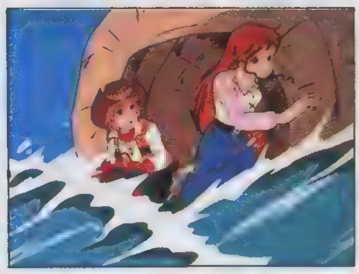
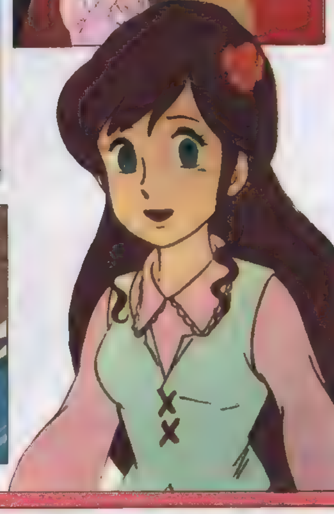
南海の楽園ババリ島で、おじいさんのガガンコと二人きりで暮らしている娘。宝探しに執念を燃やすガガンコじいさんのために、海底に潜って捜索を続ける。宝はフェナリナーサの王様のヘソクリだったが今度は彼女が彼女自身の宝物を見つけてほしいもの。ローティーンのはずだが意外と胸は大きかった。



♥ララ（第16話）

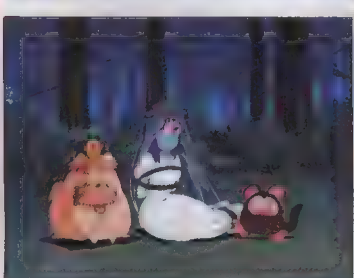
西部の石油王オイル氏の孫娘。突然の遺産相続騒動に巻きこまれ、サンフランシスコの花売り娘から、モモと一緒にオイル氏の住むバンバンシティへ、西部劇はだしの旅をすることになる。運命の波にもまれながらも、決して優しさを失わなかった少女。キュロットスカートと長い髪がよく似合っていた。

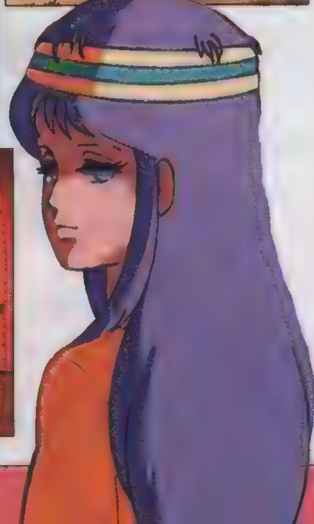






♥エリカ（第26話）

ヒル村にとりついた大妖怪ウラヌスのもとへ、いけにえの花嫁として捧げられようとしていた村一番の美少女。終始、無口な少女で、この回以降わりと出てくるようになる表情にかげりのある美少女キャラのはしり的存在。でも、ラストは美青年になった伯爵の前で明るい笑顔を見せてくれた。







♥サキ（第25話）

女だけの野球チーム「ミラクルズ」のエース。強肩にして強打者の美少女。男に負けてなるものか！　とのすさまじいまでの男性対抗意識は彼女の過去になにかあるのでは!?　と勘ぐりたくなるほど。オーナーの気まぐれで対戦させられ、満場の観衆の前で負けてしまった「ドコカーズ」はいい面の皮。









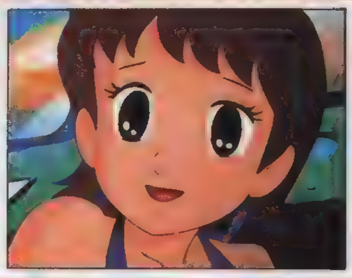
♥アリス（第30話）

おとぎの国フェナリナーサで日夜、ウサギを追っかけている例の女の子。30話でわずか10秒ほどしゃべっただけなのに出演後、一挙にフェナリナーサの代表的アイドル少女にのしあがった。ポスト中森明菜の呼び声も高い。



♥チャコ（第27話）

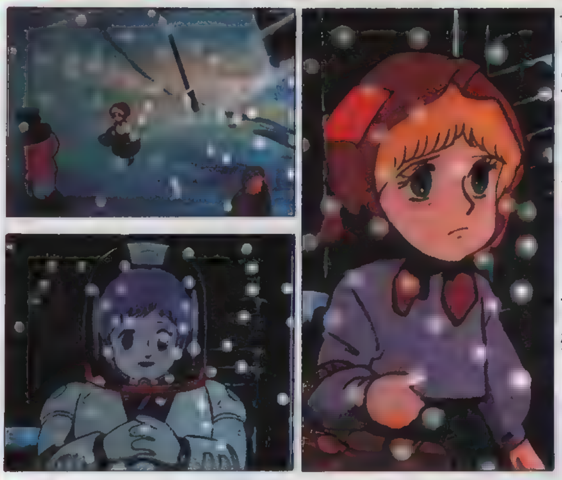
魔のトライアングル、ポンミューダ海域で消えた父親を捜す少女。おとなしそうな顔をしているわりには、モモと一緒に船出してしまうなど思いきった面もある。やはり海の男の血が流れていたのだろうか。十年後くらいにはいい姐御になってるかも!?





♥マッチ売りの少女（第30話）

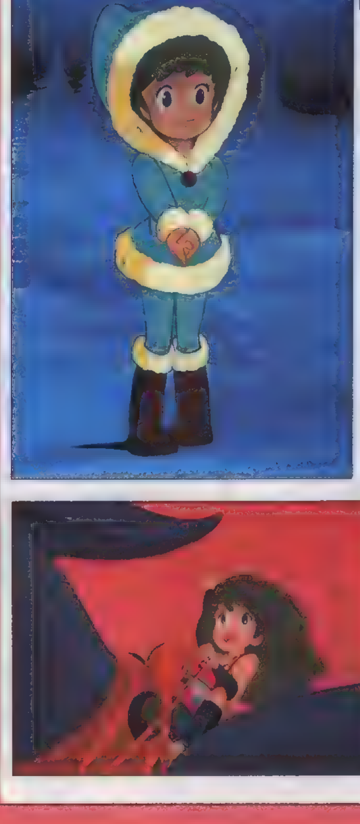
やはりフェナリナーサの代表選手。マッチが全部売り切れたので、いまは百円ライターでも売っているかな?



♥レイ（第34話）

出ました！　シリーズ中、登場したゲスト美少女あまたあれど、モモと人気をせりあったのはこのレイちゃんが最右翼だった。地底王国で恐竜たち相手にたったひとりで暮らしていたが、本当は誰かに甘えたい年頃。だけど暗さは少しも感じさせない女の子だった。







♥ミイちゃん（第36話）

どんな美少女でも七十年もたてば確実に老けるということを証明してみせた。でも、心は七十年前と少しも変わらなかった。小鳥を愛した少女。

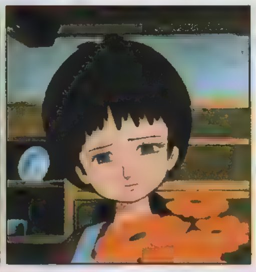


The Guest Character Collection



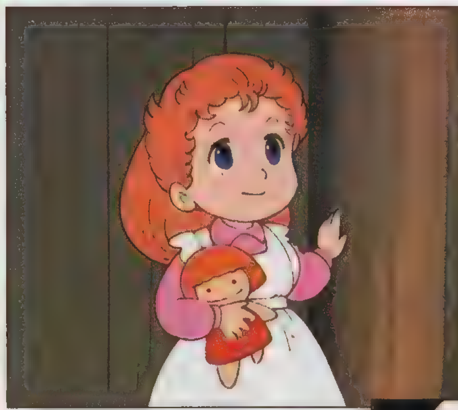

♥シベール（第56話）

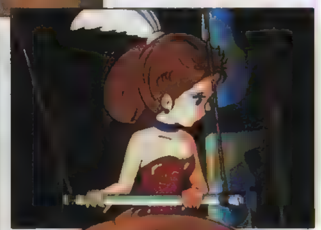
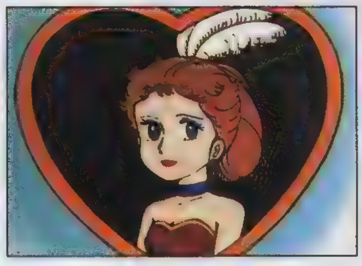
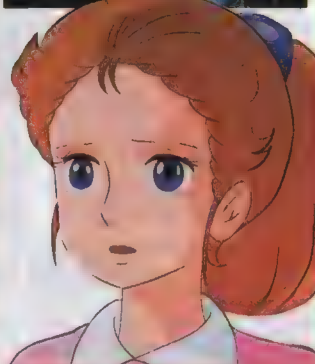
のどかな村に住んでいた超能力を持つ少女。ちなみに森で彼女が使ったのは念動力で、木の葉隠れではない。

♥ジュディ（第37話）

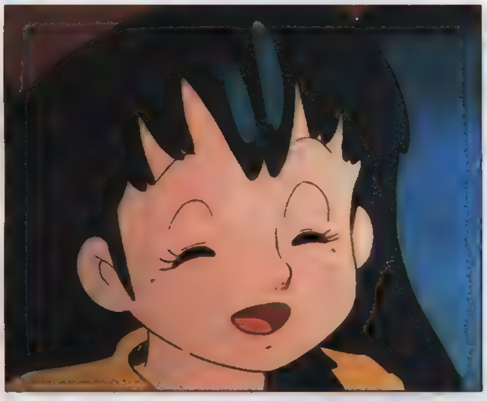
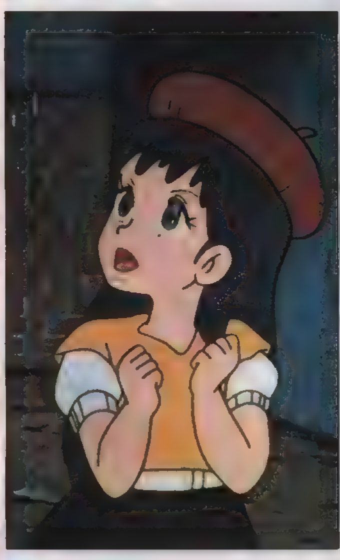
サーカスの花形、空中ブランコのスター。円満がペアルック着て歩いてるようなモモのパパとママに初めて波乱を巻き起こした問題の少女でもある。母親の死後、しばらくスランプに陥っていたがいまは看板スター。

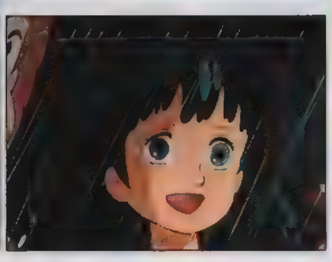


♥フェアリー（第59話）

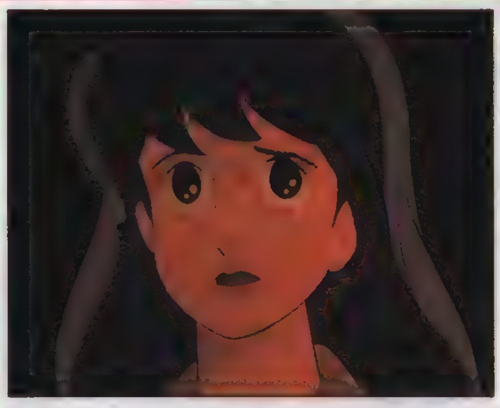
花の咲かなくなったあそこの公園で、目に見えない花を写生していた少女。ロマンチックな夢や希望を信じ、悪夢と戦うモモの心強い味方となる。

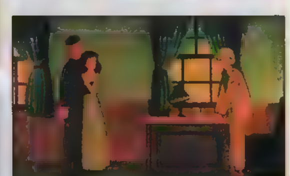
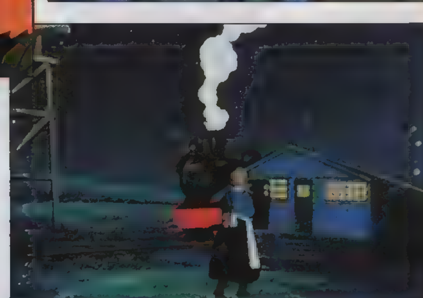
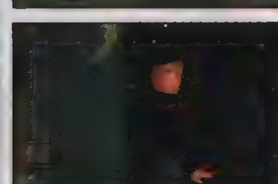





♥セシリア（第53話）

六十年前、男と一緒にかけおちしなかったことをいまだに後悔し続けている、お花畑の一軒家に一人で暮らす老婆。第二シリーズで、もっともロマンチックな話のヒロインだった。

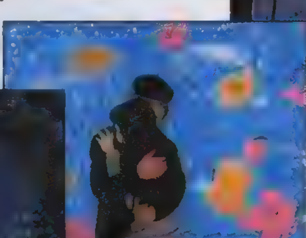
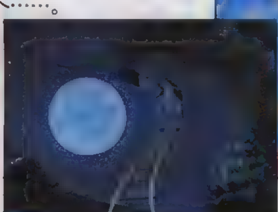


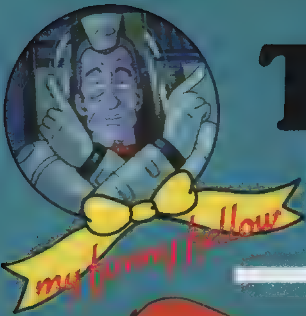





なぜ私はあの時、父親を捨ててでもあの汽車にのらなかったのか……60年間の後悔の念がいまは走っていないはずの幻の汽車を呼ぶ。



セシリアと60年前の恋人を乗せた汽車は過去をもう一度やり直すため、夜空へ……。

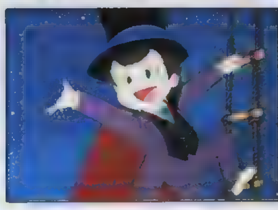


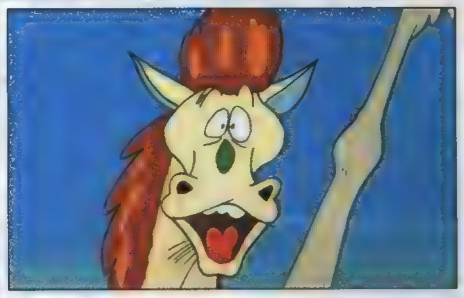
The Guest Character Collection 男性編




◆ルピン（第8話）（第12話）（第28話）（第41話）（第63話）

キザな中年怪盗紳士。男性ゲストキャラとしてはシリーズ最多出場を誇る。子持ちの怪盗というのも珍しいけど、意外にこのタイプは家にいるとき、炊事洗たくをマメにやってるのかも。



◆ガチョンシンボリー（第1話）（第16話）

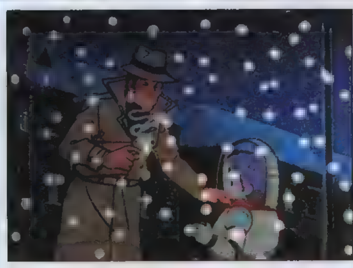
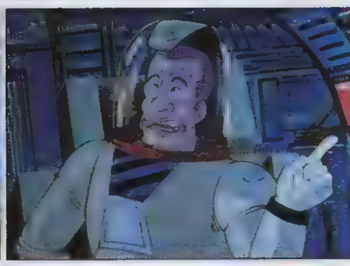
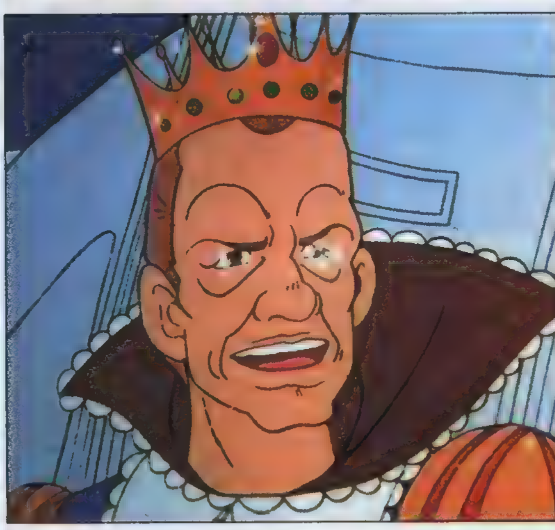
お調子もので気どり屋だが、どうしようもないイモでドジばかりふんでいる。だが、ある意味ではモモシリーズを象徴するようなキャラクターではなかろうか。

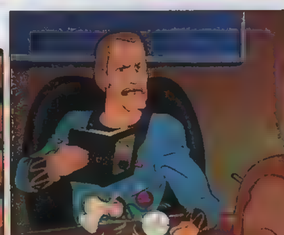
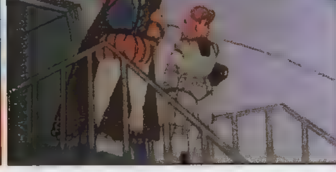





◆ボーマン船長（第30話）

今回、スタッフの圧倒的人気を得ていたビョーキキャラの権化、ボーマン船長。もう、この人に関しては、な〜んもいうことはありません。ただボーマンを知らずしてモモを語ることなかれ！

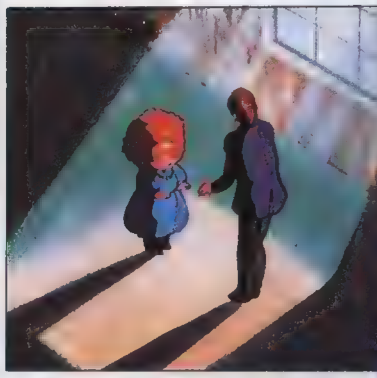
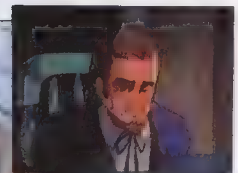





The Guest Character Collection

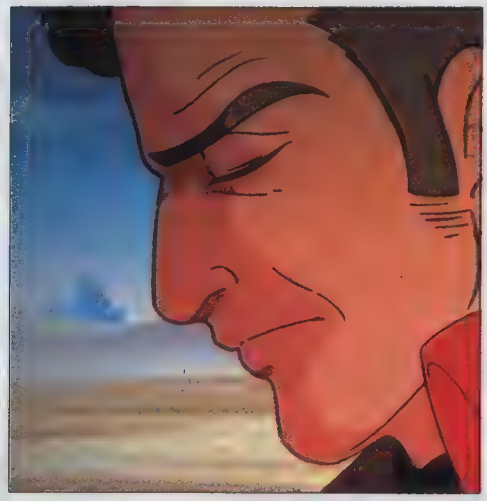
◆おじいさん（第36話）

ミイちゃんをずーっと待っていた、古い洋館に住む(?)おじいさんの幽霊。無事ミイちゃんに会えたとき、おじいさんは昇天する。いまは天国から、時時、下界をのぞき見するのが趣味!?


◆ジョン・ウェイト（第51話）

大アクションスターだが、不治の病にむしばまれ、自分自身の命を削るようにしてスクリーンに散っていった男。しかし、自分の余命がいくばくもないのを知りながら、悪夢や絶望は、この男には無縁だったようだ。



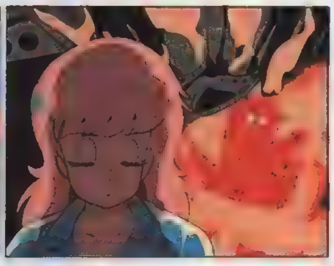


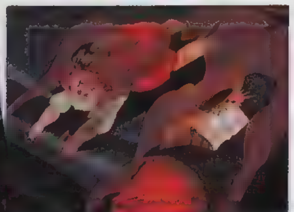



◆ボトム大佐（第42話）

第一シリーズ後半のきわめつけビョーキ男を紹介するなら、もうこの人でキマリ。とにかく表情の変化に富むキャラで、ミサイルを実際に発射することに異常な快感を感じている。



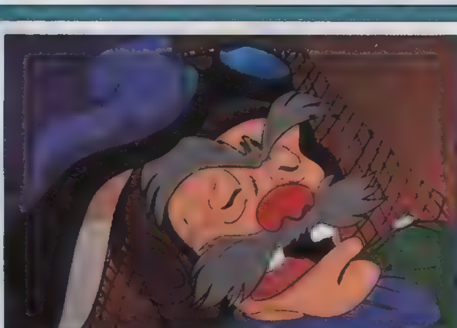


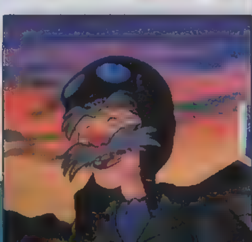





◆ドランコ（第54話）

ヘブン島の飛行場で、ただひとり複葉機を操れる老パイロット。ただし、ひどいアル中で、かたときも酒が手放せない。機体を軽くするため酒を捨てたときは本当に辛そうだった。





The Guest Character Collection

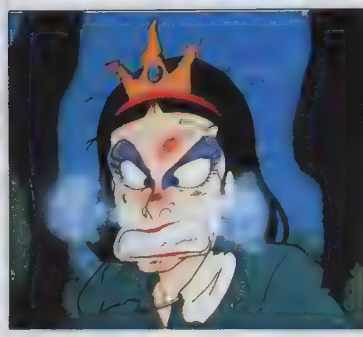


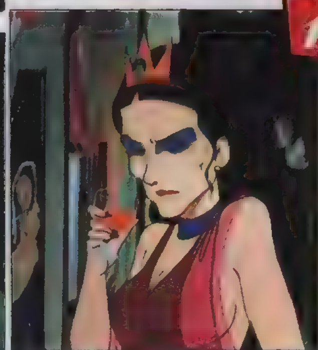
♠デビルクィーン（第50話）（第55話）（第61話）（第62話）

とにかくものすごい女だった。第2シリーズ最高の立て役者は彼女をおいて他にはない。猛烈な快力パワー、死ぬ予定だったのを監督に変えさせるほどの生命力。そして、胸いっぱいの愛…。良くも悪くも彼女の生きざまは鮮烈だ。









▲せっかく開いたパーティも、妨害工作で……。



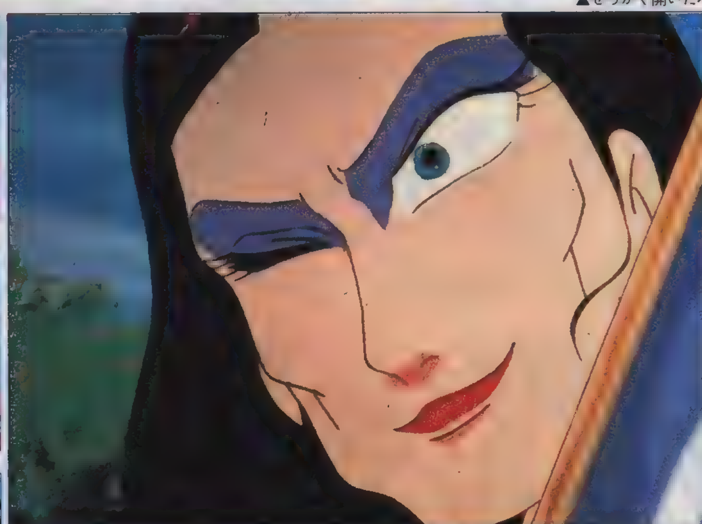
▲「わったしはキレイ」



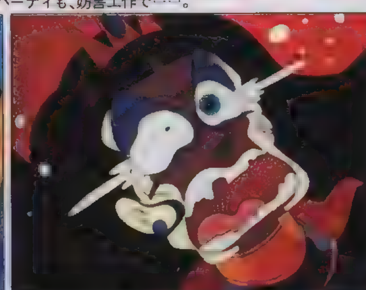
▲「わったしだけが」

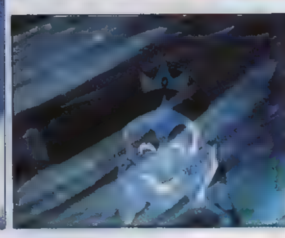


▲「ビュ〜〜チフル〜〜ッ！」



▲「まかしときな、リンゴ園はこのデビルクィーンが、命にかえても守ってみせるさ！」



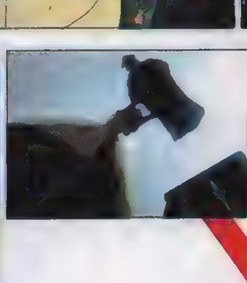








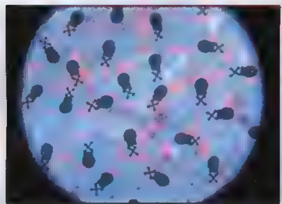


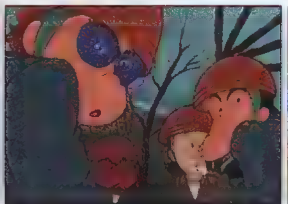




That's All The EXTRA

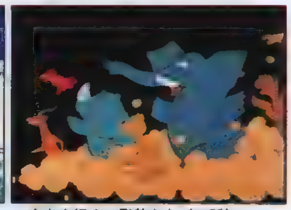
みなさん お世話になりました


▲ヒーローシンボリーに盛られた毒。(1話)

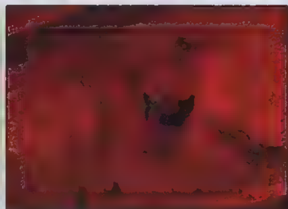

▲スタッフのかくれたアルバイト。(36話)


▲競馬場の客(1話)


▲地上勤務のMr.スポック。(30話)

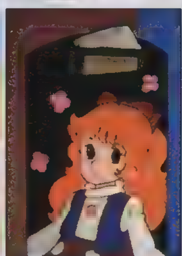

▲直立歩行する動物たち。(20話)

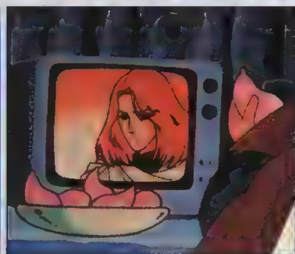

▲出演依頼が多く疲れぎみ。(8話)


▲趣味丸出しのローンレンジャー。(4話)


▲とにかくエキストラ、なにがナンでもエキストラ、いるわいるわ。ルパンに次元、小鉄にラムにみゆきetc.…etc.…。(8話)


▲ついに転職、霧賀校長。(23話)


▲アンジェのゴミ箱。(30話)

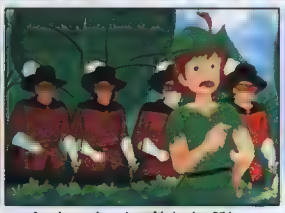

▲ゴーショーグンの再放送。「美しい…」(34話)


▲TVゲームも可、NASADAの管制室。(30話)

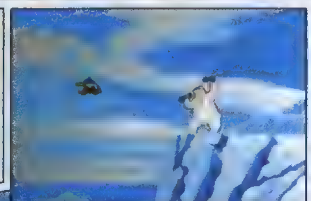

▲胸中色々、結婚式の参列者。「先をこされたか」(15話)


▲廊下でラブ・シーン、レイアとソロ。(30話)

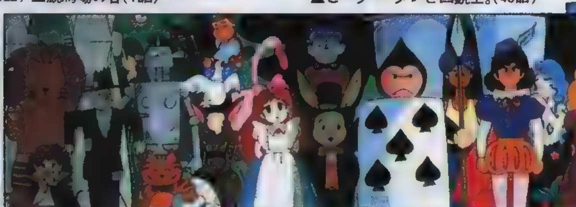

▲競馬場の客(1話)


▲ピーター・タンと四銃士。(40話)

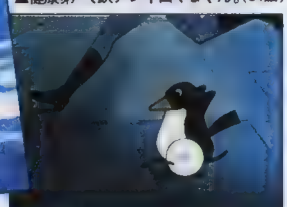

▲スーパーみぞれちゃん。(19話)


▲健康第一、鉄アレイ白くまくん。(34話)


▲街角のカップル。うらやましい。(8話)


▲フェナリナーサの早起きの住人たち。おなじみの顔、カオ、かお。(30話)


▲絶対体力、鉄アレイ白くまくん。(42話)


▲自走! パタパタペンギンちゃん。(30話)


▲(30話)


▲NASADA職員。(30話)

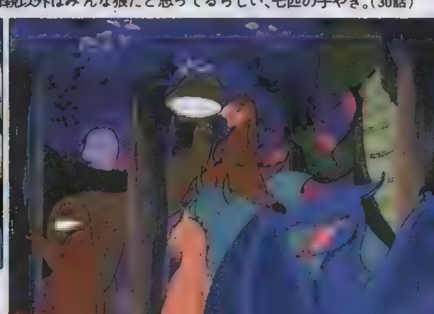

▲ネコのコンテスト会場。(11話)


▲母親以外はみんな狼だと思ってるらしい、七匹の子やぎ。(30話)


▲フィナーレ。ゲストのみなさんゴクローサン♡
(46話)


▲ゴーショーグンのなごりを残す動物園。(5話)


▲スピルバーグ氏のアルバイト。(30話)


肉食草食いり乱れ、ひょうきん恐竜せいぞろい。(34話)▶



ロマンアルバムオリジナル企画

構成／ＲＡ編集部

絵／渡辺浩＋長谷川桂子

MOMO'S ALBUM



とっても とっても
かわいい 私たちのモモ
これから どんな人生が
あなたを 待っているのか
わからないけれど
ママとパパは
いつも モモを
愛しているわ♡



あら あら
パパのおひげが
イタイイタイだったのネ

パパったら！
そんな顔をしたら
ますます モモが
こわがるのに
…ネ♡



Happy Birthday モモ

ますます おしゃまさんに
なってきました
ケーキを食べすぎて.
このあとは.
もータイヘン！

モモ 5歳
桃の節句のヒトコマです

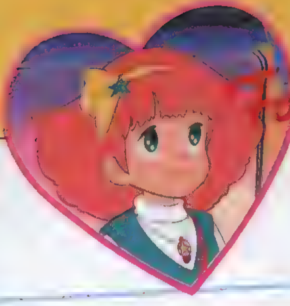




小学校入学の日
満開の桜の下で記念撮影
でも みんなチョッピリ
緊張ぎみカナ？



パパったら興奮しちゃって…
モモの走りっぷり
お見事でしたヨ
(小学校 4年生 秋の大運動会)



Momo Forever



モモのおてんばにはビックリ
ママまで目が回りそうでした
でも、少しはいい薬になったかな？
（優しかった看護婦のアンさんと、モモ12歳）



モモがファッションショーのモデルに
なるというからワクワクしてたら…
"つっぱりおネーさん風スタイル"
だなんて…でも、なかなか
かわいいつっぱりクンたちでした
（中学校3年生 文化祭のステージにて）

旅行の楽しかったこと、目を輝かせて
話してくれました。でも、なによりの
おみやげは、モモとお友だちのこの写真。
（高校2年生 修学旅行の夜）





モモ18歳 高校卒業式
もう、セーラー服とはお別れですね
あなたは どんな夢をもって
おとなになっていくのかしら

モモ、いつまでも夢を大切に…

with Love ママ

Minky Momo
Illustration Gallery



▲バンダイ「合身ロボミンキナーサ付き魔法のプリンセス　ミンキーモモ」ボックスアートより
イラスト　渡辺浩



▲ビクター「夢で逢いましょう」
レコードジャケットより　イラスト／芦田豊雄



▲ビクター「魔法のプリンセス　ミンキーモモ　オリジナルドラマ篇　I'll See You In My Dreams　夢で逢いましょう」レコードジャケットより　原画／丹澤学



▲「アニメージュ」'83年1月号本文特集記事トビラより
イラスト／丹澤学(「アニメージュ」誌上ではセル画にして使用)



▲「アニメージュ」'82年9月号表紙より　原画／渡辺浩

We Love Momo

ミンキーモモ突撃座談会

STAFF&CAST INTERVIEW

MUSIC



イラスト/上條 修

突撃ミンキーモモ座談会

四十六話のラストシーン、朝から みんなで歌った「ラ・ラブ・ラブ・ミンキーモモ」一生懸命ノ・リ・ました❢



「ミンキーモモ」が終了してからすでに数か月のときが流れたが、番組の余韻はいまだ続いている。そこで「モモ」の人気の秘密はいったい何だったのか、番組に深く関わっていた四人の方々をお招きして、その謎に切りこんでみることにした。

出席してくれた人

首藤剛志氏（原案・構成・脚本）
湯山邦彦氏（総監督・演出）
小山茉美さん（モモ）
土井美加さん（ママ）

昭和五十八年七月二十九日　東京・新宿「白川郷」にて



ふだんのモモは、私自身 喋り方とか アホな所が

RA　それではまず茉美さんから……。
小山　え、私!?　なんで?
RA　やはり主役ですから。
小山　いえいえ、主役は首藤さんです。
首藤　何年つきあったかわかんないけど先生なんていったの、いまが初めてだ(笑)。あ、きょうは先生って呼ぼう!
RA　茉美さんにとって、モモという女の子はどういうキャラクターでしたか?
小山　結構ふだんのモモってのは私自身なんです。しゃべり方とか軽いところとかアホなところは、わりと地でやれるんですけどね。やっぱり、作品として首藤さんなんかの思い入れがあるときってあるでしょ。黒い雲なんかが出てきたりするとね。そういうとき、そのキャラクターのカラーよりも、その作品のテーマみたいな部分を、いままでのモモのカラーを崩さずにどう表すかってところで、ちょっとむずかしかったです。
RA　土井さんはいかがです?　ママさんの役に関して。
土井　もう最初はね、普通のおかあさんていう感じで私も考えてたもんですから。できるかなっていう心配のほうが多かった。おかあさんなんだってことを意識したことないですしね。だから、ちゃんとお母さんていう感じになるのかしらと思って、すごく心配だったんです。
（ここで湯山氏登場。実は編集部の手違いで、出席者の方々に渡した座談会の場所の地図はメチャクチャだった）
RA　すみません。何分くらい迷ってました?
湯山　八時くらいからだから、三十分くらい歩いてるね。
首藤　土地カンがないのね、あなたは。土地カンがない(笑)。
湯山　(地図を指さしながら)いや、だってこれさ、方向が、反対だよ……。

RA　えー、いまちょうど小山さんと土井さんにそれぞれのキャラについての感想をうかがっていたのですが、演出されていた湯山さんの立場からすると、モモってどういうキャラだったのでしょうか?
湯山　動かしやすかったですね。キャラ作りに関して苦労らしい苦労はなかった。やってるうちにキャラがどんどん動いていってくれた。
首藤　イメージがはっきりしてたんですね。要するにこういう女の子がいたらこういうところへいかせたい。こういうこともやらせたいってことになって。で、キャラがどんどん勝手に動きだす……。
RA　それはモモに限らず、ほかのキャラに関してもいえるんじゃないですか。絵ができて芝居がついて、その役者さんのイメージでまたキャラがふくらむとか。
首藤　うん、そういう部分てありますね。実際、パパとママなんてのは本来の企画上は、まあ、いないとまずいだろうくらいの存在でしかないんですよね。それがどんどんふくらんでいったっていうのは、土井さんとか納谷（六朗）さんたちの力がすごく大きいと思いますね。
RA　ママは特に成長著しいキャラクターでしたよね。



いつもどこかで言ってみたい言葉があるんです

RA　具体的に、土井さんのどういうところを見てママのキャラクターがふくらんでいったのでしょうか?
首藤　いうと語弊があるんだけど(笑)。いい意味でね、いい意味で、えらいアホなんです(笑)。なんていうか、こちらがなにも予期してないときに、いきなり奇妙なことをいいだしてみたり。最高に愉快だったのが、台詞で入ってるやつでは「いつも便利に使って…」なんだっけ!?
湯山　「なにかと便利な」じゃないかな。
首藤　モモのことを、「なにかと便利に使って」(笑)。



RA アドリブで…？

土井 そうですね。なんか、いつもいってみたいことってのが、普通に生活してたり、テレビ見てたりしていっぱいあるんです。これはおもしろいから、これはカッコいいからどっかで使ってやろうみたいなことばがね。でも、なかなか間が悪くていえなくって、それを「ミンキーモモ」で、本当にここでだったらいわせてもらえるみたいな感じで、すごく楽しかったです。

小山 みんな伸び伸びしてたしね。わりと、なにやってもいいんじゃないかみたいな感じがあって。役者は役者で遊んでくださいみたいな。

首藤 そもそも、あえていうならば、わりテーマがあったのはモモひとりだけであとはどうでもいいような連中ばっかりだから(笑)。

湯山 首藤さんの設定自体がね、非常にふところの深い設定だったんですよね。だから、きちんと押さえるところを押さえておけば、どんな話をやってもモモになるし、どんなにキャラクターが遊んでもモモになる。

RA 小山さんも、首藤さんはふところの深い男性だと思われます？

小山 ふところ見たことないからわかんない(笑)。

首藤 骨だけですよ(笑)。

小山 骨と皮だけじゃないかと思う。ただ、なんていうのかな……いまどき珍しいすごくロマンチストな方だなと思います。最初の印象はね、もろ作家、ていう感じのクラ～いイメージでしたけど。

RA 湯山さんは首藤さんと初めて会われたとき、どうでした？

湯山 だいじょうぶかなあ、と(笑)。初めて会ったのは「ゴーショーグン」のときでしたが、その頃はまだもっと痩せててね。

首藤 モモで再び会ったときは、この人はすごくわめいてた。三十前に結婚する、三十前に結婚するって(笑)。

RA 「ゴーショーグン」のときからあせってらしたんですか？

首藤 いや、その頃はいってなかったみたいだけど。

湯山 あのときからよ。首藤さん見て、ますますそういう思いを新たにして…。

小山 こうはなりたくない！　って(笑)。

首藤 ……ひどい！

パパとママがまたオーバーに演じるんですよ！



RA サブキャラの話に入りたいのですが、まずあのパパとママについて…。

湯山 最初、何話ぐらいからかなァ。なんかこう、イチャイチャしはじめて。見ててこっちが恥ずかしくなってきてね、最後のほうなんか、もう…。

小山 役者の演技過剰が恥ずかしかったんじゃないの(笑)。

RA イチャイチャさせたのはどなたなんですか？

首藤 いや、それも僕ですけどね。だからそれをまたオーバーに演じるんですよ。だいたい、あの二人は出番が少ない。特にあのパパさんは、出番が少ないでしょ。

小山 そうそう、だから、たまに出番がまわってくるともう、ここぞ、って感じで。

湯山 目いっぱいやるんですよ。

土井 あ、そういうのありますね。私もそうだし。

小山 みんなそうだったね。だから、自分のシーンはここぞって感じでがんばって。

首藤 要するに、パパとママの存在ってのがあまりモモに影響を与えてなかったんです。最初の方は。だからそれはそれで自分たちで勝手にやろうと。それから三匹だってあんまり関わってないよね、モモ自身には。だから、自分の見せ場は自分のやりたいことやっちゃおうみたいなことがね、できるような作りにはいちおうなってたんですね。

湯山 ともかく、みんな無茶苦茶なことをやった。

首藤 それぞれ好きなことばっかり(笑)。

小山 最初から十本目くらいまではすごくやりにくかったです。それぞれが目立とうとするでしょ。すると、そういう意味でギクシャクしたり、デコボコができたりするんです。とにかく、人が一生懸命台詞しゃべってるのに、横でやたらギャーギャーやってね(笑)。この野郎！　なんて思っちゃう。初期の頃はね。でもそれはとってもいいことで、それだけみんなが事務的にやるんじゃなくて、どっかで見せ場つくってやろう、みたいなところがあったから、これはすごくよかった。

土井 それでいて後半なんかすごく緊張感があってね。調和がとれてきてたんじゃないかな。それぞれがどこか、こういうとこ、こうやりたいなってのを、じゃこの人がここでこうやるなら、私はここで引いて、次でこう出そうとかね。そういうテンポのいい感じで、本番のときにみんなの並び具合いが、すごく気持ちのいい番組だったと思うんです。

湯山 ……すごく腕のいいねえ、ライブバンドを見てるみたいな感じ(笑)。あれ、なかなか見てて気持ちよかったですよね。

首藤 要するに、漫才のコンビが二組と、トリオが一組(笑)で、司会がわけわかんなくて舞台をウロウロウロウロしてたと。

「愛の讃歌」歌われた時は あ、すげェなあって！



RA あのママさんが、実はギャングの娘だったというのは、最初からそういう設定だったのですか？

首藤 ああ、あれはもう。思いつきというか(笑)。あんな、オートバイに乗せちゃったりしたもんだから。

湯山 だから、その前に書かれたシナリオを受けて、また次のライターが世界をふくらませてくる。あんな元気のいいママなら、親父はギャングかなにかだろうみたいなね。

首藤 で、なんとなくやっていくうちにね、パパっていうのはママ自身が好きなのであって、そんな、たとえば彼女の過去とかそんなのは、あんまり関係のない人なんじゃないかと。だったら、もしかして全然知らずに、どういう家庭の人か全然知らないで結婚しちゃってるみたいなことは、あり得るだろうと。

湯山 いまだに知らないんですよね。

首藤 いまだに知らない。それで、完全に惚れてんのがおかしいんですよ。パパが。たとえば、かわいそうだから奥さんにしてやろうとか、気立てのいい子だから奥さんにしてやろうとか、なになにしてやろうって感じはないでしょ、もう。

小山 ママがいるから生きてられるんだみたいなところでね。ホットですよね。

RA ママさんもパパさんを愛してた!?

土井 すごく愛してました(笑)。本当に納谷さんがしっかと受けとめてくれるから、私も好き勝手できたんです。私がワーッとやってもね、ちゃんと納谷さんが夫婦らしくノッてくれるんですよ。だから、あ、夫婦なんだ、とかね。やりながら覚えちゃうっていうか。

湯山 で、あのパパだったからね、モモとママがすごく自由に動けた感じですね。

首藤 いつぞやは、びっくりしたのがあって。土井さんがね、料理シーンで、鼻歌歌うところがあったわけ。そしたら、三回テストの本番でしょ。三回とも歌う歌が違うわけ。それでね、だんだん……。

小山 それ、でもみんな演歌なのよ(笑)。

首藤 だんだん古くなって、最終的に「も～し、も～し、ベンチでささやくお～ふたりさん」……なんなんだ!?　ありゃ(笑)。

小山 なんでそんな歌知ってるのかわかんなかったんだけど、なんか、だんだん古くなっちゃってね。

土井 ええとね、それで歌詞まちがえちゃったんですね。「わ～れら、み～さきの～」

湯山 ああ、そうか。灯台もあった。

土井 「おいら岬の～」なのにね。「われら岬の」だって(笑)。

♥突撃ミンキーモモ座談会

湯山 一曲めは「愛の讃歌」(笑)。一曲めは、あ、すげえなあと(笑)。そしたら二曲めで「おいら岬の」になって、三曲めでおまわりさんになっちゃっ…(笑)。

RA それは前もって考えてらした…?

土井 いや、そのときにね。考えて。

RA 自然に出てきたら、それだった?

土井 最初はね、なんだったかな。ぴんからトリオの……。

湯山 あ、「女の道」。

土井 あ、それそれ。

湯山 「女の道」ってあれは、冗談で書いたんだよ。

土井 それを知らなかったんですよ。でも、いちおう指定があったんで、前の週にもうもらってたんで、いちおうは練習してったんですけど。歌詞カードなんか調べて。でも、どうも自信がなくってね。やっぱり知らない歌よりは知ってる歌のほうが、歌いやすい(笑)。

小山 ど－してあれを知ってるんだろ－ね。不思議だね。

土井 で、すごい自信もって歌ったら、みんなが歌詞が違うとか(笑)。だから休憩時間、急に無口になっちゃって(笑)。



ラストの合唱はダテにヘタだったわけじゃない

小山 私はねえ、最初の頃は結構アドリブいれたりしてやってたんですよ。でも、要するにモモ以外のメンバーが、バンバン、アドリブが出るようになってきたから、逆に私、抑えちゃったんです。主役はやっぱり、まともにやっていかないと(笑)、いったい、いまのお話はなんだったんだろうみたいなことになると困るから。いちおうメインはね、忠実にやってかなきゃいけないと、ある日突然、思ったんです。

湯山 王様なんかには…王様は、時々重要なこというんですよ。で、増岡(弘)さんはほっとくとなにいいだすかわかんないから、そういう場合は事前にね、ここはいちおうシナリオどおり読んで、と(笑)。

小山 もう、ほっとくと、本当にね、台本無視してどんどん作っちゃいますから、みんな。だから役者サイドはすごくやりやすい番組でした。やりたいことやらしてもらえるし。ディレクターの藤山(房延)さんも、本当に役者に任せてくれるんです。それで、はみだしたり落ちこぼれたりすると、ちゃんといってくれるんです。

土井 やっぱりダメなことはちゃんとダメっていって下さるから、思いっきりできるってとこ、ありますね。でも、私もそうやれたってのは、やっぱり全体の雰囲気だったと思うんですよね。みんなが本当に伸び伸びと。

小山 嫌いな人いなかったしね。

土井 うん、そうそう。

小山 だいたいどこのスタジオいっても必ずひとりくらいはいるんです(笑)。嫌いな人って。でも、いなかったね。

土井 いや、おもしろいねえ、なんてノセてくれる人ばっかり。

小山 そうそう。

土井 とめどなくノッてしまう!(笑)

首藤 なんか、ゲストの人が愕然とするんじゃないの、あの雰囲気は(笑)。

小山 ゲストはかわいそうです。あれは。

湯山 天使の話のときでしたっけ。野沢(雅子)さんがきて、なんか、あきれて帰ってったって(笑)。あのパパとママを見てね。

首藤 いちばんたいへんだったろうと思うのは、カジラ君だったと思うんですよね。あとから入ってきた……。

小山 なにがなんだかわからなくてやってただろうね。

湯山 たしかもうあの頃ね、絵が全然はいってなかった。

土井 あ、カジラが入ってきた頃ですね。

小山 俺はどれなんだ!?って感じで(笑)。で、次に、俺はいったいなんなんだ!?(笑)

RA カジラは最終回になるまでしゃべれなくて、でまあ、最後に大活躍するんですよね、あれは涙でできていたと。

湯山 みんなびっくりした。

RA あれは最初からそういう設定だったんですか?

首藤 いいえ、違いますよ(笑)。

小山 このいいかげんさが好きなんです。

湯山 シナリオがあがってきて、それ見たときに、初めてみんな、あっ、そーだったのかと(笑)。

首藤 いや、それも、そこまでこちらにもっていかせた千葉(繁)君ていうのが、よかったと思いますね。あれはもう最初の頃はじゃまだからどいててくれって(笑)。そういうキャラクターだったから。

土井 千葉さんは、やっぱりあれだけ強烈だったから入ってこれたって感じがしますね。

湯山 やっぱりスタッフのほうとしてはね、四十六話でいっぺん燃えつきてしまっている感じがあって。

首藤 うん、そういう部分ってあると思いますよ。それはまあシナリオとか演出だけじゃなくて、絵を描いてる人とか、背景描いてる人とかすべてにね。だから、あんまり集まってこないかなって思ったんだけど、ずいぶん集まりましたもんね。あの、歌を歌うラストの。四十六話のラストに全員がモモの歌を歌うシーン。あんな朝早くさあ、普通の人はこないよな。

小山 ビクターのスタジオにね、スタッフの方たちが、もう、みんな。代理店の方から、作家の方から、役者の方。全員集まってビクターの第一かな。大きいスタジオに入って。で、みんなで合唱したんですよ。

RA へえ、じゃ、あの歌は、もう本当にスタッフの人たちが、みんなで。

土井 本当に全員でやりました。

湯山 動画の人たちもね。

小山 みんな一生懸命歌ってたんです。でも、私がいちおう主題歌を歌ってたものですから、私が歌唱指導しました(笑)。でも、ああいうのに朝からスタッフが集まってきたり、なんてのは、やっぱノリなんでしょうね。スタッフのノリがね、すごくよかったみたい。

RA はあ、しかし最後のあのコーラスがスタッフだとは気がつかなかった。

湯山 だてにヘタなわけじゃあないんだから(笑)。



死ぬって聞いたときは、え!?なんでって感じで

RA では、その四十六話の話なんですが、まあ、モモが、死んじゃうでしょ。ああいう結末を迎えるってのは、どうでした? ご自分でおやりになって。

小山 そうですねえ……まあ、いろいろ納得できない部分もあったし……それはその脚本に対してじゃなくてその、途中でやめるとか、また延長するだの、また打ち切るだの…なんか政治的な部分で振り回されてたところのある番組なんです。そういうところでちょっと納得のできないところもあって。脚本自体はあの時期、全然わかんなかったんです。自分でどうなるのかってね。まあ、首藤さんから、今度モモ死ぬからって、突然。予告を受けるわけですよ(笑)。すると、ええ! どうなっちゃうの!? みたいな感じでやってて。もう、ここまで築きあげてるし、あとは本当に作家の世界ですからね。ああいうテーマ的なところになるともう、まかすしかありませんもんね。で、もう、ああ、首藤剛志の重さがここで出てきたなあというね(笑)。実感しました。

RA 土井さんはいかがでしたか?

土井 死ぬって聞いたとき、え!? なんて。いままで私もママのハッピーな部分に酔っちゃってたところがあって、自分自身もすごくハッピーな気分だったんですよね。それが急に死ぬとかいわれちゃって、なんかドーンと、本当に突き落とされたみたいな感じがしたんです。でも、そのあとに生まれかわりっていうのかな、そういう新しいものが出てくるためには、どうしてもモモは、一度死ななきゃならなかったのかなあって、納得はしましたけどね。本当はでも、私としては、死なないでほしかったって、思ってるんですけどね。

首藤 あれは僕自身、いまだにどうなのかなって部分はあるわけです。この最終的なラストに持っていくために本数がないと。もうあれしかないってことだったんだけど。ただ、結果的に本数があった場合、モモを、もちろん殺さないですけど、結果的にああいう生まれかわるという形にもっていくためには、かなりモモを絶望させていかなきゃならないんです。この世界に。すると、あの軽い世界が、どんどん陰々滅々の世界になってくんですよ。そういうふうにもっていったラストのほうがよかったのか。それとも、本当にあそこで、打ち切りとかそういった事情もふくめて全部、事故なんだと。で、そこから、現実的な事故のなかから、現実に生きる彼女が生まれてくるっていう形のほうが、よかったのかって。その気持ちのほうが、いまは大きいですけど。

湯山 僕はね、三十話あたりから思ってた



んですけど。どう考えてもね、フェナリナーサが降りてこれないんです(笑)。フェナリナーサが降りてこられるような世界がね、どういう世界なのか。まあ、シナリオだとイメージで書けるかもしれないけど、演出だと具体的にね、どういう世界なのかってのを描かなきゃいけないでしょう。それがどう考えても、いまのあれだと、降りてこれないんですよ。そこをどうすりゃいいのかって、ずっと考えてたんだけど、最終的に赤ん坊になったモモの夢のなかで降りてくるというね。これはこの時点では、僕にできる精一杯の、ここまでくらいなら描けるってとこだったんです。その辺で、わりと納得したということなんですよね。

首藤　そこらへんの設定は、わりと最初の頃からあって、たとえば王妃様。あれ、眠りの森の美女なんです、出身は。で、彼女も眠っちゃう。現実世界にいって戦いに傷ついて眠っちゃったモモの夢のなかでフェナリナーサが降りてくる。ラストシーンの赤ん坊の夢とモモの夢ってのは同じ設定にしてたんですけどね。だから、その前の時点でモモが死ぬか、あるいは現実に挫折して眠っちゃうか、どっちがいいかというのは考えてました。

小山　深いんですよね、設定が(笑)。



そういうの、イージーっていうんじゃないの?

湯山　ただ、いずれにしてもあのペンダントのなくなった、ただの女の子になっちゃったモモっていうのは、その先はもうないんですね。要するに普通の子じゃない、ただの……いってみりゃ化け物みたいなもんなんです。現実のなかで。そうあるとねえ、すごくかわいそうだった、僕はなんとか、やっぱり死ぬしかない。ただ、その殺し方についてはね、ちょっとまだ葛藤があるんだけど。でも、形として一度、魔法のプリンセスというのをやめて、ちゃんと人間としてパパとママのところから産まれてくるというのは大正解だったと思います。

小山　でも、すごくこわいですよね、この設定。

湯山　あの辺はただ、すごくヘビイだったんです、僕は。前半でもう本当に精も根もつきはてたというか。要するに、やっぱりたいへんなことなんですよね、ああいう主人公を殺しちゃうっていうのは。

首藤　どうしてもこうね、ある意味でね、生まれかわるってことを見せるのは一種の自殺幇助になるんじゃないかっていう。死にたがる子どもが現実にいるわけですよね。いまの状況にあきたらない不満の子が。それを見せちゃったらもうアウトだってところがあるんです。で、生まれかわってきたあとのモモがすばらしければすばらしいほど、死への憧れを子どもが持ちたがるんじゃないかと。そこら辺がすごくむずかしかった。だから前半のモモの日常、幸福そうな普通の日常ってのをいかにバサッと切るか。これはもう、演出もたいへんだったろうと思うんだけど、すごくよくやってくれた。シナリオはわりとト書きが多くて、何々して何々して、本屋で立ち読みして、ホウキではたかれたとかして(笑)すごく延々と日常的なことをした末にっていうんですけどそれを、あの着替えのシーンからごはん食べるまでを、すごく丹念に追いかけて表現してしまった。

湯山　とにかく、嘘にならないように、というのと、いまいった、死を美化するような形にしちゃいけないと。本当にそれまでモモが生き生きとしててね、本当にモモがかわいければかわいいほどいいんです。そういうものが一瞬にしてバッとなくなっちゃうところはね。

RA　第二シリーズの方は、あの六十三話でまた、四十六話のラストにもどってきますよね。あれは第二シリーズ始めたときから決まっていたのですか?

湯山　そうです。第二シリーズのほうが意外と最初からいろんな設定がついてたし、我々としてもあそこにしか……もうあそこで終わってるんですからね。だからあそこにもどるしかできなかった。

首藤　でもこれは内緒なんだけど、六十三話のあと、残りが少しあったんで、もういっぺんフェナリナーサにもどって、そこでおともを入れ替えて(笑)。そういう話も一部でてきたんです。

小山　そういうのイージーっていうんじゃないの(笑)。

首藤　いや、それをやめさせるために(湯山さんを指さして)彼なんか殴りこんでいって……。

湯山　それはオーバーだ。大演説をぶったんです。

RA　湯山さんが!?

小山　そういうのをイージーっていうのよね、やっぱ(笑)。



モモやったおかげで夢や希望が生まれました!

RA　第二シリーズに関して、首藤さんに例の黒雲をお聞きしたいのですが?

首藤　いや、いまだにわかんない。何なんですかねえ。僕もよくわかんなかった。

小山　幻魔だ!

首藤　だからモモの話がもっと延びてた場合、こう人間が持ってる弱さとか、いろんなものがありますね。人間の希望とか夢とかつぶしてるものが。それをいろんな例に、モモがぶつかっていくみたいな話にしてたのを、ああいう形で終わったために、そういうものを全部ひっくるめて黒雲じゃ〜って(笑)。

小山　そのイージーさが良かった。

湯山　ただ、演出の人が絵コンテ書くでしょ。すると悩むんです。で、聞きにくるわけ。なんなんだ、これ?　いや、僕もよくわからないんです(笑)。

小山　でも私、思いますよ。最近、地震雲とか騒がれてるでしょ。低く雲がたれこめて……あああいうの無気味よね、やっぱ。

湯山　それで気をつけなきゃいけないのは、モモの最終回ってのは必ず地震が起こってるんですね。

小山　あ、そういえば地震でしたね。

湯山　ええ。四十六話の時は東京がちょっと揺れて。六十三話の時は例の東北の大地震。

土井　そうそう、画面にしっかり。テロップが流れたんです。

湯山　ちょうどね、モモが車にひかれた直後にパッと。

首藤　それでモモが上昇してって王様と出会ったあたりにテロップ。それからフェナリナーサが降り始めた時にもう一回テロップだった。

土井　そう深く考えなくても……せっかくビデオで撮ったのに(笑)これ、消せないかって思っちゃった(笑)。

RA　思いますね。

湯山　音がいやです、音が。あのボーンて音がね、腹が立つ。で、いま再放送やってますからね。……二週間後だな。八月の中ごろが危いですね。

小山　そうか(笑)。

土井　どっか避難しようかな。

首藤　ああ、下町なんだ。

土井　そうなんです。墨田区ですからねえ、ちょっと、仙台帰ろ。

小山　でも、また作りたいですねえ、こういうの。

RA　茉美さんは、もしまたモモを作るって話になったら、おやりになります?

小山　そうですねえ……やっぱり「ミンキーモモ」というひとつの作品はもう終わった気がするんです。私のなかで。だから同じ話で、さっきのイージーなあれじゃないけど、おともをかえたみたいなね、そんなのでまたやるとかいうんなら私はやらないほうがいいと思います。ただ、同じパターンでなく違う形でモモみたいな関わり方を持てるスタッフや番組作りがあるのであれば、ぜひ参加してみたいですね。

土井　こういうハチャメチャな雰囲気の出せる、しかもチームワークのとれた番組ってあんまりないんですよね。やりやすいっていうと変だけど緊張感もちゃんとあって、こんな作品があればやりたいですね。モモじゃなくってもね。

湯山　僕のほうもね、スタッフの力っていうか個人個人になるべくその人なりの個性みたいなものを引き出していければ、それなりのものも出てくるんだなあって。とにかくこちらから強制はほとんどしませんでしたから、わりと皆のびのび……。

RA　ミンキーモモは夢と希望のプリンセスでしたが、番組に関わった皆さんの内にも夢や希望が生まれたのでしょうか。

首藤　そうです(一同大爆笑)。

集まってくれた人の口をついて出てくるのはいずれも現場の自由な雰囲気というムードの中でやれたという感想だった。同時に話は、あっちへ飛び、こっちへ飛びと脱線したが、それもミンキーモモの世界的で非常に楽しい数時間だった。首藤氏はじめ、関わったスタッフの方たちのモモに対する愛情や熱意がある限り、モモはまた形を変えて現れ、私たちを楽しい夢へと誘ってくれるかもしれない。

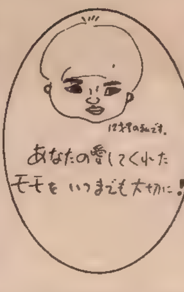


Staff & Cast Interview



Staff

●プロデューサー（読売広告社）
大野　実



「モモ」で感じたことを大切にしてほしい

「モモ」は、スポンサー、スタッフ、キャスト、もちろん僕個人としても、みんなそれぞれの立場での思い入れの深かった作品でした。プロデューサーとしては、それの接点になるというのが一番主な仕事でしたね。

「ミンキーモモ」というタイトルを出したのは僕なんです。いきなり出てきたんじゃなくて、話し合いの段階では、「モコ」だとか「ココ」だとか最初いろんなのが出ていました。僕は響きで「モモ」というのが好きだったんで、これがいいなあって思っていたんです。そしたら「ミンキー」ということばが浮かんで、その感じが、ミルクみたいだし、ミンクのふわふわした雰囲気があって、かわいい女の子のイメージにぴったりだ！　ということで「ミンキーモモ」に決まったんです。

そういう意味もあって、この作品に対する僕個人の思い入れも深かったんです。また、「モモ」は、自分を大切にしなきゃだめなんだよ、とか、夢や希望は自分の手でつかむものなんだよ、って、モモがモモ自身のことばでみんなに伝えていたと思うんです。それをどうとらえていただいても結構ですけど、それでなにか感じてもらった部分があれば、それを大切にしてほしいですね。

「いつかきっと」（小社刊AM文庫）の中にも書いたんですけど、夢や希望というのはだんだんと固まってしぼんでしまうのが現実でしょう。でも、「モモ」を見て感じたことをいつまでも大切にしていてほしいし、また、そういうのを感じてくれたっていうのは、僕らの真意、僕らの伝えたいことがわかってくれたということ。作品を作っていく上で、とてもうれしいことですね。スタッフみんなで、メッセージの押しつけはやめようといっていたんで、なおさらです。

制約の多いなかで、本当にみんなよくやってくれました。

●プロデューサー（葦プロ）
加藤　博



スタッフとファンの皆様に深く感謝（寄稿）

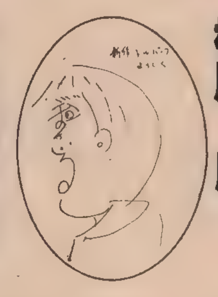
この本を買って下さったファンの皆様、ありがとうございました。

私がプロデューサーとして手がけた作品のうちでも、この「ミンキーモモ」は異色の存在となるでしょう。まず、少女物であるということと、アニメマニアの皆さんにも受け入れられたということです。これはいままでにもよくいっていましたが、思いがけず人気番組になってしまい、とまどってしまいました。私みたいに長い間アニメーションをやっていて、印象に残る作品というのはなかなかないものですが、「ミンキーモモ」は、そのなかでも私の思い出の作品となるでしょう。

番組というのは当初、なかなか作品の傾向性とか、内容とか、スタッフがつかみきれずに、ギクシャクしたものになるのが通常です。「ミンキーモモ」にも正直ありましたが、他の作品よりはわりとスムーズに進行していったと思います。これもスタッフがつかもうとした努力の結果だと思っています。アニメーションは皆さんには想像もつかないくらい多勢の人たちの手を経なければなりませんから、いくらひとりがんばっても良い作品にはなりません。限られた条件のなかで最大の効果を上げるアニメーション作りの努力をして下さったスタッフの皆様と、これをささえて下さったファンの皆様に、誌上ではありますが深く感謝致します。

●プロデューサー（葦プロ）
梅原　勝





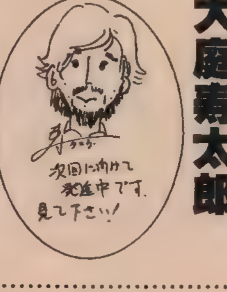
みんなの思い入れが「モモ」の世界を築いた

従来の魔女物から、どうやって脱皮するか——という点で「モモ」は結構難行しましたね。昔の東映系列の、魔女物のイメージが強いですから。でもみんながんばって、「モモ」は「モモ」の世界を築くことができました。若いスタッフが多かったんですけど、それがいい方向に出て良かったですね。はっきりこれが「モモ」の世界だというのが、シリーズ終わり頃までなかったと思うんです。それぞれに勝手に違うこと考えていたんだけど、たまたま方向性が一致していたんでシリーズとおしてひとつの作品として成り立ったと思うんです。これが人によって考え方が違っていたらバラバラな作品になっていたでしょうね。逆をいえば、スタッフみんなの「モモ」に対する思い入れが深く、結果としてひとつの方向へいきついたんじゃないかと思います。

「モモ」をてがけて、そう、三本目位ですかね。「これはいける」という手ごたえを感じたのは。だけどこれがメジャーな局だったら、と思いました。視聴率は人気のバロメーターですから、反響としては、四十六話のモモが死んじゃう話は、すごかったですよ。賛否両論いろいろありました。そのなかで十歳位の子からの手紙で、「よくわかりませんでした」というのがあったんです。この話は、やっぱり『わからない』というのが一番当ってるみたいですね。真剣に考えるとやっぱりちょっとむずかしいですから。

一度、変身しないモモをやってみたかったですね。「大きすぎた訪問者」では、変身する必要はほんとなかったんですから。最初は営業で「変身」にとらわれていたんですけど、モモというキャラクターはひとりで歩きだしてきたんで、びっくりしました。それにつられて他のキャラクターも動きだして、いきいきした作品になりましたね。

●演出
大庭寿太郎



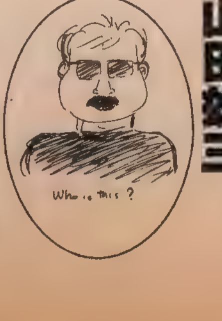
シルエットだけで判別できる個性がよかった

モモっていうキャラクターは、シルエットだけで判別できるという個性を持っている。ドラマ部分の下地を細かく組めば、作画のほうに多少のくずれや、ばらつきがあっても、モモのキャラクターはドラマを壊してしまうという要素にはならなかったのです。そういう点でも、非常にいいキャラクターだったですね。小さな子が描いても、モモになりますし。

印象に残っている作品としては、宇宙船の話なんかそうですね。最後UFOが降りてくるのを何度も何度もリテイクしたんです。とにかくなかなかあがらなくって、ねばって撮影の人にも苦労してもらって、どうにか光ってるらしい位までにはできたと思います。ほかには、「天使が降りてきた」も印象に残ってますね。パパとママの二人の気持ちがこの作品のベースだと、僕はそう思って作ったわけなんです。二人がいちゃいちゃしているのが、平和で気持ちのいいことなんだ、というのが設定だったわけです。

「モモ」はシリーズをとおして、ほんといろいろできたんで楽しかったですね。作品の方向性に迷ったこともあったけど、いい作品に仕上がって良かったと思っています。

●演出
山田[illegible]三



デタラメな遊びの部分のいいところが出た

僕が演出と絵コンテで「モモ」にかかわったのは四話からなんです。

キャラクターが良くできていましたね。それとモモがいて、三匹のおともがいて、まったく違った事件をふたつからませるとか、そういう設定がおもしろかったですね。話そのものはあんまり好きじゃないんですよ、正直いって。デタラメだから（笑）。よくこういう話が続いたな、と思ってるんですよ。でも、そういう遊びの部分とか、監督自身がリラックスした人で、その辺のいいところが作品に出たから良かったですね。

ボーマン船長の話は僕のコンテです。ボーマン船長そのものは「2001年」なんだけど、キャラクターはリー・マービンなんですよ。映画の



◀新井實雄氏の初期美術設定より

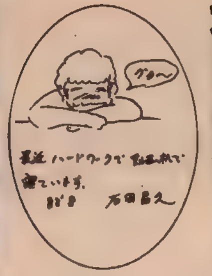
もじりはよくやるんだけど、ぼく自身リー・マービン好きだしね。そこからいただいたんです。

アニメーションは映画が総合芸術であるように、やはりいろんな人がかかわってるんですよね。だから、それを一部だけにスポットをあてるのはよくないです。たとえば、「モモ」では進行さん、色指定の女の人など新人の人ばかりなんです。で、きついスケジュールのなかでがんばってくれた。

「モモ」もそういうところで支えられた作品でしたね。

●演出

石田晶久（昌平改め）



のりとフィードバックでふくらんだ「モモ」

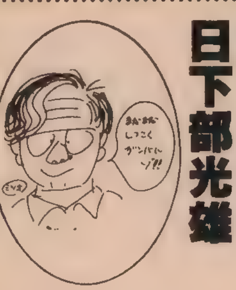
僕の場合、どっちかっていうと現場育ちなもんで、処理関係の演出が多かったですね。だからかえって制作の側では使いやすいんで、絵コンテの仕事はなかなかまわってこなかったです。まあ、具体的にクリエイティブな部分にはなかなか入り込めずに、どっちかというと、現場の処理的な部分で迷っていたようなことがありましたね。

自分がやった話では、四十二話の「間違いだらけの大作戦」が気に入ってます。個人的には「夢のフェナリナーサ」「地底の国のプリンセス」などが好きですね。打ち切り決定後の延長で、ほんとは、四十六話が決まらなければ「地底の国…」みたいな話をやる予定だったんですよ。一回目の最終回みたいな形のシリーズで、地底の国のプリンセスを含めて、モモちゃんでヒロイックファンタジーをやろうというおもしろい話があったんです。結局没になりましたけど。でもみんなそういうの好きだから、楽しいものができたでしょうね。

「モモ」は、やってて、スタッフののりもあったし、声優さんたちからのフィードバックもあって、作品がどんどんふくらんでいきました。それがなによりも楽しかったですよ。

●演出

日下部光雄



とにかくわけのわからない話だと思っていた

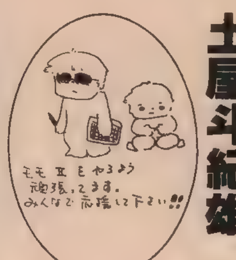
とにかくいろんな制約が厳しくて、時間がなかったんでね…。いま思い返せば、ああもしたかった、こうもしたかったというのは多いです。僕が参加したのは十三話の絵コンテからだったんですけど、最初の感想というと、とにかくわけのわからない話だなあと。それから四回に一回くらいのわりでやるようになり、中盤くらいで、やっとわかってきたというか、モモの世界みたいなものがつかめてきました。自分でやったので は四十話の「夢の戦士」がそれに近づくことができたんじゃないかと思ってます。

第一、第二シリーズとも最終回の一回前をやってるのね。四十五話なんかはやっぱりがんばりましたよ。みんな、自分がやる回はこれで最後だって思ってたしね。そういう意味じゃ第一シリーズの後半はあちこちの班が思いっきりやりだしたから盛りあがったんじゃないかな。ただ、四十五話の前半、モモとか三匹とかがやたら走り回ってるの、ほとんど走ってた記憶しか残ってないなァ(笑)。

自分としては第二シリーズがもう少し長ければ、カジラももっと動かしてあげたかったです。モモに関しては若いスタッフが多く刺激にもなったし、やって楽しい作品でした。

●脚本

土屋斗紀雄



最初にこんなすごい番組にあたって不幸!?

「モモ」の最初のころ、首藤さんのまねを、かなりしたんですよ。吸収できるものは全部と思って「なんでこんなにまねするの」っていわれるくらいまねをしました。

そういう事から自分の発想を出そうとしたんだけど、途中で無駄だと気がついたんですね。あの発想は絶対できない。しょせん勉強量が違うから。いろんなことを知っていて、そこから自分のアイデアを引き出してくるわけなんですよね。同業者として彼には早く追いつきたいです。

僕にとって「モモ」というのは、意味深い作品になりました。この話はパターンを変えて何度でも応用のきく話だったし、また、自分の好きなことをこれだけやれたというのは今後シリーズ構成やってても無理じゃないかな。最初にこんなすごい番組にあたったのはある意味で不幸だったかも。これ以上のものを作るのはたいへんだし。いま、「モモ」をやっていたライターというのが売れっ子なんです。「モモ」を書けるんだからこの程度のものは書けるだろうって仕事がくる。自分自身でも「モモ」をやっていたというプライドがあるから、レベルを落とせない。良い作品だっただけにつらい所ですね。

●脚本

戸田博史



いろんな分野のものをやれて楽しかった

初め、自分では少女物をやったこともないし、やるはずもないだろうと思っていたので、とまどいました。で、僕としては書きやすいアクション志向の話を多く作っていたわけなんです。でも「モモ」の場合はいろんな分野のものをやれたので楽しかったですね。アクション物のヒーローなんか全部やってるんじゃないですか。警官・探偵・泥棒・西部劇にターザンなんてのもやってるし、戦争物、ロボット物もやりましたね。それだけ、幅を持たせることのできた作品でした。

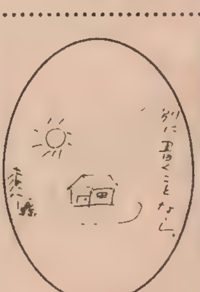
「突撃ミンキーママ」なんて、僕がもともとハードボイルドが好きで、そういう雰囲気を持った作品をやりたいと思って書いたんです。ほんとはもっとシリアスにやりたかったんだけど、いくぶん押さえました。

でも、自分がこのシリーズで最も気に入っているのは「よみがえった伝説」なんです。他人は気づかないかもしれませんが、あの話には、その後の僕の、アニメシナリオライターとしての僕の、すべてのエッセンスが詰まっているんですよね。

この作品に参加できて良かったです。この作品でアニメに対する認識が、がらりと変わりましたから。

●脚本

筒井ともみ



アニメはアニメでしかできない話のほうが…

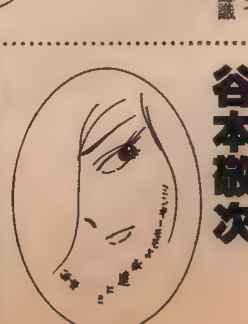
「モモ」ってそんなにおもしろかったんですかぁ? いまね、すごくアニメが不作の時代だと思うの。だから、そのなかで多少できのいい「モモ」が目立っただけで、私はそれほどたいしておもしろいとは思わない。あれがもし、すごくおもしろいっていうなら、アニメって貧しいと思う。まあ非常に不作の時代には、よかったほうだということなんじゃないかな。

とにかく、デビルクィーンにしても、他のメンバーのなかで多少なりともおとなの女の人を書く人がいないから、それでたのまれて作ったのね。モモに勝てるキャラクターってのかな、かなり個性の強いのを書いてくれということで、じゃ、書こうかって……。そしたらなんとなく湯山さんたちが入れこんじゃって、三本も書かされた。あれの一本目の演出は、結構よかったんじゃないかな。

私は実写のほうが好きなのね。アニメをバカにしてるわけじゃなくて、やはり人間の話は人間がやらなきゃと思ってる。だからアニメはアニメでしかできない、そんな話のほうがいいのでは…。どっちがいい悪いでなくて好き嫌いがあるから。いまのアニメってホント、粗製乱造でしょ。アフレコだって白味みたいなのが多いもの。そんなので声いれたっていい芝居ができるわけない。アニメのそういうとこ、残念ですよね。

●脚本

谷本敬次



最後にモモが変身すれば、なんでも自由

「モモ」は、ストーリーの制約がほとんどなかった作品で、最後にモモが変身すれば、SFでも、ファンタジーでも、シリアス物でも自由に書けました。モモ流にアレンジすればね。たとえば僕は、ヒッチコックが好きなもので、「鳥」をペンギンでやってみたらおもしろいだろうとか。人力飛行機の話はニール・サイモンの「裸足で散歩」なんですよね。ほんとは湯山さんのほうとしては、モモをジェーン・フォンダにして、恋愛ものにしたかったらしいんですけど、なにもいってくれなかったもんで、僕はアパートにみんなが集まるところをやっちゃったんです。後々まで湯山さんに「ジェーン・フォンダでやりたかった」といわれ続けましたね。

でも、シナリオでいくらそういう遊びをやっても、現場のほうがのってくれないとどうしようもないですけど、みんなものって(のりすぎて!?)やってくれたんで、おもしろいものができましたね。

ふり返ってみると、パパとママなんかにはもっといろいろやらせたかったです。あと王様なんかは観ててておもしろかったですね。あれ、シナリオどおりいわないんですよね(笑)。

一話完結の話で、書く側も好きなこと書いていて、それぞれテーマを持っているけど、とおしてみるとまとまった作品になっていたのは、首藤さんの才能ですね。



●キャラクターデザイン
芦田豊雄



声がついて芝居をして好きなキャラになった

三匹のキャラは、上野のおもちゃ屋に連れていかれて、会議のときにその場で描いたんですよね。最高決定者というのはスポンサーですから、目の前で見せるのが一番いいんです。その場の内容と会議の雰囲気から出てきたものだから、生き生きしたものができました。

王様と王妃様と三匹とかが結局一番先に決まって、その分モモのキャラクターが難行しました。難産キャラっていうのはいいものができないんですよね。要するに無個性キャラになっちゃう。だから、モモにもそういう心配があったんですけど、首藤さんがしっかりしたイメージを持ってたんで非常にいいキャラになりましたね。モモのキャラクターは、僕が紙に描いたものじゃなくて、声がついて芝居をして、非常に好きなキャラになりました。いろんな人がいろんな分野でからんで、初めていいキャラができるんですね。

作品自体としても、モモは確かにいわゆる既成のマンガのアニメ化じゃなかったところにひとつ価値があります。のみならず、それだけでなく、作品のパワーはあったし。その意味では貴重な作品ではあったと思います。

●キャラクターデザイン
みさきのあ



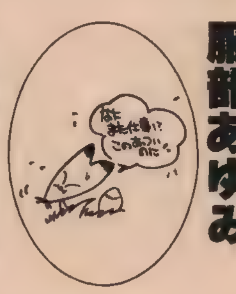
原作を作ったわけではありません

十月か十一月に、アニメーションのキャラクターデザインをやってみないかという話がありました。そのときは企画がふたつあったんです。その両方を引き受けて、企画会議にかけられたあと、そのふたつの企画がひとつになって「ミンキーモモ」になったわけです。だから「ミンキーモモ」になってからは、ほとんどタッチしてません。

「週刊少女コミック」の連載は、編集長からやらないかといわれたんですが、私はどっちかというとのり気じゃなかったんです。でも、やることになって…。最初は、半年だったか一年だったか連載が続くという話だったんです。で、それがいつの間にか半年になって、結局十回で終わってしまいました。だから、原作とかストーリーのほうはまったく関係ないんです。一部私が原作者だと思っている方がいるかもしれませんけど、違うんですよね。まんがはアニメとは全然関係なく、一応最初の設定をいただいてあとは勝手に話を作らせていただいたという感じです。

アニメのほうは、家にいるときはよく観てましたけど、後半になると外出が多くなって…、話題の四十六話など観れなくて残念でした。

●キャラクターデザイン
服部あゆみ



だれが描いてもかわいくなるキャラクターを

最初、知りあいの制作の方から新番組のキャラを考えてるんで、何点か描かないか、というお話をもらったんで、五～六枚描いてみたんです。それからしばらくして、このキャラのイメージでいきたい、ということで制作に加わったんです。でも私は最初のキャラ設定だけで、その後の制作にはノータッチでした。

「モモ」は最後のほうをテレビで観ていたんですけど、かわいく描けてましたね。私としても〝かわいく見せるためにはどうしたらいいか〟ということにずいぶん気を遣ってデザインしたので、うれしかったです。

少女物でもかわいくないのが多いという意識があったので、誰が描いてもかわいくなるキャラ作りをしました。クライアントの方からも、コロッとした感じでやってほしい、との注文がありましたので。

「モモ」では、キャラの外注ということをしたんですけど、こういうのって初めての試みだったらしいですね。スポンサーの方で、モモのキャラがどうしても決まらないので、じゃあ、オーディション形式をとろう、ということになったらしいんです。

モモの髪型は、すごく独特だったでしょう。あれ、わりと早くに決まってたんですよ。それと髪の毛の色は絶対ピンクにしましょうって、私提案してたんで、うれしかったです。

●作画監督
田中　保



わき役キャラの話をもっとやりたかった

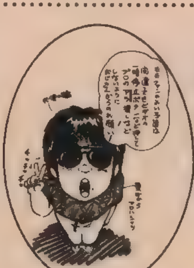
振り返ってみると、シンドブックとかモチャーなどのわき役キャラクターの話をもっとやりたかったです。ペットショップという設定だから、もっとできたと思うんですけど。ぼくはもともとギャグっぽいのが好きなほうだから、王様みたいなキャラクターがやってて楽しかったですね。

印象に残ってる話といえば、「木もれ陽の少女」とか第一話の「ラブラブミンキーモモ」とか。あと第二シリーズの「ペテン師のノクターン」は、ほんとスケジュールが足りなくて。ぼくのほうで他の作監の仕事もあったり、いろいろたいへんだったんで特に印象に残ってますね。

ぼくはもともと、どちらかというと、メカ物より「モモ」みたいな作品がすきですね。「モモ」は線も少なくやりやすかったし、いろいろなキャラクターが出てきて、楽しくやれた作品でした。



●作画監督
上條　修



好き勝手にしすぎて少しばかり反省

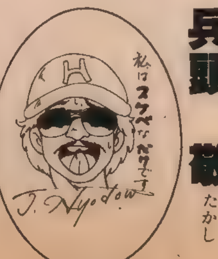
ぶっちゃけていうと、少女物は得意じゃなかったんで最初は逃げ回ってたんですよ。でもニシコの小西さんがやるっていうし、まあいっぺんやってみてダメだったらやめちゃうみたいな腹はあったんです。そしたら女の子もそんなにおかしくないし、メカが入ってリアルっぽくなったりしてるけど、そんなにクレームも出なかったし、わりとやった回が評判になってくれたりしたんでね。

自分でやった作品で感心したのはひとつもないです。三話も八話も一回くらいずつしか見てないし、あまり自分でやったのっていうのは見ないこともあるんで、よくおこられるんですよね。だいたい見当がつくこともあるけど、僕はいまだに自分の絵が嫌いなんです。八話とかは質的には感心してないんですよ。悪い意味じゃなくて、好き勝手にしたでしょう。それが評判になったけど、パンツが見えたり他のキャラクターが出たり、あんまり感心しないんですよ。シーン的にここが良かった、というところがなかったでしょう。

モモの性格は書き手とか演出家によってずいぶん変わってましたけど、逆にいうといくらでもふくらませることができるし、それが良かったんですね。



●作画監督
兵頭　敬
たかし



見てるだけでかわいい口もとか表情に留意

あんまり少女物はやったことがなかったものですから、モモみたいなキャラっていうのは初めてだったんですね。だから、かなりキャラクターの〝顔〟で苦労しました。

子どものときのミンキーモモっていうのは、ああいう子がしゃべるっていうのは、ものすごくかわいいでしょ。しゃべるときの表情とかものすごく純粋な感じで、口もとなんか見てるだけでもかわいいっていう、そういうところを出したいなって思ったんです。でも、結局表情に力を入れたといっても、そんなに現れてないんですよね。

好きなキャラクターっていうのは、



◀新井寅雄氏の初期美術設定より

芦田さんの描いたキャラなんですが、三十九話のおとうさん。おもしろい人ですよね。印象に残ってます。あと、ママのパパの子分だった男。おもしろいおじさんでしたね。わりと日本的なんですね。義理と人情とて。

四十三話の「いつか王子様が」はなにか身近な存在という感じでした。かなり入れこんでやろうかなと思ったんですけどね。その男の子というのは結構好きなキャラクターです。「モモ」の場合、全般的に主人公とゲストは同じ人が描いたものだから、あまり異和感はなかったですね。

●作画監督

飯村一夫



初めて自分でキャラクターを作った

キャラクターが結構かわいくて動かしやすかったです。特に苦労らしい苦労はしてないですね。自分で作ったキャラで気に入ってるというか覚えているのは「夢の戦士」かなあ。

自分にとっては「ミンキーモモ」ってのはやっぱり少女物。女の子の夢の世界を表したってことで、あれがモモの世界なんじゃないかなって思いながらやりましたから。絵としてのキャラに限っていえば第2シリーズの最初に出てきたピーチボーイも気に入ってます。これはもう、すぐにできちゃった。鬼もあまりこわそうな鬼じゃなかったりね。

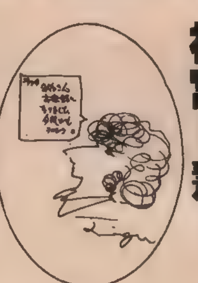
僕は自分でキャラ作ったのは今回が初めてなんです。だいたい作画監督ってのは絵のチェックとかキャラの統一みたいな仕事だけど今回は全部こちらで引き受けてやっちゃったしね。わりと自由にやらしてもらったので、勉強にもなりました。



シンドブックのモデル(芦田豊雄氏所蔵の写真より)

●作画監督

神宮慧（じんぐうさとし）



スタッフ会いたさに九州から上京したファン

第一シリーズの最初の頃は、ほぼ三本に一本くらいのわりで、キャラ作っていました。自分の作ったキャラはみんな覚えてますよ。ガチョンシンボリーだとかベリリッチだとか、モモのレッドキャットだとかね。

「モモ」に関しては、やってるときの苦労ってのはそんなになかったです。まあ、しいてあげれば野球の話のときなんかね、あれ、選手とかなんだかんだで三十人くらい出てくるんですよ。皆で手分けして描いたんだけど、ああいうのは疲れますね。

僕は後半スケジュールがきつくなってきて途中でぬけちゃったみたいな感じがあるんでね。だけど楽しい作品でした。関わったスタッフの連中も若かったし、役者さんものっていたし、そこらへんのパワーが総合的に集中してキャラの魅力が花咲いた作品という感じでしたね。

ひとつおもしろい話があるんです。日暮里にモモの店みたいな飲み屋があって、マスターがモモファンで、葦プロの連中もよくいってるんです。そこへ、モモのスタッフに会いたくて九州から上京してきたファンがきたそうです。びっくりしましたね。

僕も、根性でもう少し続ければよかったかなぁと思ってます。



●作画監督

渡辺　浩



意地で動かし、「大いなる遺産」で動画五千枚

僕も担当した四十六話の「夢のフエナリナーサ」で、モモが着替える朝のシーンとか結構気に入ってるんです。最近はそういった、日常的なものとか、ファンタジー志向で固苦しくないほうが自分では好きになってきましたね。だけど十五話の「暴走列車が止まらない」のラストシーンが結構うまくできてたんで、もちろん演出の方の力もあるんだけど、まだまだメカっぽいのもやれるんだなあって思いました。

三十六話の「大いなる遺産」なんかは、それまでのシリーズで初めてのしっとりした作品だったでしょう。湯山さんに、「妖魔が森の花嫁」で動画が六千枚いったんで、こういう作風で、五千枚いったらすごいといわれたんで、意地になって動かしましたね。結果として五千枚はいったんですけど、ムダな動きが多かったんで、反省してるんです。

僕は「モモ」をやってる途中、結婚しまして。四十六話にうちの奥さんと同じデザインのパジャマをモモに着せたり(笑)。そういった意味でも思い出深い作品でしたね。

僕が作監としてやったのは二十六話からなんで、最初から参加したかったですね。それが残念です。

●原画

丹澤　学



まわりの人たちを意識することを覚えた

〝モモ〟の原画は、二十九話からですね。最初十五カットくらい描いて、原画やりたいと思ってたから、とてもうれしかったです。やっぱり、描いたのが動いている、というのは感激ですね。

最近ビデオで見返してみて、最初の頃のほうが良かったような。やるたびにだんだん悪くなっていくみたいな気がしました。最終回の六十三話にしても、力を入れて描いたわりには全体的にまとまりに欠ける、むしろ失敗したな、という感じですね。かえって三十七話のサーカスの話なんかのほうが感情移入できた分、自分では気に入ってるんですよね。

「モモ」のシリーズでは、まわりを意識することを覚えました。ライブの渡辺さんや、若い才能のある人が多くて、刺激にもなりましたし。ライブの存在っていうものが、対抗してやろうっていう仕事の原動力になりました。

四十六話すぎてスケジュール的にちょっときつくなったんですけど、それまでは、みんな和気あいあいと好きなように楽しんで仕事をやってました。

観る立場になっても、一ファンとして楽しめたし、作る立場としても、あきのこない作品で、本当にスタッフとして参加できてよかったと思っています。

●原画

松下浩美



絵コンテを見てるだけで楽しかった

「モモ」は、もうかなりのってやれましたね。わりと作画まかせみたいなところがあって、自由にできましたし。ただ、反省するところもいっぱいありました。タイミングとか、間の取り方とか……。自分が頭のなかで思っている演技にちゃんとならなかったり。そういう意味では勉強になりました。自分がやったものではやっぱり、三十六話の「大いなる遺産」が気に入ってます。それまでのモモっていうのは、ドタバタしたイメージでとらえてたんだけど、あの話でモモの違うイメージが引き出せたと思いますね。他の人のやったもので好きなキャラといえば、ボーマン！　妙なキャラでしたけど、ああいうの楽しそうでやってみたかったですね。自分で、ギャグっぽいのが性にあってると思っているので。

とにかく「モモ」は絵コンテ見てるだけで楽しかったです。やりたいシーンがいっぱいでてくるんです。いま、ロボット物とか流行でしょ。自分としてはファンタジックな、あるいはメルヘンみたいな話をやりたいですね。そういう話が少ないですから。その意味じゃ「モモ」っていうのは本当に楽しかったです。スタッフもみんな燃えて作った作品ですから。また、こういう雰囲気の作品があればやっていきたいですね。

●原画
小林早苗



八頭身を描きなれた手にてつらかったデカ頭

私が関わったのは二十六話以降なんですけど、エリカのキャラ、芦田さんの修正が入っていますが、気に入ってわりと気楽にやれました。ただ、私の場合、デカ頭のキャラって苦手なんです。自分の絵はわりと八頭身ぽくて、モモの頭が小さくなっちゃうんです。最初はモモの絵にあわせるのに苦労しました。

好きなキャラでいうと、デビルクイーンが変装したでしょ、白ネコトマトの宅急便のおばさん、あれが好きなんです。あのヒクツさがいいですね。モモの場合、設定のおもしろさみたいなものがすごくありましたね。ファンとして見てもおもしろかったです。自分もやったんだけど話として好きなのは二十六話の「大いなる遺産」、いい話でした。

モモは自分が原画として参加した最初の作品でもあるわけで、その意味でも思い出深い作品です。特に演出が結構すごい人がたくさんいて、もう私なんかレイアウトから直されたり、自分の力のない部分を的確に指摘され、おかげでずいぶん勉強になりました。

●原画
林　隆文



三匹十描きにくいカジラはきつかった

「モモ」をやって印象に残ったことというと、とにかくリテイクをいっぱいもらってたいへんだったということですね。モモのまわりにいつも三匹いるでしょ。それだけでもたいへんだというのに、あとでカジラっていうのまで増えて…。すごくきつかったですね。最初は楽だったんだけど、話数が進むにつれて動画枚数が増えるし、早く終わってくれ、早く終わってくれって思ってたんです。だから四十三話で終わるはずが、また延長と聞いたときはショックだったね。カジラって、あれが一番描きにくかったしね。

好きな話は別にないけど、「ラストアクション」なんか、けっこうおもしろかったね。あれは結局絵コンテが良かったんだと思いますよ。最後にジョン・ウエイトが死んじゃったというところも良かったです。

ほかはあんまり観てなかったからわからないですけど、自分がやった以外で印象に残っている話といえば、やっぱり第一シリーズの最終回、「夢のフェナリナーサ」かなあ。あれはスタッフのがんばりみたいなものが伝わってくるし、画面全体から受ける印象が、とても好感が持てましたよね。

●美術監督
新井寛雄



▲フェナリナーサの初期設定

従来の魔女物を完全無視した「モモ」の世界

いままでの魔女物とは完全無視して、「モモ」は「モモ」の世界で作ろうと、参考になるものなど使わなかったですね。すべて根底からオリジナルです。だから、最初作ったときは、非難うけましたよ。たとえば、お城の形が球根みたいだ、とか…。でもそれは主観的なものですから、見てるうちによくなってくればいいな、と作っていきました。その結果、受け手側の反響が、へんだ、とかおもしろい、なんだろう、とかが入り混じっていたのが逆に個性づけてきたとして成功だったと思いますよ。

後半すぎに、あちこちからいいんじゃないか、おもしろい、などの反響があり、やったかいがあったと思いました。四十六話の「夢のフェナリナーサ」でも、美術は僕にまかせてくれ、責任はもつから、ということで相当気張って妥協しなかった作品なので、特に印象に残ってますね。

●音響監督
藤山房延



イメージが違ってきて選曲に頭を抱えた

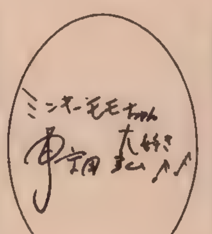
この作品は、スタッフ関係、その他もろもろの人たちが実に良くまとまってやれた作品でしたね。キャストに関しても僕が思うに一番ベターな連中が集まってやれたと思いますよ。皆、それぞれ適材適所なので、よけいな注文はつけず各人の持ち味を出してもらいました。

苦労した点でいうと、全シリーズをとおして、音楽が少なかったということですね。それと、シリーズが進んでいくうちに最初のイメージと違ってきちゃったんですよね。曲は、シリーズ全話分を、最初に三～四話分位の台本を読んで、そのイメージの曲を作って、百曲なら百曲まとめて録っちゃうんです。だから途中で作品の方向性が変わってくると、使える曲がなくて困ってしまうんです。

「モモ」の場合、話が、サーカス、ファンタジー、メロドラマ、宇宙もの等いろいろあったんで選曲には頭を抱えてしまいました。

でも「モモ」はスタッフ、キャストともどもがんばった作品だったし、僕も一話一話全力をつくしたし、観る側にまわっても楽しめる作品に仕上がってましたね。だから僕もそうだし、みんなもきっと思い出深い作品になったと思います。

●音楽
高田ひろし



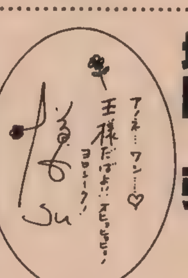
自分なりのイメージでシンセサイザーを使用

曲を書くにあたっては、子どものものだから堅苦しいのは困る、というくらいで、イメージ作りはすべてまかせていただきました。だから僕のほうで、アニメのクラシックみたいなのじゃなく、テクノっぽいものを入れようかな、と思ってシンセサイザーを入れてみたりしたんです。自分でイメージを先に作っちゃったから、のびのびとやれましたね。

今回は、クラシックを基調にしたものとかミュージカルとかディズニーとか、そういったものを適当にまぜてみたわけです。時間が限られているし、シンセサイザーはダビングにダビングを重ねて作っていくわけだから、非常にむずかしいんですよ。あれは確か家にある安いシンセで先にほしい音を作っておいて、それを現場で番号をあわせたんです。普通はあとでダビングして作るから、ほしい音が決まるまで時間がかかるわけ。だからアニメの場合、よほど時間をたっぷりいただかない限りはシンセを使うことは不可能なんですけど、本当にあのときはたいへんでした。でも、僕も観ていて、楽しめました。音楽も合っていたんじゃないですか。僕のやったなかでは気に入った物のひとつですね。

Cast

●王様
増岡　弘

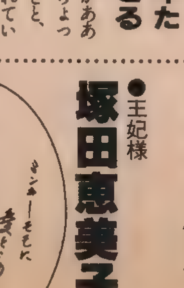


童話のなかでも一年たてば、ひとつ年をとる

王様っていうのは、見た目がああいうキャラクターでしょう。ちょっとユーモラスにやるということと、娘のモモに対する愛情があふれているようにやろうと思ったことぐらいで、あとは演出の方針に従いました。僕自身がだいたい、ああいうキャラクターがわりと好きなものですからね。

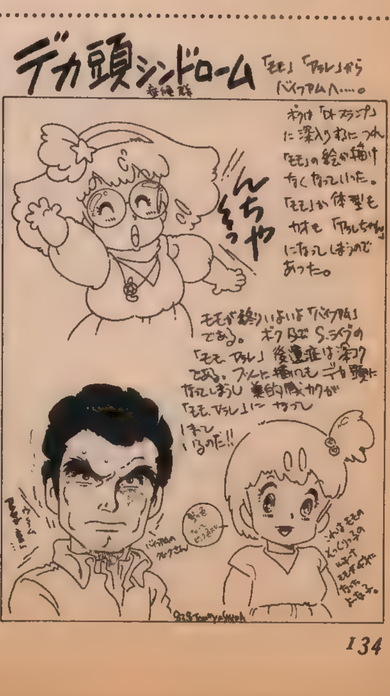
一度地球に降りてきて、いろいろとやったときは楽しかったですね。ああいうのは、もうちょっとあのまま帰らないで何本か書いたら楽しかったのになあと僕は思ってます。だいたい、かわいいんですよね、あの王様は。美人の奥さん――王妃様と一緒にいるというのは、ちょっと設定がアニメチックすぎるのではありますが…。でも首藤さんのロマンというか、童話の持っている本質みたいな物を出してるのは、僕、とってもわかるんですよね。なにか残酷なぐらい童話をこわして本質を取り出し、なおかつそれを大っぴらにみせびらかすんじゃなくてやってた。それはおとなの感覚であり、それを上手に子どもにすり替えていったところがね。童話のなかでも一年たてばやっぱりひとつ年をとるんだと思うし、それを実にうまくとらえているんじゃないか、と僕は思います。

●王妃様
塚田恵美子



悲しくたって笑っちゃうモモが好き

私の役は、わりとおしとやかでそれほど表情がないような感じだったんで、むずかしかったですね。母親的な気持ちへ持っていくような芝居のしかたはしてましたけど、同じ母親でも片っぽのほうとは全然違うし、モモと接する事があまりなかったので、情感が消えちゃうところがずい



We Love Momo



ぶんありました。

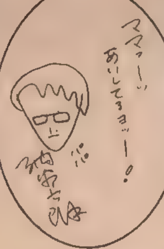
王妃様で特に印象に残る回といえば、理想の男性を見つけたのに、それがどこかで違ってしまっていまの王様になってしまったという、あそこはおもしろかったですね。理想と現実の違いみたいな感じで。

モモは明るくて、悲しいことや、つらいことをがまんしちゃうみたいなところが好きでした。悲しくたって笑っちゃうみたいな、そんな表情がとても良かったですね。きっと、そういうところにも人気の秘密があったんじゃないかしら。

作品としても、随所に〝夢〟があって、だから007のモモなんかも良かったし、お花畑を汽車がとおるなんていうのもファンタジックで、色使いもとてもきれいでしたね。演じているメンバーも親しみやすい人ばかりで、終わってしまったのが、とても名残り惜しくてさびしいです。

●パパ

納谷六朗



希望を、といわれて、「出演を増やして下さい」

始まる前に、こういう感じでやってくれというのは全然いわれなかったですよ。相手役が若い人で僕の娘みたいなお母さんだったから、できるだけ明るく、二枚目半的な感じであまり老けないようにと気をつけました。

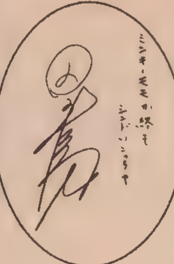
印象に残っているセリフは僕の場合、やっぱり「ママ、愛してる」っていうやつね。これいうとみんながいっせいに「キザ〜」っていうんです。あのパパっていうのは、ママに対しては完全な甘ったれパパで、モモに対してはものすごくいいパパでしょ。良かったですね。またやりたいですよ。

ほかに印象に残っていることといえば、パパが南極までとか、アフリカまでちょっといってきますというのはおかしかった。だけど出演者の立場としては、困るんだよね。自分が出演しなくて「パパ？　いまどっかいってるよ」。それで終わっちゃうんで……。だから僕、役に対する希望があれば述べて下さいっていわれたとき、「出演を増やして下さい」っていったんです。だからかな？　パパがいってるところへモモがいってみるという脚本が出てきたのは。こっちはたいへんけっこうでした。

とにかく、ああいう楽しい番組はすぐさま再開してほしいですね。

●シンドブック

田の中　勇



最初の六十五歳から、どんどんかわいらしく

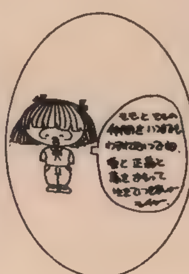
モモは、制作者の人がまじめに作ってるし、脚本がしっかりしてましたね。最近わりとどぎつい物が多いなかで、地味な作品だった。それで最初の頃はどうかなぁ、と思ってたんですけど、じわじわ人気があがってきましたね。

モモは大学生のファンの人もいるでしょう。そんなになると思わなかった。あれはキャラクターのかわいらしさがないんじゃないかな。そういう意味ですごくびっくりしてますね。いまの大学生くらいの人は全然ダメなんじゃないかと思ってたら、そういう人もいるんですね。安心しました。

シンドブックはセリフも少ないし、いろんなギャグっぽいことを考えたけど、土台まじめな作品だからそんなにバカなこといえないし、まぁボケてみせるくらいがせいぜいでしたね。最初は、六十五歳でやってくれっていわれたんですよね。でもだんだん絵がかわいくなってきちゃって。おじいさんだか子どもなんだか、わかんなくなって、表情なんかもだんだんかわいくなってきて。ついに年令不詳になっちゃった。でも、最後人間にはならないほうが良かったです。夢がこわれちゃいましたよ。

●モチャー

木藤玲子



アフレコをしながら、「がんばらなくっちゃ」

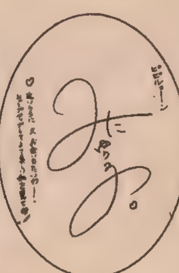
モチャーは、レギュラーとしていただいた初めてのキャラクターなんです。それまでゲストなどでポツポツとやっていましたが、やっぱりあがりました。まわりがみんなベテランの方ばかりでしょう。でも、ベテランだけど若い方が多かったんで、まだやりやすかったですね。

最初のとき、ディレクターが、みんなに「自由にやってくれ。台本のセリフもくずしていいから、どんどん自分のことばにしてやってくれ」っていわれたんですよ。私個人には「とにかく元気よくやってくれ」といわれました。でも、どうしてもほかの方より新人だからって一歩引いちゃうと、その分声が小さくなっておとなしくなるのが自分でわかるんですよね。注意してたんですけど、なかなか治らなくて……。

モモのような、最近では数少ない、現代的ではあったけれども夢とか希望とか愛とかを大事にするような話にめぐりあえたっていうことがとても良かったと思ってます。私なんかも落ち込んでるとき、モモを観て、モモのアフレコやって、「ああ、がんばらなくっちゃ」って思うんですよね。もっとずっと続けてほしかったですね。

●ピピル

三田ゆう子



単なるかわいさでなくおしゃまな感じを…

ピピルの声は、単なる子どものかわいさじゃなくて、ちょっとおしゃまな感じを出せたらいいなって思いました。苦労したのは、声が高いし、かわいくしなきゃいけないっていうのと、録音が午前中だったので声が出なかったりしたということですね。

スタジオの雰囲気はとても良かったですね。シンドブックの田の中さんは大先輩ですし、モチャーの木藤玲子ちゃんはかわいくて妹みたいでした。そしてベテランの増田さんと田の中さんと納谷さんが雰囲気をひきしめて下さって、茉美ちゃん中心にのびのびやってました。終わっちゃってさびしいですね。

第二シリーズに入るとき、「いちおう第一シリーズは終わりました。これから後は続きという形ではなく、一話完結という感じでお話が進んでいきます」ということをいわれました。で、ストーリー的には前とは全然持続してないって感じでやったんですが、やっぱり演じてる側としてもどうなってるのかまるっきりわからない。モモは死んじゃったんでしょう。一回一回お話も別々だし……。でも逆に、どういう風になるんだろう、っていうような感じで楽しくやらせていただきましたね。

●カジラ／黒雲

千葉　繁

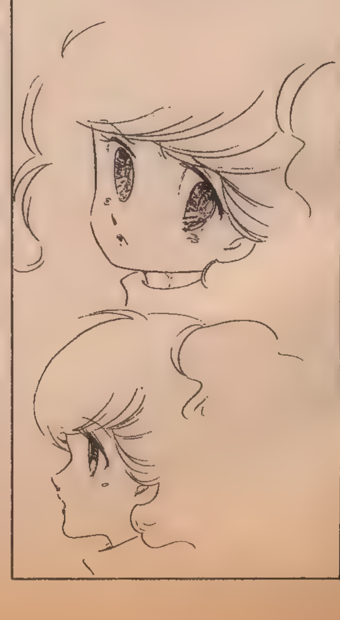


カジラはモモの自我意識―むずかしく考えず

最初、カジラっていうともっと大きな怪獣だと思ってたんですよ。そんなのできませんよっていってたんですが、とにかく絵を見てくれっていわれてね。実際絵を見たら気に入っちゃって。これだったらやりようがあるな、と思ってひきうけたんです。

カジラについて、最初首藤さんに「カジラっていうのは、モモの自由奔放な自我意識の表れなんです。ふだんモモがおさえてる部分を、カジラが勝手にあっち へ飛んでいったりこっちに飛んでったり、好き勝手にやってる自我意識が形になってるんですよ」といわれた。だからある意味では楽にやったほうがおもしろいなあと思ってね。特にむずかしくは考えずやりました。だけど声の部分では、もともと地の声が高いわけじゃないから、とにかくハイトーンをキープすることに苦労しました。

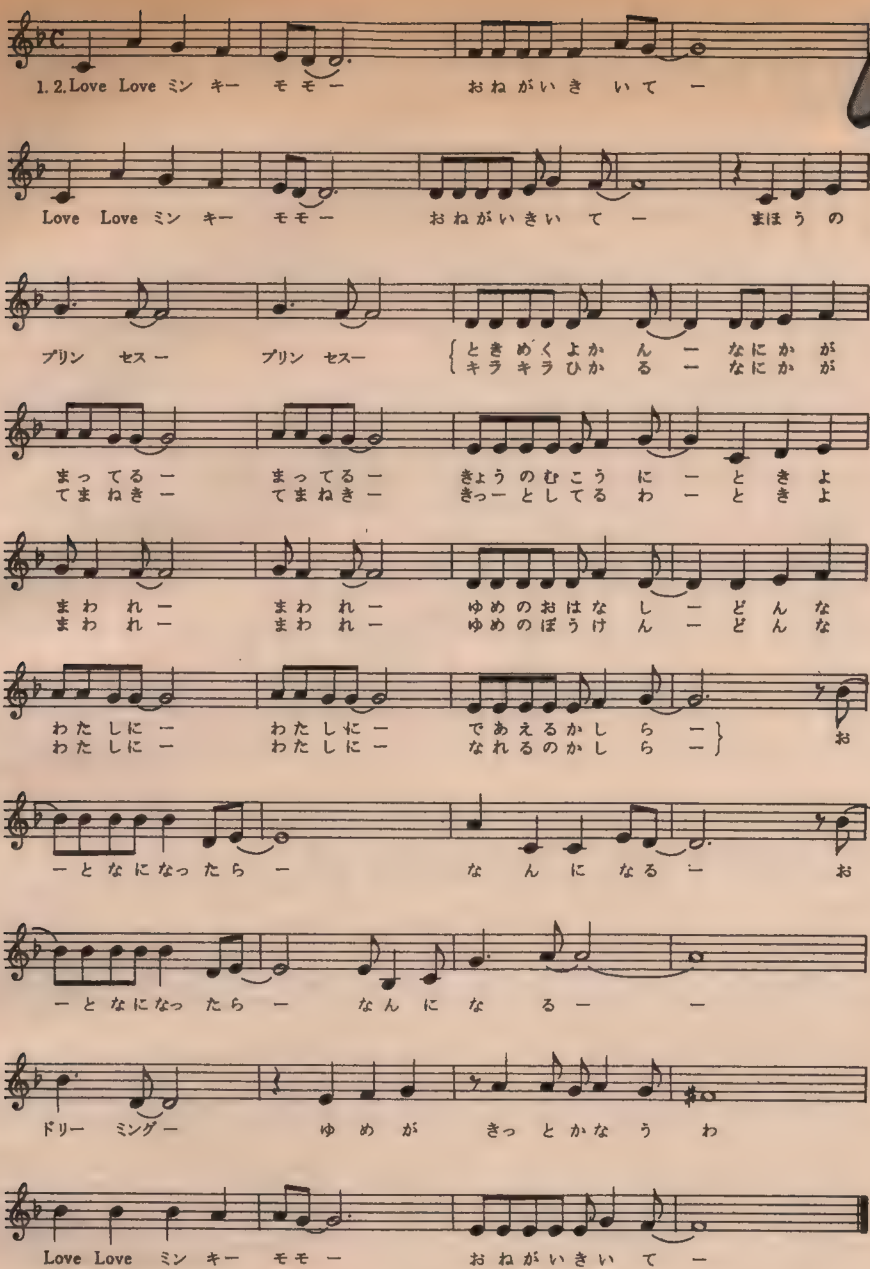
「ミンキーモモ」って作品はすごく考えさせられますね。やっぱり黒雲にしてもなんにしても、勧善懲悪というか、悪じゃないですもの。ひとつの自然界の動きっていうのか。回りにいる人たちにしても、出てくるキャラクターにしても、話にしてもすごいショックでしたね。





本文中のまんがは芦田豊雄氏。カットは服部あゆみさんの初期設定より。

music

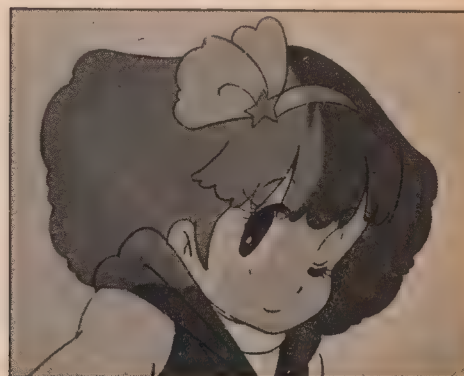


ラブ・ラブ・ミンキーモモ

荒木とよひさ作詩／佐々木勉作曲／高田弘編曲
歌：小山茉美

Love　Love　ミンキーモモ　お願いきいて
Love　Love　ミンキーモモ　お願いきいて
魔法のプリンセス　ときめく予感
なにかが待ってる　きょうのむこうに
時よまわれ　夢のお話
どんな私に　出逢えるかしら
おとなになったら　なんになる
おとなになったら　なんになる
Dreaming　夢が　きっとかなうわ
Love　Love　ミンキーモモ　お願いきいて

Love　Love　ミンキーモモ　お願いきいて
Love　Love　ミンキーモモ　お願いきいて
魔法のプリンセス　キラキラ光る
なにかが手招き　きっとしてるわ
時よまわれ　夢の冒険
どんな私に　なれるのかしら
おとなになったら　なんになる
おとなになったら　なんになる
Dreaming　夢が　きっとかなうわ
Love　Love　ミンキーモモ　お願いきいて
Love　Love　ミンキーモモ　お願いきいて



Swing Swing 地球に

荒木とよひさ作詩／佐々木勉作曲／桜庭伸幸編曲
歌：ザ・ブレッスン・フォー

Swing　うたおうよ　愛の歌
みんなで　Swing Swing Swing
Dance　踊ろうよ　胸はずむ　この季節に

緑の地球に　生まれたボクらは
すてきな笑顔の　仲間なのさ
このときめきは　風のメロディー
まばたきは　光の種子
しあわせ運べよ　空から空へと
愛の歌をのせて
Swing　うたおうよ　愛の歌
みんなで　Swing Swing Swing
Dance　踊ろうよ　手をたたき　いますぐに

緑の地球は　ぼくらのふるさと
すてきなハートの　仲間達えば
このきらめきは　青いBlue-sky
ふれあいは笑顔の　Sun-shine
季節よまわれよ　今日から明日へ
愛の歌をのせて
Swing　うたおうよ　愛の歌
みんなで　Swing Swing Swing
Dance　踊ろうよ　胸はずむ　この季節に
愛の歌〜〜〜♪

いつか王子さまが……

荒木とよひさ作詩・作曲／桜庭伸幸編曲
歌：小山茉美

Dreamy　私の王子さま
Dreamy　どこにいるのかしら
Dreamy　私の王子さま
どこにいるのかしら
水色の風のお手紙が
あなたの窓辺に届いたら
ガラスのお城をぬけだして
白い木馬で迎えにきてね
夢のゆりかごで眠っていたら
やさしいくちづけ　私の頬に
Dreamy　私の王子さま
Dreamy　私の王子さま

小鳥たち遊ぶ森のなか
わたしの歌声きこえたら
すべっておいでよ虹の橋
青い空から　いますぐここに
夢の岸辺で眠っていたら
やさしいその手で　私の髪に
Dreamy　私の王子さま
Dreamy　私の王子さま
Dreamy　私の王子さま
Dreamy　どこにいるのかしら
Dreamy　私の王子さま
どこにいるのかしら

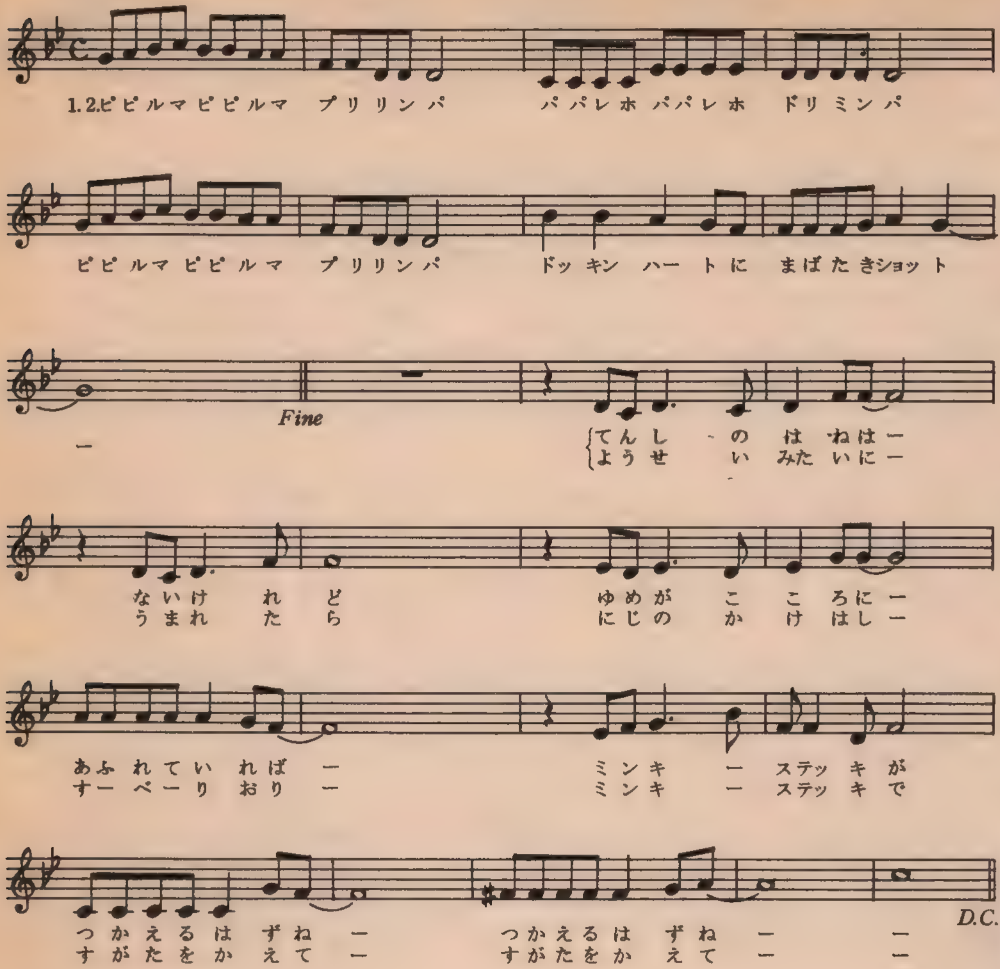
Good Lookin' Tonight

佐々木勉作詩・作曲／桜庭伸幸編曲
歌：小山茉美

恋のアベニュー　二人で歩けば
そこはディスコに　早変りする
きらめく星のシャンデリア
Good Lookin' Good Lookin' Tonight
　ちょっと待って　はじめてのキスは
　きれいだよ　僕のプリンセス
　君だけさ　あなただけ
　好きさ　好きなの　ハイハイハイハイ
ダンシング　ダンシング
二人で夜明けまで　踊りつづけるの
Good Lookin' Tonight　アイヤイヤイ
Good Lookin' Tonight

耳をすませば　聞こえてくるはず
風もやさしい　二人のメロディー
すこしおどって　ランデブー
Good Lookin' Good Lookin' Tonight
　ちょっと待って　あまいささやきは
　可愛いよ　僕のプリンセス
　君だけさ　あなただけ
　好きさ　好きなの　ハイハイハイハイ
ダンシング　ダンシング
二人で夜明けまで　踊りつづけるの
Good Lookin' Tonight　アイヤイヤイ
Good Lookin' Tonight

日本音楽著作権協会（出）許諾番号第8352321号



ミンキーステッキ・ドリミンパ

荒木とよひさ作詞／佐々木勉作曲／高田弘編曲
歌：小山茉美

ピピルマ　ピピルマ　プリリンパ
パパレホ　パパレホ　ドリミンパ
ピピルマ　ピピルマ　プリリンパ
ドッキン　ハートに　まばたきショット
天使の羽根は　ないけれど
夢が心に　あふれていれば
ミンキーステッキが　使えるはずね
使えるはずね
ピピルマ　ピピルマ　プリリンパ
パパレホ　パパレホ　ドリミンパ
ピピルマ　ピピルマ　プリリンパ
ドッキン　ハートに　まばたきショット

ピピルマ　ピピルマ　プリリンパ
パパレホ　パパレホ　ドリミンパ
ピピルマ　ピピルマ　プリリンパ
ドッキン　ハートに　まばたきショット
妖精みたいに　生まれたら
虹のかけ橋　すべりおり
ミンキーステッキで　姿をかえて
姿をかえて
ピピルマ　ピピルマ　プリリンパ
パパレホ　パパレホ　ドリミンパ
ピピルマ　ピピルマ　プリリンパ
ドッキン　ハートに　まばたきショット



あなたへのラブ・ソング

佐々木勉作詞・作曲／桜庭伸幸編曲
歌：小山茉美

あなたへのこの愛　消えるはずもないわ
歌いつづけたいの　あなたへのラブ・ソング
微笑みをください
初めて逢った日のように
灯りがともるまで
肩寄せ歩きたい
いつもあなたの　そばにいたいの
瞳とじれば　こぼれおちるの涙

夢みてたあの頃
あなたの胸にとびこみ
いたずらな私は
ほほにくちづけした
いつもあなたの　そばにいたいの
瞳とじれば　こぼれおちるの涙

あなたへのこの愛　消えるはずもないわ
歌いつづけたいの　あなたへのラブ・ソング
あなたへのラブ・ソング
あなたへのラブ・ソング

ラブ・イズ・ウィンドー

湯山邦彦作詩／高田弘作曲／桜庭伸幸編曲
歌：小山茉美

ラブ・イズ・ウィンドー　いつかきっと
ラブ・イズ・ウィンドー　いつかきっと
たどりついてみせるわ　あなたの胸に

愛を眠らせないで
さびしい夢は忘れて
私はいつも風になって
あなたのそばを　すりぬけています

※ラブ・イズ・ウィンドー　いつかきっと
ラブ・イズ・ウィンドー　いつかきっと
たどりついてみせるわ　あなたの愛に

時を凍らせないで
めぐる季節を感じて
私はいつも風になって
あなたの窓をたたいているのよ

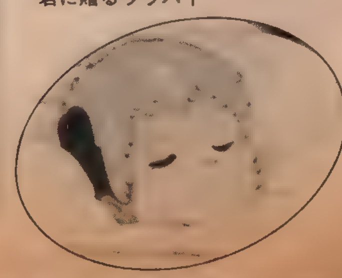
※くり返し

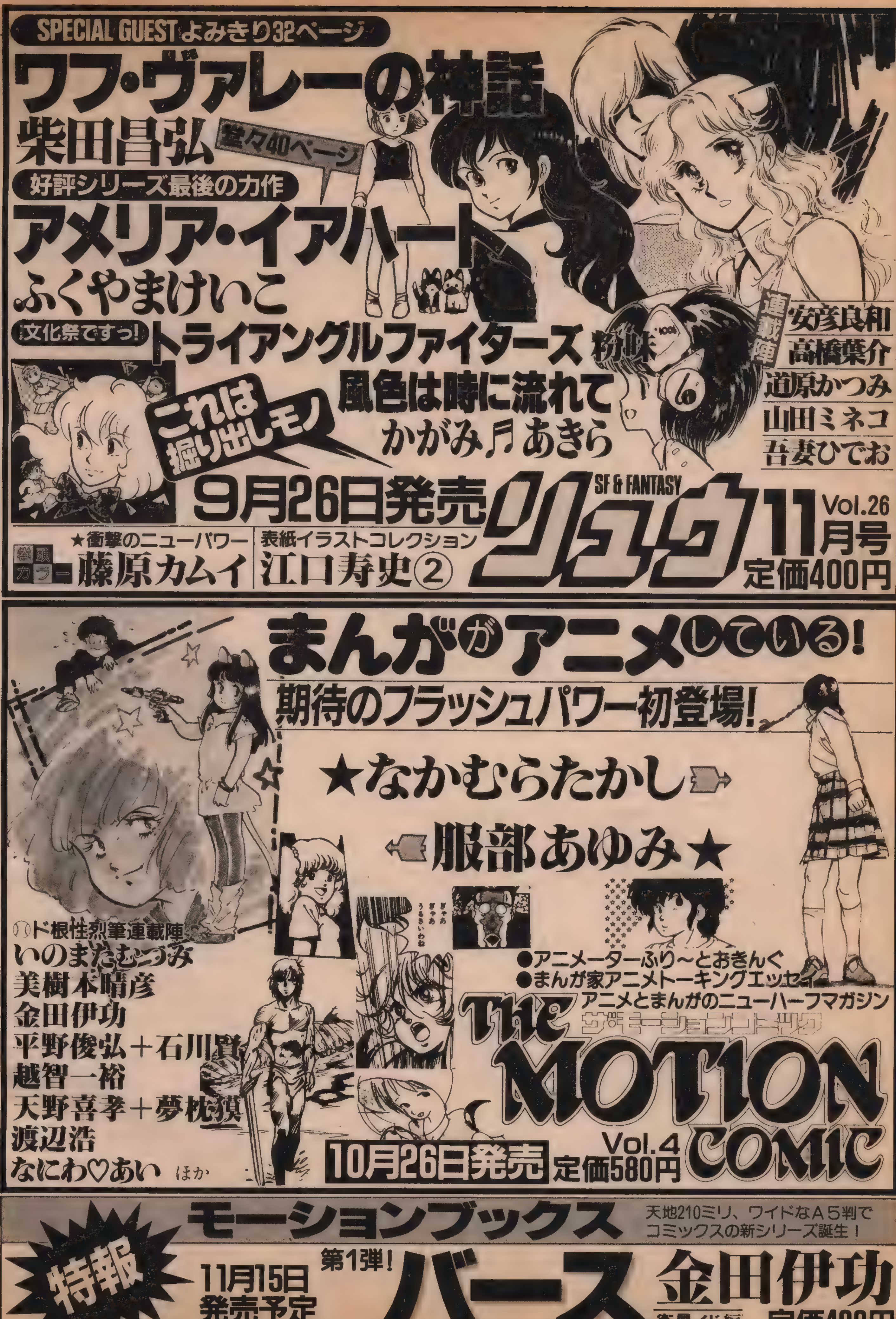
魔法の子守唄

湯山邦彦作詩／高田弘作曲／桜庭伸幸編曲
歌：三ッ矢雄二

緑の風のきらめきを
君の窓辺にそっと飾ろう
君が目覚めたとき
きっと僕を思い出すように
赤いカトレアの花をそえて
ラララララララララ
これが僕のララバイ
君に贈るララバイ

小川をすべる輝きを
君の心にそっと写して
君がほほえむとき
きっと僕を照らし出すように
水芭蕉の花をゆらして
ラララララララララ
これが僕のララバイ
君に贈るララバイ





SPECIAL GUEST よみきり32ページ
ワフ・ヴァレーの神話
柴田昌弘
堂々40ページ
好評シリーズ最後の力作
アメリア・イアハート
ふくやまけいこ
文化祭ですっ!
トライアングルファイターズ 粉味
これは掘り出しモノ
風色は時に流れて
かがみ♬あきら
連載陣
安彦良和
高橋葉介
道原かつみ
山田ミネコ
吾妻ひでお
9月26日発売
SF & FANTASY
リュウ
Vol.26
11月号
定価400円
巻頭カラー
★衝撃のニューパワー
藤原カムイ
表紙イラストコレクション
江口寿史②
まんがアニメしている!
期待のフラッシュパワー初登場!
★なかむらたかし
服部あゆみ★
ド根性烈筆連載陣
いのまたむつみ
美樹本晴彦
金田伊功
平野俊弘＋石川賢
越智一裕
天野喜孝＋夢枕獏
渡辺浩
なにわ♡あい ほか
●アニメーターふり〜とおきんぐ
●まんが家アニメトーキングエッセイ
アニメとまんがのニューハーフマガジン
THE MOTION COMIC
ザ・モーションコミック
Vol.4
10月26日発売
定価580円
モーションブックス
天地210ミリ、ワイドなA５判で
コミックスの新シリーズ誕生！
特報
11月15日
発売予定
第1弾!
バース
金田伊功
衛星イド編
定価480円

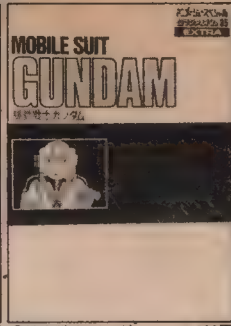
ロマンアルバム　ファン必携のアニメーションライブラリー

お父さん、お母さんも安心。

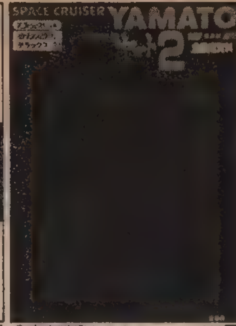
ロマンアルバム在庫リスト



㊴サイボーグ009超銀河伝説…680円



㉟機動戦士ガンダム（ＴＶ版）890円



㉛宇宙戦艦ヤマト２……… 680円



㉙無敵鋼人ダイターン３… 580円

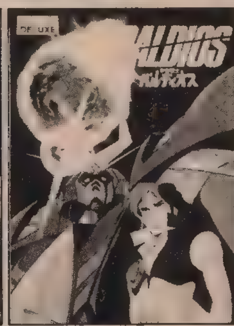


(51)伝説巨神イデオン（劇場版）890円


(49)1000年女王 ……………… 890円



㊽伝説巨神イデオン（ＴＶ版）890円



㊼宇宙戦士バルディオス…680円



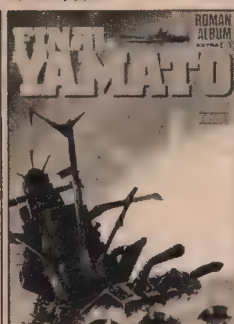
㊻未来少年コナン………… 890円



㊷機動戦士ガンダム（劇場版1）890円



(57)戦闘メカザブングル……890円



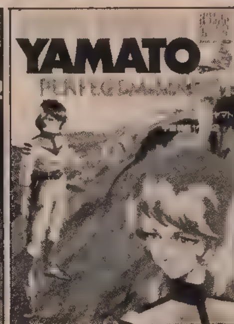
(56)宇宙戦艦ヤマト完結編…… 890円



(55)六神合体ゴッドマーズ…1200円



(54)宇宙戦艦ヤマト PERFECT MANUAL2 ··1300円



(53)宇宙戦艦ヤマト PERFECT MANUAL1 ··1200円



(52)わが青春のアルカディア 890円

★お求めはなるべく本屋さんでお願いします。小社に直接通信販売を申し込む場合は、本代＋送料と書名を明記のうえ、現金書留にて徳間書店特販部までご送金下さい。

送料＝１冊250円、２冊300円、３冊350円、４冊400円、５冊650円、６冊700円、７冊750円、８冊800円、９冊以上の場合は４kgまでの小包料金（地域別）。

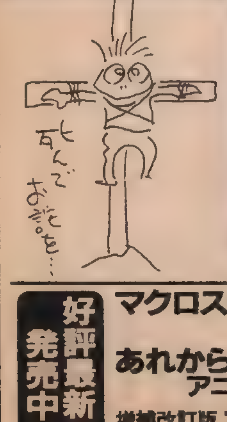
〈㉟、㊷、㊻、㊽〜(55)は１冊300円、２冊350円、３冊650円、４冊700円、５冊800円、６冊900円、７冊以上の場合は４kgまでの小包料金になります〉

これは'83年９月現在で在庫のあるバックナンバーです。

リストにないロマンアルバムは品切れですので、注文には応じられません。なお、現在在庫のあるものも、残部僅少のため品切れとなることがありますので、お早めにご注文願います。

AM文庫 JuJu　定価/すべて380円　発行/徳間書店

ゴメンナサイ!!『ホルス』と『コナン』は発売日が10月15日㊏になりました。

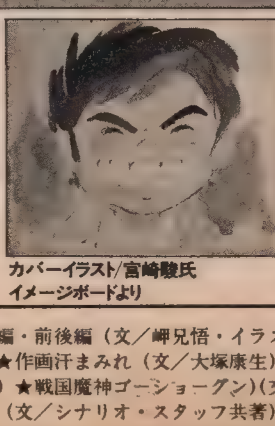



カバーイラスト/森やすじ

「ホルス」の映像表現

解説/高畑 勲

東映長編の傑作「ホルス」。この名作の制作意図は。演出意図は。そして、どんなアニメーション技術が使われていたのか。これらを「ホルス」の監督・高畑勲氏がみずから構成・解説した本。


カバーイラスト/宮崎駿氏イメージボードより

「また、会えたね!」

富沢洋子 編

〝いっぱい泣いちゃった〟ラナ。〝いっぱい笑った〟コナン——全26話より、富沢洋子さんが選んだ名セリフ、名シーンに、もうすぐ会えます。巻末には宮崎さんへのロングインタビューも収録しました。

好評最新刊発売中!!

- マクロス・ラブ・ストーリー　徳木吉春 編
- あれから4年…　アニメージュ編集部編
- 増補改訂版 だから僕は…　富野由悠季

既刊本

★宇宙戦艦ヤマト完結編・前後編（文／岬兄悟・イラスト／金田伊功）★セロ弾きのゴーシュ（ＡＭ編集部編）★作画汗まみれ（文／大塚康生）★六神合体ゴッドマーズ・十七歳の伝説（文／藤川桂介）★戦国魔神ゴーショーグン）（文／首藤剛志・絵／なにわ♡あい）★夢みるプレリュード（文／シナリオ・スタッフ共著）★その後の戦国魔神ゴーショーグン（文／首藤剛志・絵／上條修・なにわ♡あいほか）★いつかきっと（ＡＭ編集部編）★シュナの旅（宮崎駿）

※なお、本屋さんにない場合は直接当社販売部〈TEL 03(433)6231(代)〉へお問い合わせ下さい。







EDITORIAL STAFF

Editor in Chief 尾形英夫
Managing Editor 校條 満
Editors 太田信恵
宇治谷順信
斎藤良一
山梨雅子
鈴木稔浩
Assistant Editors 森かおる
藤間一郎
海老原秀幸
寺田洋一
畠山一章
原口正宏
肥田和典

Art Director 佐藤健児

Art Associates 加藤正博／マサ・クリエイティブ

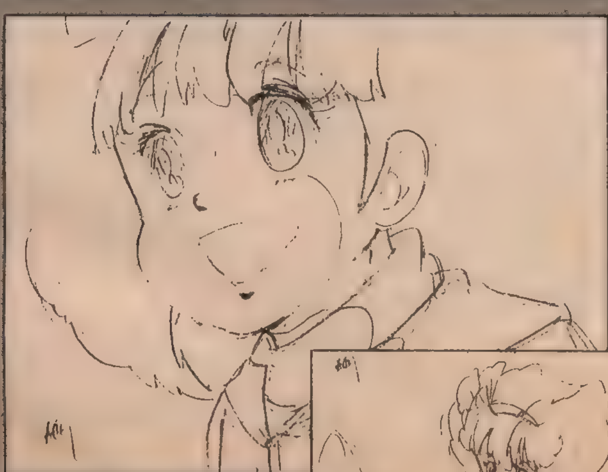
カバー表イラスト原画 渡辺 浩
カバー裏イラスト 只野和子
表紙「フェナリナーサの地図」 監修／首藤剛志
イラスト／只野和子

製版責任者 垣入幸治（三晃印刷）
水上利正（大日本印刷）

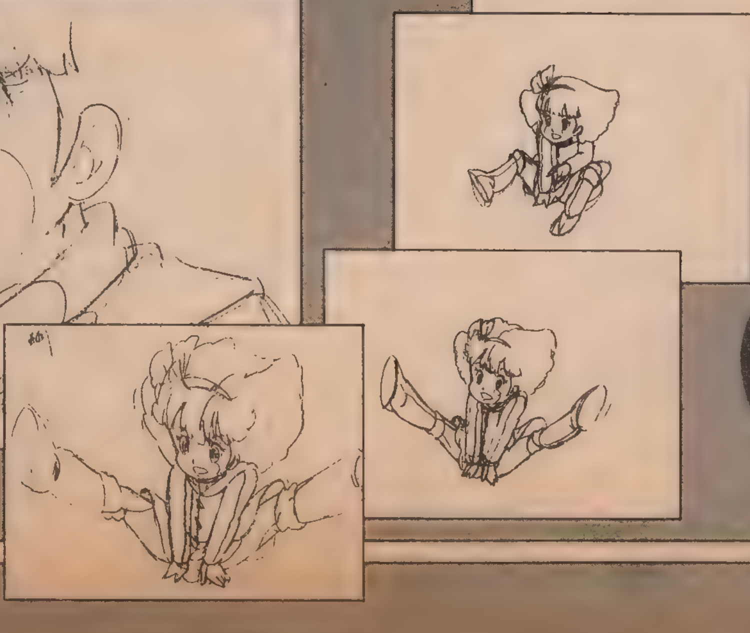
資料協力 ㈱葦プロダクション
ビクター音楽産業㈱
㈱バンダイ模型
渡辺 浩／みさきのあ
服部あゆみ／新井實雄

©葦プロ ■禁無断転載■

CONTENTS



原画／渡辺 浩氏〈第36話より〉



Minky Momo

1話～48話 ENDING



[5]



[4]



[3]（28話～48話変更）



[2]（9話～48話変更）



[1]（9話～48話変更）



[9]



[7]（9話～48話変更）



[8]（9話～48話変更）



[6]

※第1シリーズのエンディングは、途中で一部が変更されました。

変更分9話～48話

▼[1]～[2]を変更



③



②



①

▼[7]～[8]を変更



②



①

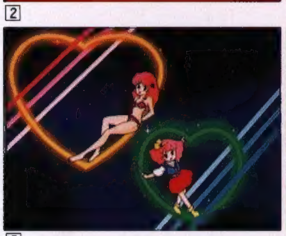
49話～63話 ENDING



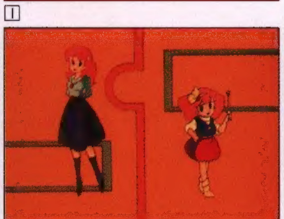
[2]



[1]



[5]



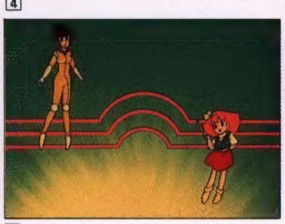
[4]



[3]



[8]



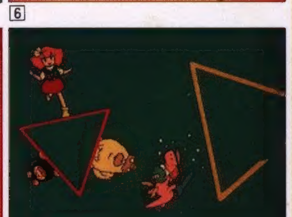
[7]



[6]



[11]



[9]



[10]

変更分28話～48話

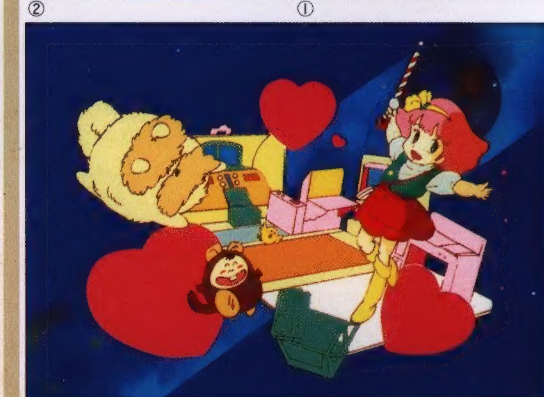
▼[3]を変更



②



①



③

ロマンアルバム・エクストラ㊽ 魔法のプリンセス ミンキーモモ



発行・編集人 尾形英夫
発行所 徳間書店
東京都港区新橋4-10-1
☎東京(433)6231代

定価八九〇円

雑誌 61577—76 ©徳間書店 1983 三晃印刷／大日本印刷 Printed in Japan

Minky Momo



カバー裏 イラスト
只野　和子

ロマンアルバム・エクストラ58 魔法のプリンセス ミンキーモモ 昭和58年10月25日発行



発行・編集人 尾形英夫 発行所 徳間書店 東京都港区新橋4-10-1 ☎東京(433)6231代

定価八九〇円

雑誌 61577-76 ©徳間書店 1983 三晃印刷／大日本印刷 Printed in Japan